



足立区
男女共同参画に関する区民意識調査
報告書

【調査期間：令和3年10月20日（水）～11月19日（金）】

令和4年3月

足立区

地域のちから推進部 多様性社会推進課

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査実施の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査方法と回収状況	3
4 調査項目	3
5 調査結果を見る上での注意事項	4
6 調査結果の概要	5
第2章 調査結果の詳細	7
1 あらゆる分野における女性活躍の推進	11
（1）女性の理想的な働き方	11
（2）理想（好ましい）の働き方と考える理由	15
（3）職場において女性が活躍するために必要な取組み	18
（4）結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと	20
2 ワーク・ライフ・バランスの推進	25
（1）「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度	25
（2）区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況	29
（3）仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこと	32
（4）働く際に重要視すること	36
（5）年次有給休暇の取得しやすさ	39
（6）年次有給休暇を取得していない理由	41
（7）育児休業・介護休業の取得しやすさ	42
（8）育児休業・介護休業を取得していない理由	44
（9）コロナによる働き方の変化	45
（10）現実での家事、行事参加等の役割分担	48
（11）理想の家事、行事参加等の役割分担	71
（12）配偶者（またはパートナー）への不満点	94
（13）配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度	97
（14）配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うこと	100
3 社会における男女共同参画の推進	105
（1）分野別にみた男女の地位の平等感	105
（2）行政における女性の意見の反映度合	121
（3）女性の意見が行政に反映されていないと考える理由	124
（4）女性活躍推進のために特に区に期待すること	126
（5）足立区における「男女共同参画社会の実現」のために力を入れるべきこと	128
（6）性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこと	130
（7）「男女参画プラザ」の認知度	132

(8) 「男女参画プラザ」実施事業の認知状況	134
(9) 男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこと	136
4 DV・ハラスメントの防止対策	141
(1) DV・ハラスメント行為の被害経験	141
(2) DV・ハラスメント行為を受けた時期	143
(3) DV・ハラスメント行為を受けた場面	147
(4) DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先	151
(5) DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと	157
(6) 職場や学校におけるハラスメントの対策の取組み	159
(7) 職場や学校におけるハラスメントの対策で特に必要だと思うこと	160
5 多様性の尊重と人権	165
(1) L G B Tの認知度	165
(2) S O G Iの認知度	167
(3) 足立区のL G B T相談事業の認知状況	169
(4) 足立区のL G B T相談事業を知ったきっかけ	171
(5) 周囲のL G B T等当事者	172
(6) L G B T等であることを打ち明けられた時の対応	174
(7) L G B T等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこと	180
(8) 取り組む必要はないと思う理由	182
(9) 性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無	183
(10) いじめを受けたり、見聞きした場面	185
(11) 女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、大切だと思うこと	186
(12) 生理用品の購入ができず困った経験の有無	188
6 基本属性	191
(1) 性別	191
(2) 年齢	191
(3) 婚姻状況	192
(4) 共働きの有無	192
(5) 職業	193
(6) 1週間の平均就労時間	195
(7) 世帯構成	197
(8) 子どもの人数	199
(9) 一番下の子どもの学齢	201
(10) 介護の有無	203
(11) 家計の状況	205
(12) 昨年1年の本人年収	207
第3章 使用した調査票（単純集計結果付）	211

第1章 調査の概要

1 調査実施の目的

本調査は、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランス推進、DV・ハラスメントの防止対策、多様な生き方に対する相互理解などについて、区民の意識や実態を把握し、「第8次男女共同参画行動計画（仮）」（令和4年度策定予定）の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の対象

調査名	調査対象
足立区男女共同参画に関する区民意識調査	18歳以上79歳以下の区民3,000名

3 調査方法と回収状況

調査方法：郵送とインターネットによるアンケート調査

調査期間：令和3年10月20日（水）～11月19日（金）

※隔年で調査を実施。調査項目については、社会の状況に合わせ変化を加えています。

〈回収状況〉

発送数	回収数		回収率	
3,000件	1,136件	（内訳） 郵送：666件 WEB：470件	37.9%	（22.2%） （15.7%）

4 調査項目

- （1）あらゆる分野における女性活躍の推進
- （2）ワーク・ライフ・バランスの推進
- （3）社会における男女共同参画の推進
- （4）DV・ハラスメントの防止対策
- （5）多様性の尊重と人権

5 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- (2) 百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- (4) 本文、図表は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- (5) 回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- (6) 「第2章 調査結果の概要」における回答分類項目のうち、「ライフステージ別」は、以下の内訳となっている。

ア 独身期：40歳未満の独身者

イ 家族形成期：40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番下の子どもが小学校入学前の人

ウ 家族成長前期：本人が64歳以下で一番下の子どもが小・中学生の人

(家族成長小学校期)：本人が64歳以下で一番下の子どもが小学生の人

(家族成長中学校期)：本人が64歳以下で一番下の子どもが中学生の人

エ 家族成長後期：本人が64歳以下で一番下の子どもが高校生・大学生の人

オ 家族成熟期：本人が64歳以下で一番下の子どもが学校を卒業している人

カ 高齢期：本人が65歳以上の人

(一人暮らし高齢者)：本人が65歳以上で一人暮らしの人

(夫婦二人暮らし高齢者)：本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人

(その他高齢者)：本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人

キ その他壮年期：本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

(壮年独身者)：本人が40歳～64歳で独身(イ～オ以外)

(壮年夫婦のみ者)：本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦

6 調査結果の概要

(1) あらゆる分野における女性活躍の推進

女性が仕事を持つことについて、9割弱の人が肯定しています。特に「結婚し子どもを持つが、仕事も出来る限り続ける」という就労継続型が5割強と最も多くなっています。

また、結婚・出産を機に退職した女性の再就職については、保育園・学童保育等の保育施設の充実が必要であるという回答が最も多く、女性が仕事と出産・育児等の両立に向けた環境づくりを進めることが求められています。

(2) ワーク・ライフ・バランスの推進

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度は年々増加し、特に女性の認知度が高まっています。しかし、区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みについては、周知されていると感じている回答者が1割台半ばに留まり、一層の周知活動が必要です。

家庭内における役割分担については、自身とパートナーで分担することが理想としており、固定的な性別役割分担意識を解消していく必要があります。

また、配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うことは、「夫婦でよく話し合い協力する」が6割弱と最も多くなっています。

(3) 社会における男女共同参画の推進

男女の地位の平等感については、男性が優遇されているという回答が多く、特に「政治の場」では8割強、「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では、約7割が男性優遇だと感じている一方、「学校教育」「地域活動の場」では、平等であるという回答が最も多く、特に学校教育では平等と感じる人が6割台半ばを超えています。

女性活躍推進のために特に区に期待することとして、「子育て環境を整備する」に次いで、「女性の再就職支援を行う」が4割強となっており、一度離職しても再び仕事をもつことができるように支援していく必要があります。

男女共同参画の推進に向けて、学校教育の場で力を入れるべきこととしては、「男女の別なく個性や能力を活かせる指導の充実」が過半数となっており、学齢期からの意識啓発が必要です。

(4) DV・ハラスメントの防止対策

DV・ハラスメント行為を受けた経験について、一番多いDV・ハラスメント被害経験は「モラルハラスメント（精神的暴力）」が最も多くなっています。

DV・被害を受けた際の相談先は、身近の友人や親族、職場が多くなっている一方、被害を受けた際、「相談しても無駄だと思った」「自分が我慢すれば何とかかなと思った」が上位2項目にあげられており、他人に相談することがいかに重要であるかを周知していくことが必要となっています。

また、DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきことについて、「家庭内でも暴力は犯罪という意識の啓発」が4割台半ばとなっており、DVを未然に防ぐ啓発が必要であることが分かります。

(5) 多様性の尊重と人権

「言葉を聞いたことがある」を含めたLGBTの認知度は8割台半ばを占めており、LGBTという言葉に対する知識が高いものとなっています。

LGBT等であることを打ち明けられた時の対応としては、「理解する」「悩みを聞く」「今まで通りの距離感で接する」といった肯定意見が6～7割を占めますが、一方で「わからない」という回答も2割前後となっています。

LGBT当事者が暮らしやすい社会になるために必要なこととしては、「周囲の人の理解や偏見差別の解消」「社会制度の見直しや差別の解消」が過半数を超えています。

性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験は、「ない（わからないを含む）」という回答が約8割を占めるも、「ある」と回答した人が1割存在しています。「ある」と回答した人の7割弱が、「その現場が学校である」と回答しており、教育現場での啓発が必要となっています。

生理用品の購入ができず困った経験については、困ったことがない人が8割強を占め、「ナプキンを交換せずに使用を続けたり、トイレットペーパー等で代用せざるを得なかった」等、困った経験をしたことがある人が1割強となっています。

第2章 調査結果の詳細

1 あらゆる分野における女性活躍の推進

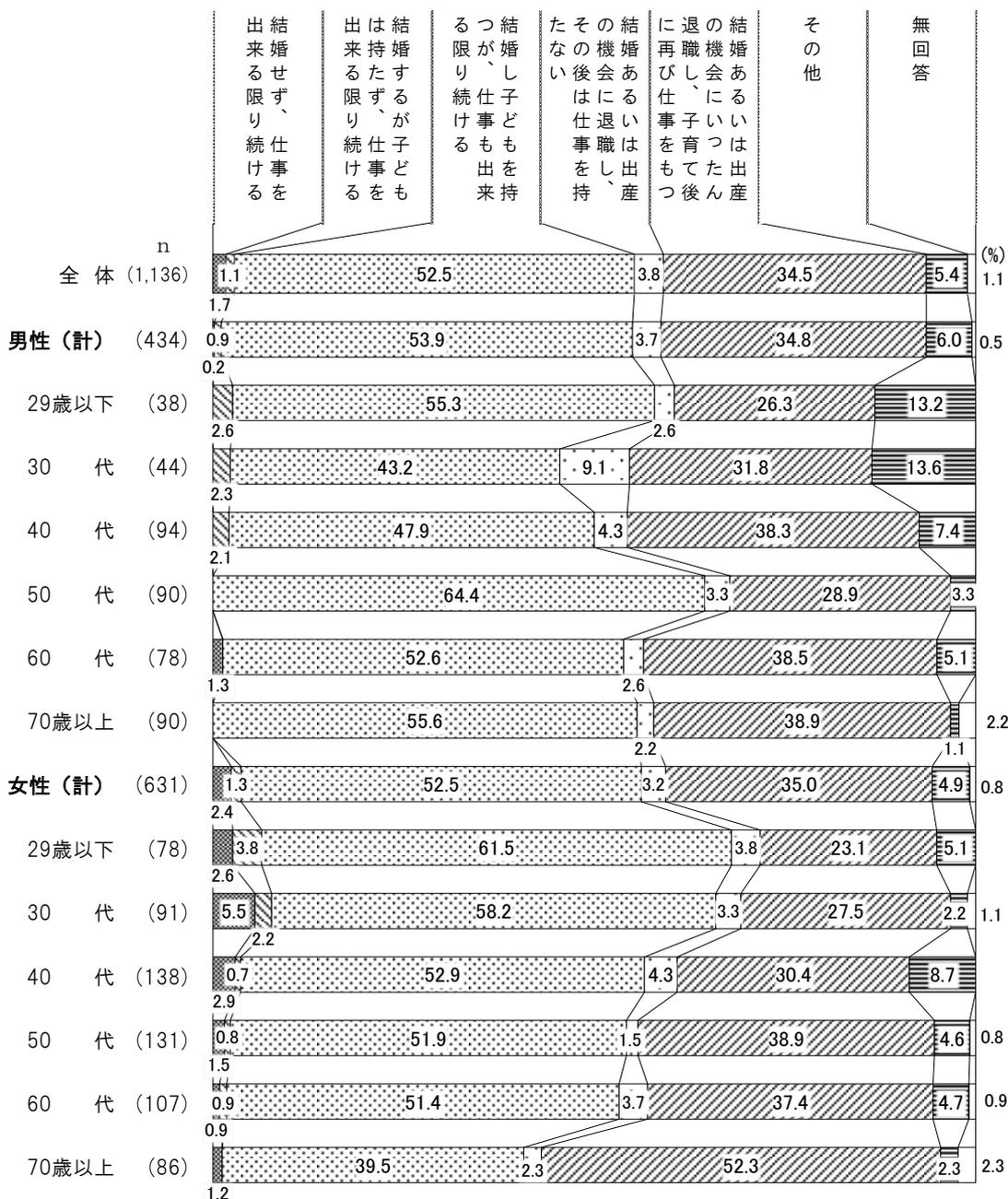
1 あらゆる分野における女性活躍の推進

(1) 女性の理想的な働き方

■ 就労継続型を希望する人は過半数、中断再就職型は3割台半ばと女性が仕事を続けることに9割弱が肯定

問1 女性の働き方について伺います。女性の働き方でああなたが理想（好ましい）と考えるものをお答えください（○は1つ）。

図表 女性の理想的な働き方（性別・年代別）



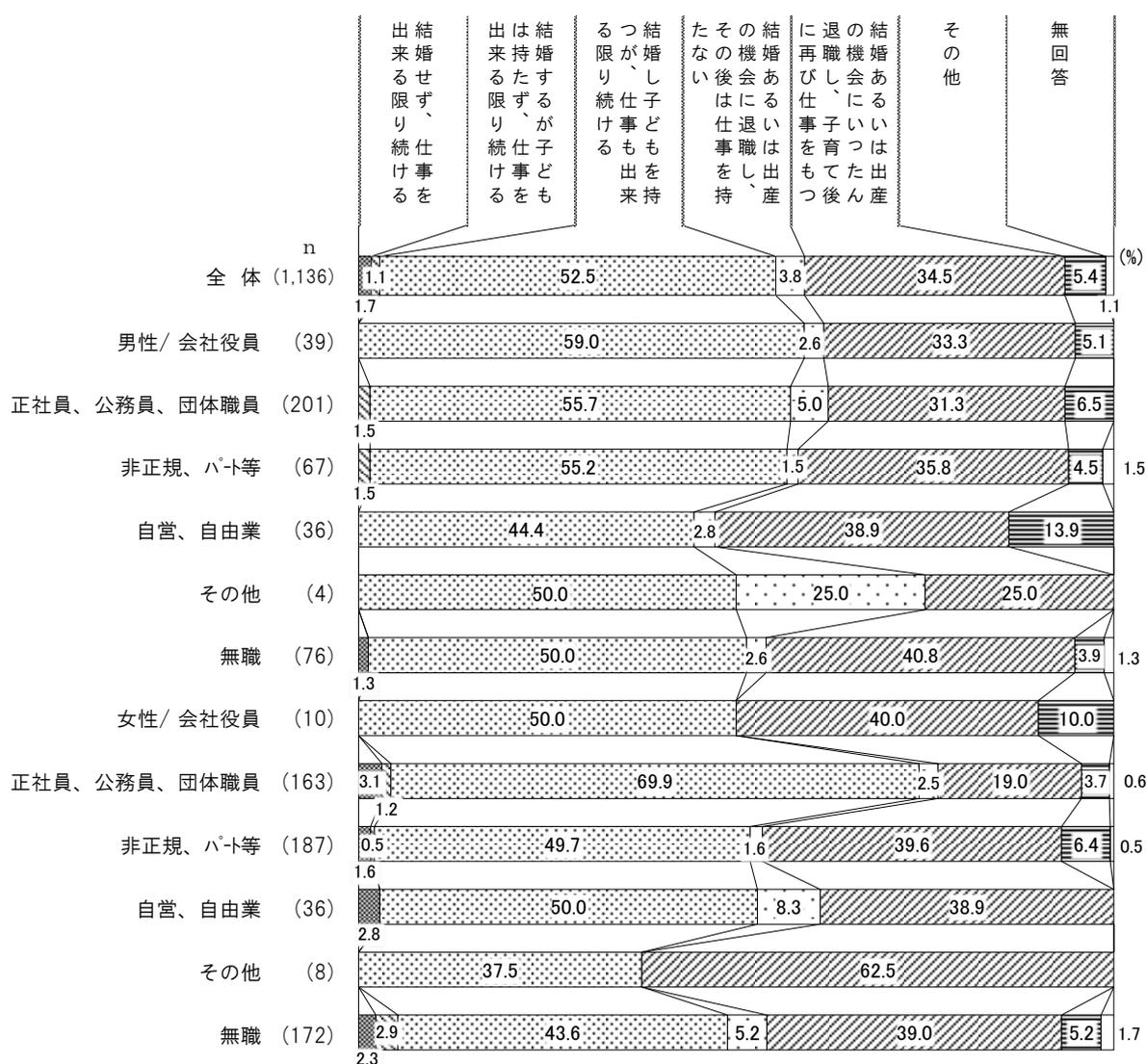
女性の理想的な働き方については、「結婚し子どもを持つが、仕事も出来る限り続ける」(以下、「就労継続型」という回答者(52.5%)が過半数で、次いで「結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」(以下、「中断再就職型」)が34.5%である。

第2章 調査結果の詳細
 第2章-1 あらゆる分野における女性活躍の推進

性別でみると、理想的な働き方について傾向の差はみられない。

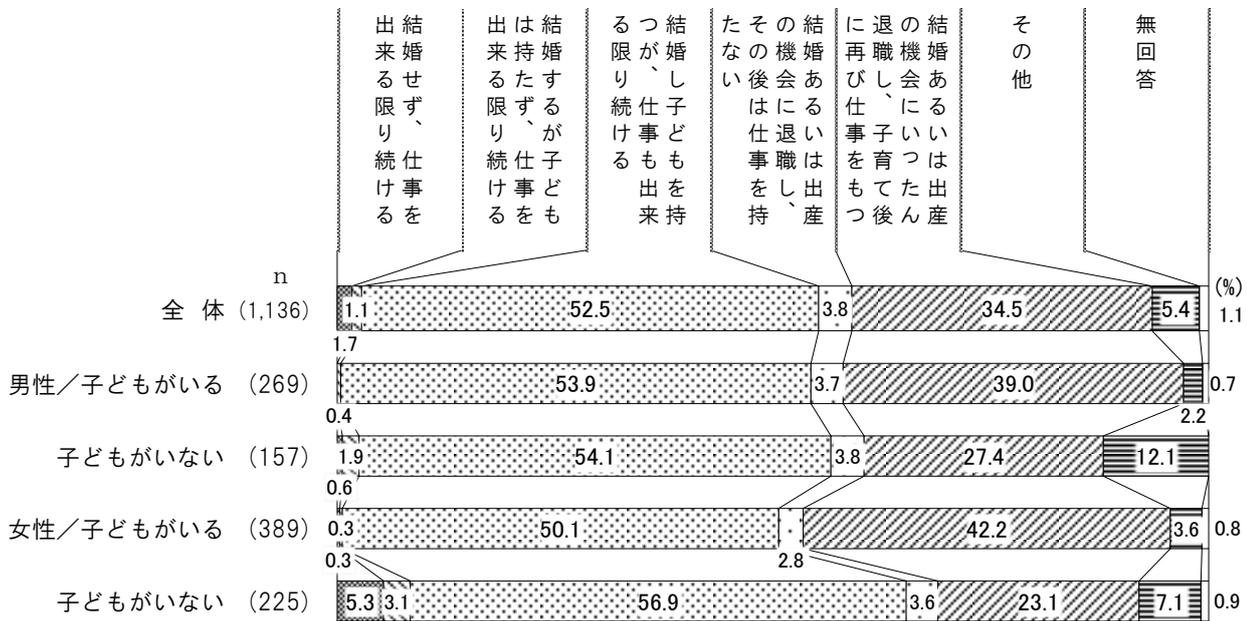
性別・年代別でみると、男性では「就労継続型」は50代で64.4%と、最も強く支持している。女性では、70歳以上を除いた年齢層で、過半数が「就労継続型」を支持しているが、70歳以上では、代わって「中断再就職型」(52.3%)を理想とする回答者の方が多くなっている。男性の30代では、「結婚・出産退職型」という回答者が9.1%であり、他の年代より多くなっている。

図表 女性の理想的な働き方（性別・職業別）



性別・職業別でみると、「就労継続型」の割合は、男性では〈会社役員〉(59.0%)、女性では〈正社員、公務員、団体職員〉(69.9%)で最も多くなっている。また、〈正社員、公務員、団体職員〉では、女性は男性よりも14.2ポイント多くなっている。

図表 女性の理想的な働き方（性別・子どもの有無別）

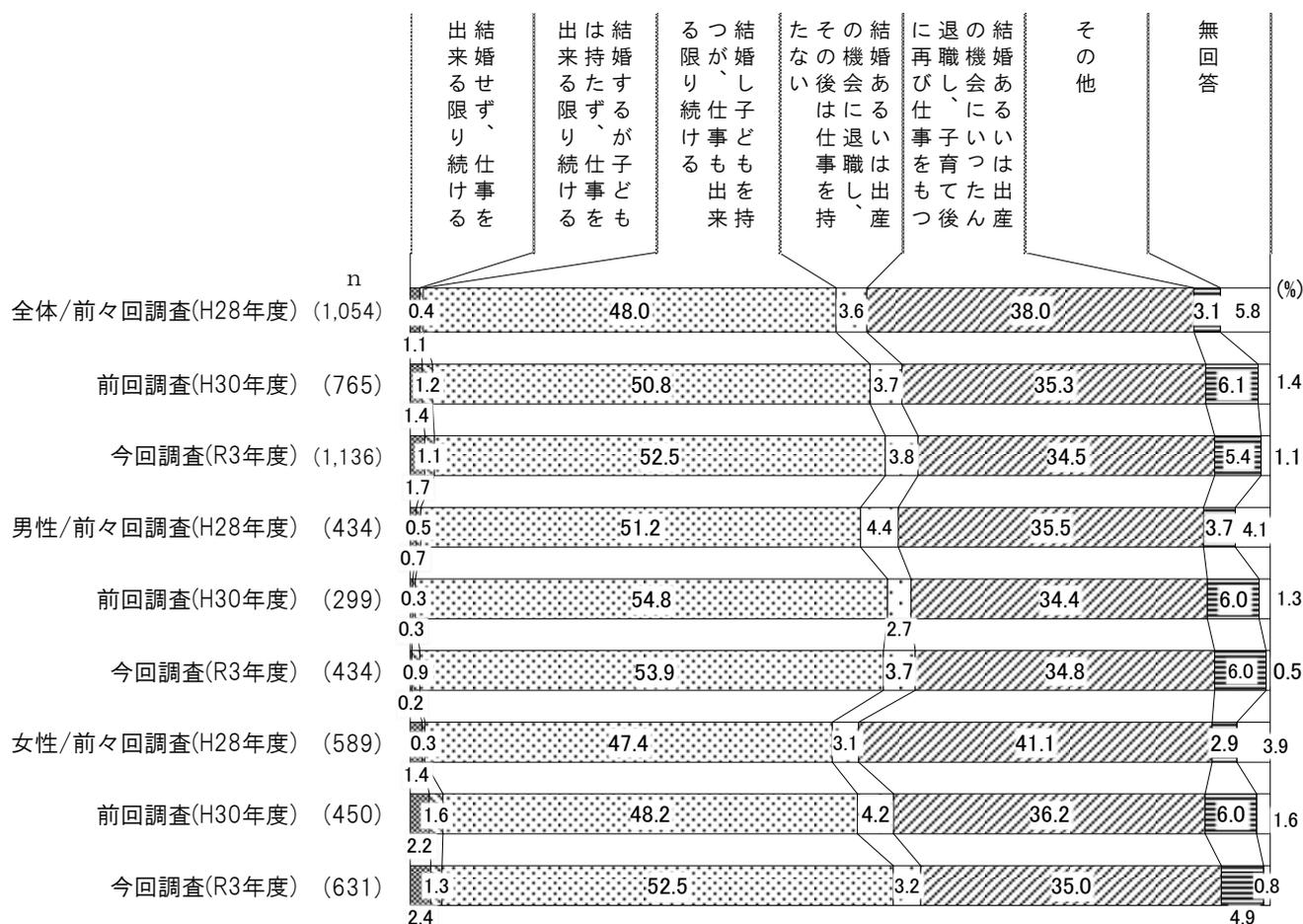


性別・子どもの有無別で「就労継続型」の割合をみると、男性では子どもの有無による差はみられないが、女性では「子どもがいない」(56.9%)が「子どもがいる」(50.1%)を上回っている。また、子どもがいない女性では、「結婚せず、仕事をできる限り続ける」(5.3%)や「結婚するが、子どもは持たず、仕事をできる限り続ける」(3.1%)という他の層ではほとんど見られない意見がある。

第2章 調査結果の詳細

第2章-1 あらゆる分野における女性活躍の推進

図表 女性の理想的な働き方（経年比較）



過去調査と比較すると、全体では「就労継続型」(今回52.5%、前回50.8%、前々回48.0%)は年々増加、「中断再就職型」(今回34.5%、前回35.3%、前々回38.0%)は年々減少の傾向にある。

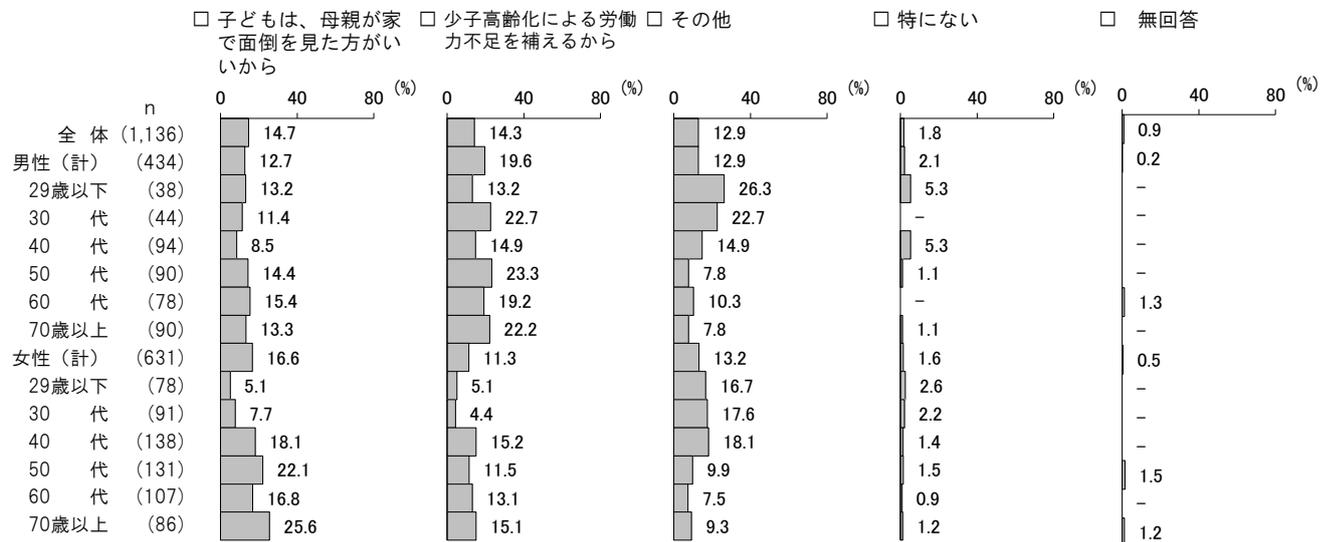
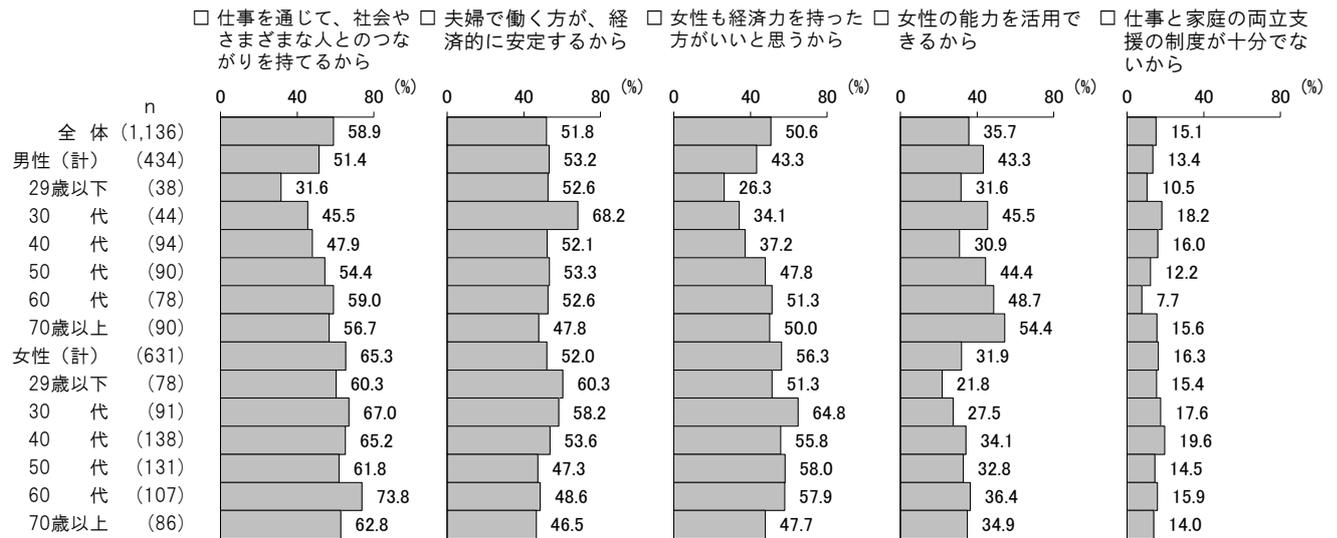
性別で見ると、男性は前回調査から大きな差はみられないが、一方、女性では「就労継続型」(今回52.5%、前回48.2%)が4.3ポイント増加している。

(2) 理想(好ましい)の働き方と考える理由

■ 「仕事を通じて社会や人とのつながりを持てる」が6割弱で最多

問2 あなたが、女性の働き方について問1の回答のようにお考えになるのは、なぜですか(〇はいくつでも)。

図表 理想(好ましい)の働き方と考える理由(性別・年代別)



その他に含まれる選択肢

働き続けるのは、体力面で大変そうだから/「男は仕事、女は家庭」という考え方のとおりだと思うから

第2章 調査結果の詳細

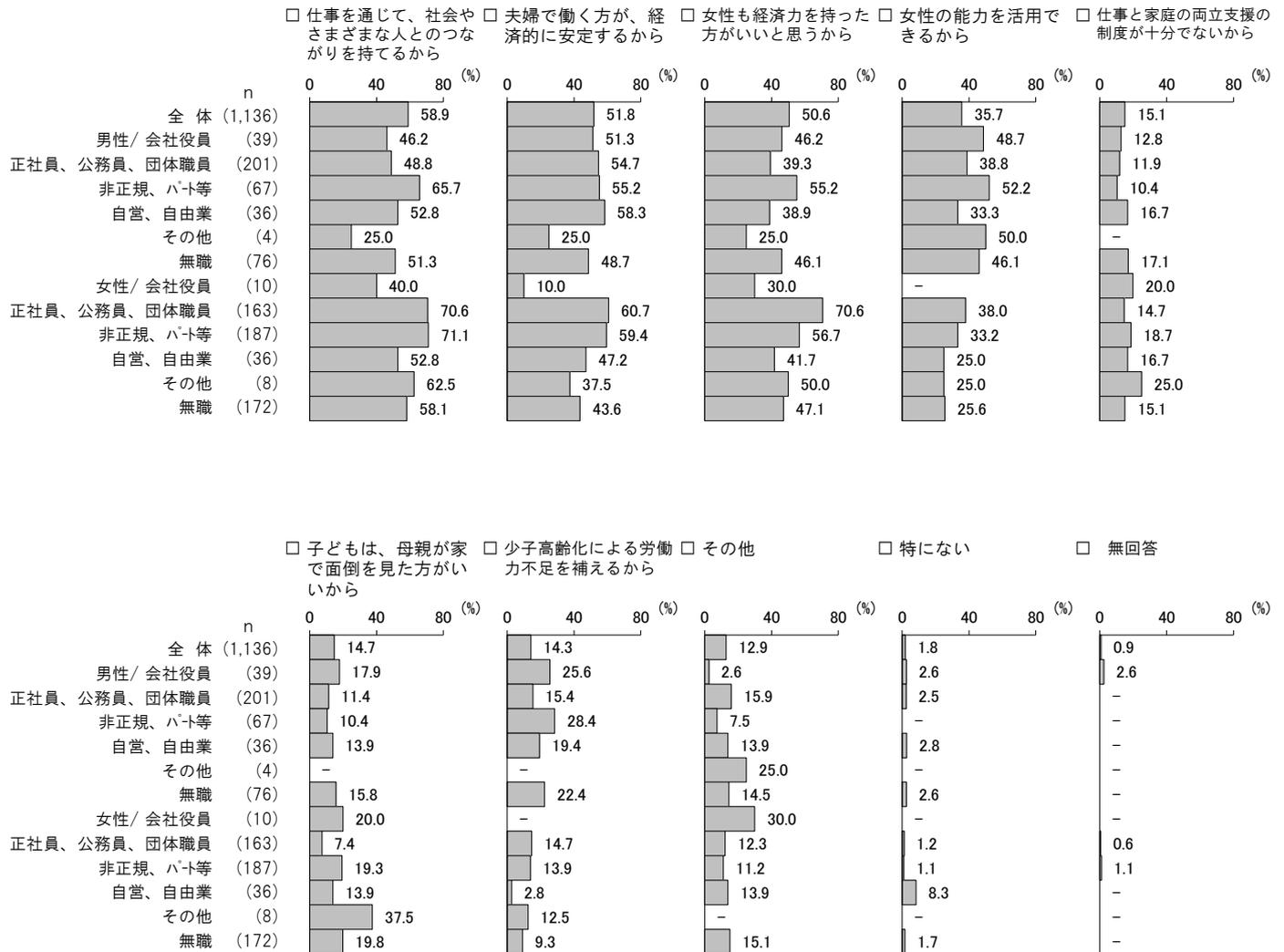
第2章-1 あらゆる分野における女性活躍の推進

女性の理想(好ましい)の働き方と考える理由としては、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が58.9%で最も多く、以下「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」(51.8%)、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」(50.6%)、「女性の能力を活用できるから」(35.7%)などの順となっている。

性別でみると、女性では、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」が65.3%と第1位にあげられ、第2位の「女性も経済力を持った方がいいと思うから」も56.3%と、それぞれ男性を13ポイント以上上回っている。一方、男性では、「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」(53.2%)、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」(51.4%)の上位2項目が5割台、次いで「女性も経済力を持った方がいいと思うから」と「女性の能力を活用できるから」(ともに43.3%)が4割強である。

性別・年代別でみると、全体で最も多くあげられた「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」は、男女ともに60代(男性59.0%、女性73.8%)が特に多くなっている。「夫婦で働く方が、経済的に安定するから」は、男性30代(68.2%)が特に多くなっている。また、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」は、女性の70歳以上を除いたすべての年代と男性60代以上で5割を超えて多くなっている。

図表 理想（好ましい）の働き方と考える理由（性別・職業別）



その他に含まれる選択肢

働き続けるのは、体力面で大変そうだから/「男は仕事、女は家庭」という考え方のとおりだと思うから

性別・職業別でみると、「仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから」は、〈女性/非正規・パート等〉(71.1%)や〈女性/正社員、公務員、団体職員〉(70.6%)で7割を超えて多くなっている。

(3) 職場において女性が活躍するために必要な取組み

■ 「フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方の整備」「保育施設の充実」が5割台

問3 女性が職場において活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思いますか (〇は3つまで)。

図表 職場において女性が活躍するために必要な取組み (性別・年代別) (%)

	調査数 (n)	企業における女性の採用・登用の促進	女性リーダー・管理職への登用について具体的な目標	女性が働き続けることができる相談体制の充実	男女共同参画への積極的な取り組み	研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援	保育施設の充実	勤務など柔軟な働き方の整備	その他	無回答
全体	1,136	30.5	13.7	33.3	18.6	33.0	52.4	53.6	10.3	2.4
男性(計)	434	31.6	15.7	31.1	22.4	30.9	53.2	48.6	10.4	0.7
29歳以下	38	10.5	15.8	28.9	23.7	39.5	57.9	52.6	21.1	-
30代	44	18.2	11.4	27.3	11.4	36.4	59.1	68.2	20.5	-
40代	94	20.2	9.6	27.7	17.0	35.1	52.1	54.3	13.8	1.1
50代	90	35.6	21.1	34.4	20.0	23.3	57.8	55.6	5.6	1.1
60代	78	41.0	15.4	29.5	26.9	26.9	55.1	43.6	6.4	-
70歳以上	90	46.7	18.9	35.6	31.1	31.1	43.3	28.9	5.6	1.1
女性(計)	631	30.1	12.5	35.7	16.6	35.8	51.3	57.5	9.7	2.7
29歳以下	78	20.5	17.9	37.2	16.7	38.5	59.0	64.1	6.4	3.8
30代	91	22.0	12.1	35.2	7.7	37.4	54.9	71.4	11.0	3.3
40代	138	29.7	12.3	28.3	15.2	36.2	44.2	65.2	19.6	1.4
50代	131	33.6	11.5	26.0	15.3	37.4	51.1	58.8	7.6	3.8
60代	107	33.6	14.0	37.4	19.6	38.3	51.4	54.2	4.7	2.8
70歳以上	86	38.4	8.1	59.3	26.7	25.6	52.3	26.7	4.7	1.2

その他に含まれる選択肢

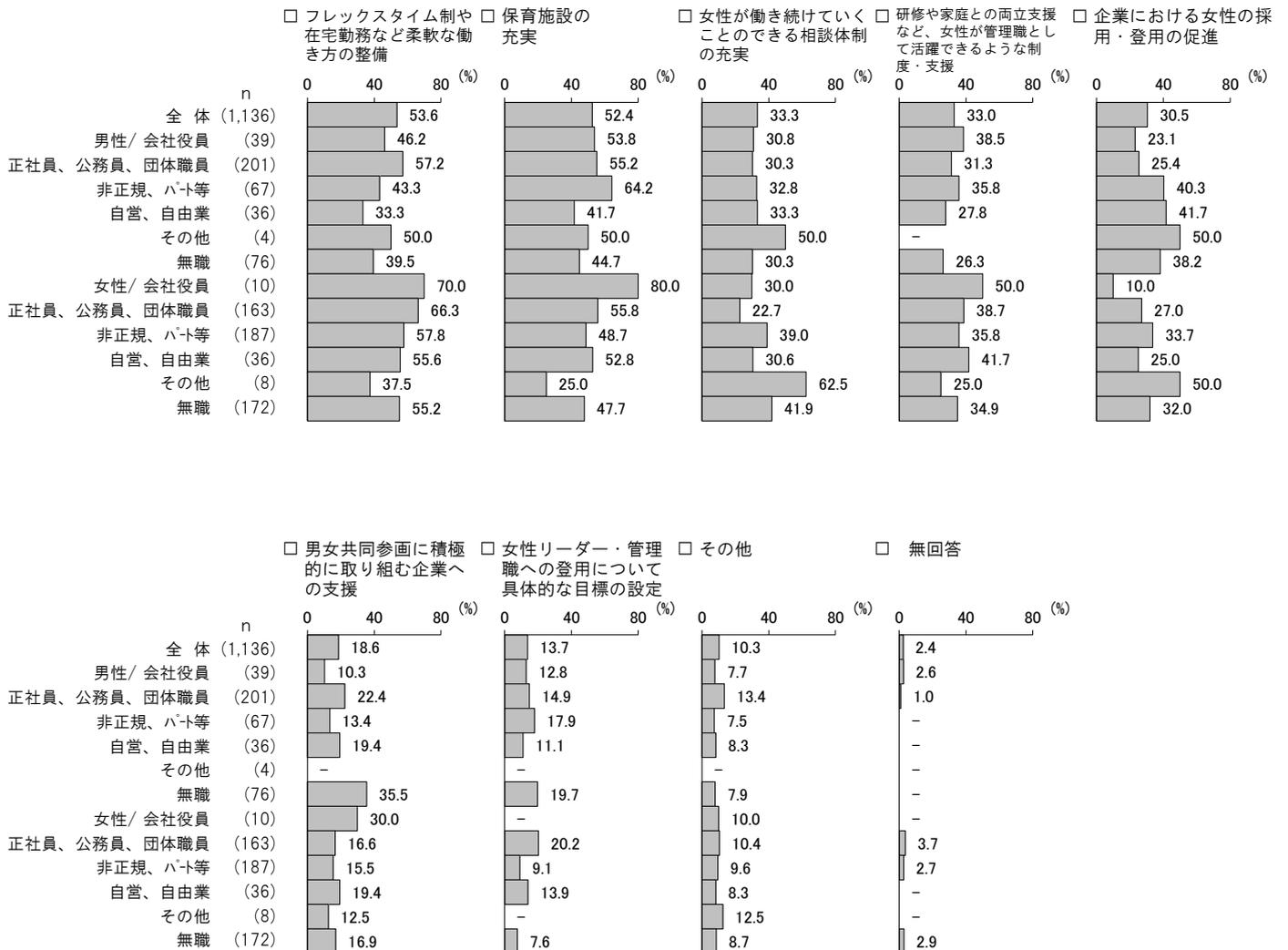
女性のロールモデルの発掘・活用事例の提供

職場において女性が活躍するための取組みとしては、「フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方の整備」(53.6%)と「保育施設の充実」(52.4%)が5割を超えて特に多くあげられ、以下「女性が働き続けることができる相談体制の充実」(33.3%)、「研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援」(33.0%)、「企業における女性の採用・登用の促進」(30.5%)が3割台である。

性別で見ると、男性では「保育施設の充実」(53.2%)が5割強で第1位となっているのに対して、女性では「フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方の整備」(57.5%)が6割弱で最も多く、次いで「保育施設の充実」(51.3%)となっている。

性別・年代別で見ると、「フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方の整備」は女性40代以下(29歳以下64.1%、30代71.4%、40代65.2%)で特に多くあげられ、男性30代(68.2%)でも多くなっている。「保育施設の充実」は男性では70歳以上を除いたすべての年代、女性では40代を除いたすべての年代で5割台となっている。

図表 職場において女性が活躍するために必要な取組み（性別・職業別）



その他に含まれる選択肢

女性のロールモデルの発掘・活用事例の提供

性別・職業別でみると、「フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方の整備」は〈女性/正社員、公務員、団体職員〉(66.3%)、「保育施設の充実」は〈男性/非正規、パート等〉(64.2%)、「女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実」は〈女性/非正規、パート等〉(39.0%)で比較的多くなっている。

(4) 結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと

■ 「保育園、学童保育等の保育施設の充実」が6割で最多

問4 結婚、出産などにより退職後、就業への一歩を踏み出せなかったりするなど再就職が難しい場合があります。結婚、出産などの理由により仕事を辞めた女性が再就職する場合、どのようなことが特に必要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと（性別・年代別） (%)

	調査数 (n)	保育園、学童保育などの 保育施設の充実	保育園入園基準の見直し	家族の理解と協力	求人 の年齢制限の緩和	労働条件の改善	男性の積極的な家事・育児参加	企業における再就職制度の整備や充実	その他	無回答
全体	1,136	60.6	16.6	38.0	17.8	39.9	34.7	33.0	24.0	2.5
男性(計)	434	64.3	17.3	36.2	13.1	39.9	31.6	38.7	25.1	0.9
29歳以下	38	55.3	21.1	28.9	7.9	47.4	42.1	44.7	23.7	-
30代	44	70.5	25.0	45.5	15.9	40.9	36.4	25.0	15.9	-
40代	94	66.0	26.6	33.0	11.7	42.6	33.0	27.7	24.5	2.1
50代	90	58.9	16.7	31.1	12.2	45.6	28.9	43.3	27.8	1.1
60代	78	62.8	12.8	37.2	12.8	44.9	24.4	48.7	20.5	-
70歳以上	90	70.0	6.7	42.2	16.7	23.3	32.2	41.1	32.2	1.1
女性(計)	631	59.4	16.6	41.0	20.6	39.8	37.7	29.3	23.6	2.1
29歳以下	78	71.8	16.7	26.9	10.3	50.0	48.7	32.1	19.2	1.3
30代	91	61.5	27.5	34.1	13.2	44.0	38.5	25.3	26.4	4.4
40代	138	47.1	16.7	49.3	28.3	43.5	39.1	26.1	21.7	1.4
50代	131	58.0	10.7	43.5	22.1	34.4	31.3	32.8	22.1	2.3
60代	107	68.2	23.4	34.6	18.7	38.3	30.8	32.7	23.4	2.8
70歳以上	86	57.0	5.8	52.3	25.6	30.2	43.0	26.7	30.2	-

その他に含まれる選択肢

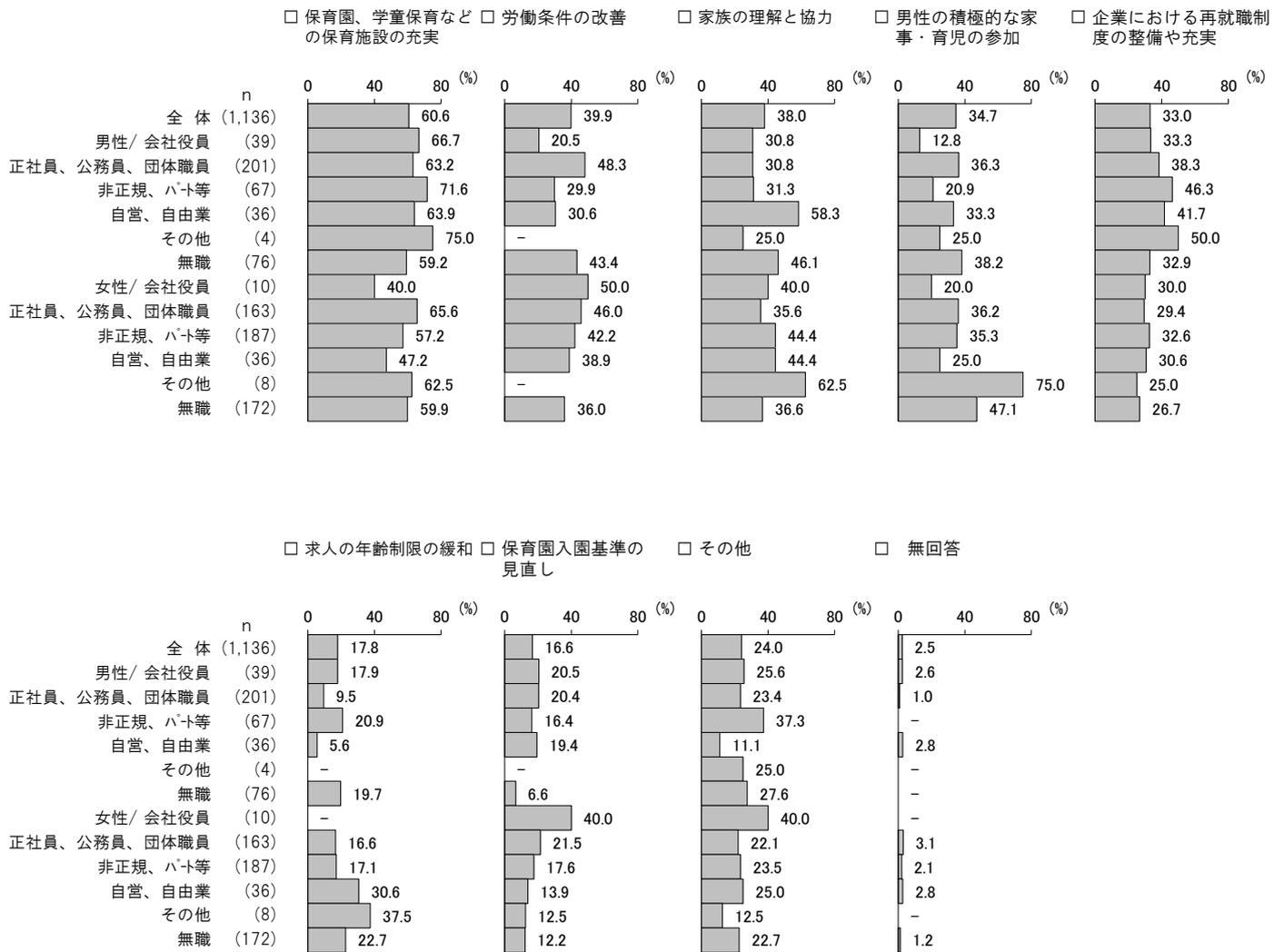
技術や技能習得の機会の拡大／求人情報の入手機会の拡大／就職相談の充実／女性が起業する場合の支援／自治体での再就職を支援する講座やセミナーの開催

結婚、出産などの理由により仕事を辞めた女性が再就職するにあたり必要なこととしては、「保育園、学童保育などの保育施設の充実」が60.6%で最も多くあげられ、以下「労働条件の改善」(39.9%)、「家族の理解と協力」(38.0%)、「男性の積極的な家事・育児参加」(34.7%)、「企業における再就職制度の整備や充実」(33.0%)が3割台となっている。

性別でみると、男女ともに「保育園、学童保育などの保育施設の充実」(男性64.3%、女性59.4%)を第1位にあげている。第2位は、男性は「労働条件の改善」(39.9%)、女性は「家族の理解と協力」(41.0%)をあげている。

性別・年代別でみると、「保育園、学童保育などの保育施設の充実」は、男性は30代(70.5%)と70歳以上(70.0%)、女性は29歳以下(71.8%)で7割を超えている。「労働条件の改善」は、男性では70歳以上を除くすべての年代で4割を超えている。

図表 結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと（性別・職業別）



その他に含まれる選択肢

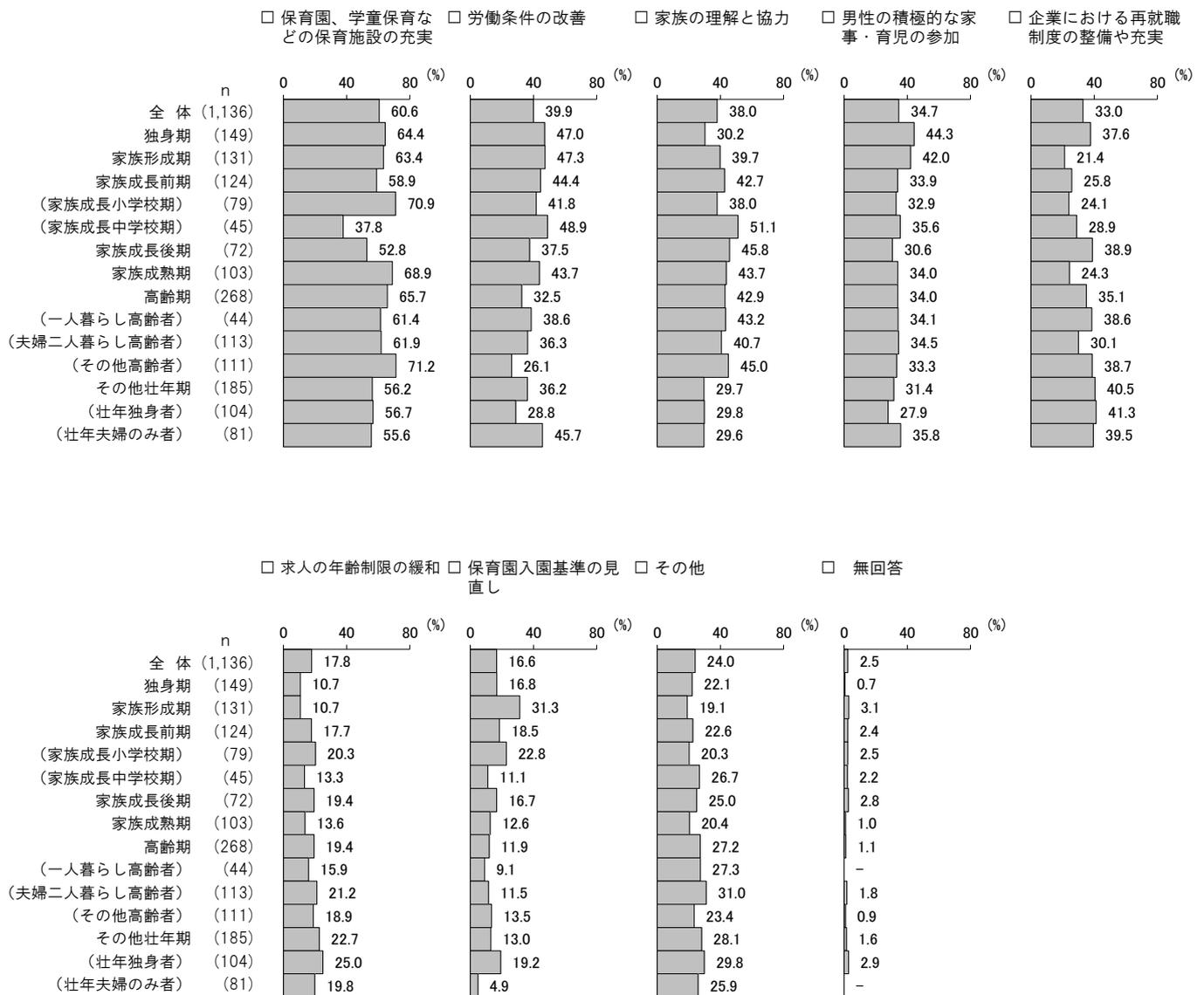
技術や技能習得の機会の拡大／求人情報の入手機会の拡大／就職相談の充実／女性が起業する場合の支援
／自治体での再就職を支援する講座やセミナーの開催

性別・職業別でみると、「保育園、学童保育などの保育施設の充実」は〈男性/非正規・パート等〉(71.6%)、
「労働条件の改善」は男女ともに〈正社員、公務員、団体職員〉(男性48.3%、女性46.0%)で多く、「家族の理
解と協力」は〈男性/自営、自由業〉(58.3%)でそれぞれ多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-1 あらゆる分野における女性活躍の推進

図表 結婚・出産後の女性の再就職にあたって必要なこと（ライフステージ別）



その他に含まれる選択肢

技術や技能習得の機会の拡大／求人情報の入手機会の拡大／就職相談の充実／女性が起業する場合の支援
／自治体での再就職を支援する講座やセミナーの開催

ライフステージ別でみると、「男性の積極的な家事・育児の参加」での〈独身期〉(44.3%)、「保育園入園基準の見直し」での〈家族形成期〉(31.3%)、「保育園、学童保育などの保育施設の充実」での〈家族成長小学校期〉(70.9%)、「家族の理解と協力」や「労働条件の改善」での〈家族成長中学校期〉(それぞれ51.1%、48.9%)が比較的多くなっている。

2 ワーク・ライフ・バランスの推進

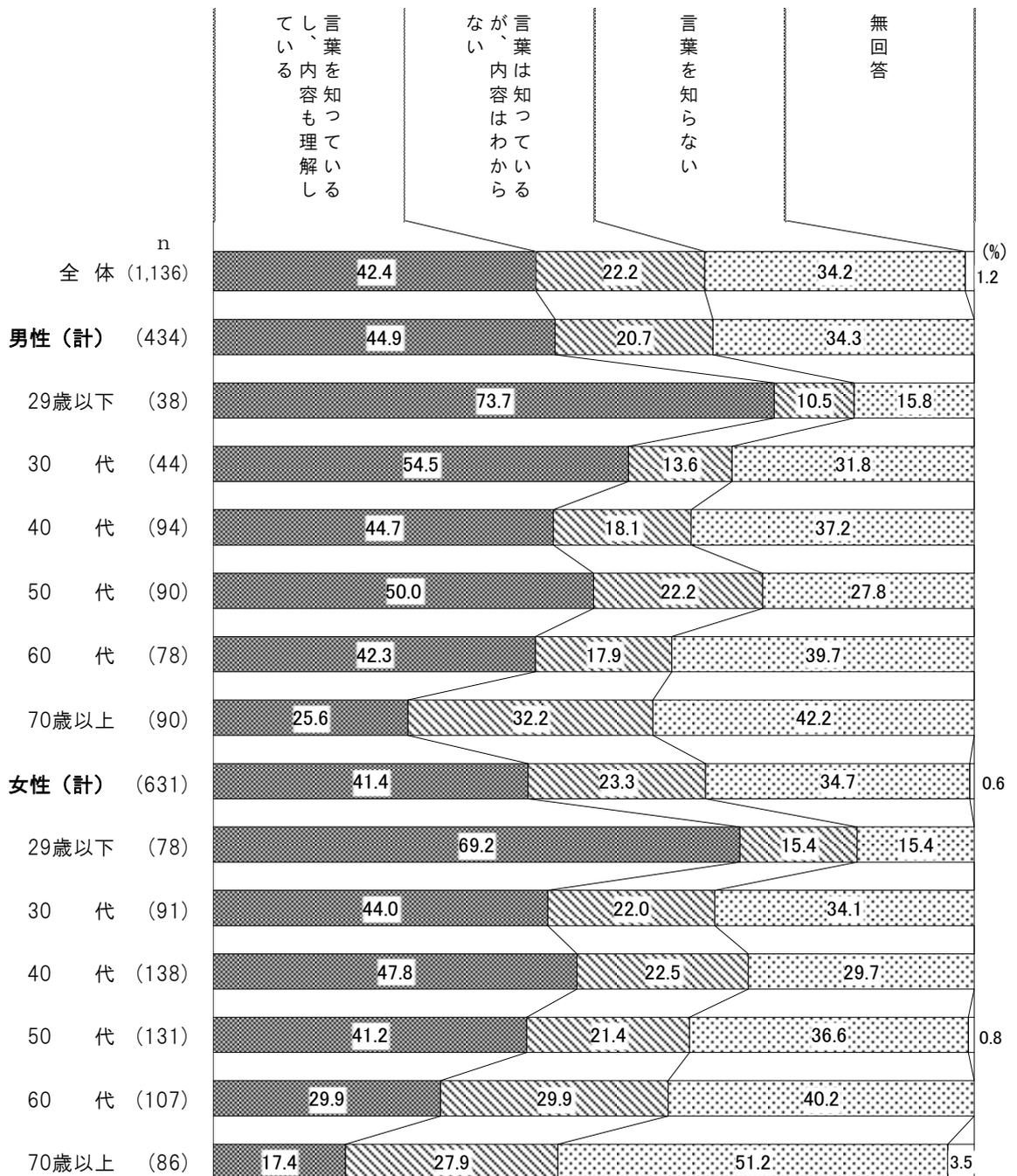
2 ワーク・ライフ・バランスの推進

(1) 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度

■ 「言葉を知り内容も理解している」人は4割強、「言葉を知らない」人は3割台半ば

問5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、「仕事」と「仕事以外の生活（子育てや介護、地域活動等）」の両方のバランスがとれている状態のことを言います。あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉とその意味を知っていますか（○は1つ）。

図表 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

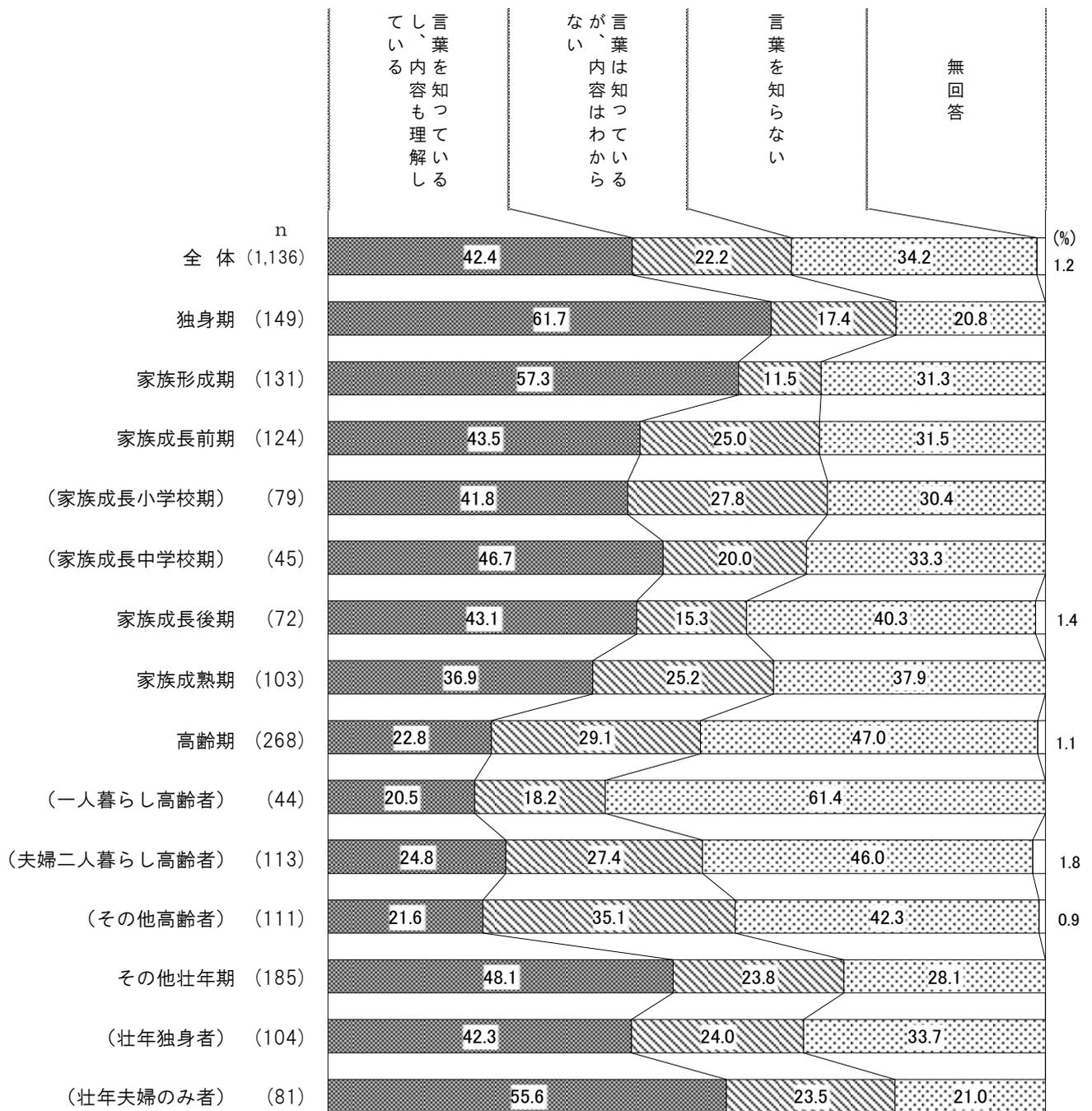
第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「言葉を知っているし、内容も理解している」回答者は42.4%で最も多く、「言葉は知っているが、内容はわからない」(22.2%)回答者は2割強である。「言葉を知らない」(34.2%)という回答者は3割台半ばである。

性別でみると、「言葉を知っているし、内容も理解している」(男性44.9%、女性41.4%)という回答者は、男性が女性よりやや多い。

性別・年代別でみると、「言葉を知っているし、内容も理解している」という回答者は、男女ともに29歳以下(男性73.7%、女性69.2%)で最も多く、おおむね年代が低くなるほど多い傾向がある。一方、「言葉を知らない」という回答者は、男女ともに60代以上で約4割から約5割となっている。

図表 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度（ライフステージ別）

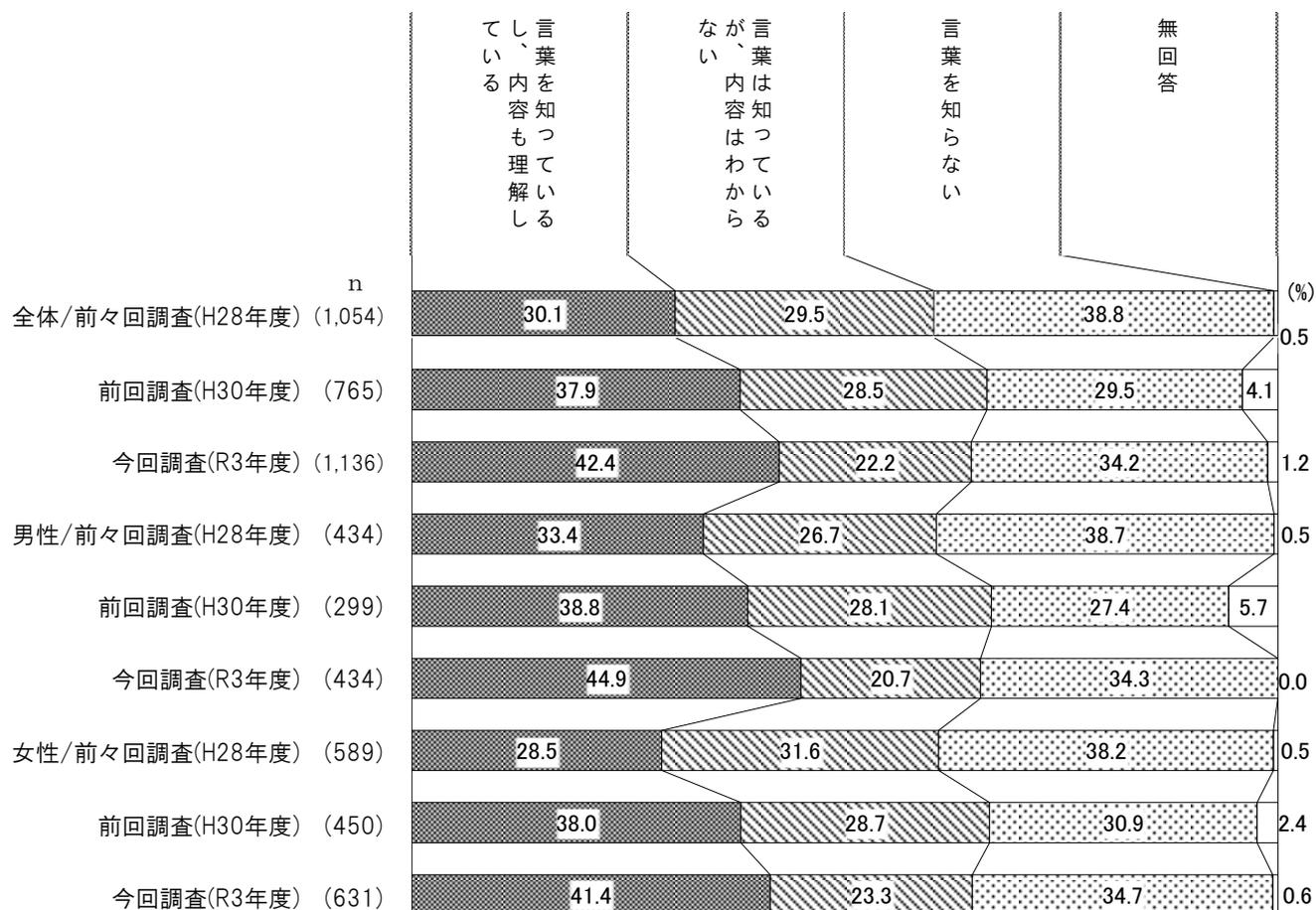


ライフステージ別で見ると、「言葉を知っているし、内容も理解している」割合は、大まかな傾向として、ライフステージが進むほど少なくなっており、〈独身期〉の61.7%に対して〈高齢期〉は22.8%となっている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

図表 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度（経年比較）



過去調査と比較すると、全体では「言葉を知っているし、内容も理解している」(今回42.4%、前回37.9%、前々回30.1%)は年々増加している。一方、「言葉は知っているが、内容はわからない」(今回22.2%、前回28.5%)は6.3ポイント減少し、「言葉を知らない」(今回34.2%、前回29.5%)は4.7ポイント増加している。

性別で見ると、男性では「言葉を知っているし、内容も理解している」(今回44.9%、前回38.8%)は6.1ポイント増加している。女性(今回41.4%、前回38.0%)では3.4ポイント増加している。

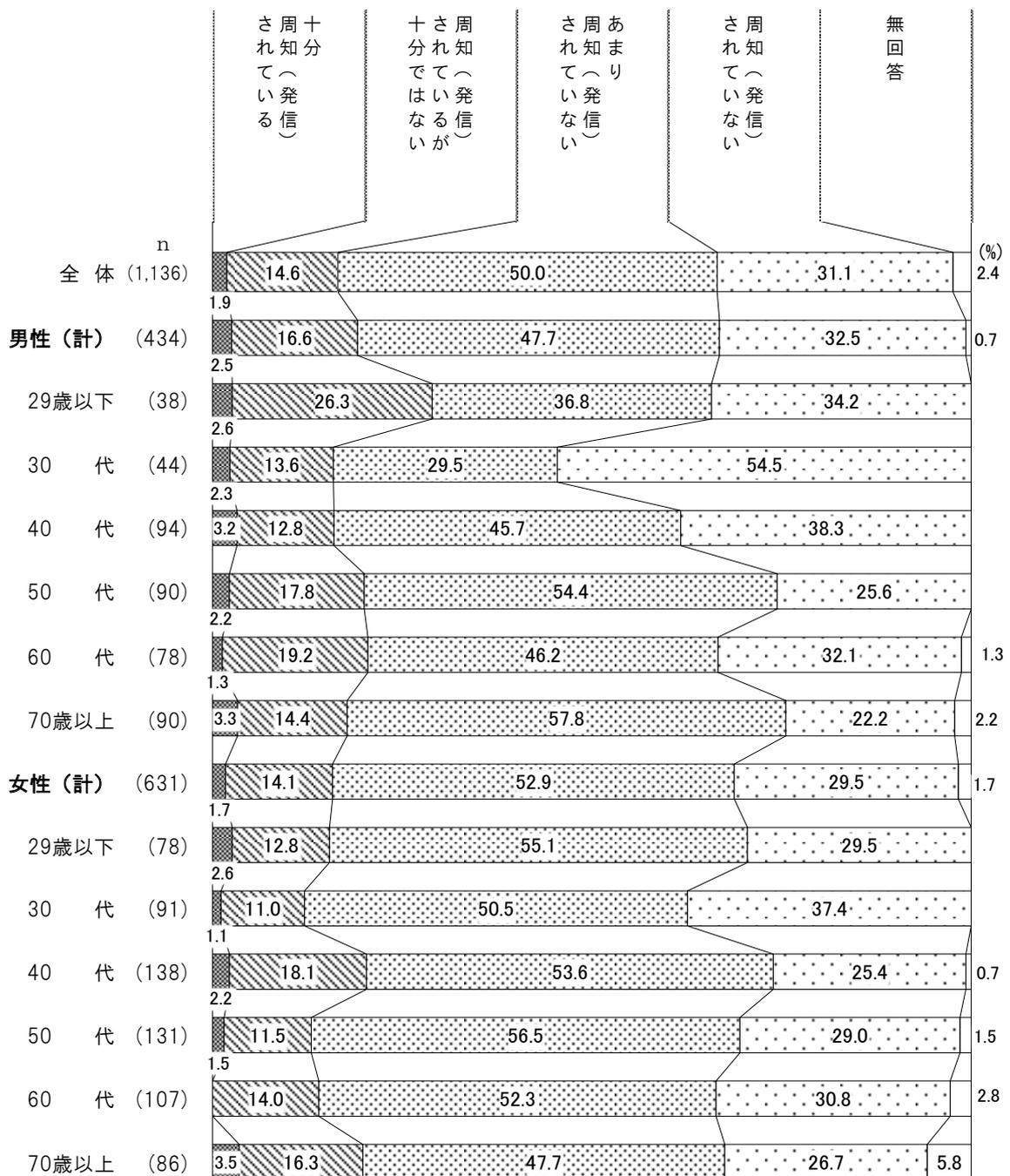
前々回調査から比較すると、「言葉を知っているし、内容も理解している」は女性の認知度が高まっている。

(2) 区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況

■ 「周知されている」と感じる人は1割台半ばにとどまり、「周知されていない」が約8割

問6 足立区では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため、啓発リーフレットの配布や区内企業に対するセミナー開催のお知らせ、また、ホームページでも取組み内容を紹介しています。あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて、区から情報の周知（発信）がされていると思いますか（○は1つ）。

図表 区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

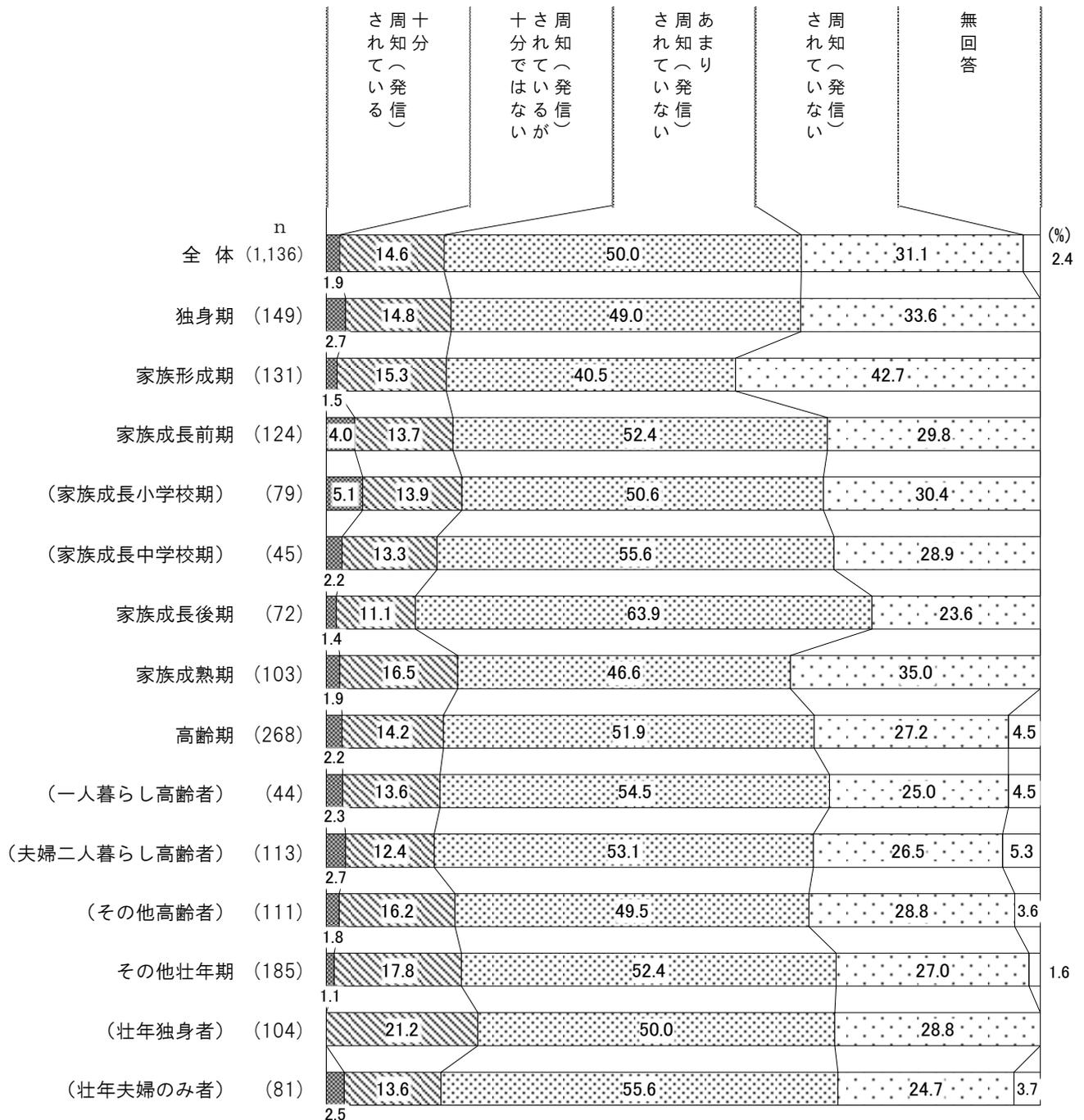
第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

足立区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みが「十分周知(発信)されている」と感じる回答者は1.9%にとどまるが、「周知(発信)されているが十分ではない」(14.6%)を含めた【周知(発信)されている】回答者(16.5%)は1割台半ばとなっている。これに対して、「周知(発信)されていない」と評価をする回答者は31.1%で、「あまり周知(発信)されていない」(50.0%)を含めた【周知(発信)されていない】(81.1%)は約8割の回答者が感じている。

性別でみると、取組みが「周知(発信)されているが十分ではない」を含めた【周知(発信)されている】(男性19.1%、女性15.8%)と感じている回答者は男性が女性よりやや多い。「あまり周知(発信)されていない」を含めた【周知(発信)されていない】(男性80.2%、女性82.4%)という回答者は、女性がやや多い。

性別・年代別でみると、取組みが「あまり周知(発信)されていない」を含めた【周知(発信)されていない】という回答者は女性30代(87.9%)で最も多くなっている。

図表 区のワーク・ライフ・バランス推進の取組みの周知状況（ライフステージ別）



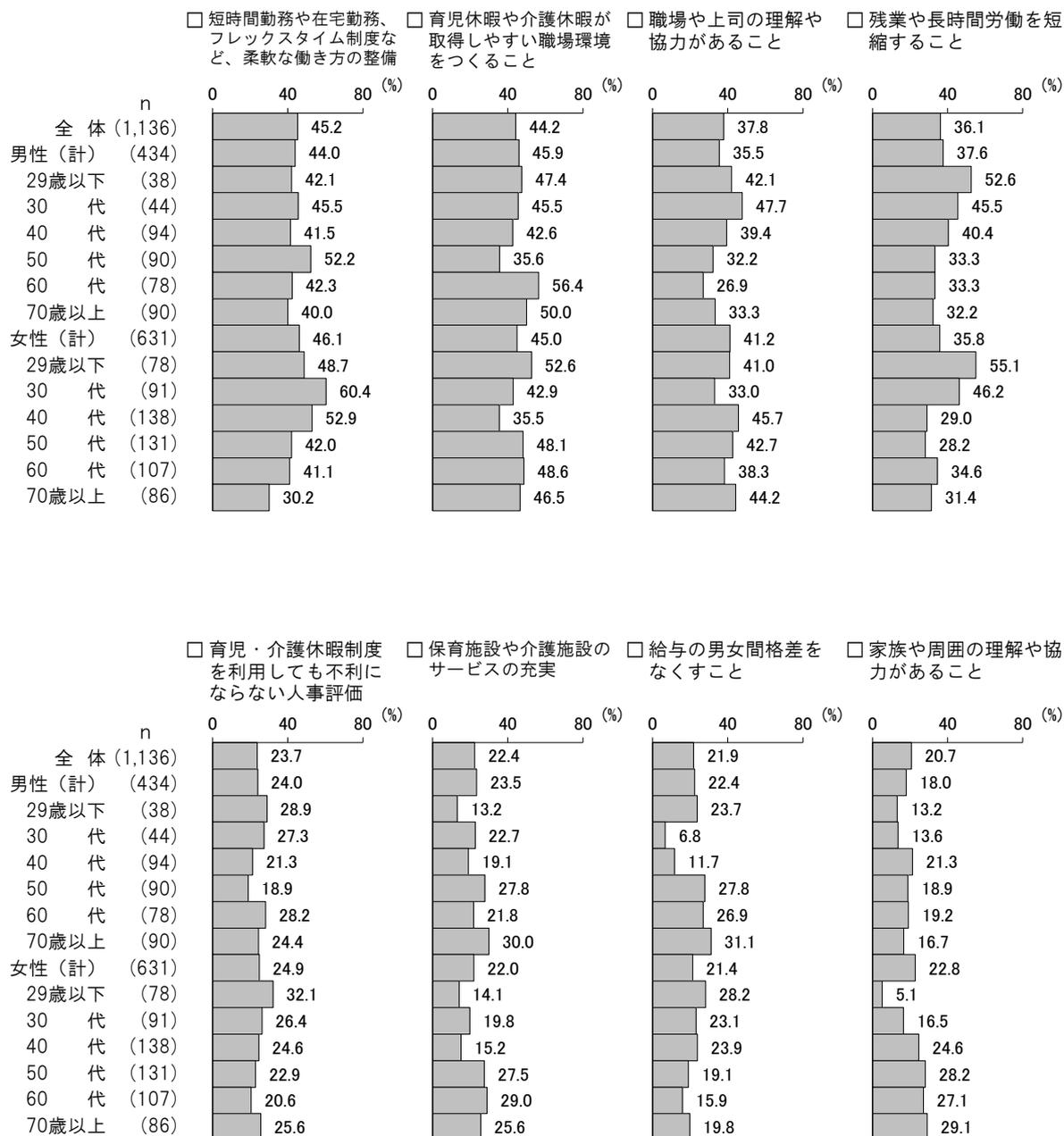
ライフステージ別で見ると、「周知(発信)されているが十分ではない」を含めた【周知(発信)されている】割合は、〈家族成長後期〉で12.5%と他のステージよりもやや少なくなっている。

(3) 仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこと

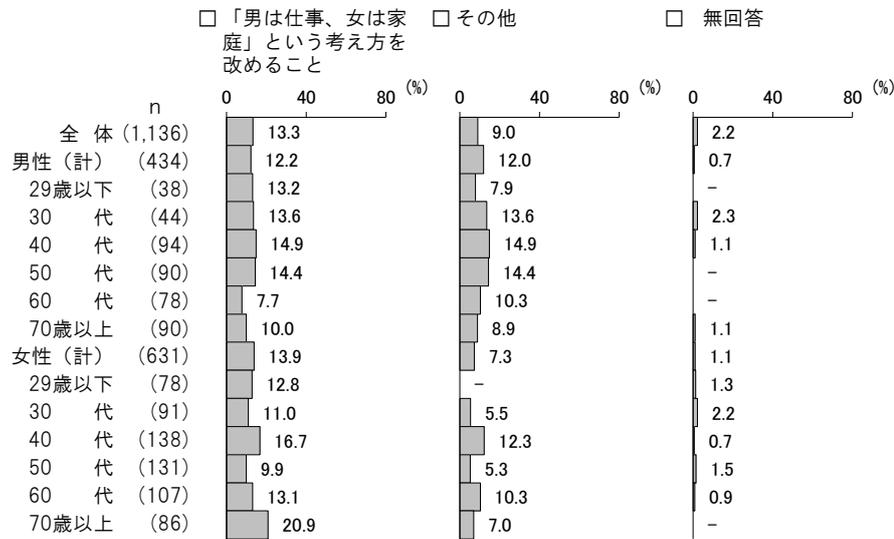
■ 「柔軟な働き方の整備」「育児休暇等を取得しやすい職場環境の整備」が4割台半ば

問7 「仕事」と「仕事以外の生活」を両立させる場合に、あなたが特に重要だと思うことは何ですか（○は3つまで）。

図表 仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこと（性別・年代別①）



図表 仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこと（性別・年代別②）



その他に含まれる選択肢
個人の意識改革や努力

仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこととしては、「短時間勤務や在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な働き方の整備」(45.2%)と「育児休暇や介護休暇が取得しやすい職場環境をつくること」(44.2%)が4割台、「職場や上司の理解や協力があること」(37.8%)と「残業や長時間労働を短縮すること」(36.1%)が3割台となっている。

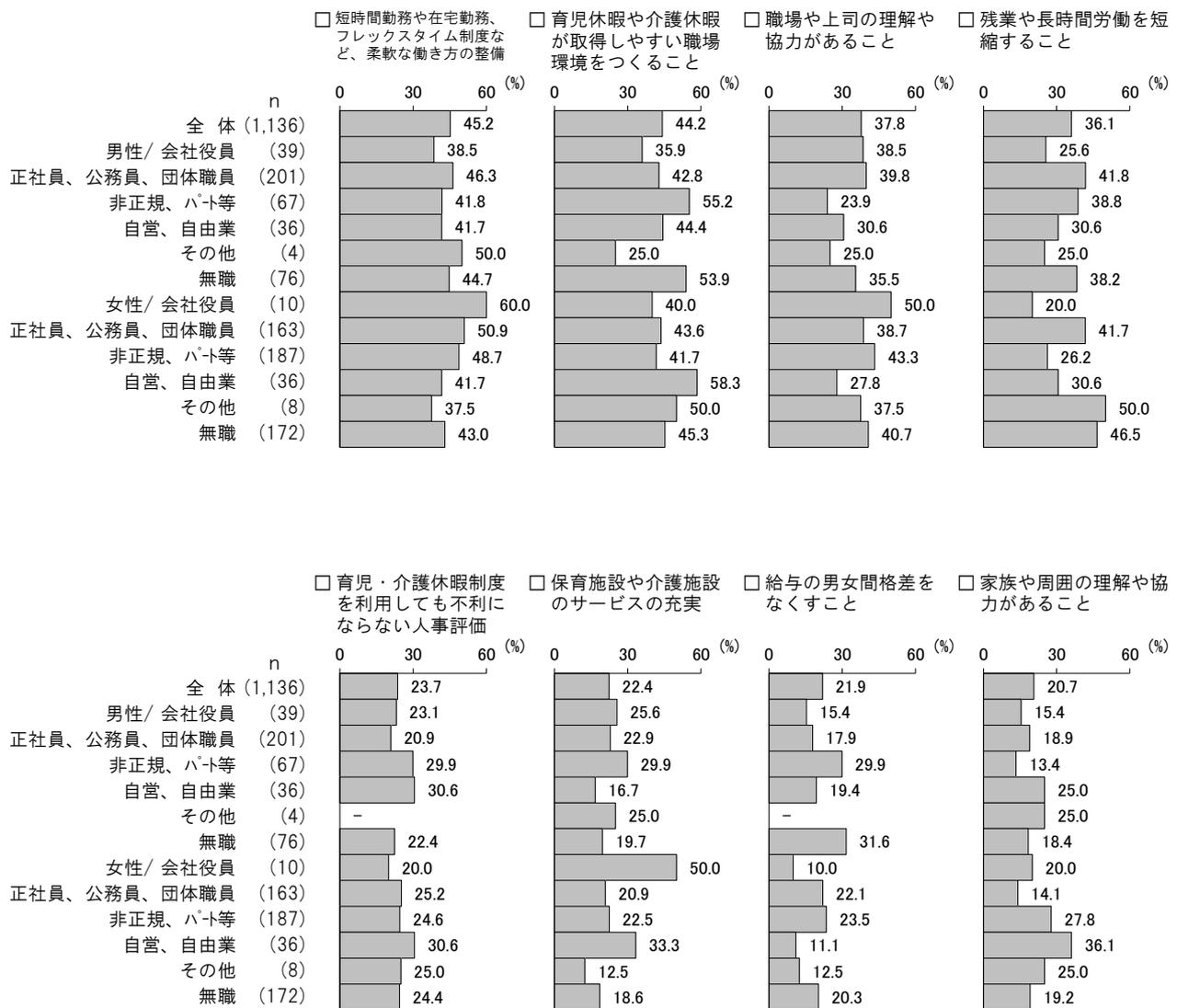
性別でみると、女性では、第1位として「短時間勤務や在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な働き方の整備」(46.1%)をあげている。男性では、「育児休暇や介護休暇が取得しやすい職場環境をつくること」(45.9%)を第1位にあげている。

性別・年代別でみると、「短時間勤務や在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な働き方の整備」では、特に女性30代(60.4%)で6割と多くなっており、男性50代と女性40代でも5割を超えている。

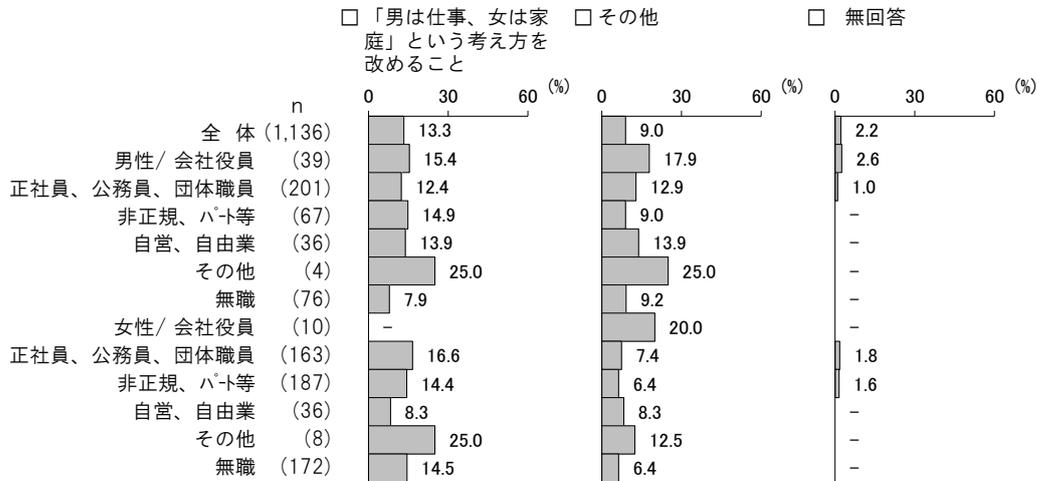
第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

図表 仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこと（性別・職業別①）



図表 仕事と仕事以外の生活を両立するために特に重要だと思うこと（性別・職業別②）



その他に含まれる選択肢
個人の意識改革や努力

性別・職業別でみると、「短時間勤務や在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な働き方の整備」は〈女性/正社員、公務員、団体職員〉(50.9%)、「育児休暇や介護休暇が取得しやすい職場環境をつくること」は男性の〈非正規、パート等〉(55.2%)や〈女性/自営、自由業〉(58.3%)、「職場の上司の理解や協力があること」は〈女性/非正規、パート等〉(43.3%)でそれぞれ多くなっている。

(4) 働く際に重要視すること

■ 「給料のよさ」「仕事のやりがい」「休暇の取得しやすさ」が5割前後

問8 あなたが働くうえで、特に重要視することは何ですか（〇は3つまで）。

図表 働く際に重要視すること（性別・年代別）

	調査数 (n)	給料がよい	休暇がとりやすい	残業がない、少ない	福利厚生制度が充実している	仕事のやりがいがある	知識や技術が身につけられる	能力を発揮できる	テレワークやフレックスタイトム制度など柔軟な勤務制度が導入されている	仕事を行う上で男女差別がない	その他	無回答
全体	1,136	50.7	48.1	26.7	33.2	49.1	13.3	21.9	17.3	11.2	4.1	2.2
男性(計)	434	59.4	37.3	19.6	32.5	53.5	14.5	30.2	14.3	9.9	5.8	0.5
29歳以下	38	57.9	36.8	18.4	31.6	39.5	28.9	26.3	15.8	7.9	15.8	2.6
30代	44	77.3	47.7	36.4	29.5	43.2	18.2	18.2	11.4	4.5	4.5	-
40代	94	69.1	37.2	19.1	26.6	52.1	12.8	39.4	10.6	3.2	5.3	-
50代	90	63.3	45.6	18.9	30.0	51.1	12.2	25.6	17.8	11.1	6.7	-
60代	78	47.4	34.6	23.1	32.1	66.7	12.8	29.5	15.4	6.4	3.8	-
70歳以上	90	47.8	26.7	10.0	43.3	56.7	12.2	33.3	14.4	22.2	3.3	1.1
女性(計)	631	46.1	55.9	32.5	34.9	48.0	12.5	17.3	19.3	12.4	2.9	1.1
29歳以下	78	50.0	60.3	50.0	47.4	37.2	6.4	10.3	19.2	9.0	3.8	-
30代	91	50.5	70.3	40.7	38.5	28.6	9.9	18.7	22.0	4.4	3.3	2.2
40代	138	47.8	60.1	35.5	24.6	51.4	14.5	19.6	16.7	10.1	2.2	0.7
50代	131	52.7	55.0	28.2	29.0	46.6	13.0	17.6	19.8	9.9	6.1	1.5
60代	107	38.3	54.2	22.4	40.2	58.9	10.3	15.0	26.2	14.0	-	0.9
70歳以上	86	34.9	33.7	22.1	38.4	61.6	19.8	20.9	11.6	29.1	1.2	1.2

その他に含まれる選択肢

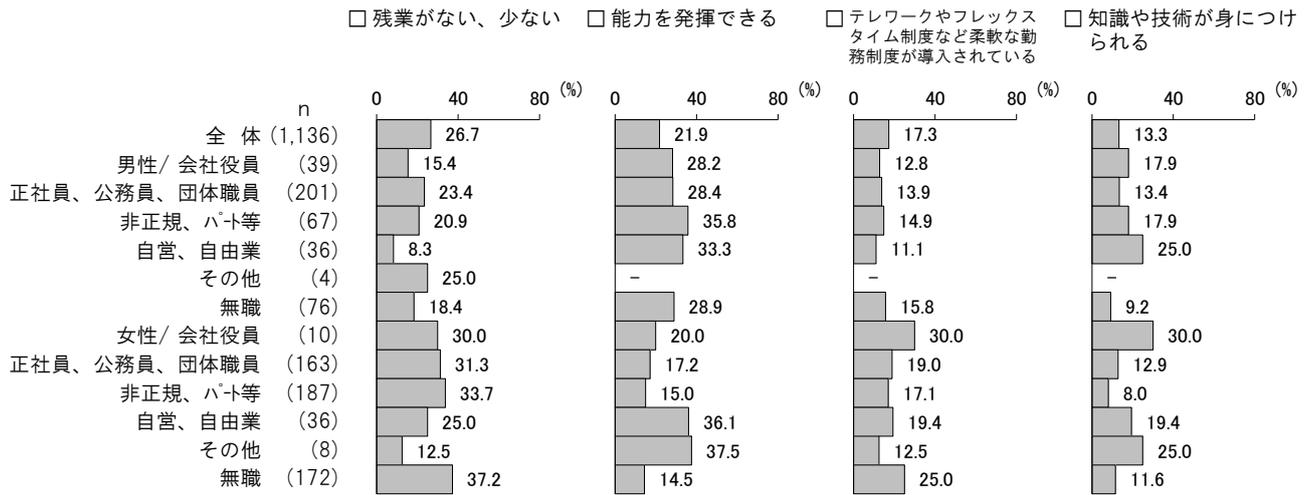
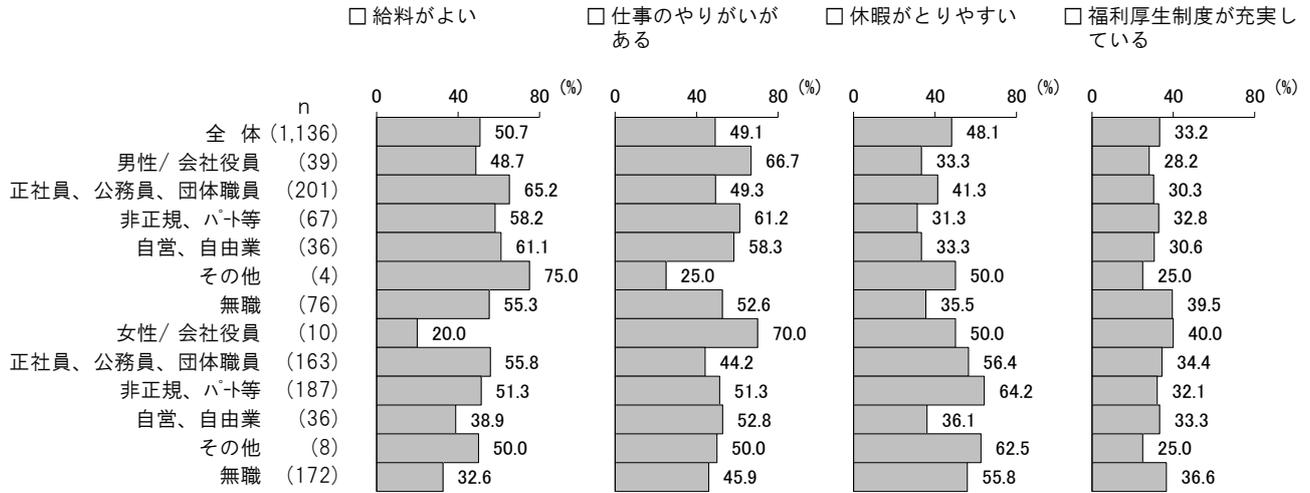
企業の知名度が高い

働く際に重要視することとしては、「給料がよい」(50.7%)が半数を超えて第1位にあげられており、「仕事のやりがいがある」(49.1%)、「休暇がとりやすい」(48.1%)が5割弱で続いている。

性別で見ると、男性では、「給料がよい」(59.4%)、「仕事のやりがいがある」(53.5%)が5割台で多くなっている。一方、女性では、「休暇がとりやすい」が55.9%と最も多くなっている。

性別・年代別で見ると、「給料がよい」では男性30代が77.3%と特に多く、同年代の女性と比べると26.8ポイント多くなっている。「休暇がとりやすい」では女性30代が70.3%と特に多く、女性29歳以下(60.3%)と40代(60.1%)でも6割を超えている。

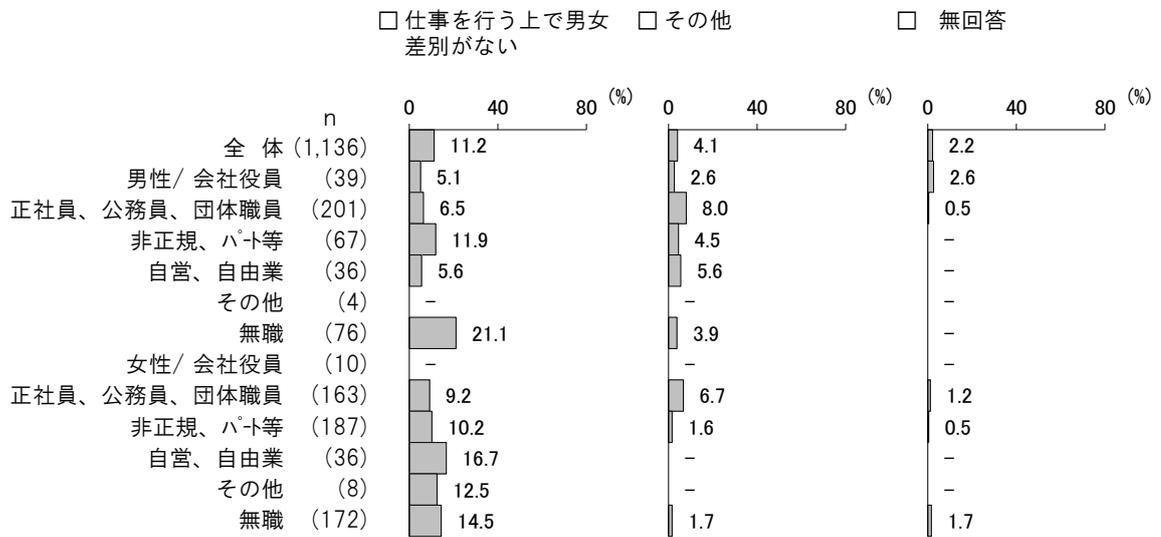
図表 働く際に重要視すること（性別・職業別①）



第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

図表 働く際に重要視すること（性別・職業別②）



その他に含まれる選択肢
企業の知名度が高い

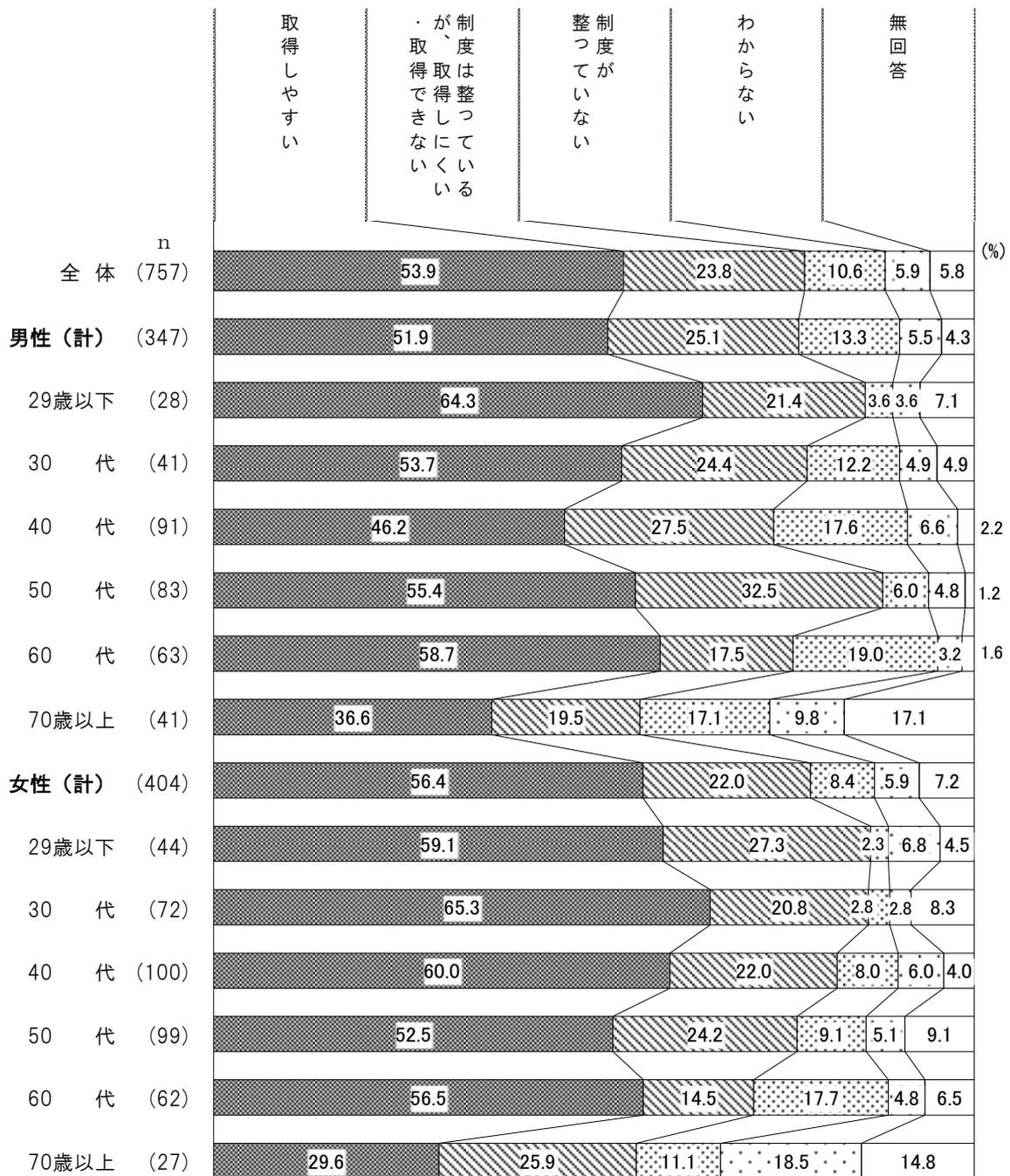
性別・職業別でみると、「給料がよい」は男性の〈正社員、公務員、団体職員〉(65.2%)や〈自営、自由業〉(61.1%)、「仕事のやりがいがある」は〈男性/会社役員〉(66.7%)、「休暇がとりやすい」は〈女性/非正規、パート等〉(64.2%)でそれぞれ多くなっている。

(5) 年次有給休暇の取得しやすさ

■ 「取得しやすい」人が半数を超えるも、「制度が整っていない」人が1割

お仕事をされている方のみにお聞きします。
問9 あなたの職場では、年次有給休暇が取得しやすいと感じていますか（○は1つ）。

図表 年次有給休暇の取得しやすさ（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

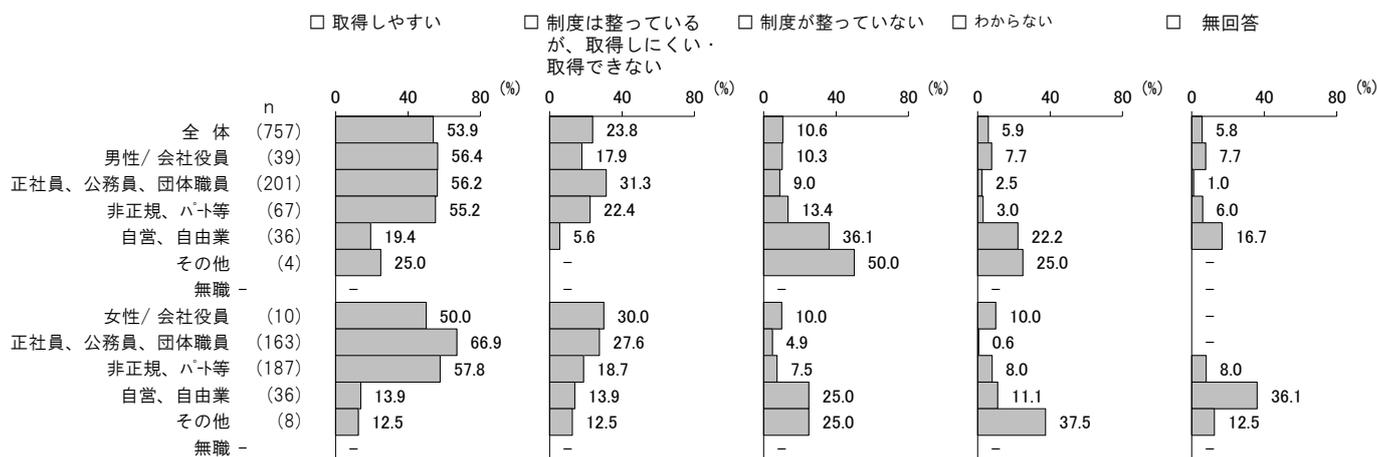
第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

有職者(757人)に職場での年次有給休暇の取得しやすさを聞いたところ、「取得しやすい」という回答者が53.9%で、「制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」(23.8%)という回答者を30.1ポイント上回っている。また、「制度が整っていない」(10.6%)は1割となっている。

性別で見ると、男女ともに「取得しやすい」(男性51.9%、女性56.4%)が5割台で、女性が男性を4.5ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、「取得しやすい」は、男性は29歳以下(64.3%)が最も多く、女性は30代(65.3%)が最も多く、ともに6割台半ばとなっている。一方、「制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」は男性50代(32.5%)で3割強と最も多くなっている。

図表 年次有給休暇の取得しやすさ (性別・職業別)



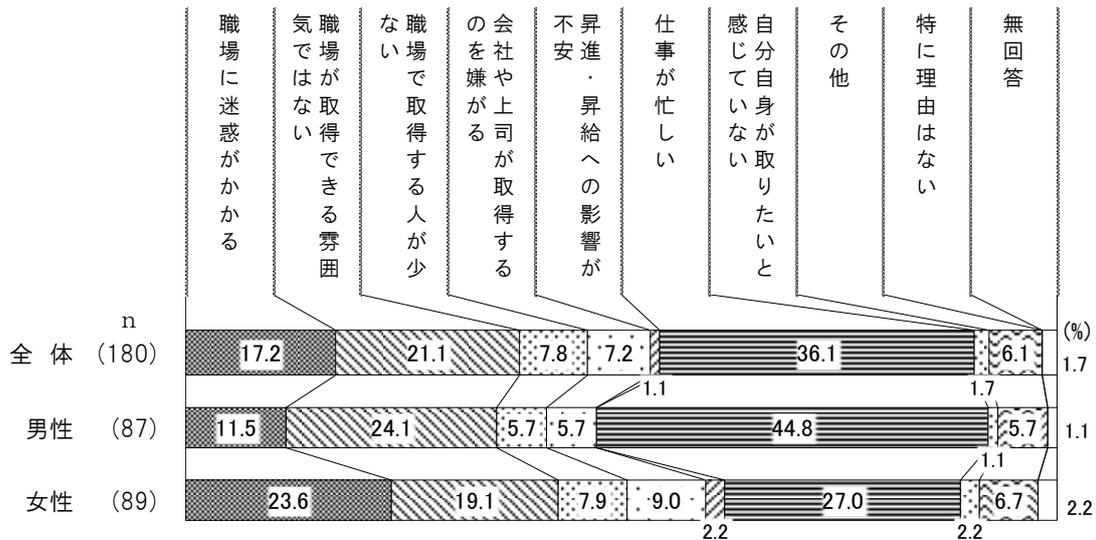
性別・職業別で見ると、「取得しやすい」は〈女性/正社員、公務員、団体職員〉(66.9%)が6割台半ばで最も多く、男女ともに〈会社役員〉〈正社員、公務員、団体職員〉〈非正規、パート等〉がそれぞれ5割を超えている。一方、「制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」は〈男性/正社員、公務員、団体職員〉が31.3%と多くなっている。

(6) 年次有給休暇を取得していない理由

■ 「仕事が忙しい」が3割台半ばで最多

問9で「2 制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」と回答した方にお聞きします。
問9-1 取得していない理由は何ですか（〇は1つ）。

図表 年次有給休暇を取得していない理由（性別）



年次有給休暇を取得していない理由としては、「仕事が忙しい」(36.1%)が第1位にあげられており、「職場が取得できる雰囲気ではない」(21.1%)が第2位、「職場に迷惑がかかる」(17.2%)が続いている。

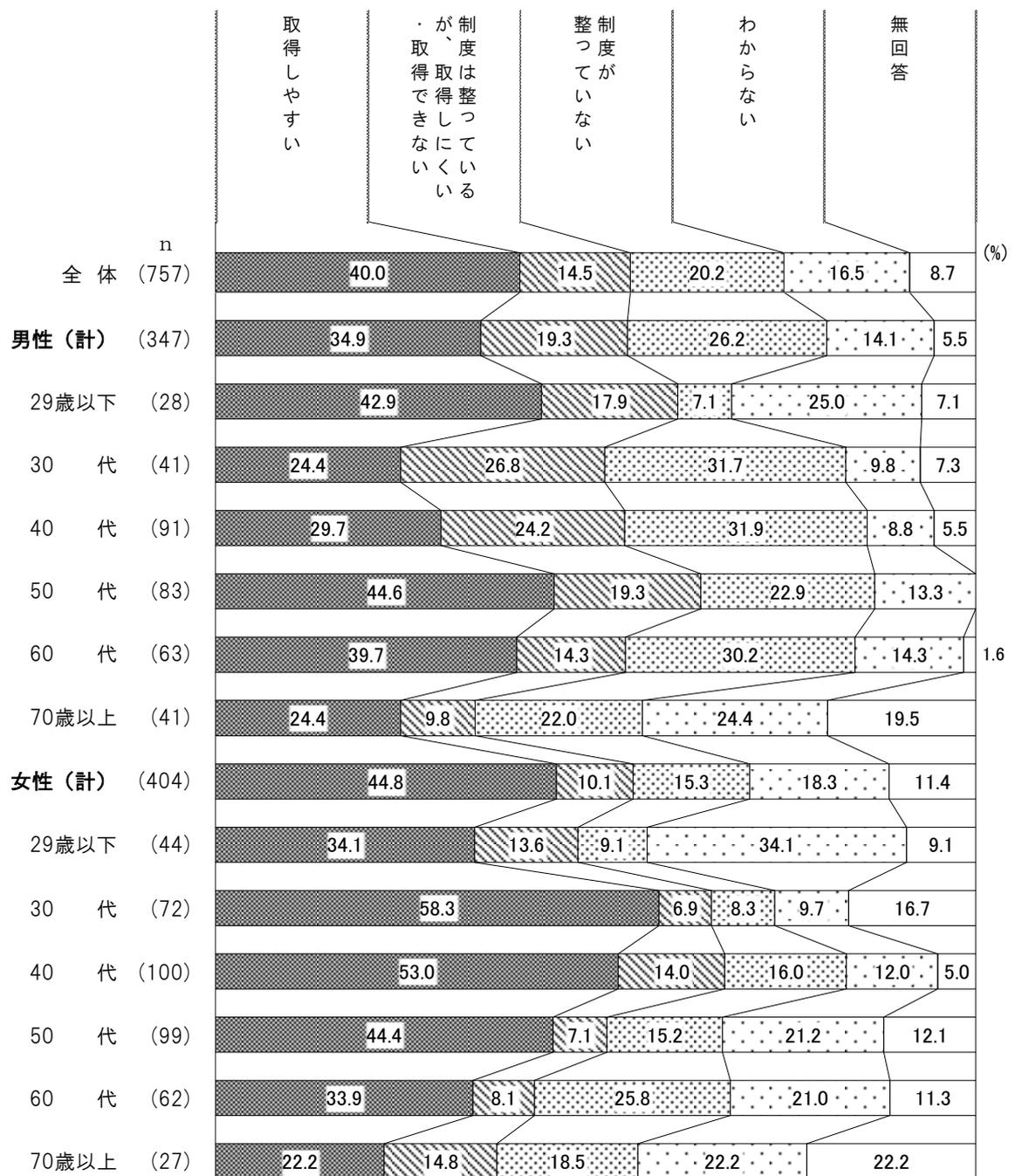
性別でみると、男女ともに「仕事が忙しい」が最も多くあげられており、男性44.8%、女性27.0%と、男性が女性を17.8ポイント上回っている。

(7) 育児休業・介護休業の取得しやすさ

■ 「取得しやすい」人が4割、「制度が整っていない」が2割

再び、お仕事をされている方のみにお聞きします。
 問10 あなたの職場では、育児休業や介護休業が取得しやすいと感じていますか（○は1つ）。

図表 育児休業・介護休業の取得しやすさ（性別・年代別）



有職者(757人)に職場での育児休業・介護休業の取得しやすさを聞いたところ、「取得しやすい」という回答者が40.0%で、「制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」(14.5%)という回答者を25.5ポイント上回っている。また、「制度が整っていない」(20.2%)は2割となっている。

性別で見ると、「取得しやすい」は男性34.9%、女性44.8%となっており、女性が男性を9.9ポイント上回っている。

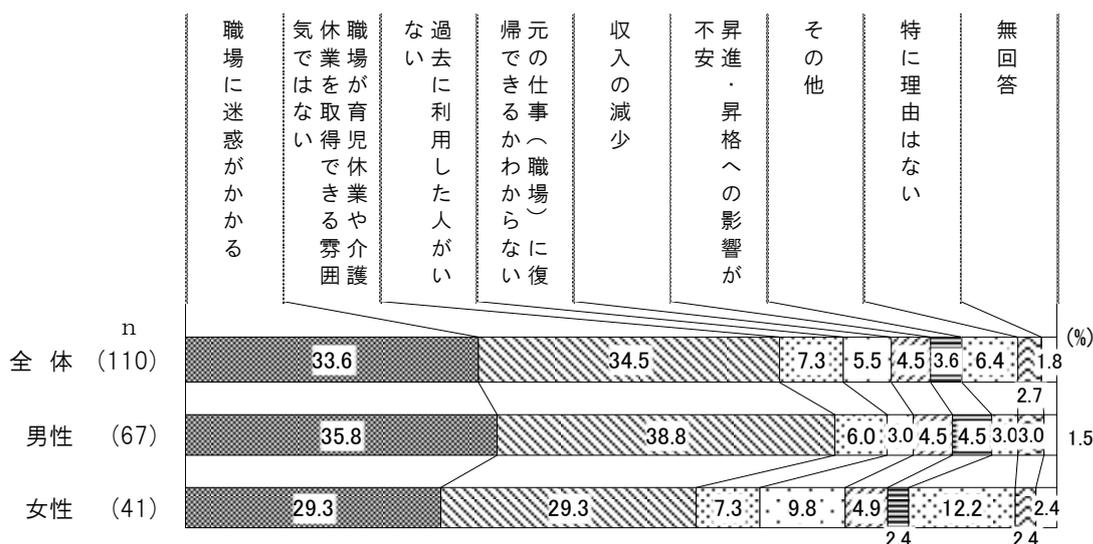
性別・年代別で見ると、「取得しやすい」では、女性30代(58.3%)が6割弱と最も多くなっている。一方、「制度が整っていない」は男性30代(31.7%)、40代(31.9%)、60代(30.2%)で3割台と多くなっている。

(8) 育児休業・介護休業を取得していない理由

■ 「職場が休業を取得できる雰囲気ではない」「職場に迷惑がかかる」が3割台

問10で「2 制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」と回答した方にお聞きします。
 問10-1 取得していない理由は何ですか（○は1つ）。

図表 育児休業・介護休業を取得していない理由（性別）



育児休業・介護休業を取得していない理由としては、「職場が育児休業や介護休業を取得できる雰囲気ではない」(34.5%)が第1位にあげられており、「職場に迷惑がかかる」(33.6%)が3割台で続いている。

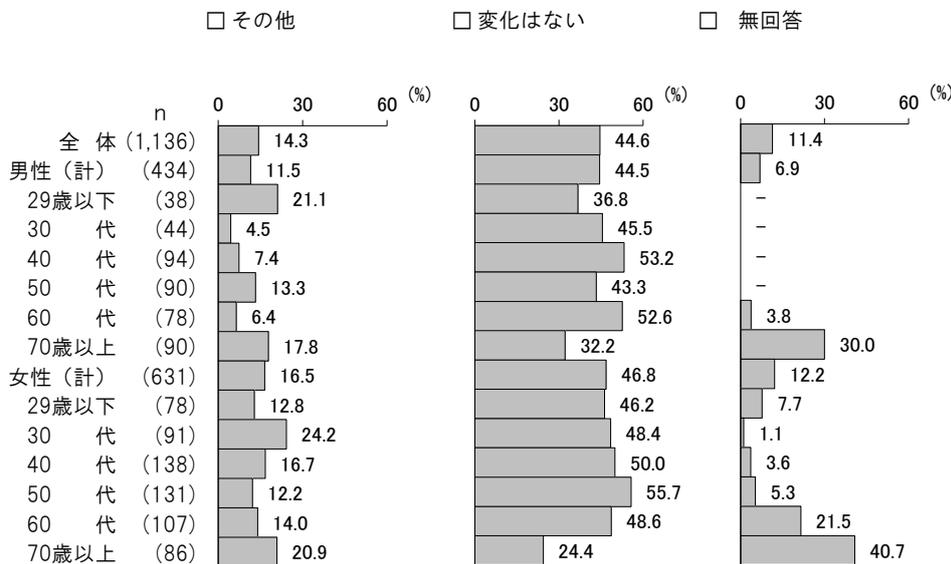
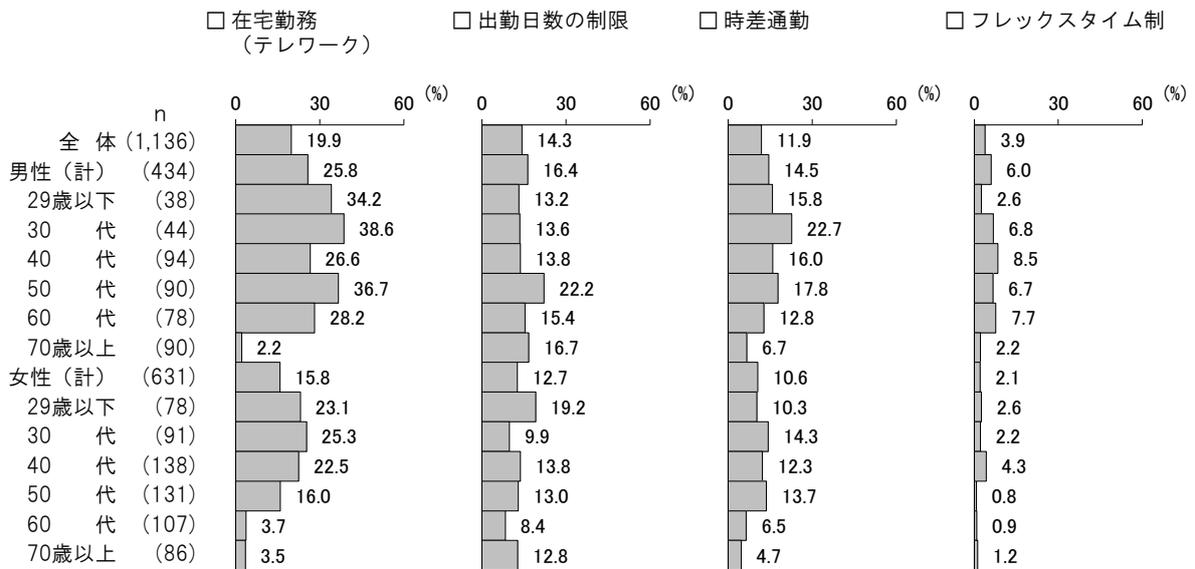
性別でみると、男性は「職場が育児休業や介護休業を取得できる雰囲気ではない」が、女性は「職場に迷惑がかかる」と「職場が育児休業や介護休業を取得できる雰囲気ではない」が最も多くあげられている。

(9) コロナによる働き方の変化

■ 「テレワーク」等いずれかの変化があった人が4割半ばも、変化がない人も4割台半ば

問11 新型コロナウイルス感染拡大により、あなたの働き方にどのような変化がありましたか（〇はいくつでも）。

図表 コロナによる働き方の変化（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

働いていなかったが就職した／会社の都合で退職した／自己都合で退職した

第2章 調査結果の詳細

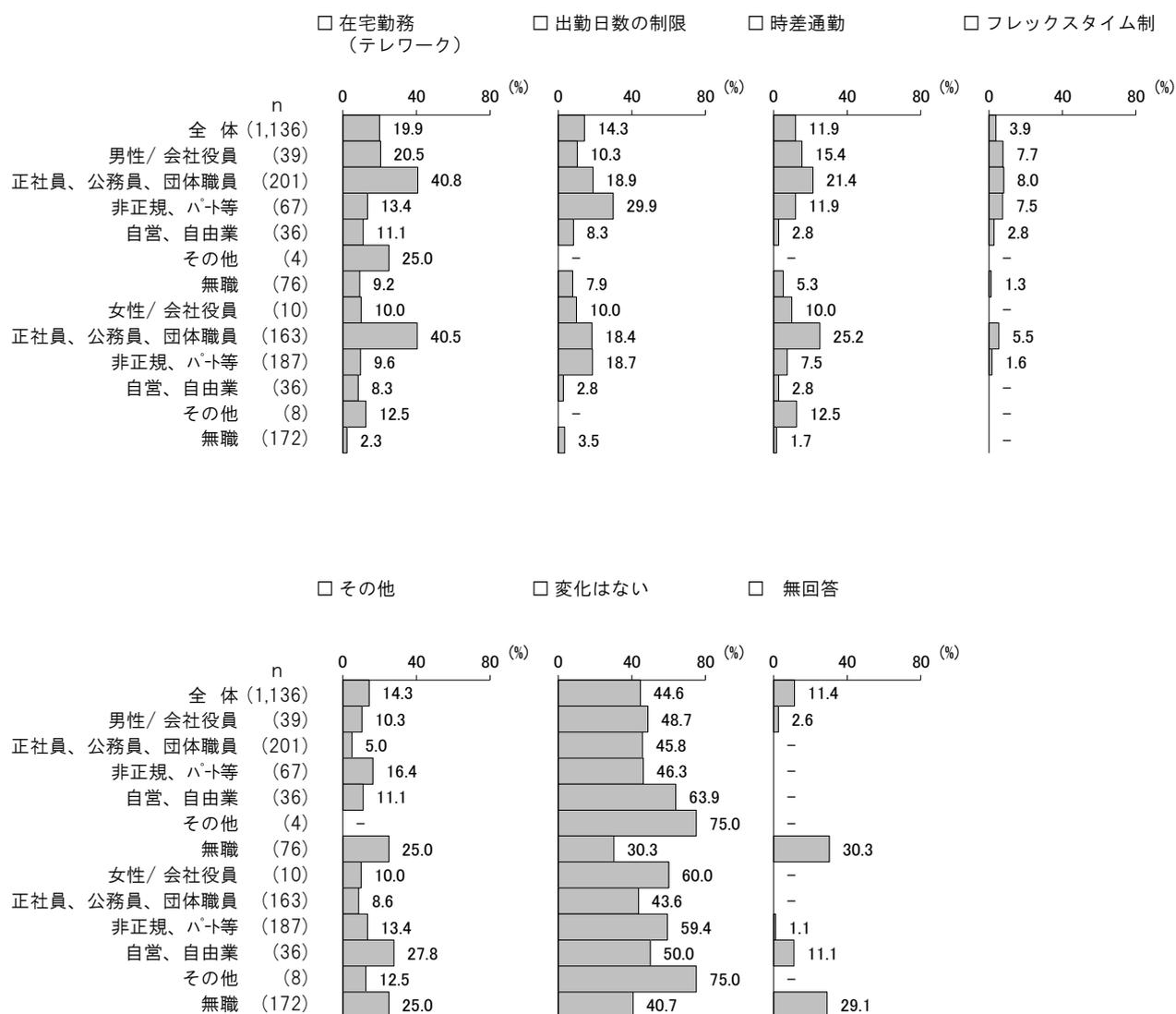
第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

コロナによる働き方の変化については、「在宅勤務(テレワーク)」(19.9%)が約2割で最も多くあげられ、以下「出勤日数の制限」(14.3%)、「時差通勤」(11.9%)が1割台で続いている。一方、「変化はない」は44.6%と最も多くなっている。

性別でみると、男女ともに「在宅勤務(テレワーク)」(男性25.8%、女性15.8%)を第1位にあげている。

性別・年代別でみると、「在宅勤務(テレワーク)」は、男性では29歳以下(34.2%)、30代(38.6%)、50代(36.7%)で3割台、女性では29歳以下(23.1%)、30代(25.3%)、40代(22.5%)で2割台となっている。

図表 コロナによる働き方の変化（性別・職業別）



その他に含まれる選択肢

働いていなかったが就職した／会社の都合で退職した／自己都合で退職した

性別・職業別で見ると、「在宅勤務(テレワーク)」は男女ともに〈正社員、公務員、団体職員〉(男性40.8%、女性40.5%)、「出勤日数の制限」は〈男性/非正規、パート等〉(29.9%)、「時差通勤」は男女ともに〈正社員、公務員、団体職員〉(男性21.4%、女性25.2%)で多くなっている。一方、「変化はない」は男女ともに〈自営、自由業〉(男性63.9%、女性50.0%)、〈女性/非正規、パート等〉(59.4%)が多くなっている。

(10) 現実での家事、行事参加等の役割分担

■ 「調理」「洗濯」「掃除」「家計の管理」「食器洗い」等ほぼすべての項目で自身での分担が最多

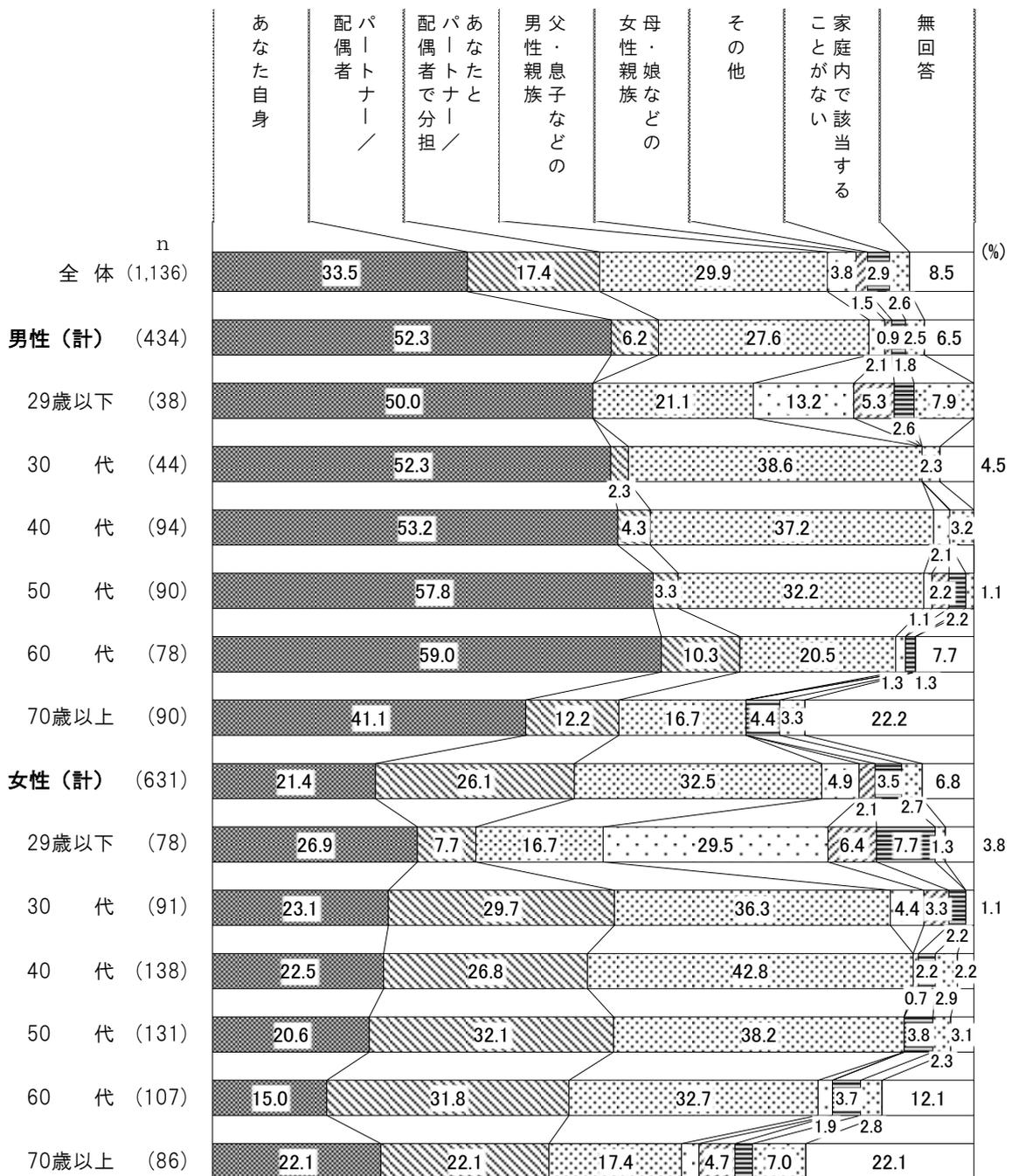
問12 あなたのご家庭では、日ごろ、以下のア～シのことがらを、どのように分担していますか（〇はそれぞれ1つずつ）。

現実での役割分担

■ “あなた自身”は男性5割強、女性約2割

ア 収入を得る

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ア 収入を得る（性別・年代別）

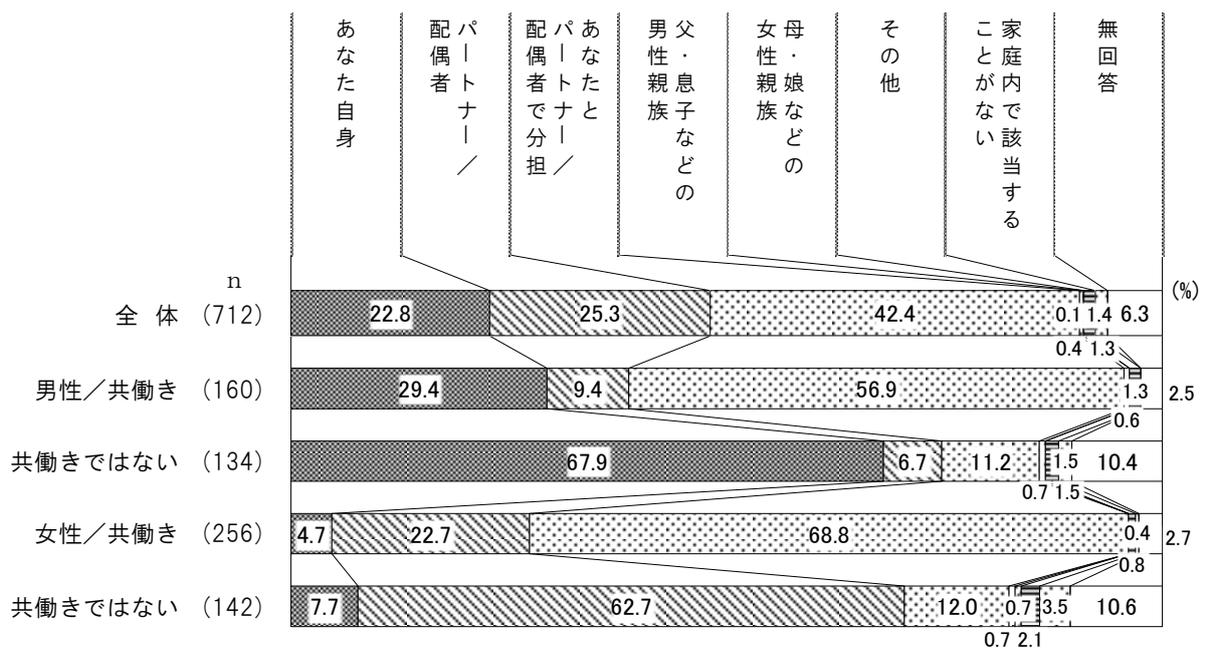


現実での役割分担は、「あなた自身」が33.5%と最も多く、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は29.9%、「パートナー／配偶者」は17.4%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は男性(52.3%)が、女性(21.4%)を30.9ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」はすべての年代を通じて男性が多く、男性では70歳以上を除いた年代で5割台、女性では60代を除き2割台となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性の30代から50代を中心に3割台、女性では30代から60代で3割台から4割台、特に40代では42.8%と、男女通じたすべての年代で最も多くなっている。また、「パートナー／配偶者」は女性が多く、30代以上で2割台から3割台となっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ア 収入を得る（性別・共働きの有無別）

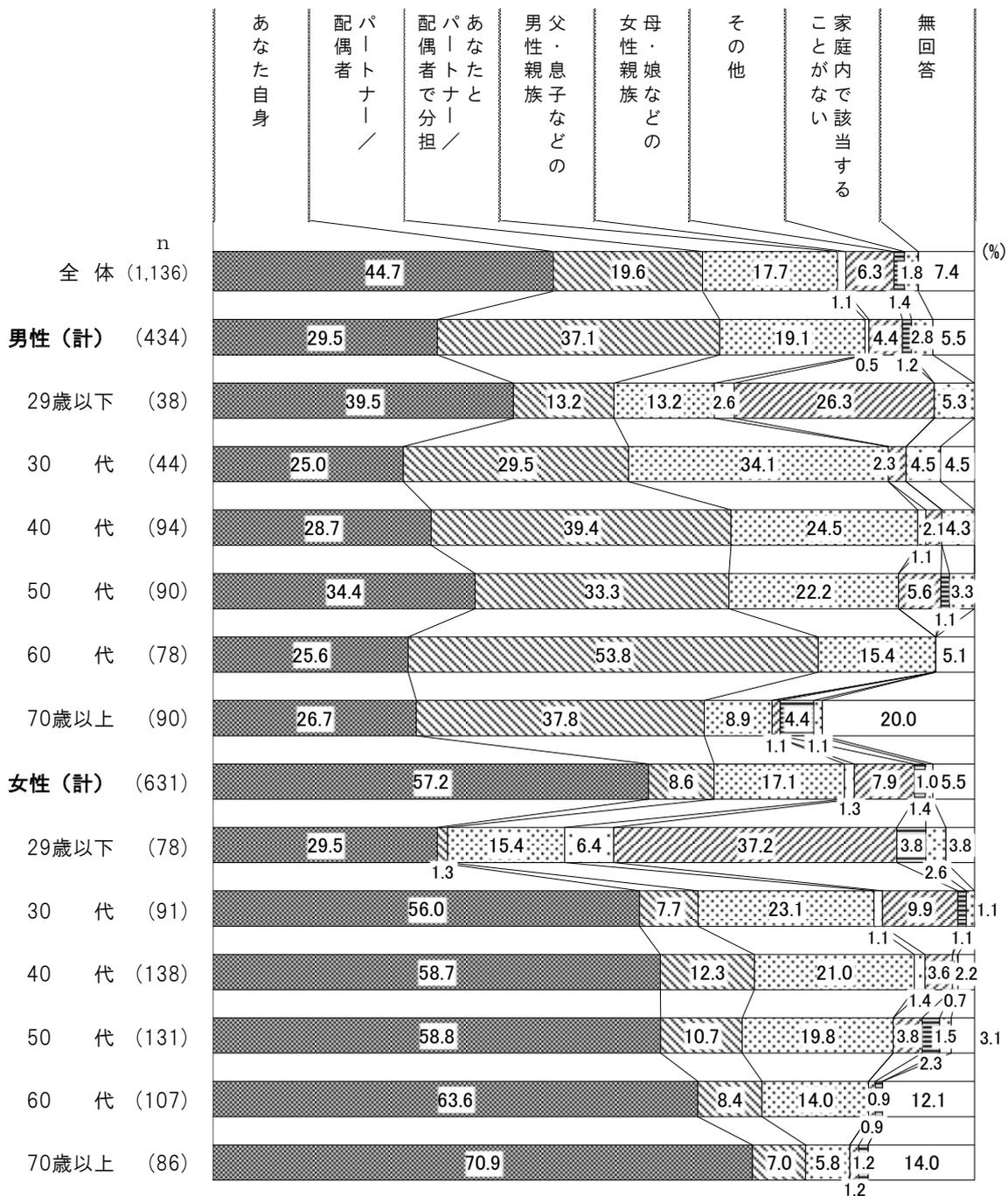


性別・共働きの有無別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに〈共働き〉が5割以上と多くなっている。〈男性／共働きではない〉では、「あなた自身」(67.9%)、〈女性／共働きではない〉では、「パートナー／配偶者」(62.7%)が6割台と、それぞれ男女通じて最も多くなっている。

■ 「あなた自身」は女性6割弱、男性約3割

イ 日々の家計の管理

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 イ 日々の家計の管理（性別・年代別）

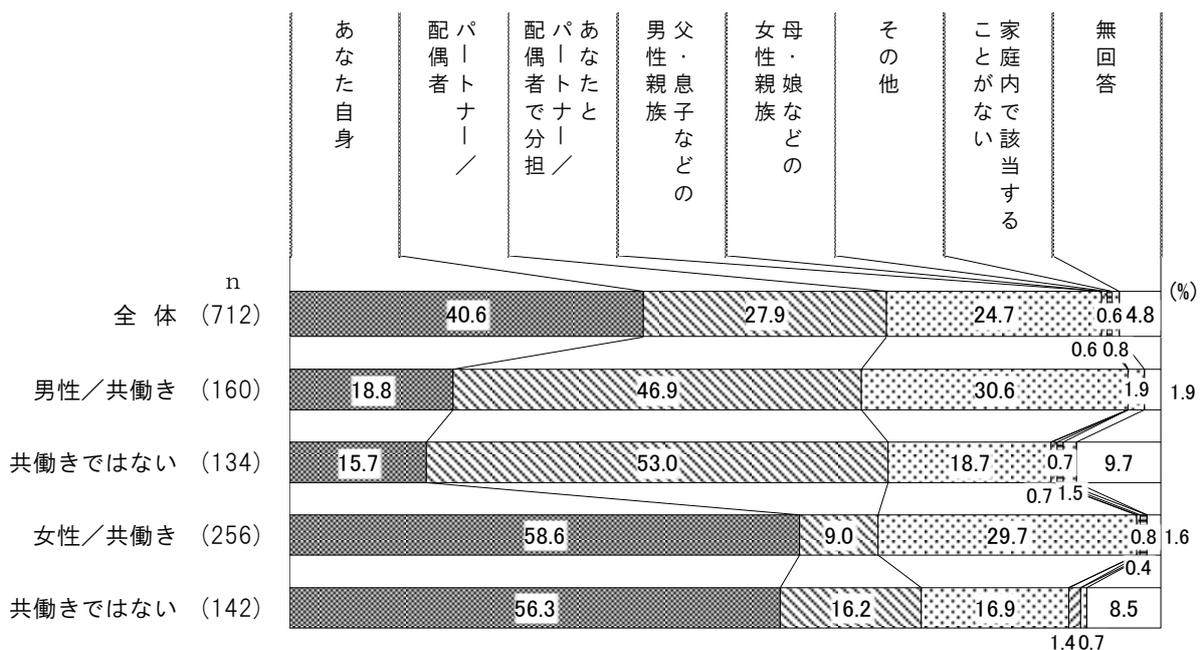


現実での役割分担は、「あなた自身」が44.7%と最も多く、「パートナー／配偶者」は19.6%、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は17.7%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(57.2%)が男性(29.5%)を27.7ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は、29歳以下の男女(男性39.5%、女性29.5%)を除いて、女性が上回っており、女性では70歳以上では7割と最も多くなっている。「パートナー／配偶者」は、男性60代で5割強と最も多く、女性30代以下と60代以上で1割未満と少なくなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性30代(34.1%)で3割台半ば、女性30代(23.1%)と40代(21.0%)で2割台と比較的が多くなっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 イ 日々の家計の管理 (性別・共働きの有無別)

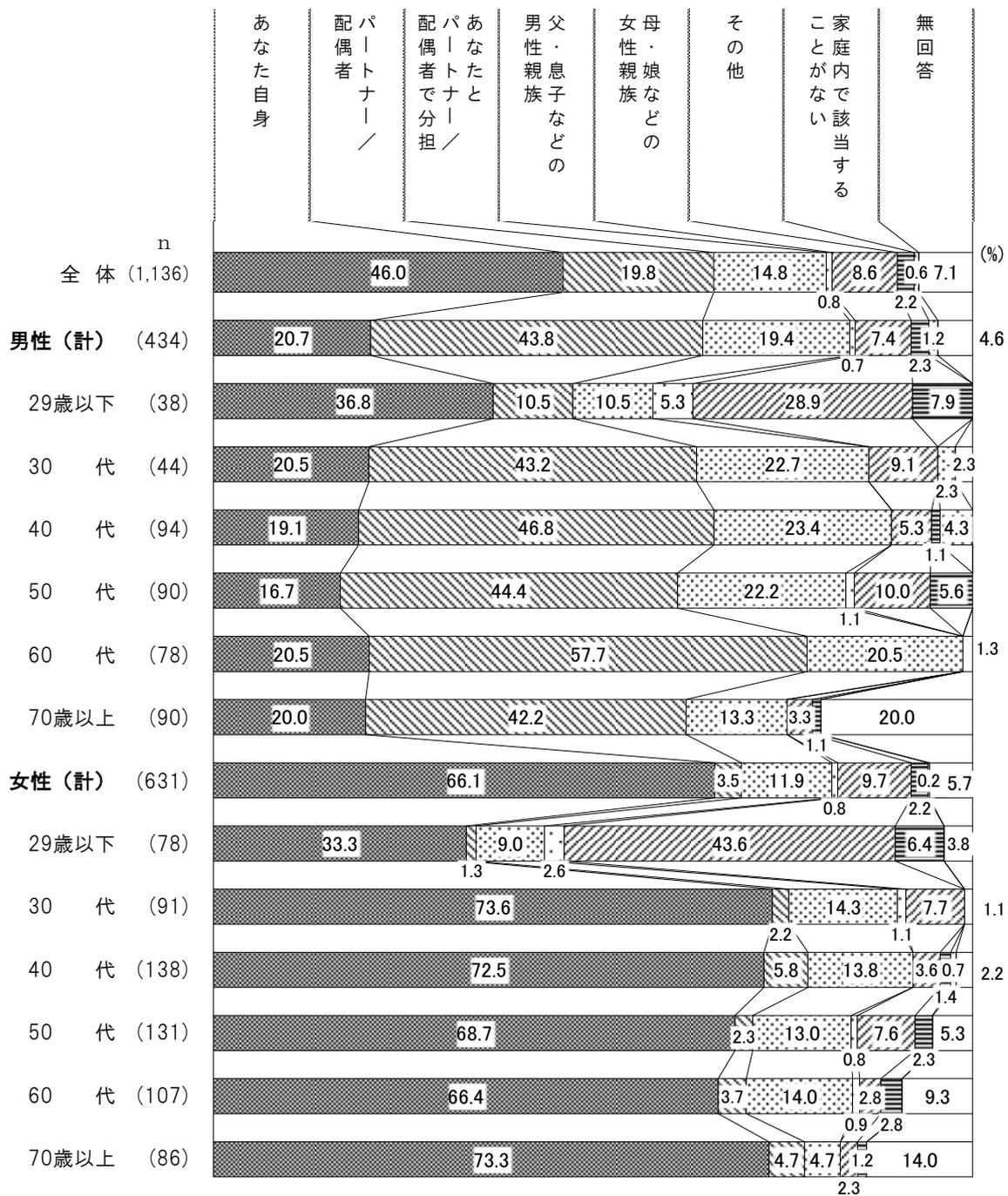


性別・共働きの有無別でみると、男性が「パートナー／配偶者」が5割前後で多く、「あなた自身」は女性が5割台と多くなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男女通じて〈共働き〉が約3割、〈共働きではない〉が1割台となっている。

■ 「あなた自身」は女性6割台半ば、男性2割

ウ 食事の用意（調理）

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ウ 食事の用意（調理）（性別・年代別）

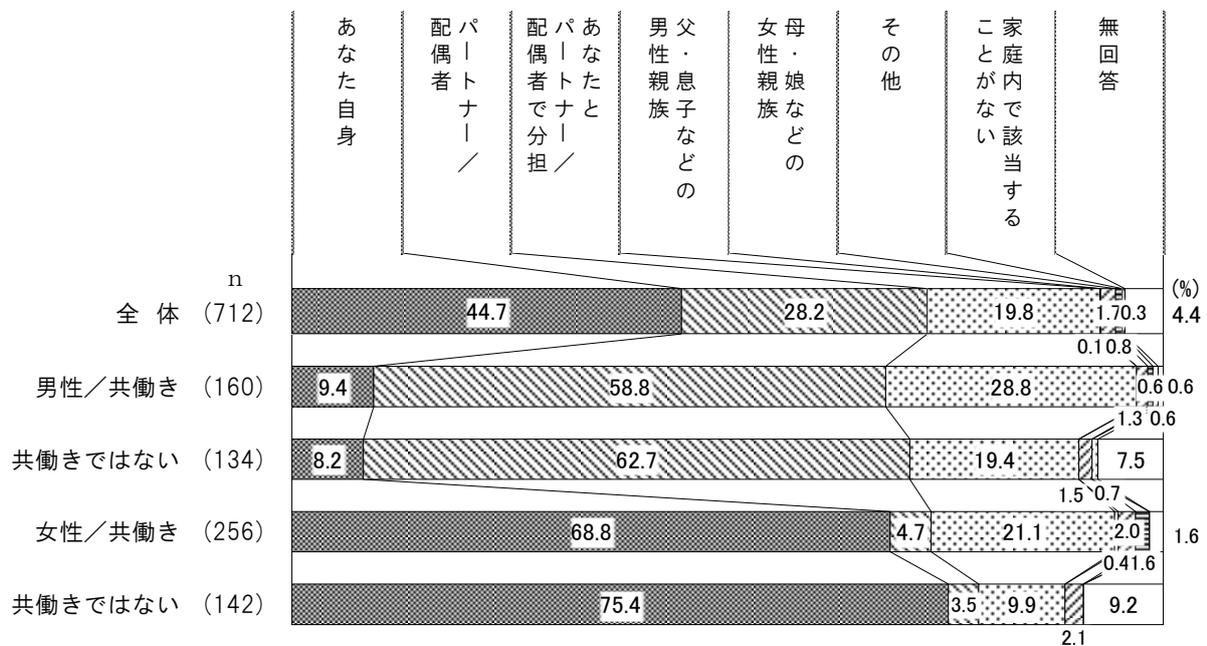


現実での役割分担は、「あなた自身」が46.0%と最も多く、「パートナー／配偶者」は19.8%、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は14.8%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(66.1%)が、男性(20.7%)を45.4ポイントと大きく上回っている。一方で、「パートナー／配偶者」は男性(43.8%)が、女性(3.5%)を40.3ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は30代以上で女性が多く、男性では29歳以下を除き1割台から2割、女性は29歳以下を除いて6割台から7割台となっている。「パートナー／配偶者」は、すべての年代を通じて男性の方が多く、男性60代が57.7%と特に多くなっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ウ 食事の用意（調理）（性別・共働きの有無別）

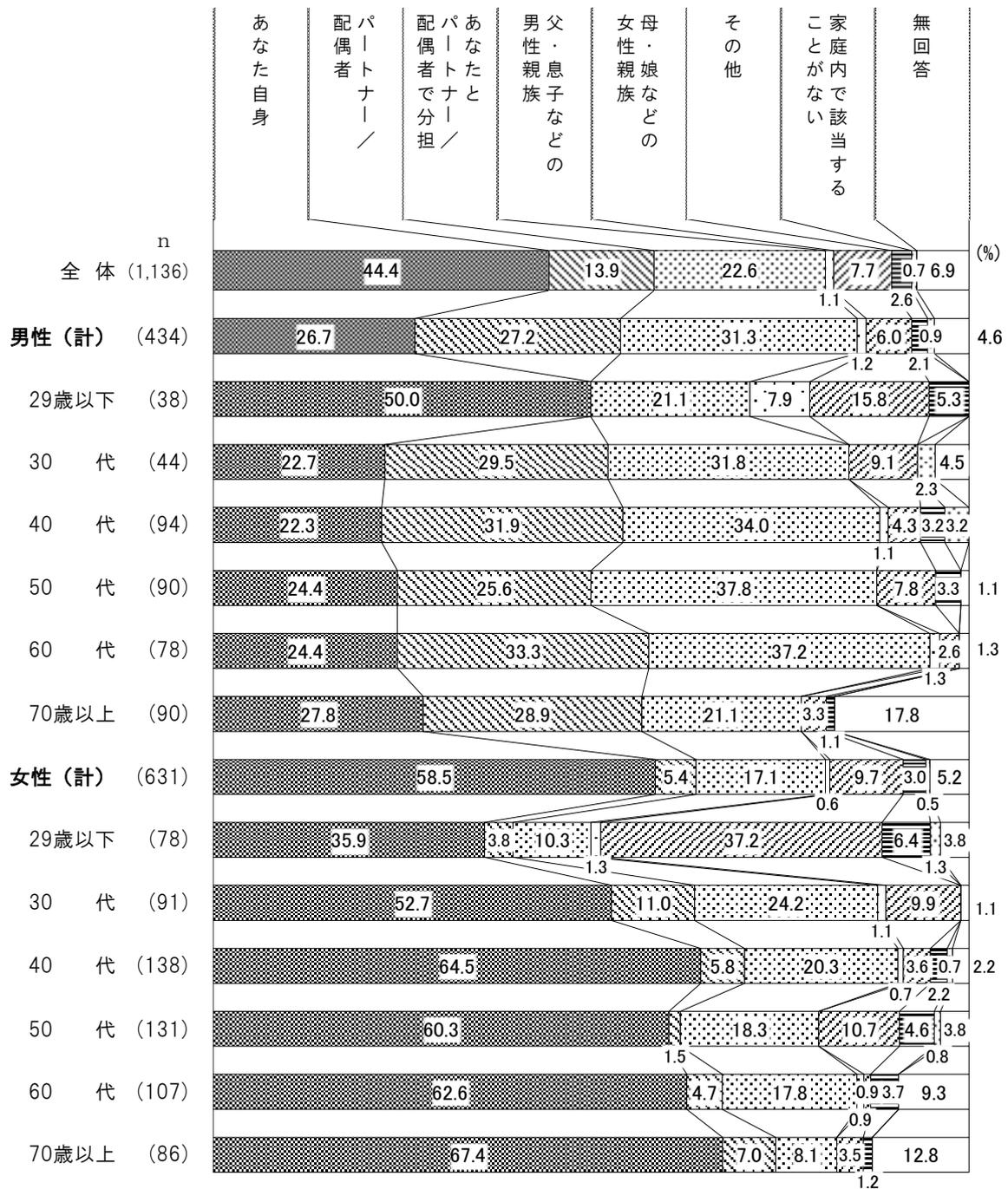


性別・共働きの有無別でみると、〈共働き〉の有無による大きな差はみられず、「あなた自身」は女性が6割台から7割台、「パートナー／配偶者」は男性が6割前後と多くなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」では、男女を通じて〈共働き〉が〈共働きではない〉をそれぞれ10ポイント近く上回っている。

■ 「あなた自身」は女性6割弱、男性2割台半ば

工 食器の後片付け（食器洗い）

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 工 食器の後片付け（食器洗い）（性別・年代別）

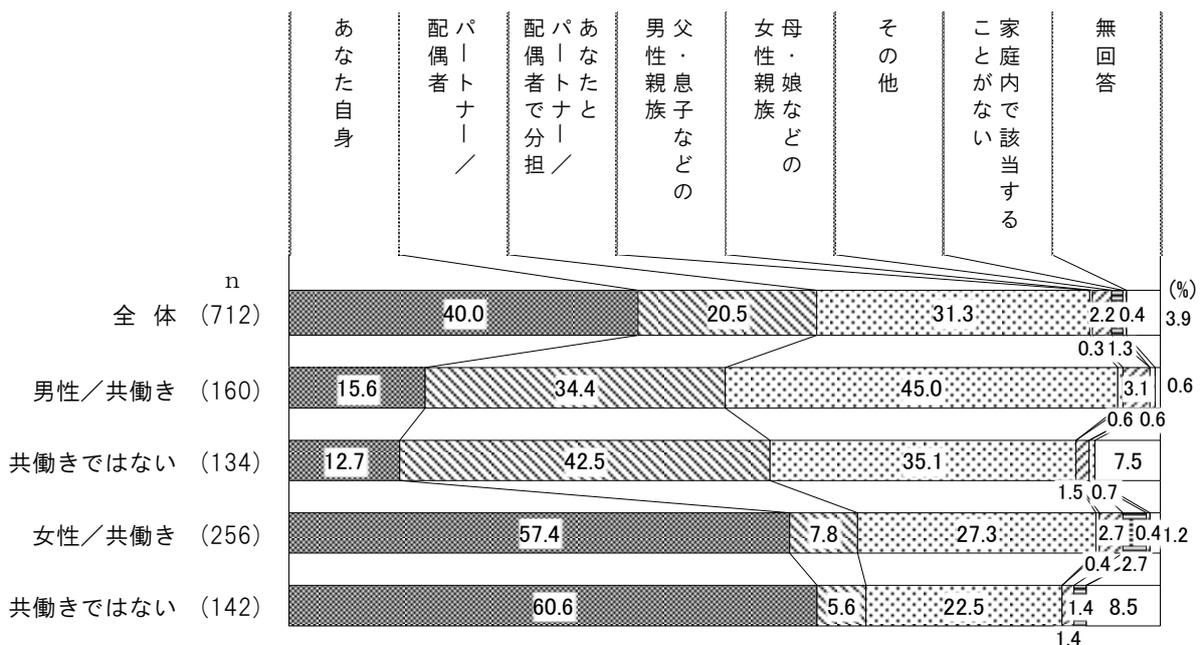


現実での役割分担は、「あなた自身」が44.4%と最も多く、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は22.6%、「パートナー／配偶者」は13.9%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(58.5%)が、男性(26.7%)を31.8ポイントと大きく上回っている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性(31.3%)が、女性(17.1%)を14.2ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は男性30代から70歳以上で2割台と低いが、男性29歳以下は50.0%と他の年代に比べて多くなっている。女性は40代から70歳以上で6割台と多くなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、すべての年代で男性が多く、50代と60代では男性が女性をそれぞれ20ポイント近く上回っている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 Ⅱ 食器の後片付け（食器洗い）（性別・共働きの有無別）

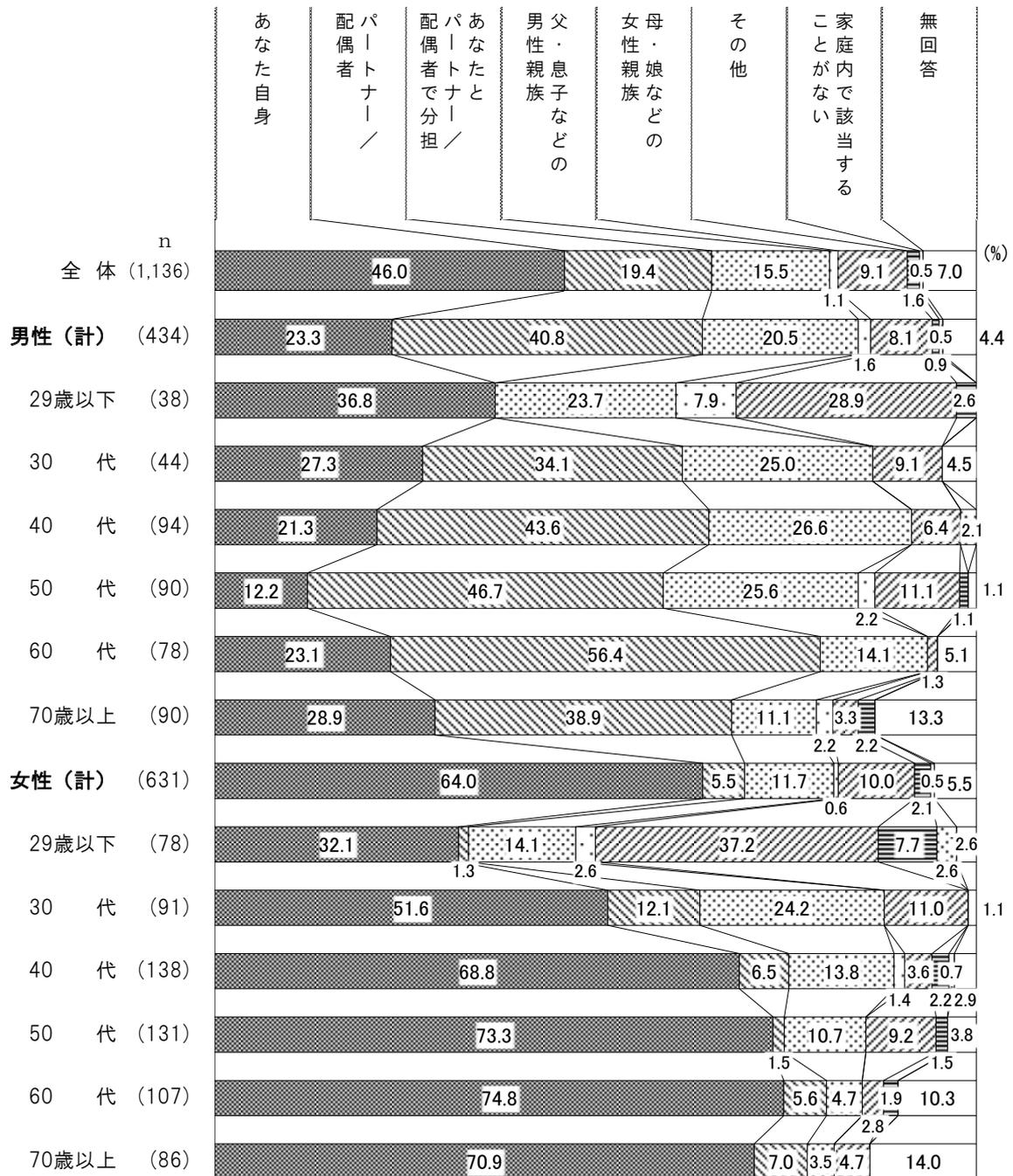


性別・共働きの有無別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、〈共働き〉では男性(45.0%)が女性(27.3%)を17.7ポイント上回っている。〈共働きではない〉でも、男性(35.1%)が女性(22.5%)を12.6ポイント上回っている。

■ 「あなた自身」は女性6割台半ば、男性2割強

オ 洗濯

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 オ 洗濯（性別・年代別）

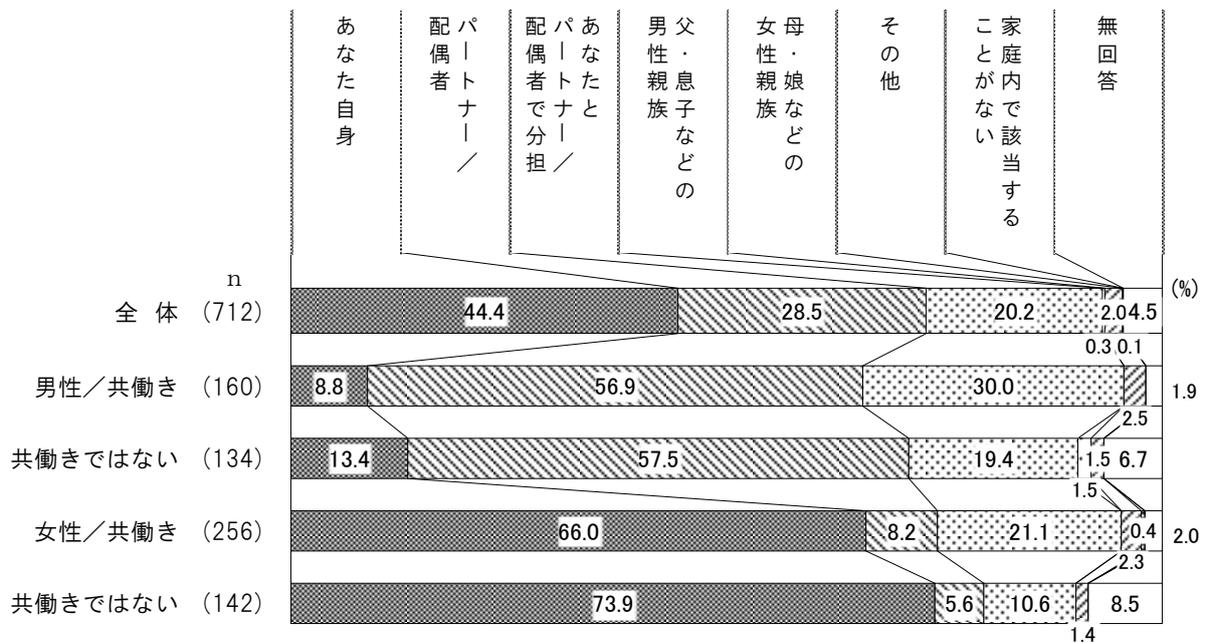


現実での役割分担は、「あなた自身」が46.0%と最も多く、「パートナー／配偶者」は19.4%、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は15.5%となっている。

性別でみると、「パートナー／配偶者」は、男性(40.8%)が女性(5.5%)を35.3ポイント上回っている。「あなた自身」は、女性が64.0%、男性が23.3%で、男性が女性を40.7ポイントと大きく上回っている。

性別・年代別でみると、「パートナー／配偶者」は、29歳以下を除いて男性の方が多く、男性60代では56.4%と最も多くなっている。「あなた自身」は、女性40代から70歳以上で7割前後と多いが、男性50代では1割強となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男性29歳以下から50代にかけて2割台と多くなっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 オ 洗濯（性別・共働きの有無別）

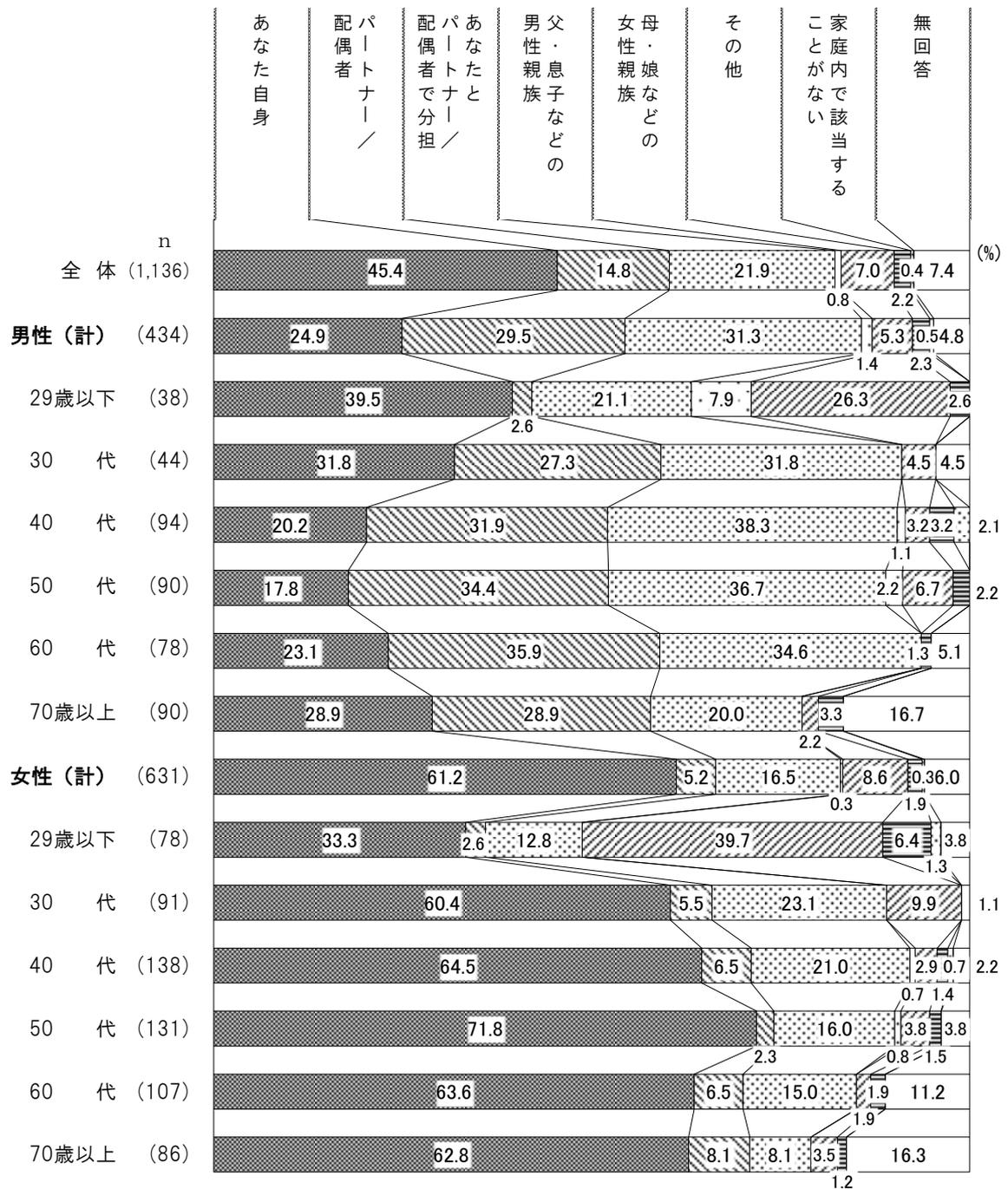


性別・共働きの有無別でみると、「あなた自身」は、女性では〈共働きではない〉(73.9%)が〈共働き〉(66.0%)よりも7.9ポイント上回っている。一方で、男性では〈共働きでない〉(13.4%)が、〈共働き〉(8.8%)を上回っている。

■ 「あなた自身」は女性約6割、男性2割台半ば

力 掃除

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 力 掃除（性別・年代別）

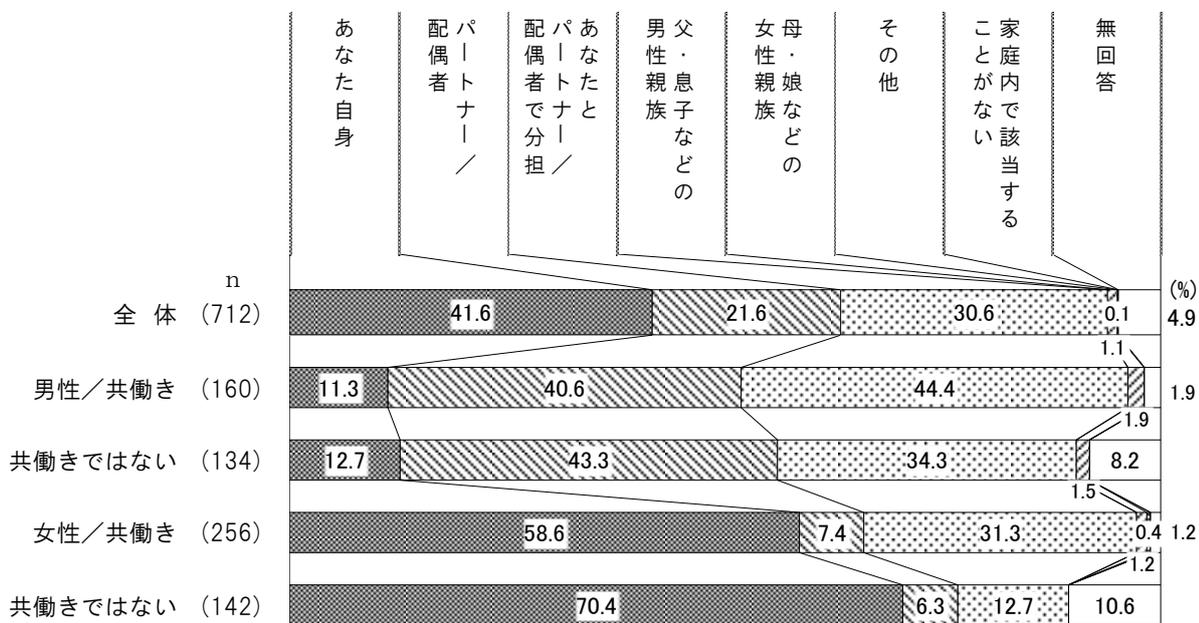


現実での役割分担は、「あなた自身」が45.4%と最も多く、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は21.9%、「パートナー／配偶者」は14.8%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(61.2%)が男性(24.9%)を36.3ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は、女性30代から70歳以上で6割以上、男性で40代以上では1割台から2割台となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男性30代から60代で3割台と比較的多いが、女性50代から60代にかけては1割台半ば、女性70歳以上では1割弱となっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 カ 掃除 (性別・共働きの有無別)



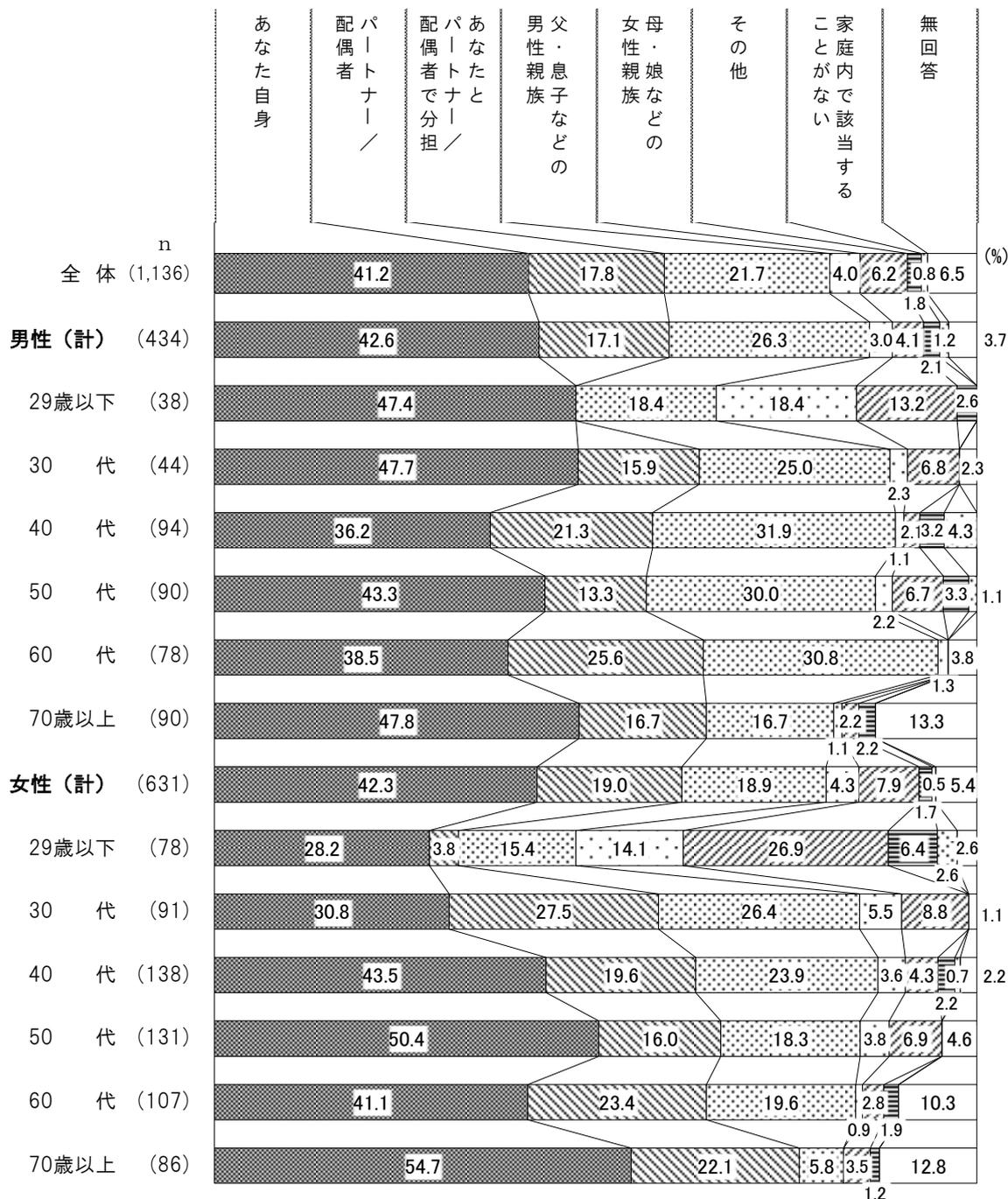
性別・共働きの有無別でみると、「あなた自身」と「パートナー／配偶者」は、男性で共働きの有無による大きな差はみられない。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、〈男性/共働き〉は(44.4%)が、〈女性/共働き〉(31.3%)を13.1ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細
 第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

■ 「あなた自身」は男女ともに4割強

キ ごみ出し

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 キ ごみ出し（性別・年代別）

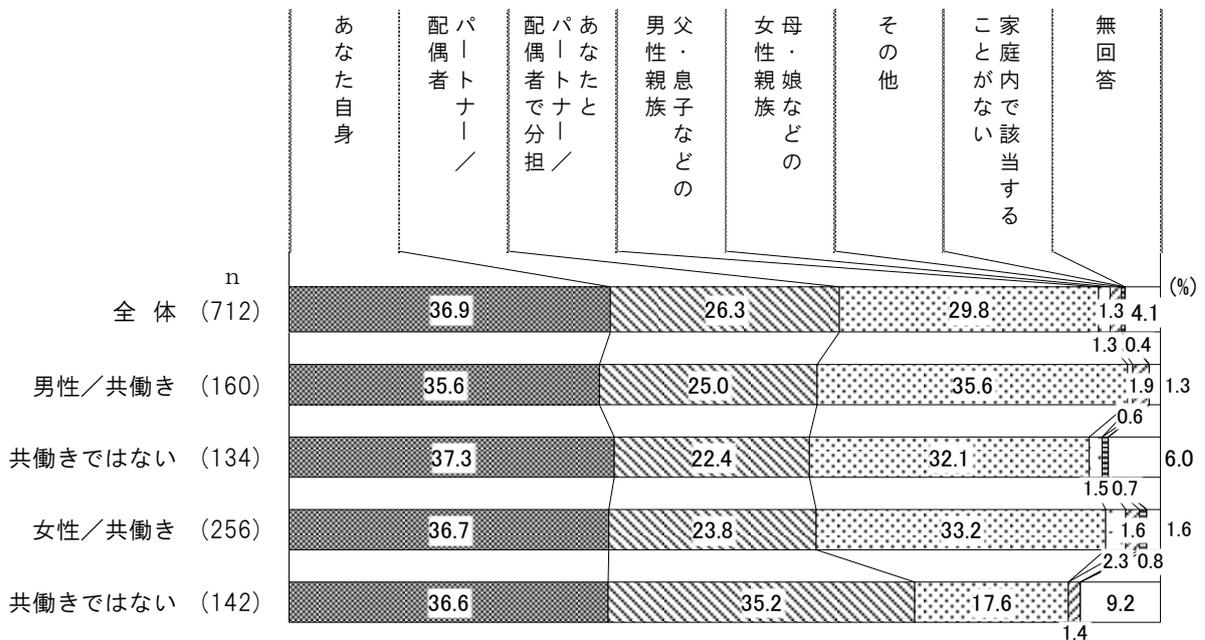


現実での役割分担は、「あなた自身」が41.2%と最も多く、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は21.7%、「パートナー／配偶者」は17.8%となっている。

性別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性が26.3%、女性が18.9%で、男性が女性を7.4ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は女性70歳以上(54.7%)と女性50代(50.4%)で5割台と多くなっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 キ ごみ出し（性別・共働きの有無別）



性別・共働きの有無別でみると、〈共働き〉では男女による大きな差はみられず、〈共働きではない〉は「あなたとパートナー／配偶者で分担」で、男性(32.1%)が、女性(17.6%)を14.5ポイント上回っている。

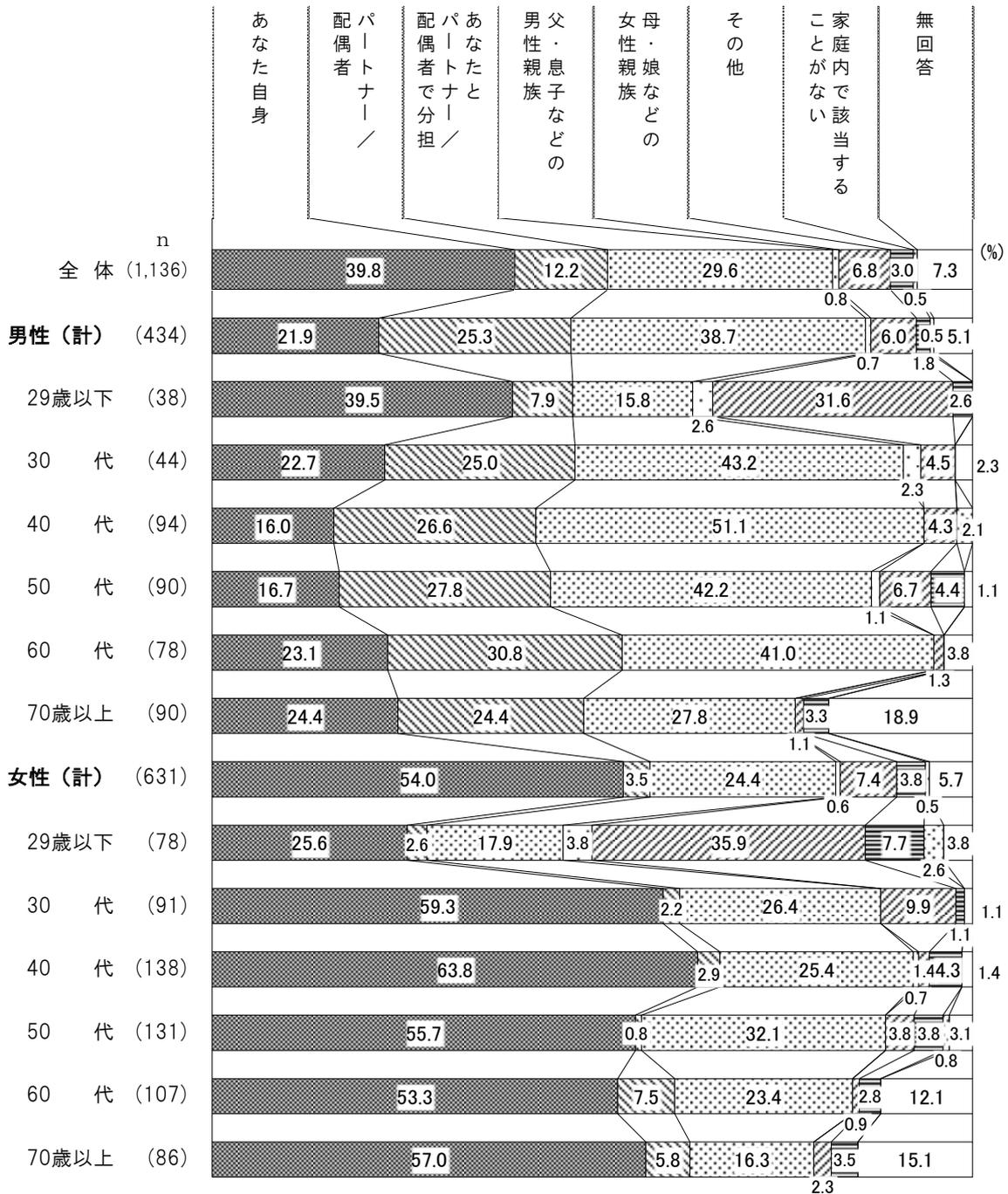
第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

■ 「あなた自身」は女性5割台半ば、男性約2割

ク 日用品や食料品の買い物

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ク 日用品や食料品の買い物（性別・年代別）

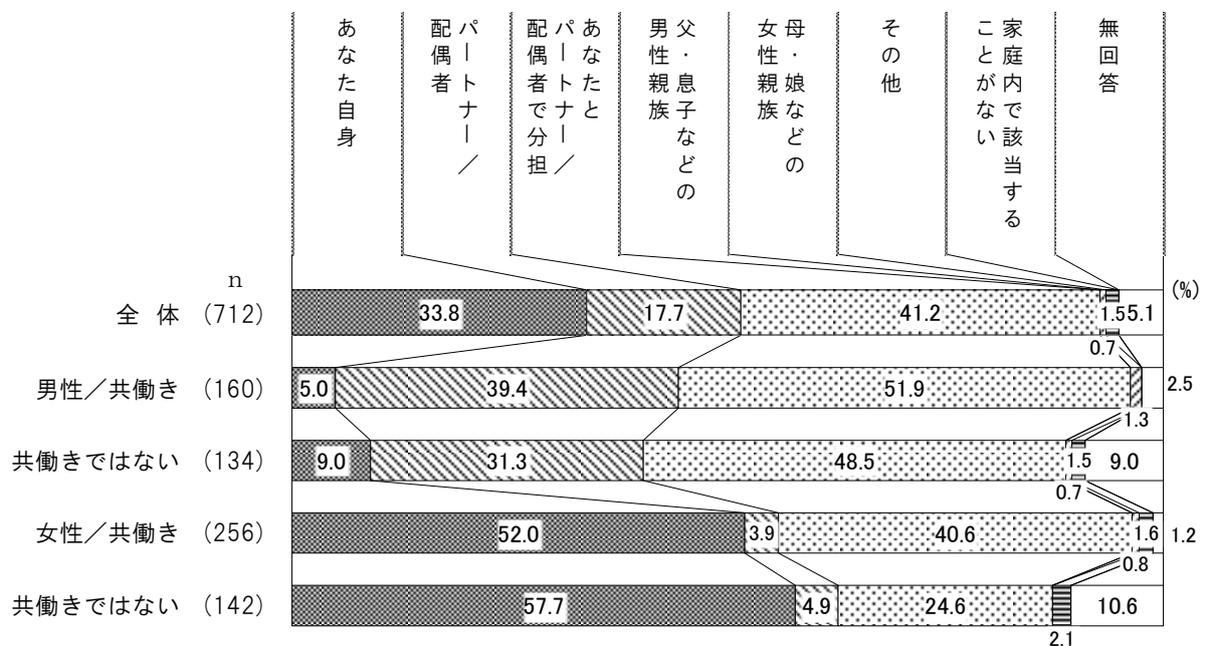


現実での役割分担は、「あなた自身」が39.8%と最も多く、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は29.6%、「パートナー／配偶者」は12.2%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(54.0%)が、男性(21.9%)を、32.1ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は、29歳以下を除いて女性が男性を上回っており、女性40代(63.8%)で6割強と最も多くなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、女性29歳以下を除いて、男性が女性を上回っており、男性40代(51.1%)で約5割となっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ク 日用品や食料品の買い物（性別・共働きの有無別）

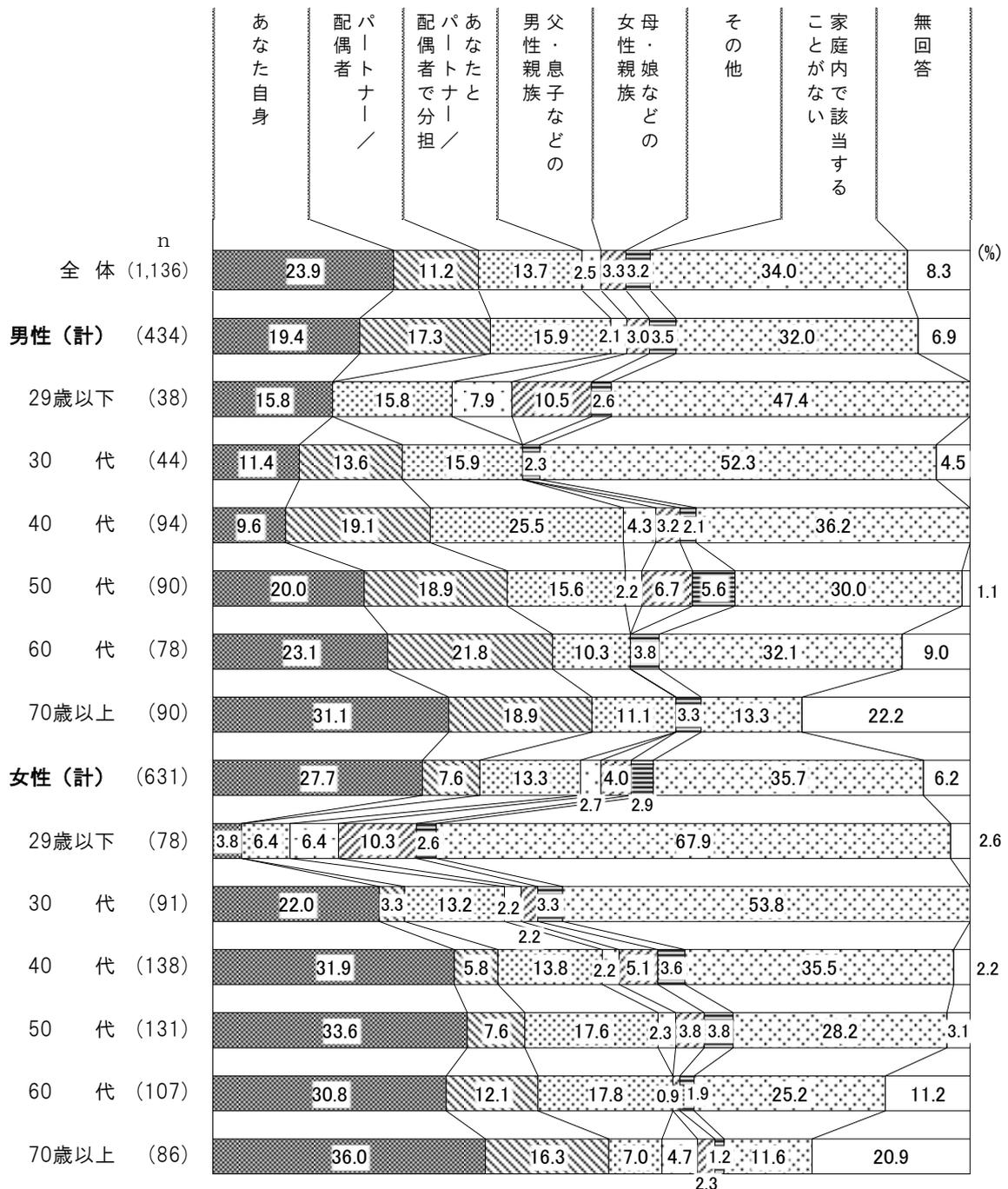


性別・共働きの有無別でみると、「あなた自身」は共働きの有無による大きな差はみられず、女性は5割台で多く、男性は1割未満となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、〈共働き〉では、男性(51.9%)が、女性(40.6%)を11.3ポイント上回っている。

■ 「あなた自身」は女性3割弱、男性約2割

ケ 町内会などの地域活動への参加

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ケ 町内会などの地域活動への参加（性別・年代別）

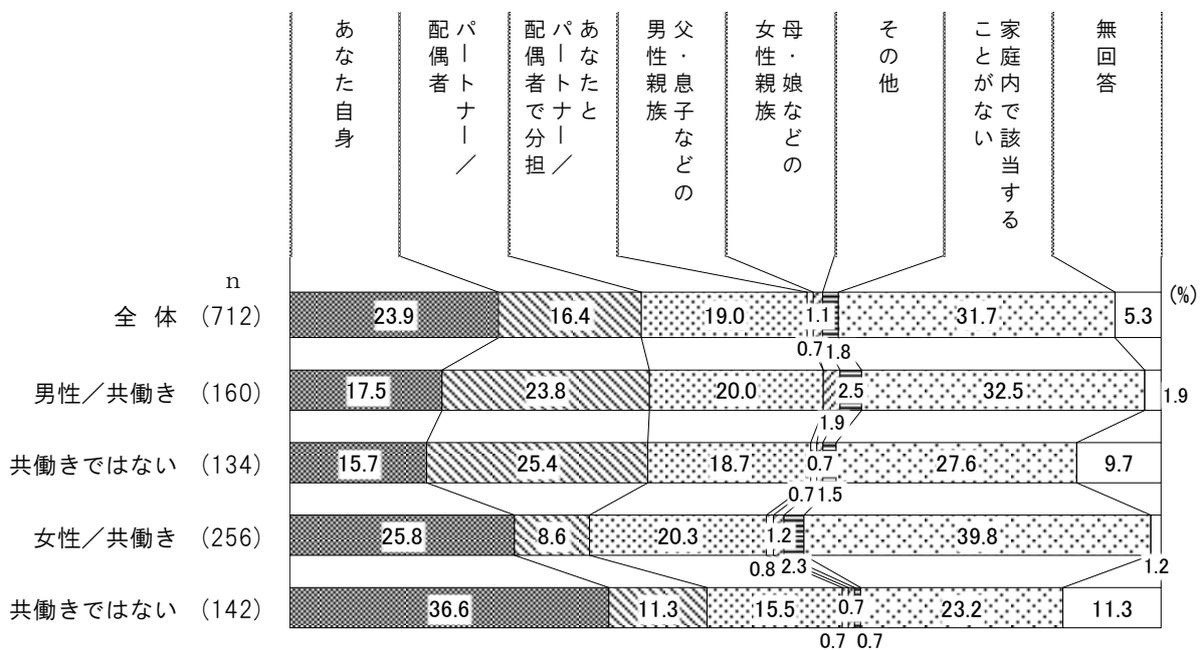


現実での役割分担は、「あなた自身」が23.9%と最も多く、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は13.7%、「パートナー／配偶者」は11.2%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(27.7%)が、男性(19.4%)を、8.3ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は、29歳以下を除いて女性が男性を上回っており、女性40代から70歳以上で3割台と多くなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男性40代で2割台半ばと最も多くなっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 ケ 町内会などの地域活動への参加（性別・共働きの有無別）

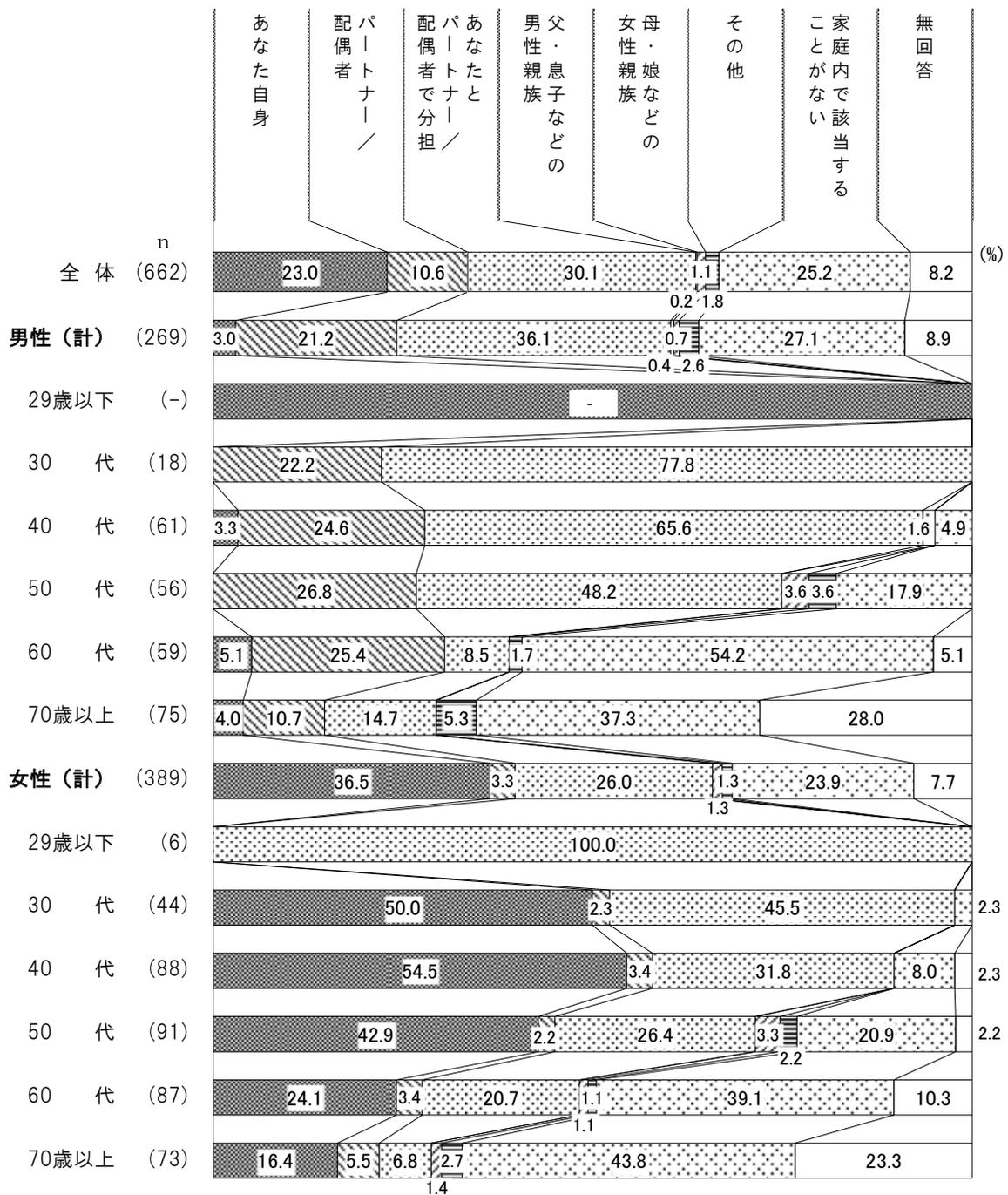


性別・共働きの有無別でみると、「家庭内で該当することがない」が、〈女性／共働き〉(39.8%)で最も多くなっている。「あなた自身」は〈女性／共働きではない〉(36.6%)で最も多くなっており、男性は1割台となっている。

■ 「あなた自身」は女性3割台半ば、男性1割未満

□ 家庭内での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 □ 家庭内での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）（性別・年代別）

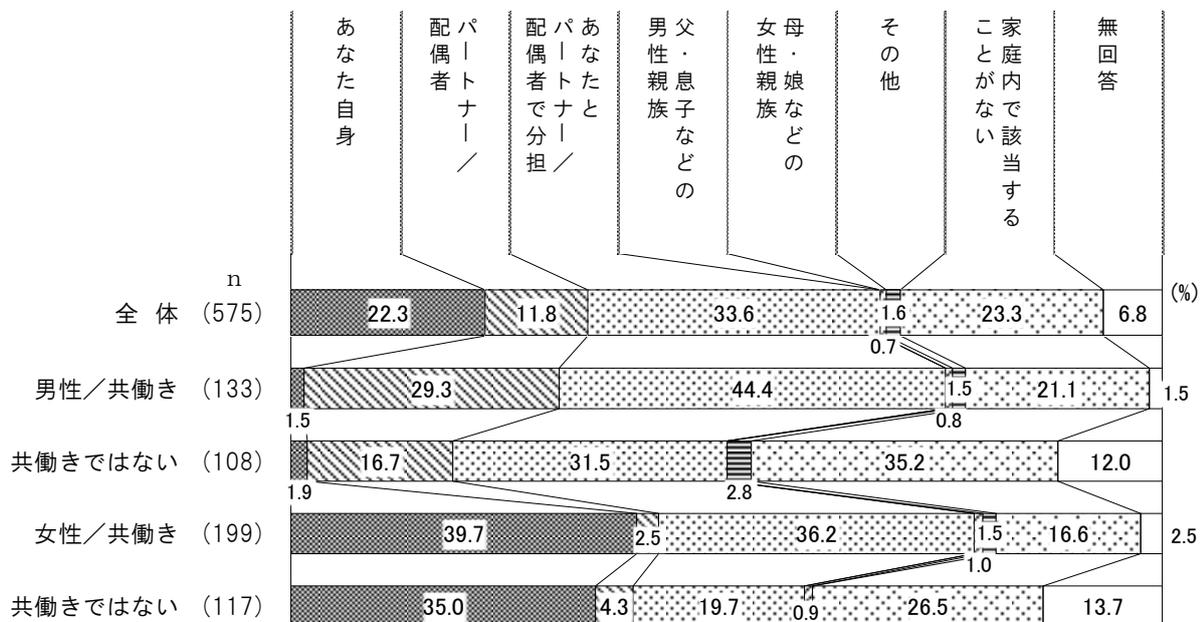


現実での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が30.1%と最も多く、「あなた自身」は23.0%と、「パートナー／配偶者」は10.6%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(36.5%)が男性(3.0%)を33.5ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は、女性30代から50代で4割台から5割台と多いが、男性ではすべての層で1割未満となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男性30代から40代にかけて6割台から7割台と多く、同年代の女性よりもそれぞれ30ポイント以上上回っている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 コ 家庭内での子どもの世話
(風呂・食事・送迎等) (性別・共働きの有無別)

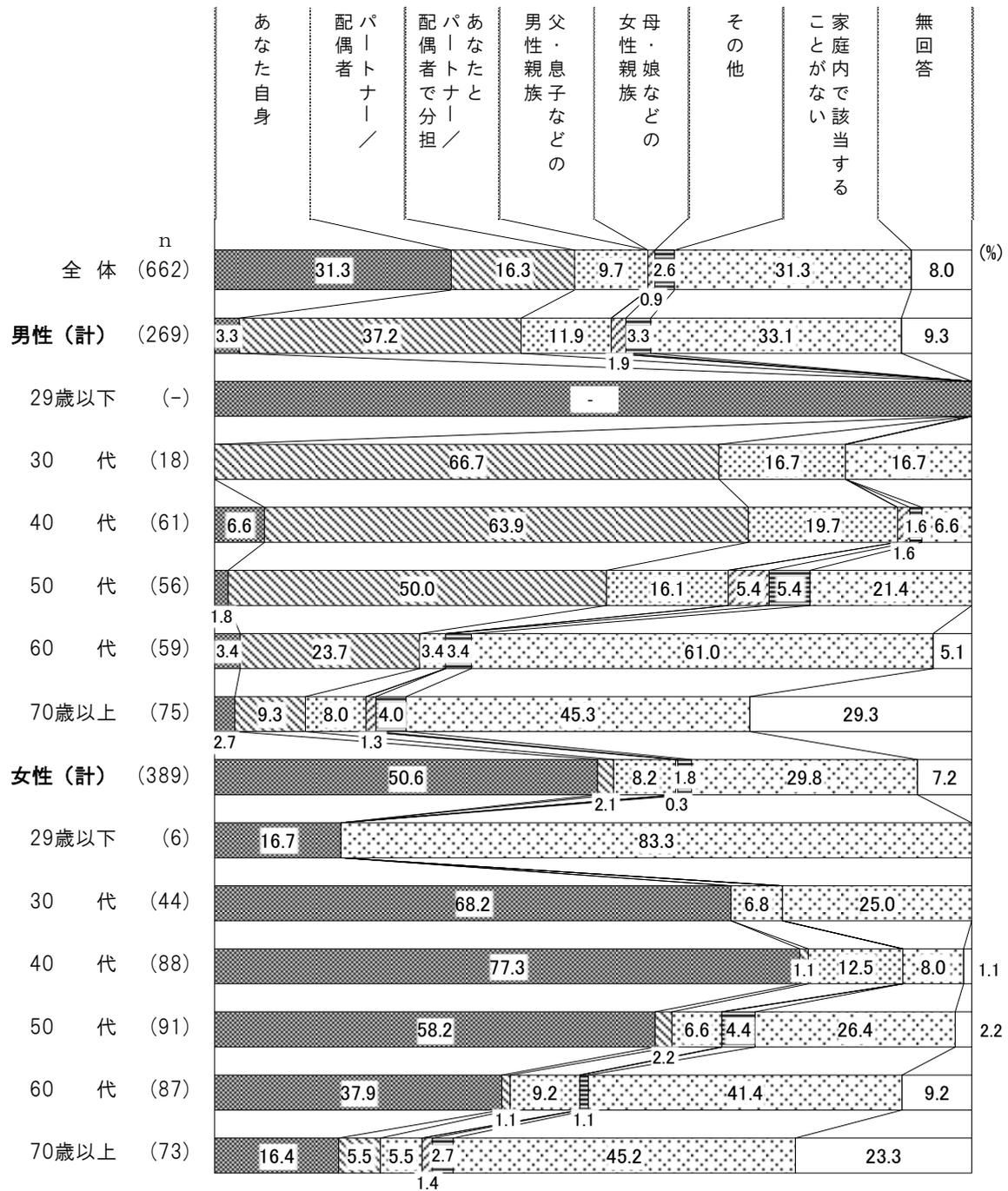


性別・共働きの有無別でみると、「あなた自身」は女性では〈共働き〉が39.7%、〈共働きではない〉(35.0%)を4.7ポイント上回っているが、男性では共働きの有無に限らず1割未満となっている。

■ 「あなた自身」は女性5割、男性1割未満

サ 保護者会やPTAへの参加

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 サ 保護者会やPTAへの参加（性別・年代別）

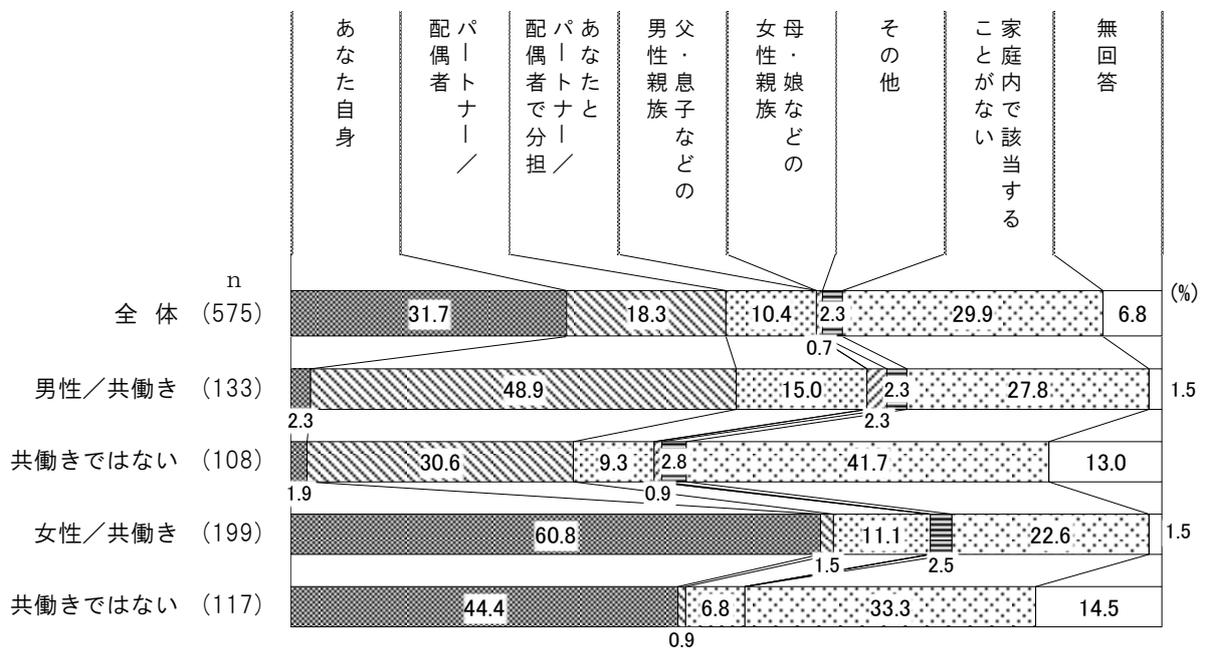


現実での役割分担は、「あなた自身」が31.3%と最も多く、「パートナー／配偶者」は16.3%、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は9.7%となっている。

性別でみると、「あなた自身」は女性(50.6%)が、男性(3.3%)を47.3ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「あなた自身」は、女性30代から40代で6割台から7割台と多いが、男性ではすべての層で1割未満となっている。

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 サ 保護者会やPTAへの参加（性別・共働きの有無別）

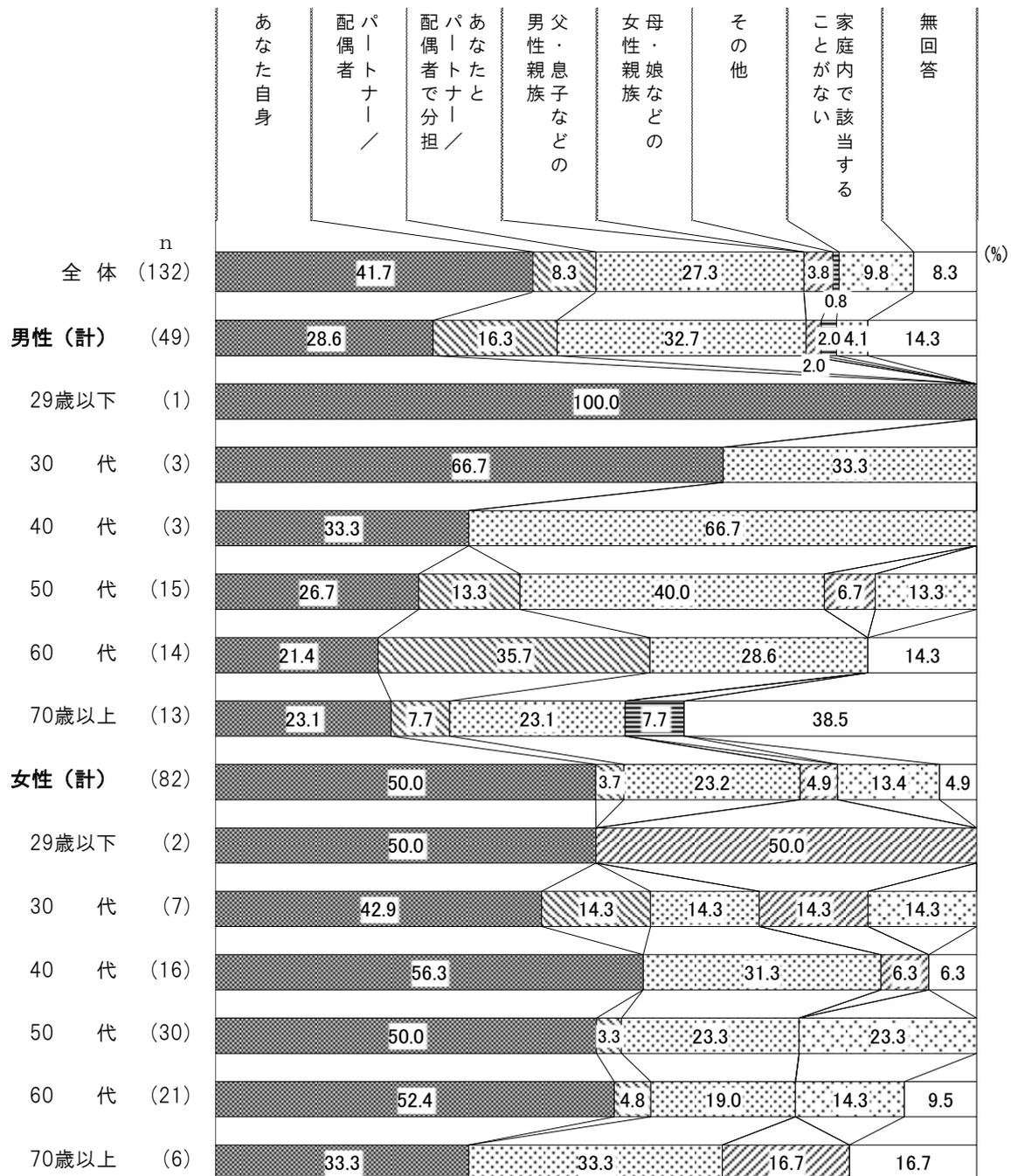


性別・共働きの有無別でみると、「あなた自身」は女性では、共働き(60.8%)が、共働きではない(44.4%)を16.4ポイント上回っている。一方、男性では、「あなた自身」が共働きの有無に限らず1割未満となっている。

■ 「あなた自身」は女性5割、男性3割弱

シ 家族の日常的な介護や看護

図表 現実での家事、行事参加等の役割分担 シ 家族の日常的な介護や看護（性別・年代別）



現実での役割分担は、「あなた自身」が41.7%と最も多く、「あなたとパートナー/配偶者で分担」は27.3%、「パートナー/配偶者」は8.3%となっている。

性別で見ると、「あなた自身」は女性(50.0%)が、男性(28.6%)を21.4ポイント上回っている。

(11) 理想の家事、行事参加等の役割分担

■ 理想では、「収入を得る」「食器洗い」「掃除」「買い物」「子どもの世話」等すべての項目で自身とパートナーで分担が最多

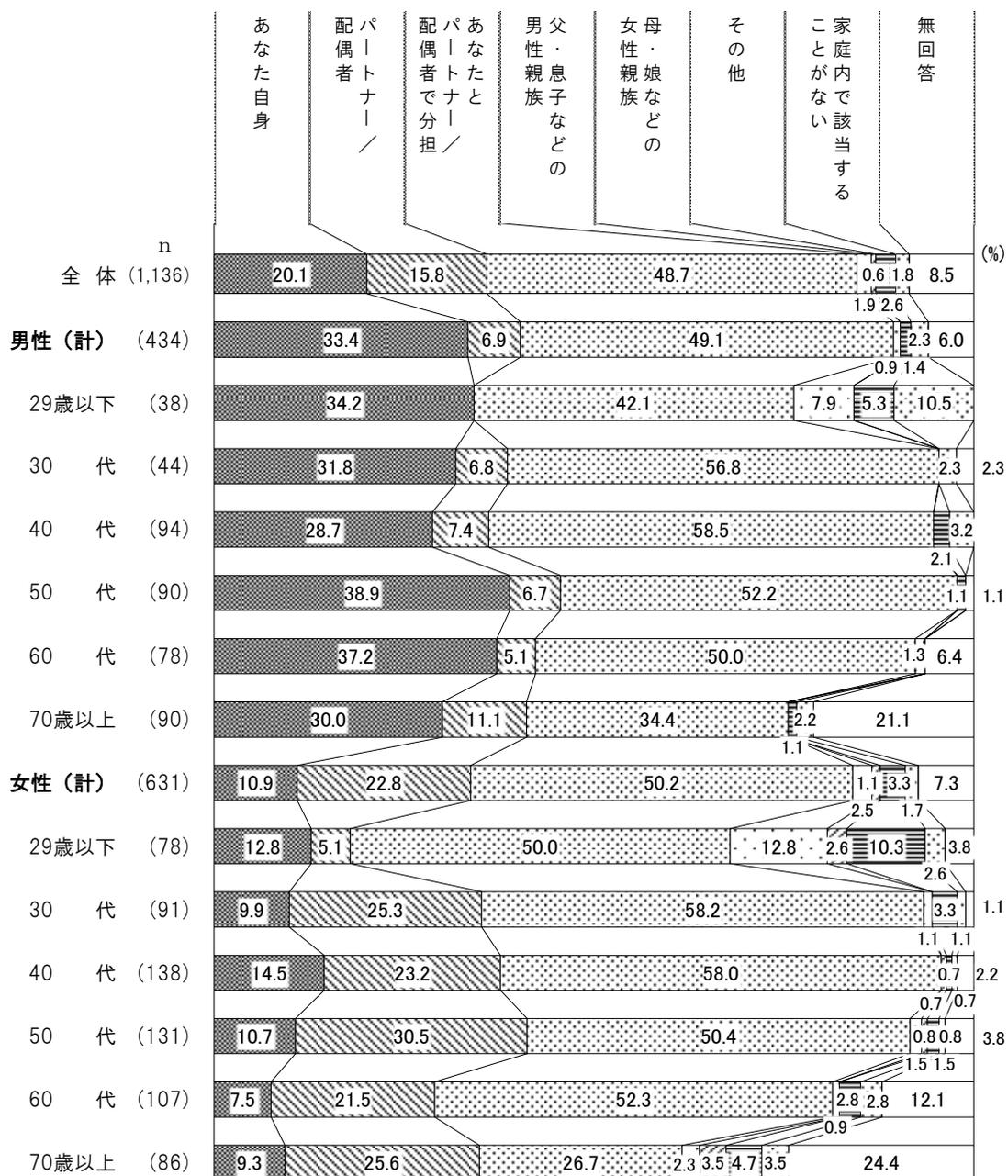
問12 また、以下のア～シのことがらを、どのように分担するのが望ましいと思いますか（○はそれぞれ1つずつ）。

理想の役割分担

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに約半数

ア 収入を得る

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ア 収入を得る（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

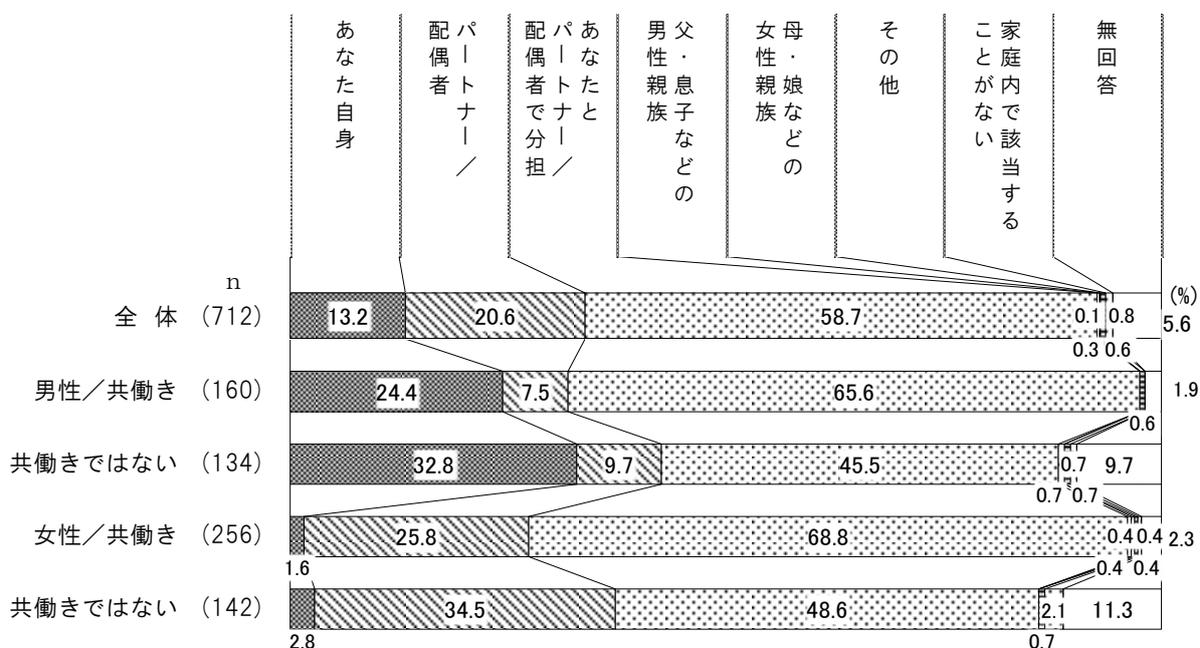
第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

理想の役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が48.7%と5割弱を占め最も多くなっている。「あなた自身」は20.1%、「パートナー／配偶者」は15.8%となっている。

性別でみると、男女ともに「あなたとパートナー／配偶者で分担」(男性49.1%、女性50.2%)は約半数となっている。

性別・年代別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」では、男性では40代(58.5%)、女性では30代(58.2%)が最も多くなっている。また、「あなた自身」では、男性50代が38.9%と特に多く、同年代の女性よりも28.2ポイント上回っている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ア 収入を得る（性別・共働きの有無別）

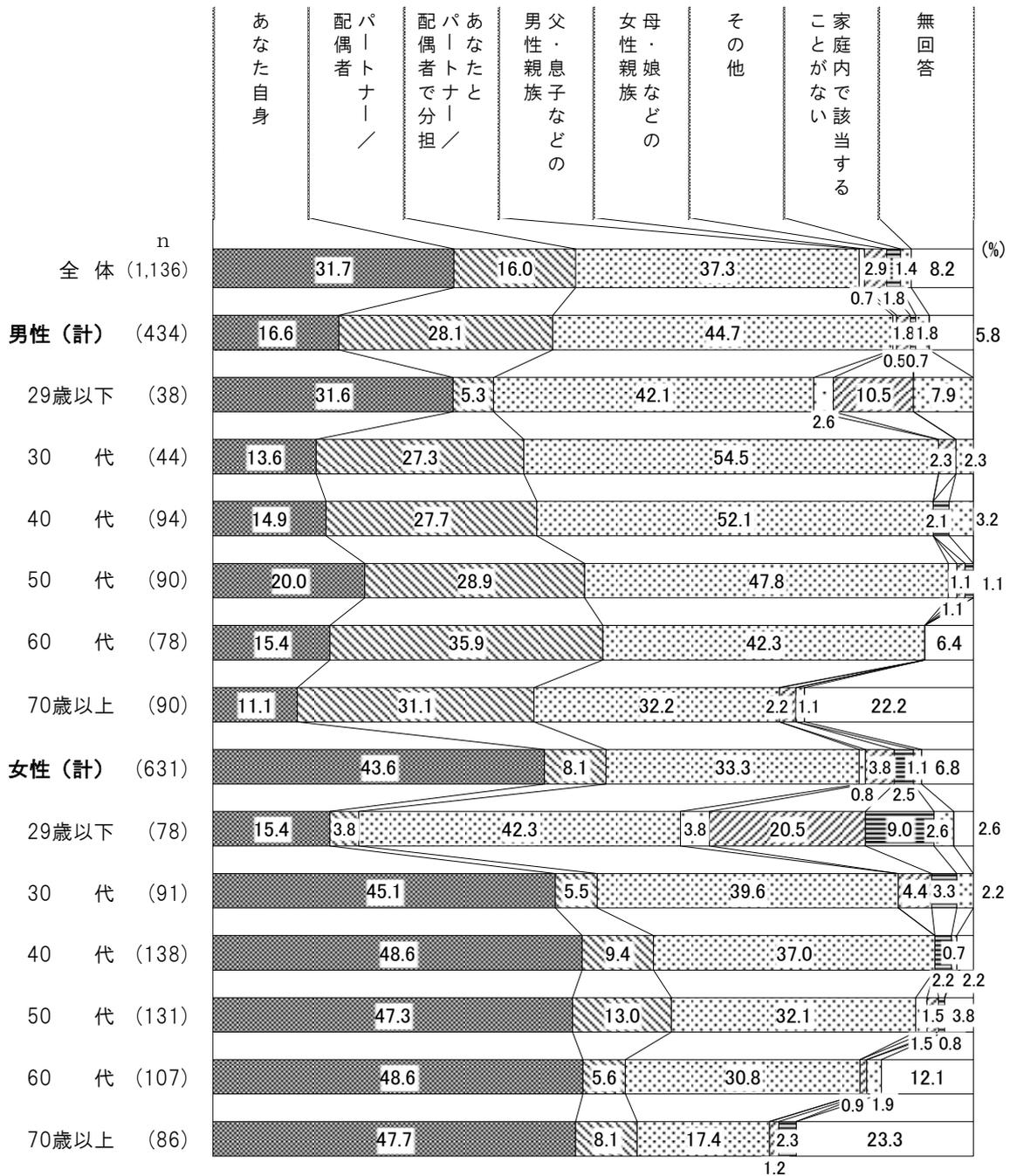


性別・共働きの有無別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、〈共働き〉では男女間であまり差はみられないが、男女ともに〈共働きではない〉よりも20ポイントほど多くなっている。

■ 男性は「あなたとパートナー／配偶者で分担」が4割台半ばで最多、女性は「あなた自身」が4割強で最多

イ 日々の家計の管理

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 イ 日々の家計の管理（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」(37.3%)、「あなた自身」(31.7%)が3割台となっている。

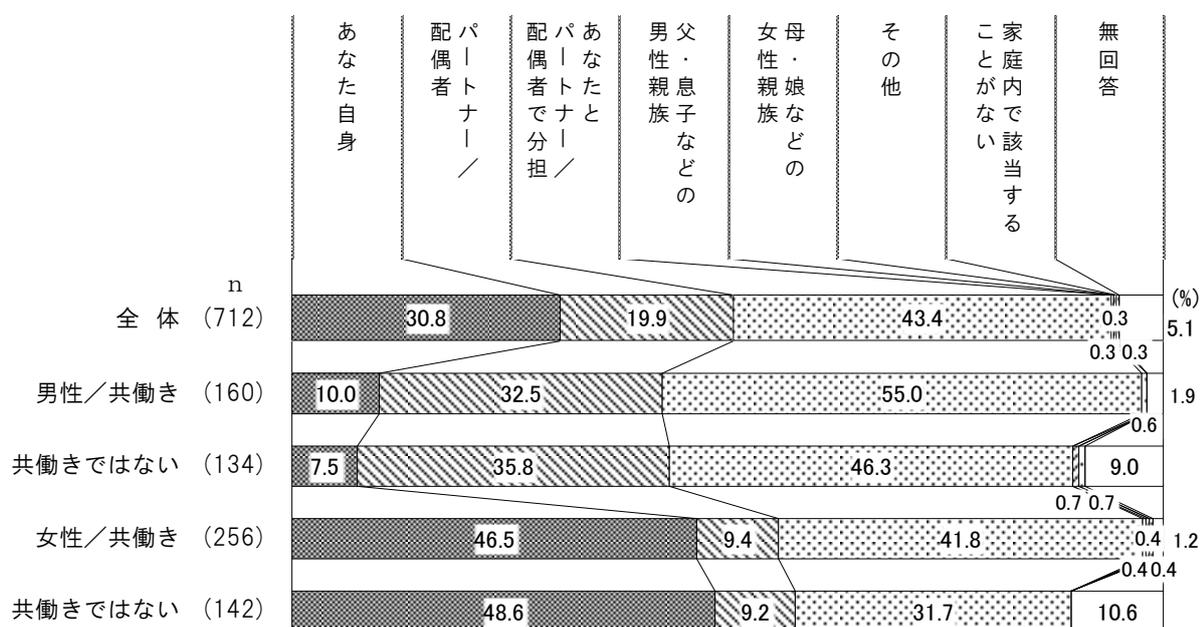
性別でみると、「パートナー／配偶者」は、男性28.1%、女性が8.1%で、男性が女性を20ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別で見ると、「パートナー／配偶者」はすべての年代を通じて男性の方が多く、男性60代では35.9%で最も多くなっている。一方で、女性では50代を除いたすべての年代で1割未満となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性30代から40代にかけて5割台、女性では29歳以下が42.3%と、特に多くなっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 イ 日々の家計の管理（性別・共働きの有無別）

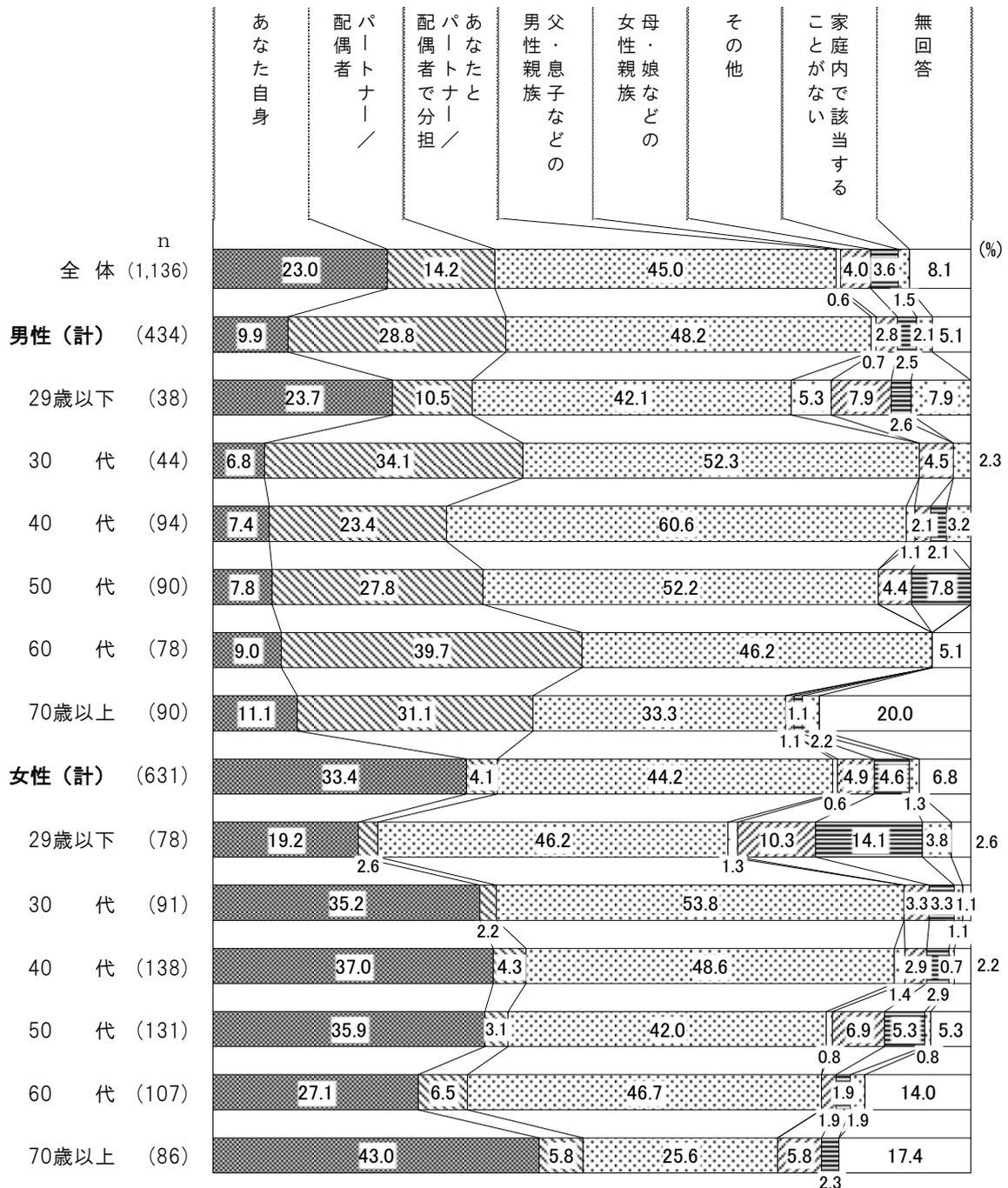


性別・共働きの有無別で見ると、「あなた自身」「パートナー／配偶者」では共働きの有無による差はあまりみられない。「あなた自身」の割合は、〈共働きではない〉では、女性(48.6%)が男性(7.5%)を41.1ポイント上回っている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに4割台

ウ 食事の用意（調理）

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ウ 食事の用意（調理）（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が45.0%と最も多く、「あなた自身」も23.0%となっている。

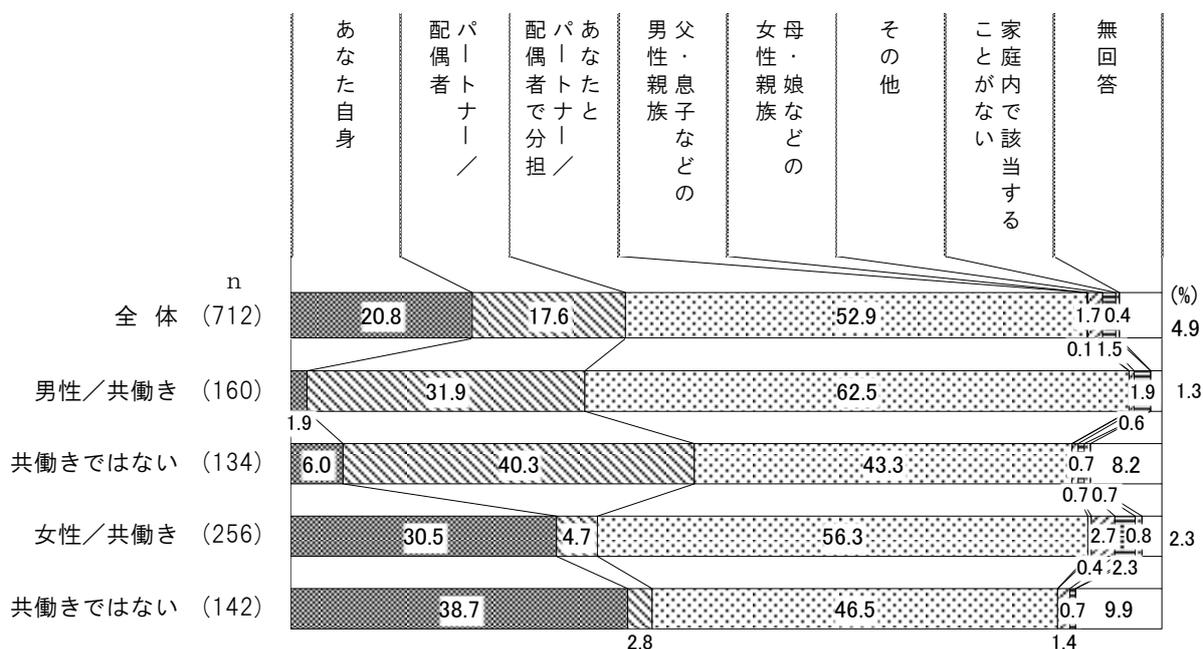
性別で見ると、「パートナー／配偶者」は、男性28.8%、女性が4.1%で、男性が女性を24.7ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別で見ると、「パートナー／配偶者」はすべての年代を通じて男性の方が多く、男性60代では39.7%で最も多くなっている。一方で、女性ではいずれの年代でも1割未満となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性30代から50代を中心に5割台から6割台、女性では29歳以下から60代で4割以上と特に多くなっている。また、「パートナー／配偶者」は男性の方が多く、60代では約4割となっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ウ 食事の用意（調理）（性別・共働きの有無別）

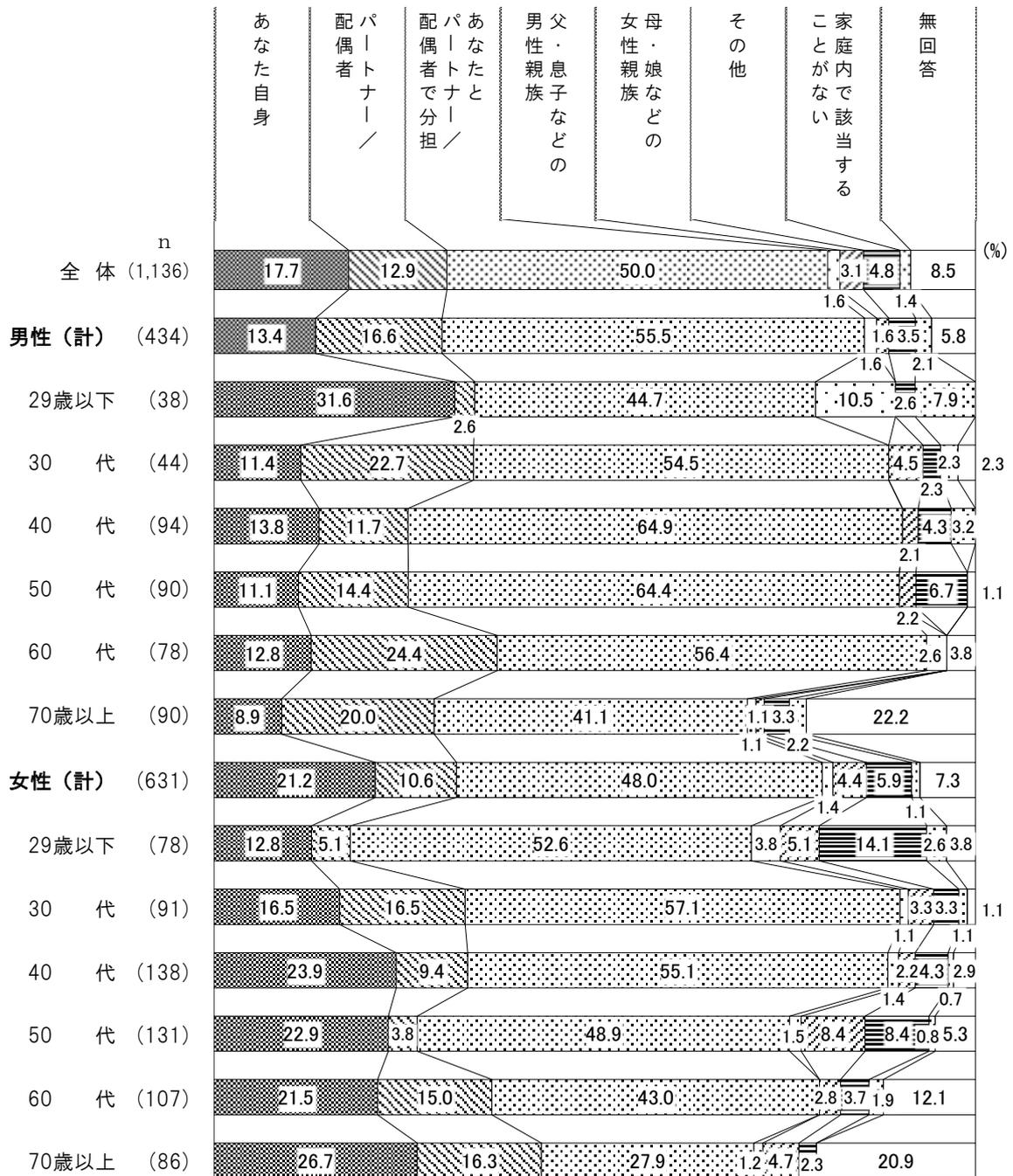


性別・共働きの有無別で見ると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、男女ともに〈共働き〉が〈共働きではない〉よりも多く、その傾向は男性で強くなっている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに5割前後

工 食器の後片付け（食器洗い）

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 工 食器の後片付け（食器洗い）（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が50.0%で過半数と最も多く、「あなた自身」は17.7%となっている。

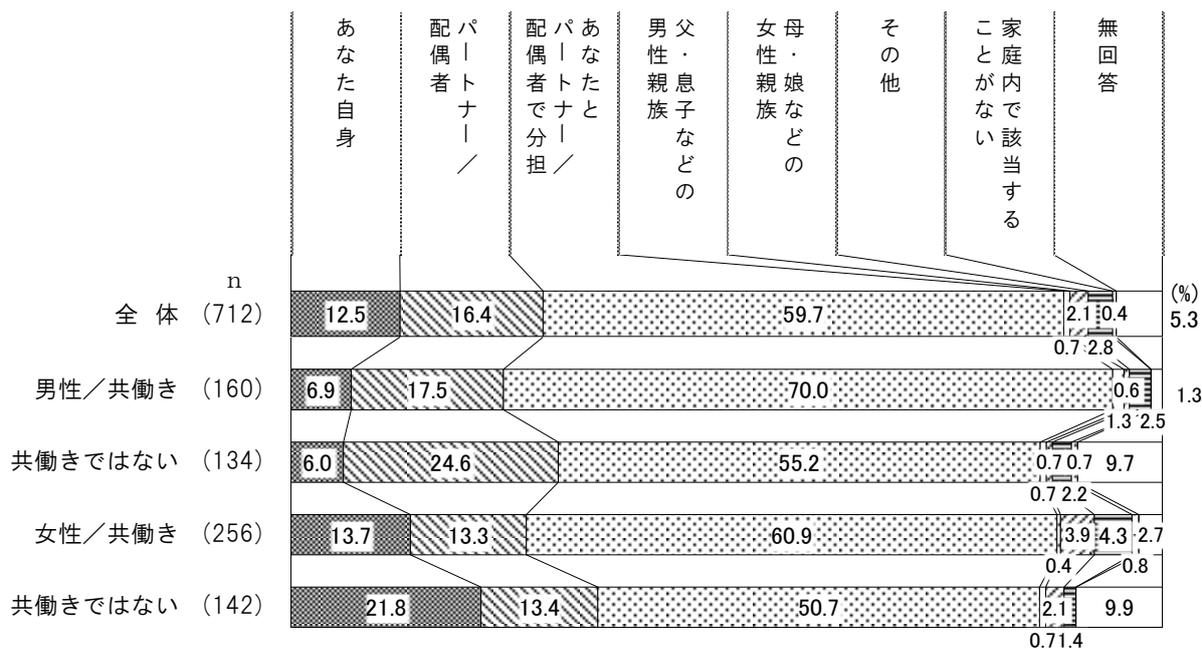
性別でみると、「あなた自身」は、男性13.4%、女性が21.2%で、女性が男性を7.8ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別でみると、「パートナー／配偶者」は29歳以下を除いたすべての年代を通じて男性の方が多く、男性60代では24.4%と最も多くなっている。また、「あなた自身」は、男性29歳以下が約3割と最も多くなっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 Ⅰ 食器の後片付け（食器洗い）（性別・共働きの有無別）

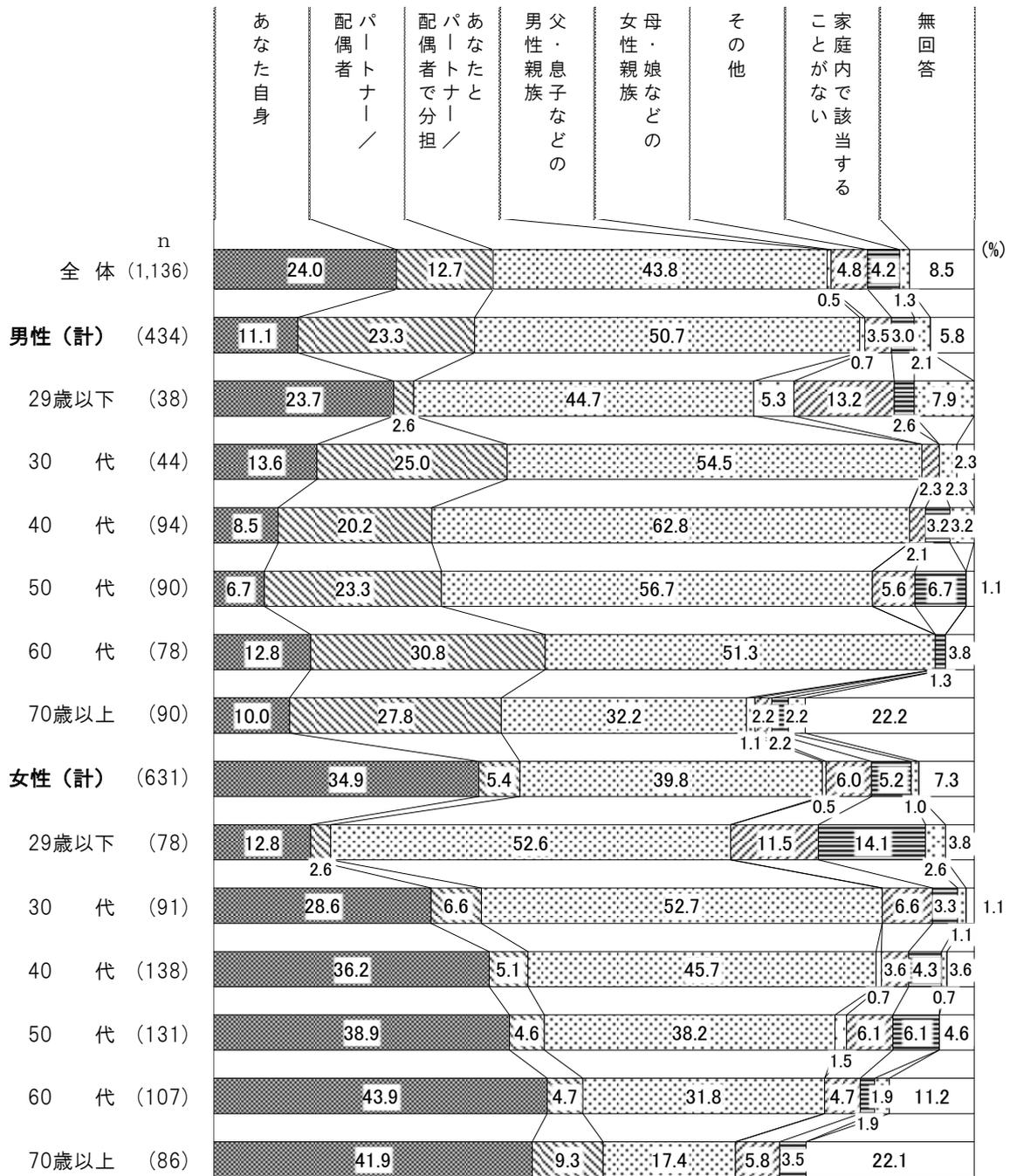


性別・共働きの有無別でみると、女性では「あなた自身」の割合が〈共働きではない〉(21.8%)よりも〈共働き〉(13.7%)で少なく、男性においても「パートナー／配偶者」は〈共働きではない〉(24.6%)よりも〈共働き〉(17.5%)で少なくなっている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性5割、女性約4割

オ 洗濯

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 オ 洗濯（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が43.8%と最も多く、「あなた自身」は24.0%となっている。

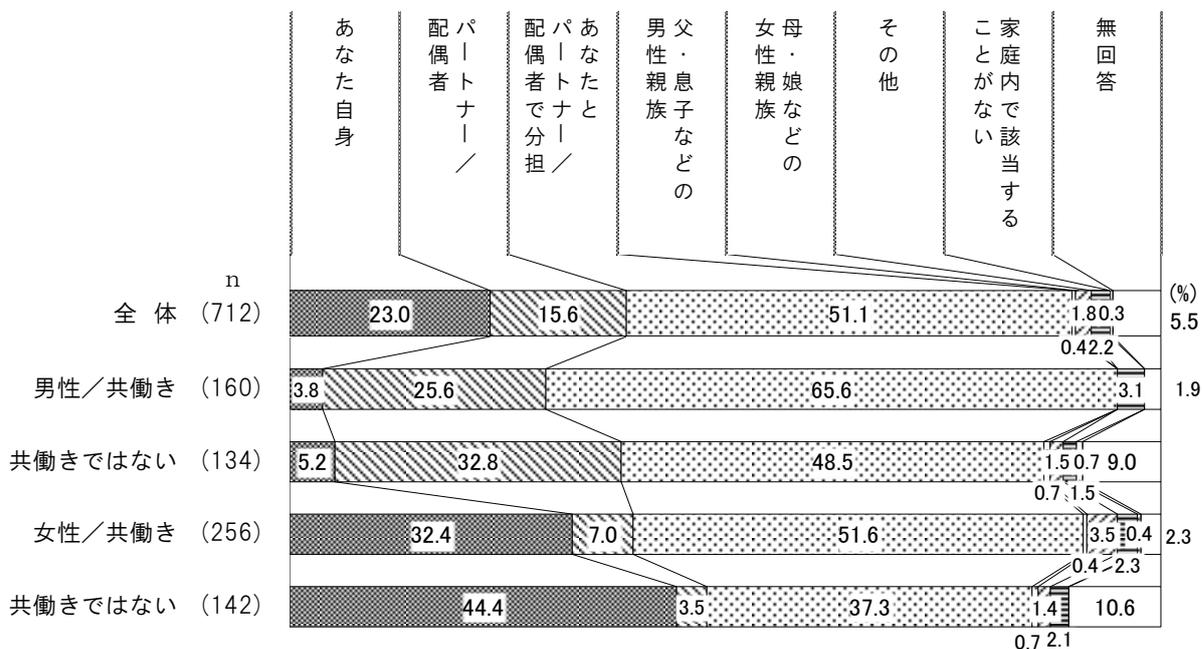
性別でみると、「パートナー／配偶者」は、男性23.3%、女性が5.4%で、男性が女性を17.9ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別でみると、「パートナー／配偶者」は男性の方が多く、男性60代では30.8%で最も多くなっている。一方で、女性ではいずれの年代でも1割未満となっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性40代が62.8%と最も多く、男性では30代から60代で5割以上、女性では29歳以下から30代で5割以上と多くなっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 才 洗濯（性別・共働きの有無別）

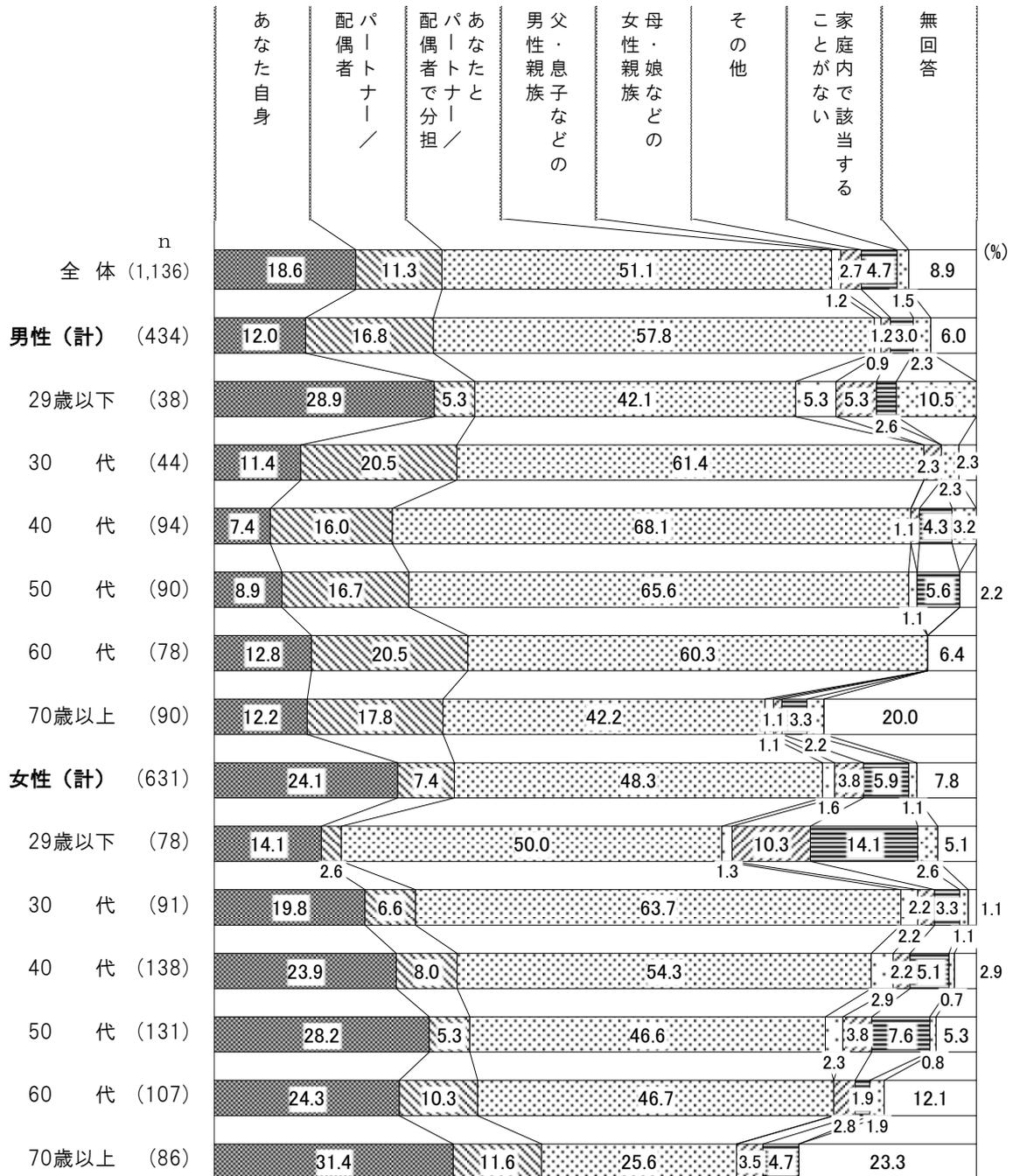


性別・共働きの有無別でみると、「あなた自身」は、男性では〈共働き〉(3.8%)と〈共働きではない〉(5.2%)の間に差異はほとんどないが、女性では〈共働きではない〉(44.4%)に比べて〈共働き〉(32.4%)は少なくなっている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性6割弱、女性5割弱

力 掃除

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 力 掃除（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が51.1%と半数を超えて最も多く、「あなた自身」は18.6%となっている。

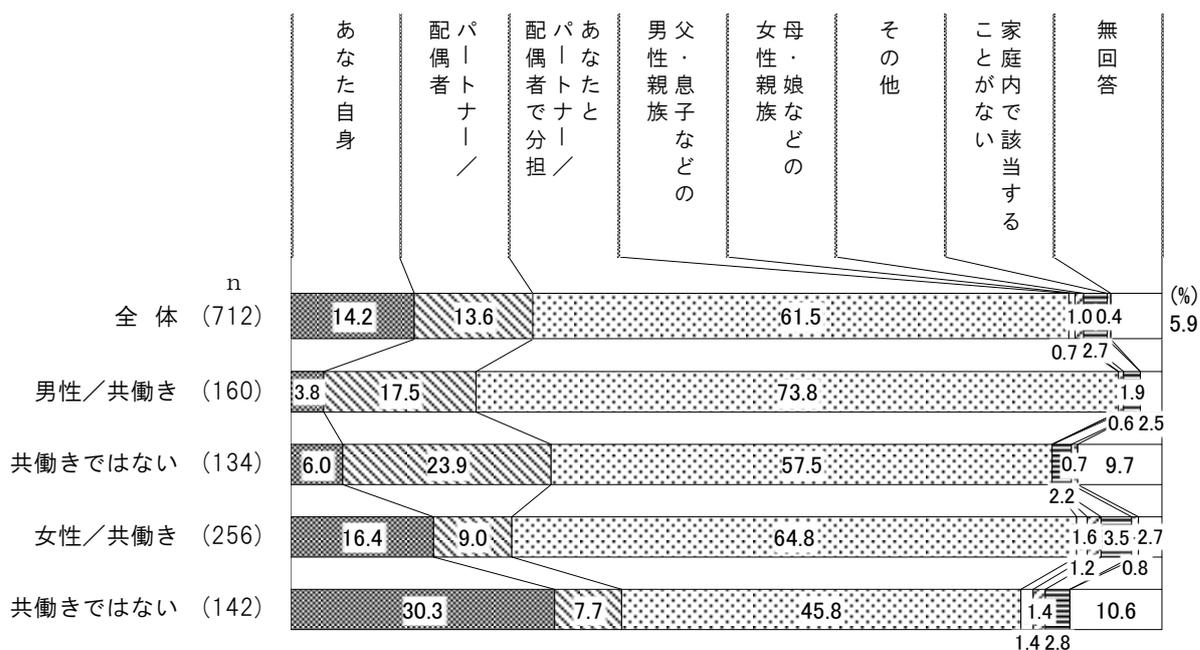
性別で見ると、「あなた自身」は、男性12.0%、女性が24.1%で、女性が男性を12.1ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男性30代から60代にかけて6割台、女性では30代が6割強と特に多くなっている。また、「パートナー／配偶者」は男性の方が多く、30代と60代(ともに20.5%)で2割となっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 力 掃除 (性別・共働きの有無別)

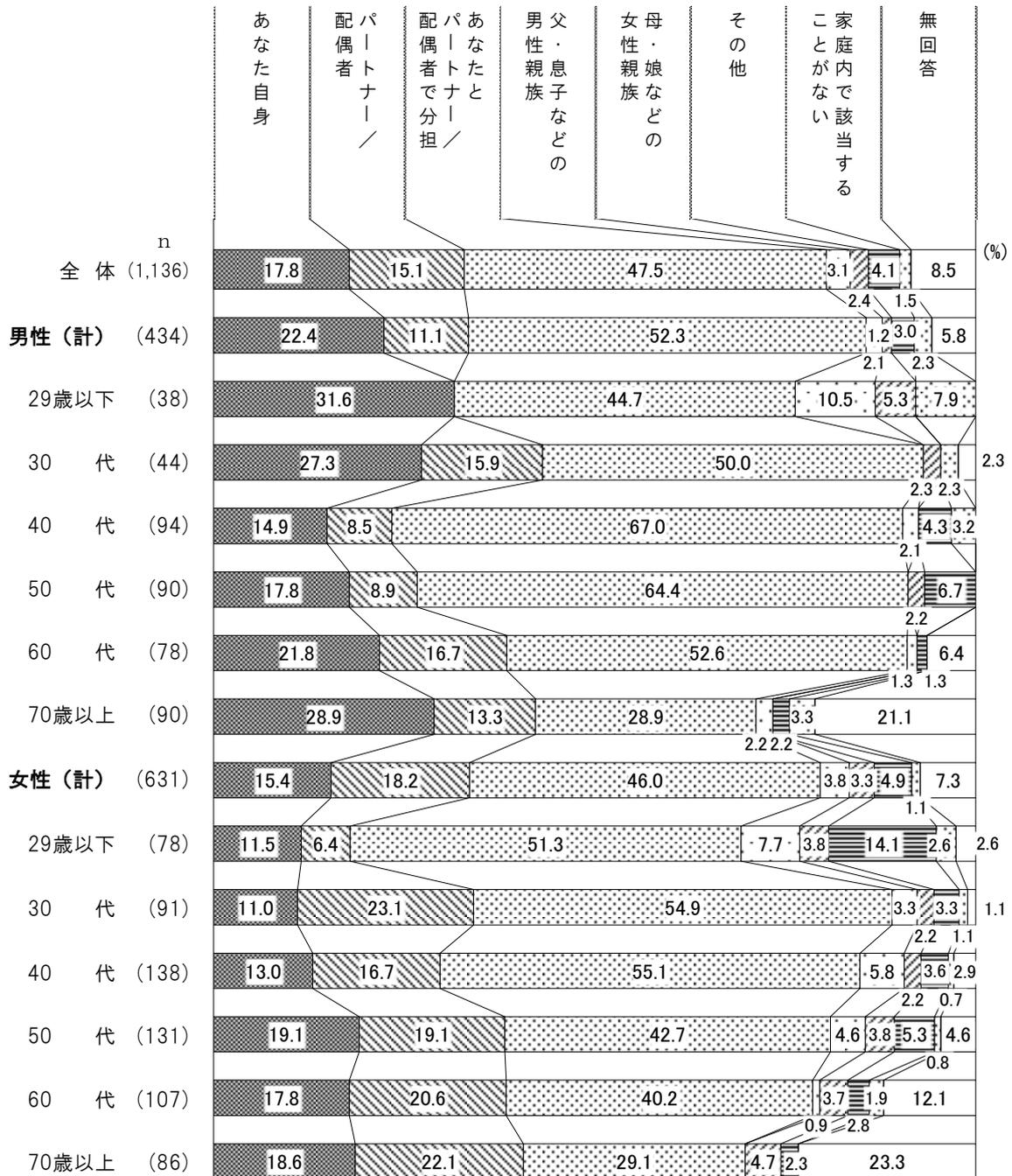


性別・共働きの有無別でみると、女性は、「あなた自身」の割合が〈共働きではない〉(30.3%)に比べて〈共働き〉(16.4%)は低い。同様に男性は、「パートナー／配偶者」が〈共働きではない〉(23.9%)に比べて〈共働き〉(17.5%)では少なくなっている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性5割強、女性4割台半ば

キ ごみ出し

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 キ ごみ出し (性別・年代別)



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が47.5%と最も多く、「あなた自身」は17.8%、「パートナー／配偶者」は15.1%となっている。

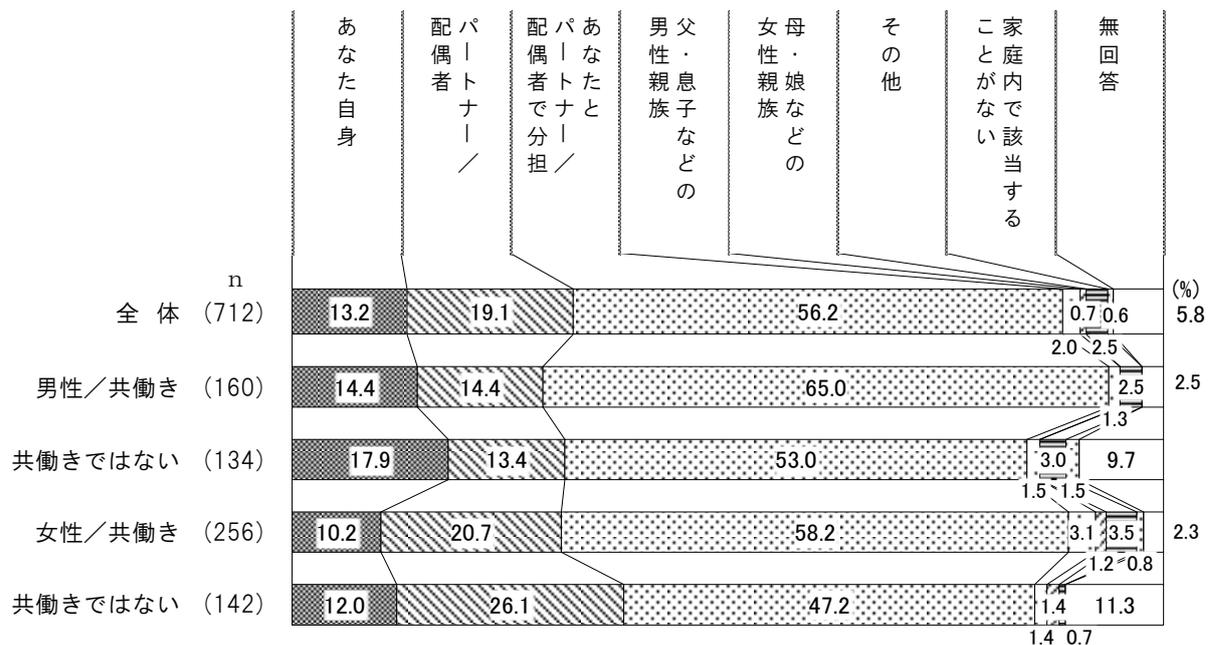
性別で見ると、「パートナー／配偶者」は、男性11.1%、女性が18.2%で、女性が男性を7.1ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別で見ると、「パートナー／配偶者」はすべての年代を通じて女性の方が多く、女性30代では23.1%で最も多くなっている。「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性40代から50代を中心に6割台、女性では29歳以下から40代で5割以上、特に男性40代では67.0%と、男女通じたすべての年代で最も多くなっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 キ ゴみ出し（性別・共働きの有無別）

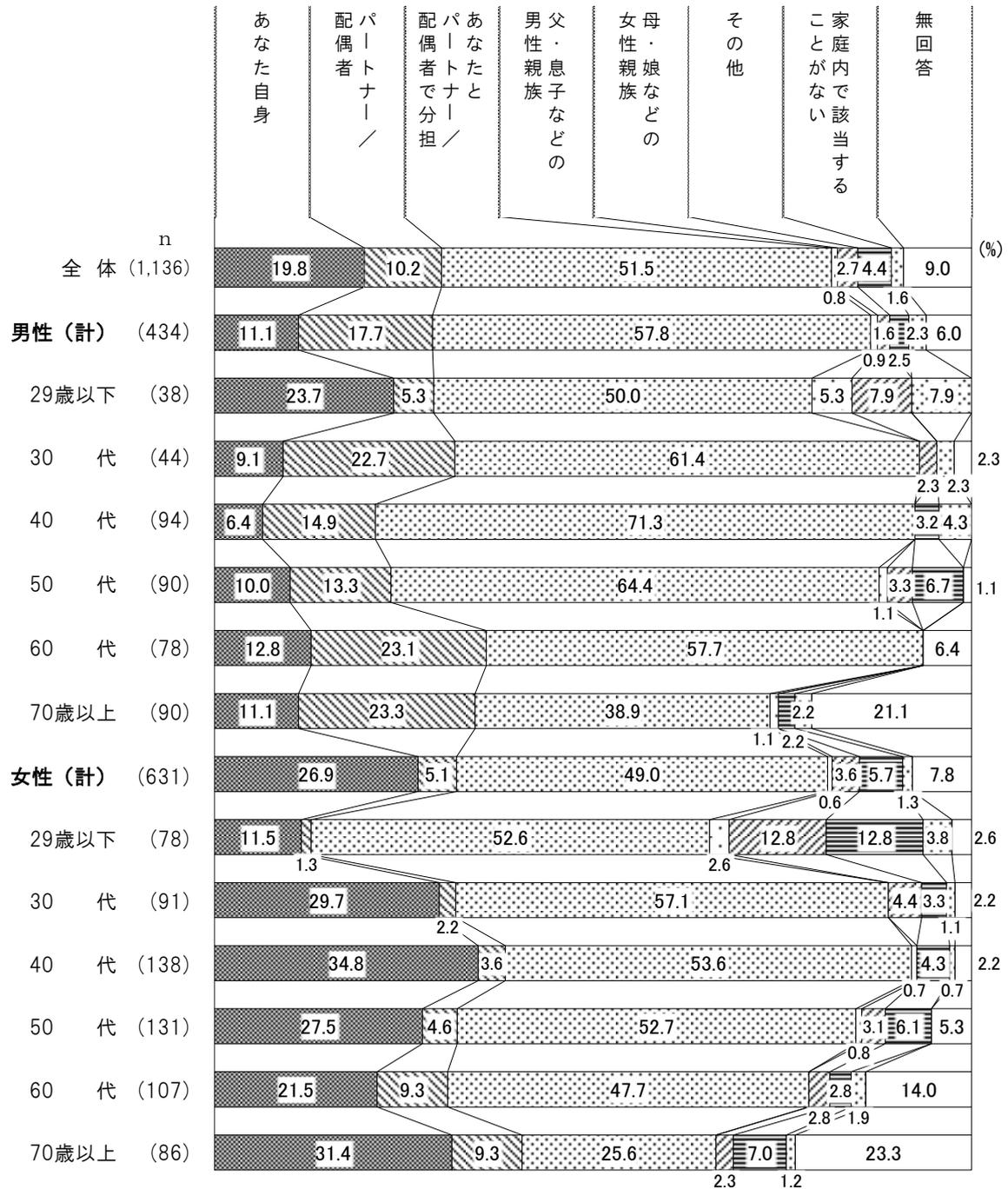


性別・共働きの有無別で見ると、女性の「パートナー／配偶者」の割合は、〈共働きではない〉(26.1%)が〈共働き〉(20.7%)を5.4ポイント上回っている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性6割弱、女性約5割

ク 日用品や食料品の買い物

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ク 日用品や食料品の買い物 (性別・年代別)



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が51.5%と半数を超えて最も多く、「あなた自身」は19.8%となっている。

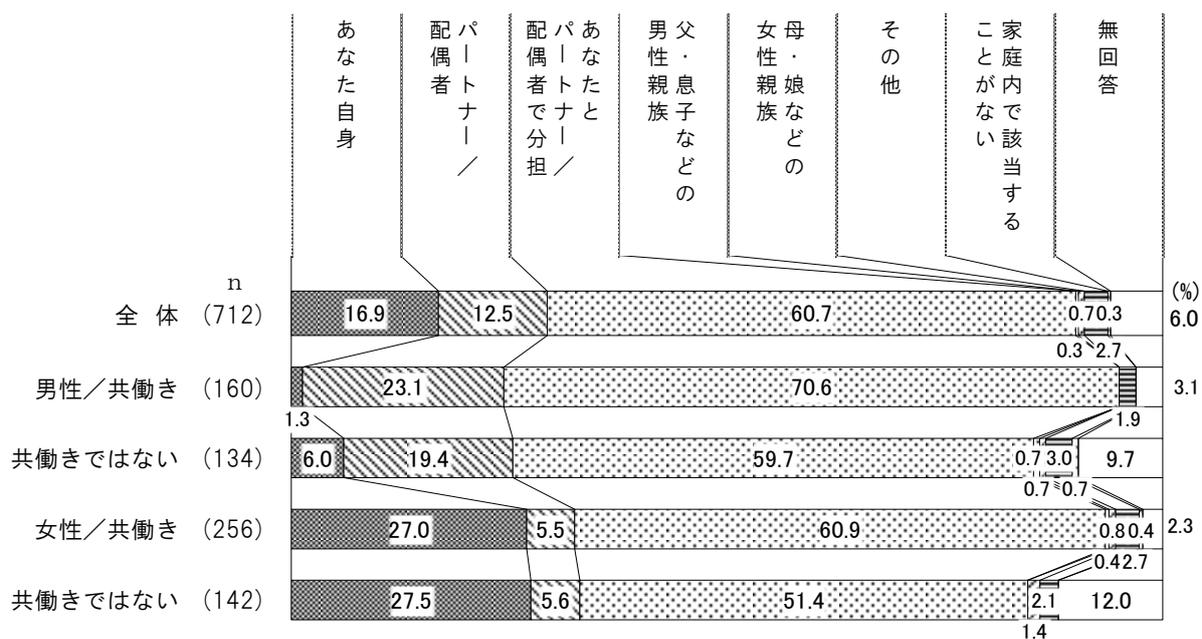
性別でみると、「あなた自身」は、男性11.1%、女性が26.9%で、女性が男性を15.8ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」は、男性40代(71.3%)が約7割と最も多く、男性30代と50代は6割台、女性では29歳以下から50代にかけて5割台で特に多くなっている。また、「パートナー／配偶者」は女性のすべての年代で1割未満となっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ク 日用品や食料品の買い物（性別・共働きの有無別）

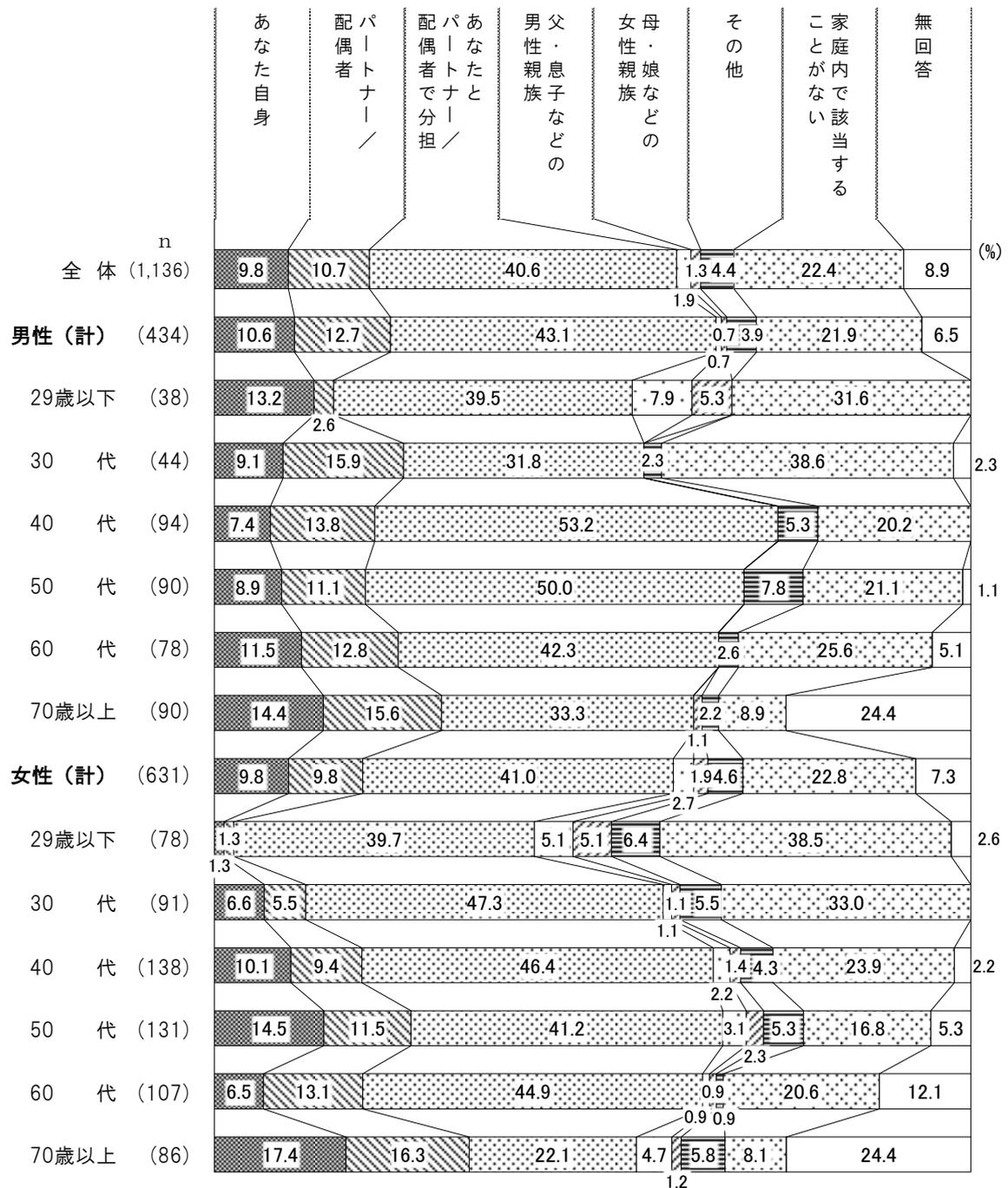


性別・共働きの有無別でみると、「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、男女ともに〈共働きではない〉よりも〈共働き〉では10ポイント前後多くなっている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに4割台

ケ 町内会などの地域活動への参加

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ケ 町内会などの地域活動への参加（性別・年代別）



現実での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が40.6%と最も多く、「パートナー／配偶者」は10.7%、「あなた自身」は9.8%となっている。

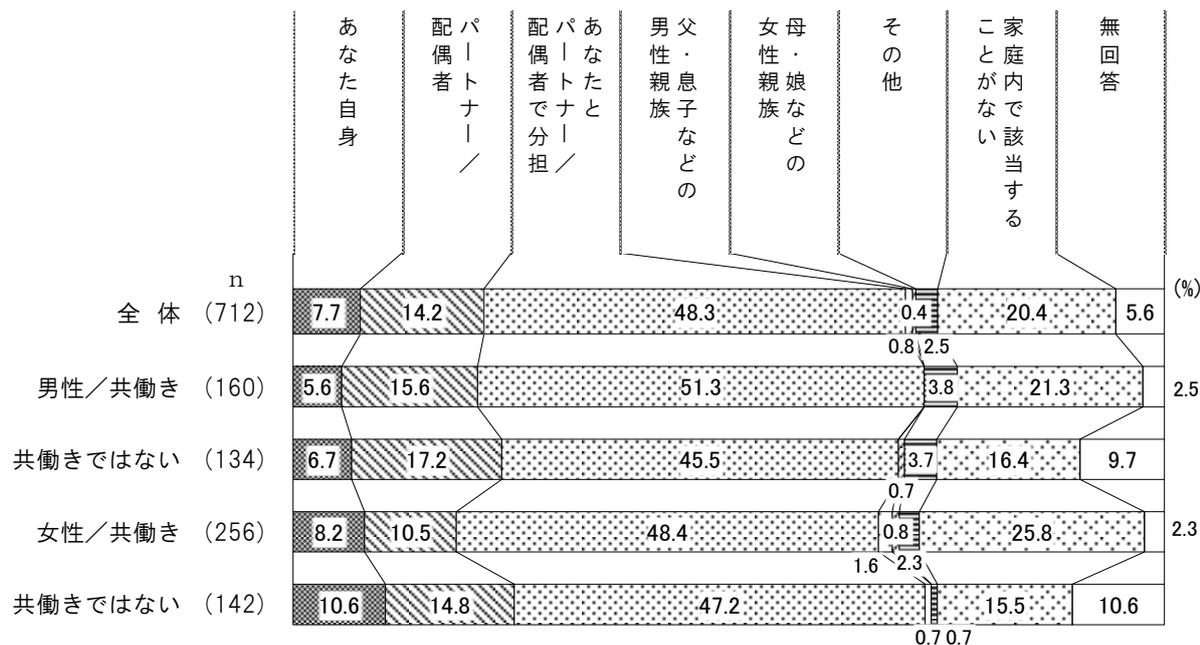
性別でみると、すべての項目で性別による大きな差はみられない。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別でみると、男女ともに30代では、「パートナー／配偶者」は、男性15.9%、女性5.5%と、男性が女性を10.4ポイント上回っているのに対し、「あなたとパートナー／配偶者で分担」では、男性31.8%、女性47.3%と、女性が男性を15.5ポイント上回っている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 ケ 町内会などの地域活動への参加（性別・共働きの有無別）

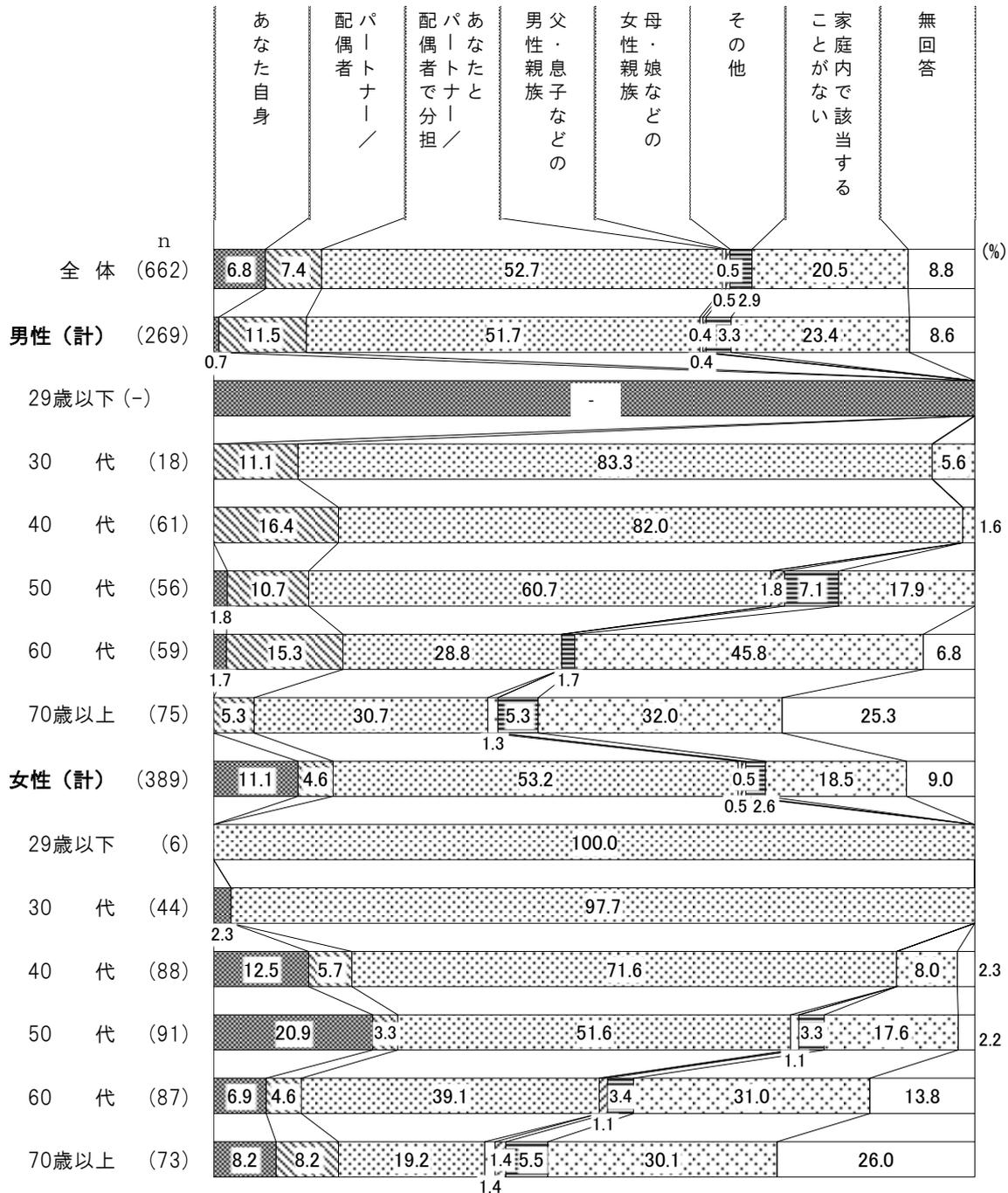


性別・共働きの有無別でみると、男性の「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、〈共働き〉(51.3%)が〈共働きではない〉(45.5%)を5.8ポイント上回っている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに5割台

□ 家庭内での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 □ 家庭内での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が52.7%と半数を超えて最も多く、「パートナー／配偶者」(7.4%)、「あなた自身」(6.8%)は1割未満となっている。

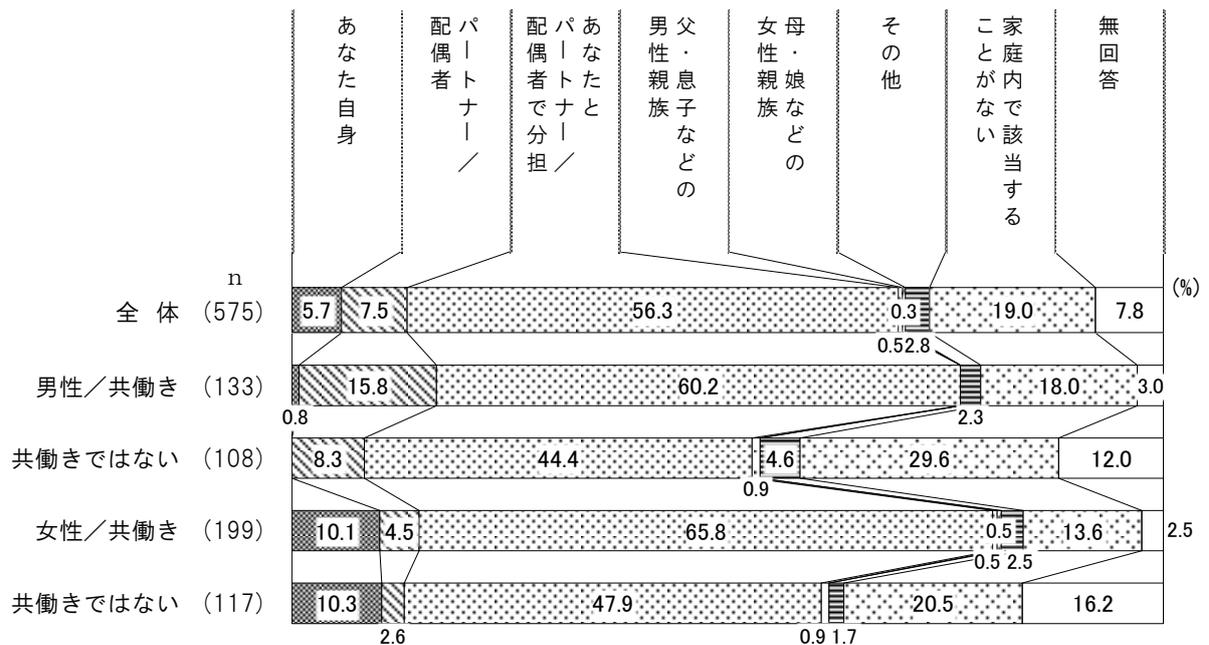
性別でみると、「あなた自身」は、男性0.7%、女性が11.1%で、女性が男性を10.4ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別で見ると、男女ともに「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、おおむね年代が低くなるほど多くなっていく傾向にある。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 コ 家庭内での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）（性別・共働きの有無別）

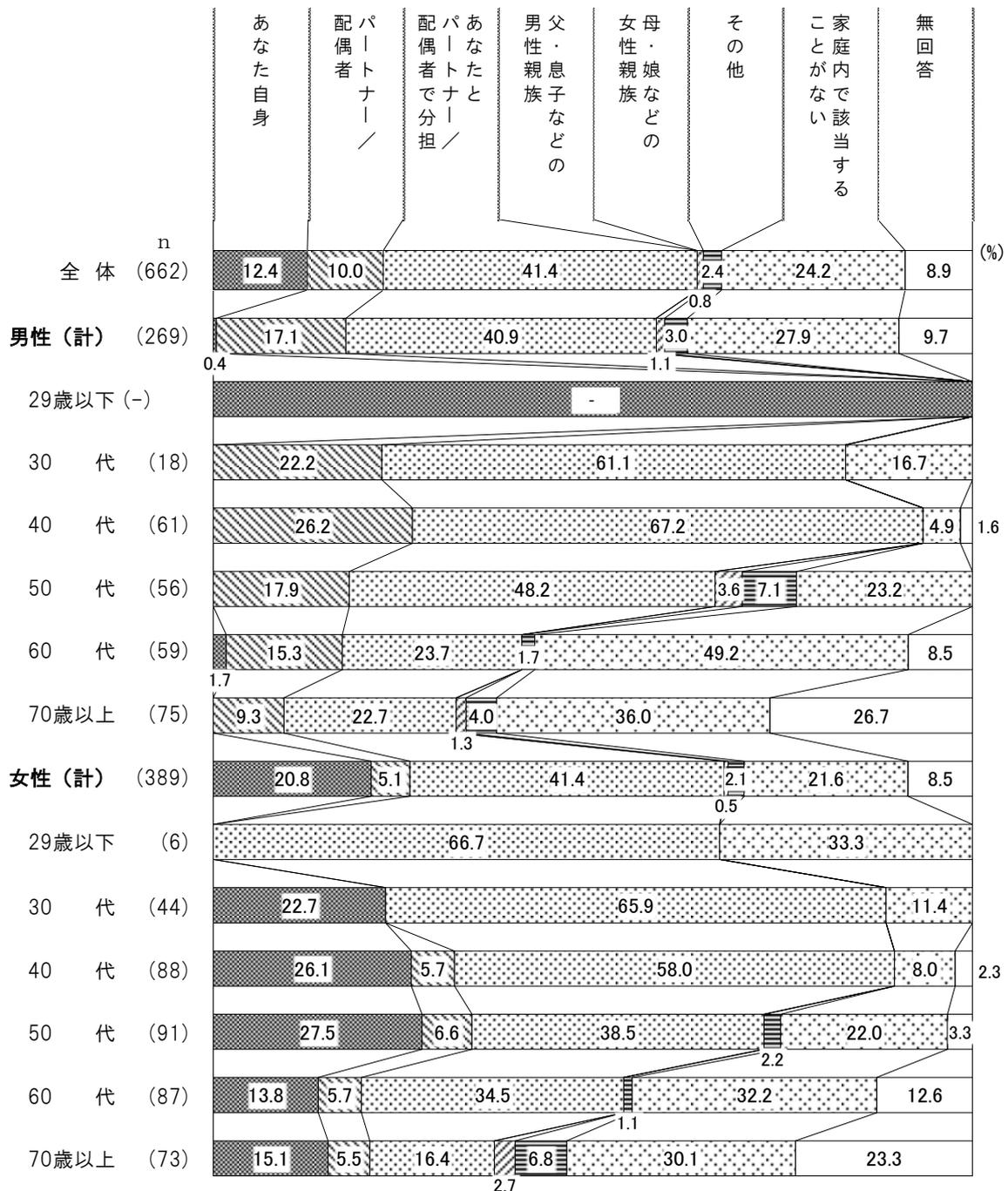


性別・共働きの有無別で見ると、男女ともに「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、〈共働きではない〉に比べて〈共働き〉でそれぞれ20ポイントほど多くなっている。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男女ともに約4割

サ 保護者会やPTAへの参加

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 サ 保護者会やPTAへの参加（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が41.4%と最も多く、「あなた自身」(12.4%)、「パートナー／配偶者」(10.0%)は約1割となっている。

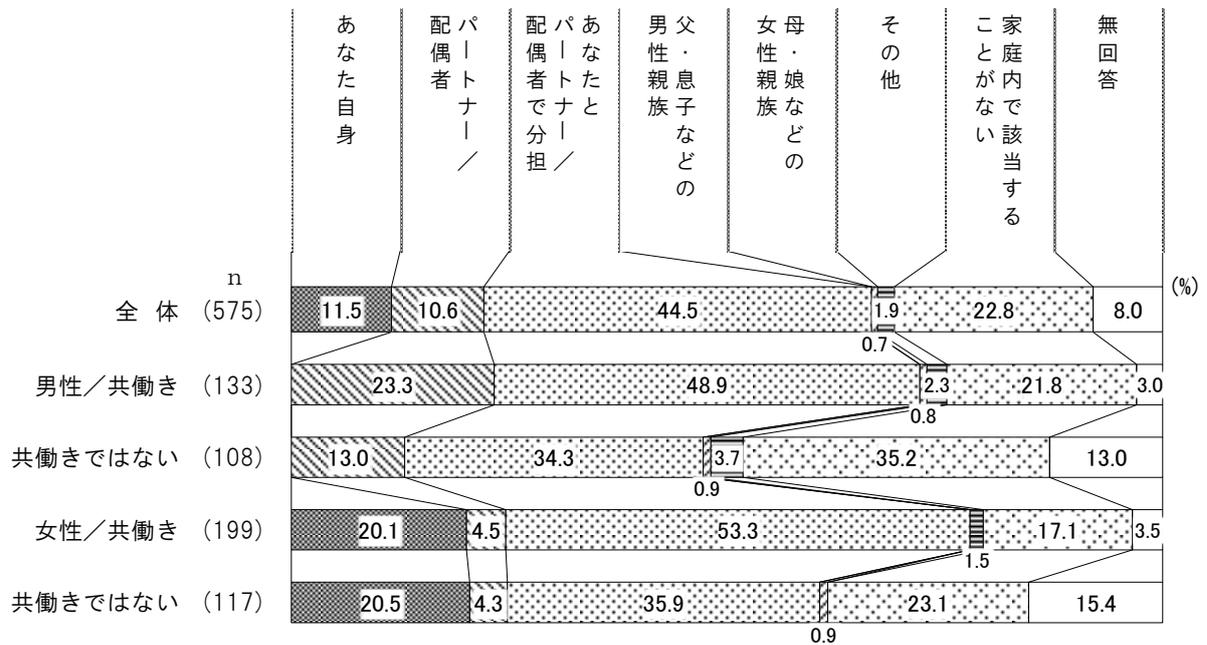
性別で見ると、「あなた自身」は、男性0.4%、女性が20.8%で、女性が男性を20.4ポイント上回っている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

性別・年代別で見ると、「あなた自身」は29歳以下を除いたすべての年代を通じて女性の方が多く、女性の30代から50代にかけては2割台と特に多くなっている。一方で、「パートナー／配偶者」は29歳以下を除いたすべての年代を通じて男性の方が多く、男性の30代から40代にかけては2割台と特に多くなっている。

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 サ 保護者会やPTAへの参加（性別・共働きの有無別）

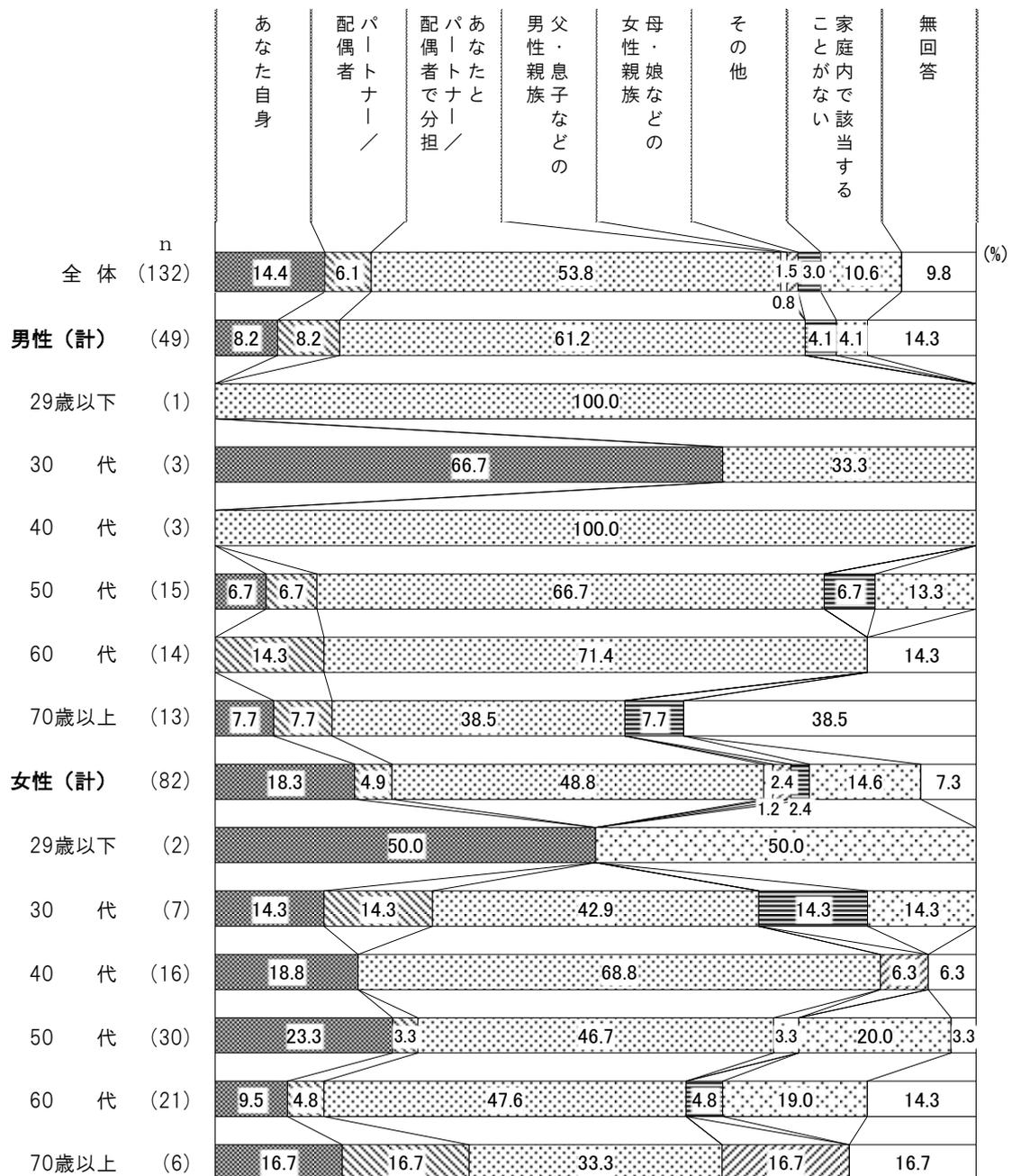


性別・共働きの有無別で見ると、男女ともに「あなたとパートナー／配偶者で分担」の割合は、〈共働きではない〉に比べて〈共働き〉で大幅に多い。また、男性は、共働きの有無に関わらず、「あなた自身」の回答は無い。

■ 「あなたとパートナー／配偶者で分担」は男性約6割、女性5割弱

シ 家族の日常的な介護や看護

図表 理想の家事、行事参加等の役割分担 シ 家族の日常的な介護や看護（性別・年代別）



理想での役割分担は、「あなたとパートナー／配偶者で分担」が53.8%と最も多く、「あなた自身」は14.4%、「パートナー／配偶者」は6.1%となっている。

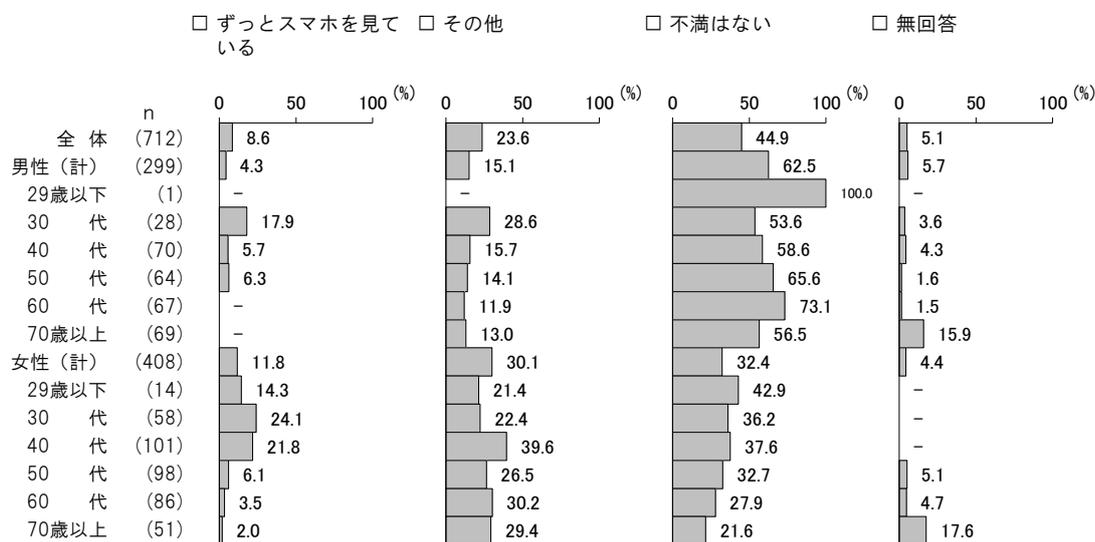
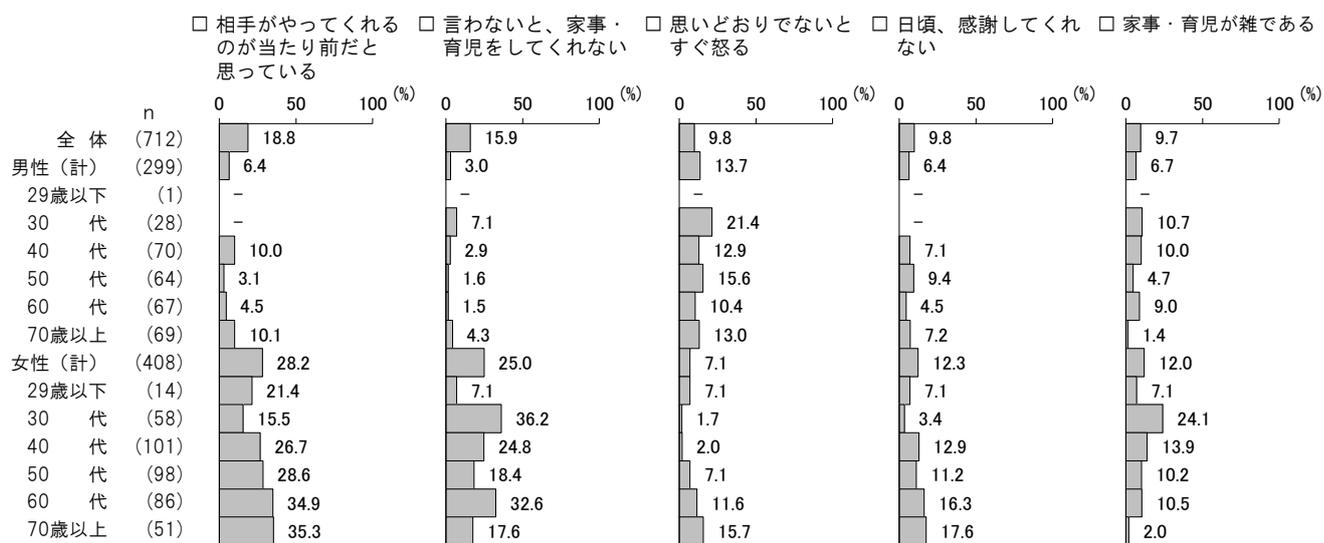
性別で見ると、「あなた自身」は、男性8.2%、女性が18.3%で、女性が男性を10.1ポイント上回っている。一方、「あなたとパートナー／配偶者で分担」では、男性61.2%、女性が48.8%で、男性が女性を12.4ポイント上回っている。

(12) 配偶者（またはパートナー）への不満点

■ 「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」が2割弱で最多

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。
 問13 配偶者やパートナーの家事・育児で特に不満な点は何ですか（〇は3つまで）。

図表 配偶者（またはパートナー）への不満点（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

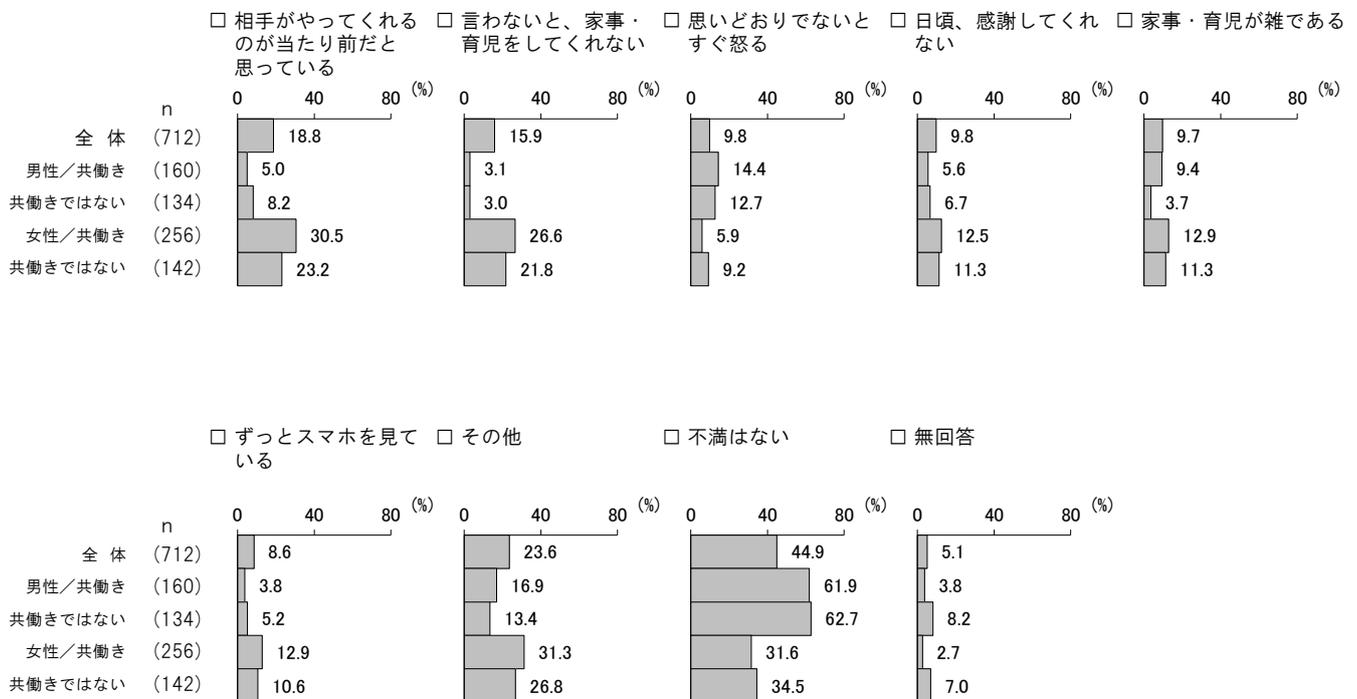
自分の体調が悪くても手伝ってくれない／家事・育児に細かく駄目だしをしてくる／気分次第で家事・育児をしたりしなかったりする／手は動かさず文句ばかり言う／少し家事・育児を手伝っただけで、威張ってくる／家事・育児を全くやらない

配偶者(またはパートナー)への不満点としては、「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」が18.8%と最も多く、「言わないと、家事・育児をしてくれない」(15.9%)が1割台半ばで続いている。

性別でみると、「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」は男性6.4%、女性28.2%と、女性が男性を21.8ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」は、女性の年代が高くなるほど割合が多くなっている。

図表 配偶者(またはパートナー)への不満点(性別・共働きの有無別)



その他に含まれる選択肢

自分の体調が悪くても手伝ってくれない／家事・育児に細かく駄目だしをしてくる／気分次第で家事・育児をしたりしなかったりする／手は動かさず文句ばかり言う／少し家事・育児を手伝っただけで、威張ってくる／家事・育児を全くやらない

性別・共働きの有無別でみると、「思いどおりでないとすぐ怒る」は共働きの有無に関わらず男性で多く、「不満はない」も共働きの有無に限らず男性で6割を超えて多くなっている。

一方、「相手がやってくれるのが当たり前だと思っている」、「言わないと、家事・育児をしてくれない」、「家事・育児が雑である」、「日頃、感謝してくれない」、「ずっとスマホを見ている」では女性、特に〈共働き〉で多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

図表 配偶者（またはパートナー）への不満点（性別・昨年1年の本人年収別）

		調査数 (n)	を言 わな いと、 家事 ・育 児を してく れな い	家事 ・育 児が 雑で ある	怒る 思 いど おり でな いと すぐ	日頃、 感謝 して くれ ない	ずつ とス マホ を見 てい る	相 手 がや つて くれ るの が	そ の 他	不 満 は な い	無 回 答
全	体	712	15.9	9.7	9.8	9.8	8.6	18.8	23.6	44.9	5.1
男 性	103万円未満	5	-	-	20.0	-	-	-	20.0	80.0	-
	103～130万円未満	4	-	-	-	-	-	-	-	75.0	25.0
	130～300万円未満	60	-	3.3	5.0	11.7	1.7	5.0	10.0	66.7	11.7
	300～500万円未満	72	1.4	9.7	9.7	4.2	2.8	5.6	13.9	68.1	4.2
	500～750万円未満	61	4.9	9.8	13.1	4.9	8.2	8.2	18.0	60.7	3.3
	750～1000万円未満	31	3.2	-	25.8	3.2	3.2	6.5	19.4	54.8	6.5
	1000万円以上	29	3.4	10.3	24.1	10.3	-	3.4	17.2	51.7	3.4
	わからない	3	-	-	-	-	-	66.7	33.3	33.3	-
	収入はない	6	-	-	16.7	-	-	16.7	-	66.7	16.7
	答えたくない	28	10.7	7.1	21.4	7.1	14.3	3.6	17.9	60.7	-
女 性	103万円未満	88	31.8	10.2	5.7	11.4	8.0	34.1	20.5	33.0	3.4
	103～130万円未満	39	15.4	10.3	-	15.4	12.8	25.6	38.5	30.8	10.3
	130～300万円未満	70	24.3	11.4	10.0	10.0	14.3	37.1	35.7	25.7	2.9
	300～500万円未満	54	25.9	18.5	7.4	11.1	16.7	31.5	29.6	29.6	3.7
	500～750万円未満	28	25.0	10.7	7.1	14.3	7.1	21.4	17.9	42.9	3.6
	750～1000万円未満	10	40.0	30.0	10.0	10.0	20.0	30.0	40.0	30.0	-
	1000万円以上	2	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	わからない	12	25.0	16.7	8.3	33.3	8.3	25.0	16.7	41.7	-
	収入はない	59	20.3	11.9	6.8	10.2	16.9	20.3	32.2	39.0	3.4
	答えたくない	38	28.9	7.9	13.2	10.5	5.3	18.4	39.5	28.9	2.6

その他に含まれる選択肢

自分の体調が悪くても手伝ってくれない／家事・育児に細かく駄目だしをしてくる／気分次第で家事・育児をしたりしなかったりする／手は動かさず文句ばかり言う／少し家事・育児を手伝っただけで、威張ってくる／家事・育児を全くやらない

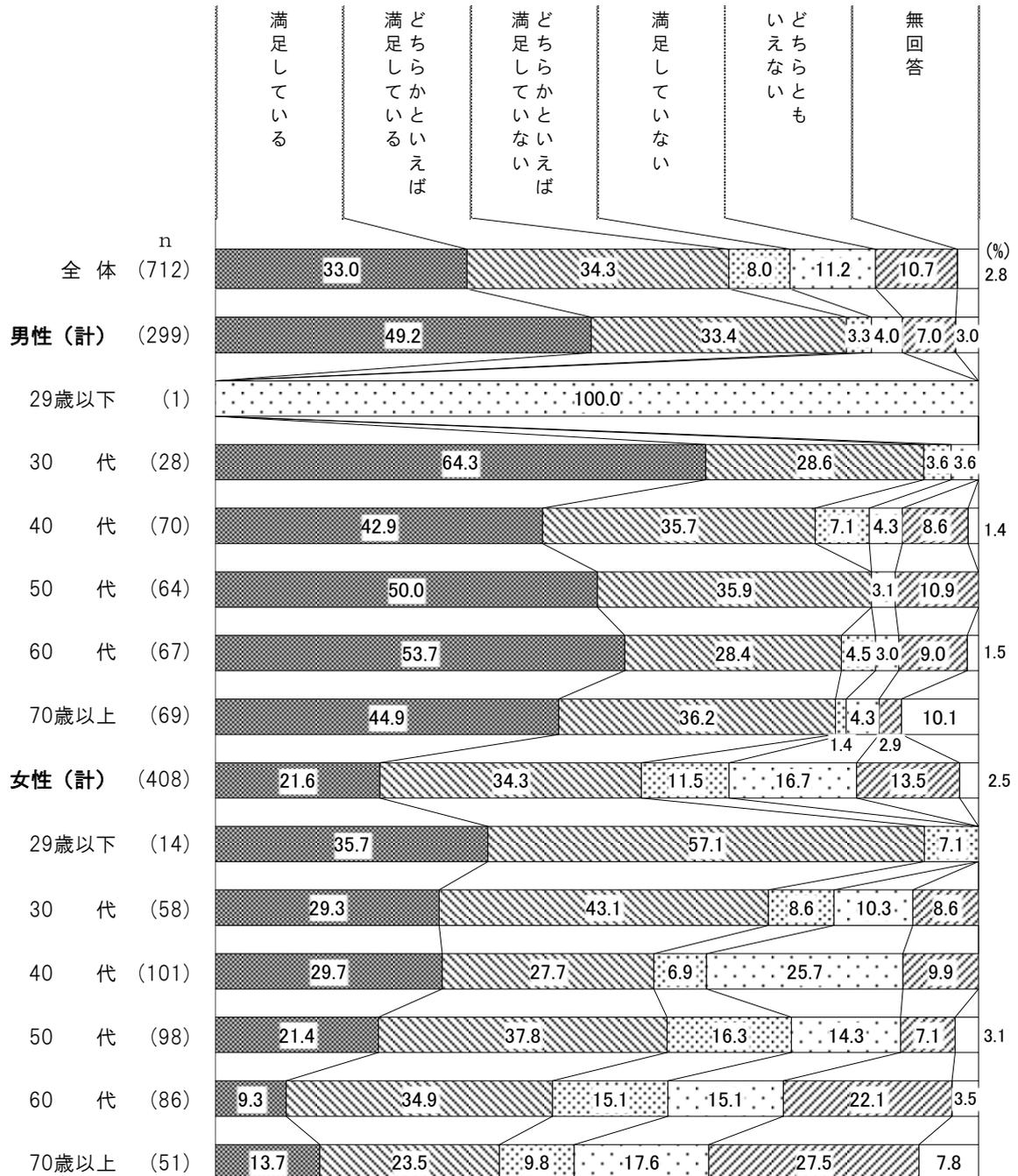
性別・昨年1年の本人年収別で見ると、「不満はない」は男性において収入が少ないほど多くなっており、「思いどおりでない」とすぐ怒る」は男性の年収が多いほど多くなる傾向となっている。

(13) 配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度

■ 「満足している」層は7割弱も、「不満足」層は約2割

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。
問13-1 配偶者やパートナーとの現状の家事・育児の分担について、満足していますか（○は1つ）。

図表 配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

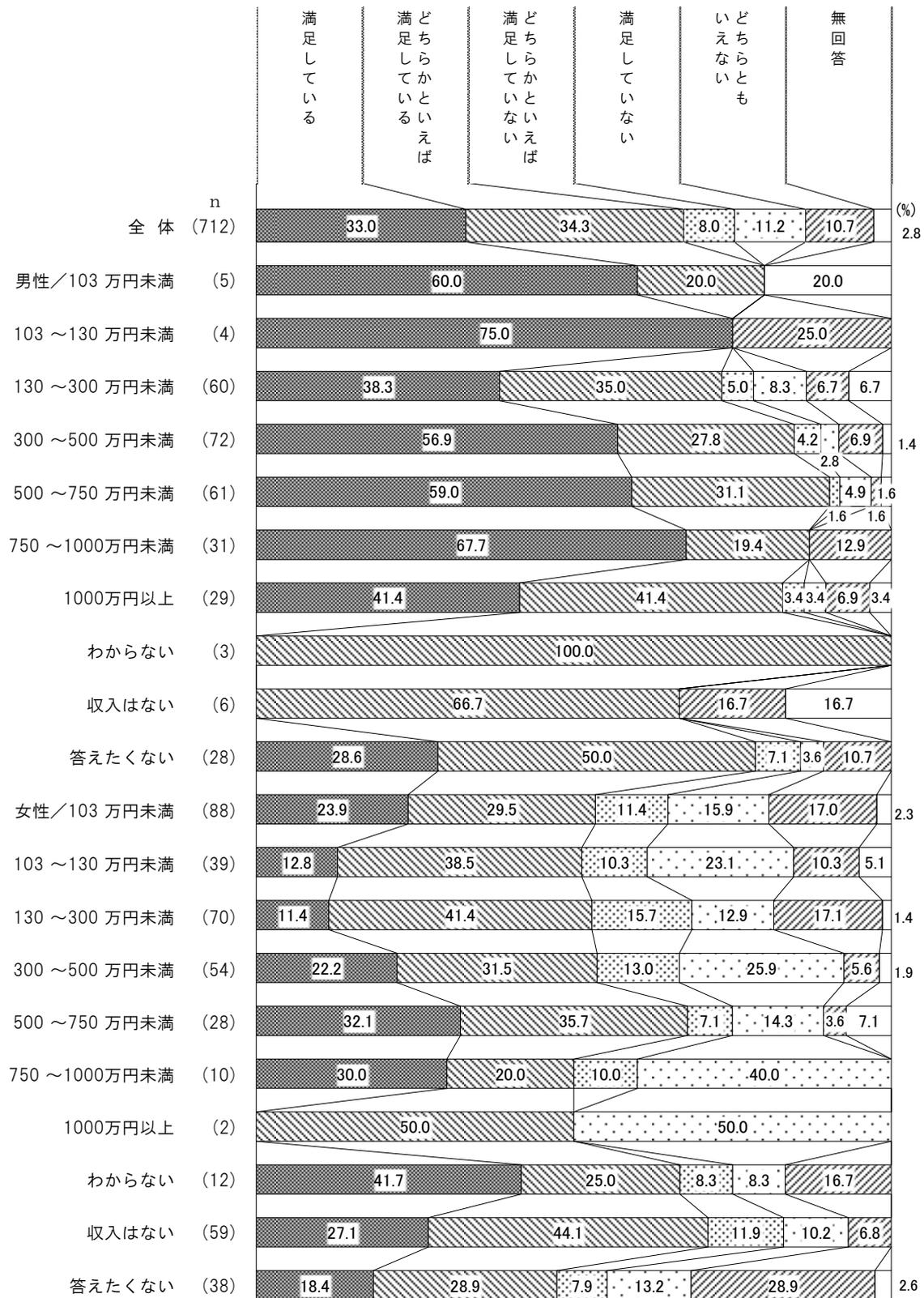
第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

配偶者(またはパートナー)との役割分担状況の満足度は、「どちらかといえば満足している」を含む【満足している】回答者は67.3%、「どちらかといえば満足していない」を含む【満足していない】回答者は19.2%となっている。

性別で見ると、男女ともに「どちらかといえば満足している」を含む【満足している】回答者が多くなっており、男性82.6%、女性55.9%と、男性が女性を26.7ポイント上回っている。一方、「どちらかといえば満足していない」を含む【満足していない】では、女性(28.2%)が男性(7.3%)を20.9ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、女性の「どちらかといえば満足している」を含む【満足している】は、年代が高くなるほど割合が下がる傾向にある。

図表 配偶者（またはパートナー）との役割分担状況の満足度（性別・昨年1年の本人年収別）



性別・昨年1年の本人年収別にみると、男性は〈300万円以上〉、女性は〈500万円以上〉の満足度が多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

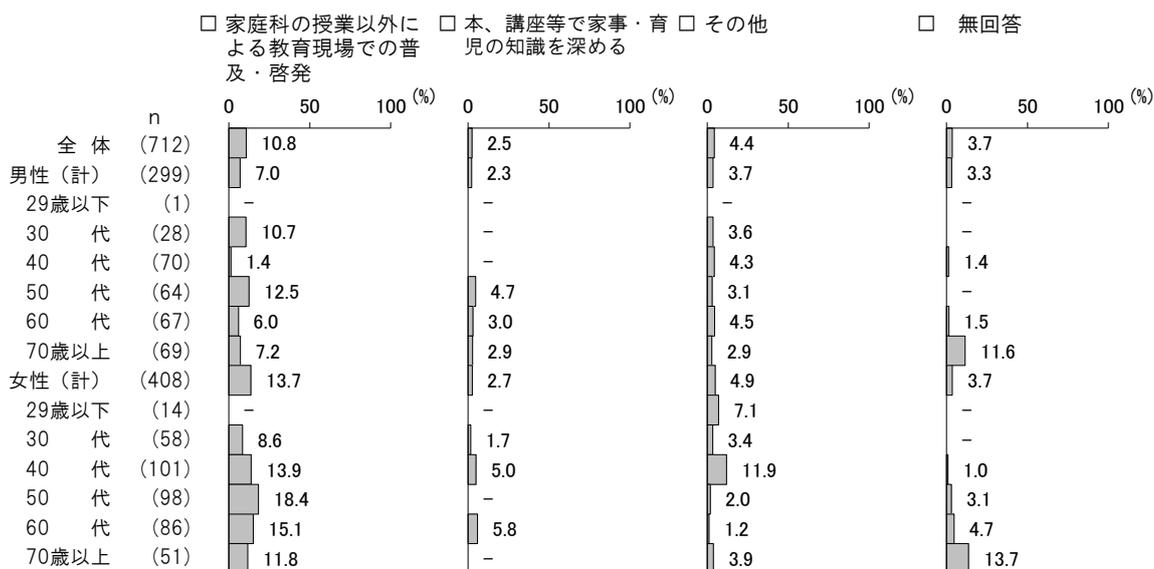
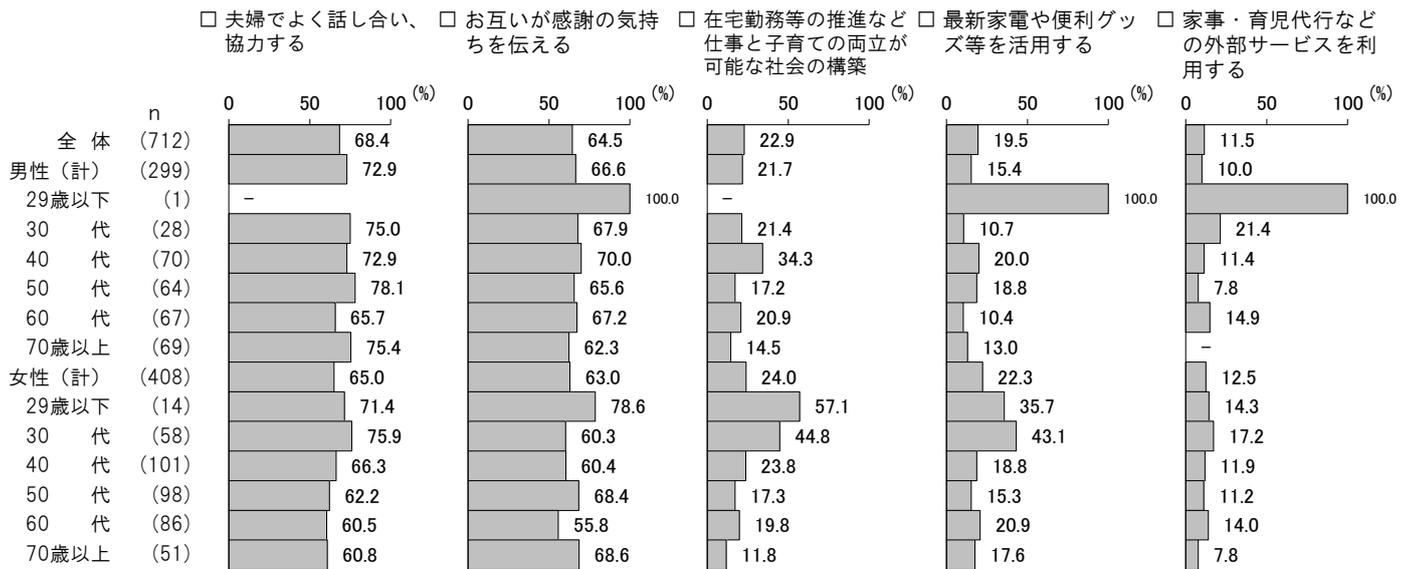
(14) 配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うこと

■ 「夫婦でよく話し合い協力する」「互いが感謝を伝える」が6割台

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問14 今後、家事・育児の分担を公平にするために特に何が重要だと思いますか（○は3つまで）。

図表 配偶者（またはパートナー）との役割分担を公平にするために重要だと思うこと（性別・年代別）



配偶者(またはパートナー)との役割分担を公平にするために重要だと思うこととして、「夫婦でよく話し合い、協力する」(68.4%)と「お互いが感謝の気持ちを伝える」(64.5%)が6割台で特に多くあげられ、以下「在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築」(22.9%)が続いている。

性別で見ると、男女ともに「夫婦でよく話し合い、協力する」が最も多く、男性72.9%、女性65.0%と、男性が女性を7.9ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、「夫婦でよく話し合い、協力する」では、男女ともにおおむね年代が低い層の割合が多くなる傾向にある。

第2章 調査結果の詳細

第2章-2 ワーク・ライフ・バランスの推進

3 社会における男女共同参画の推進

3 社会における男女共同参画の推進

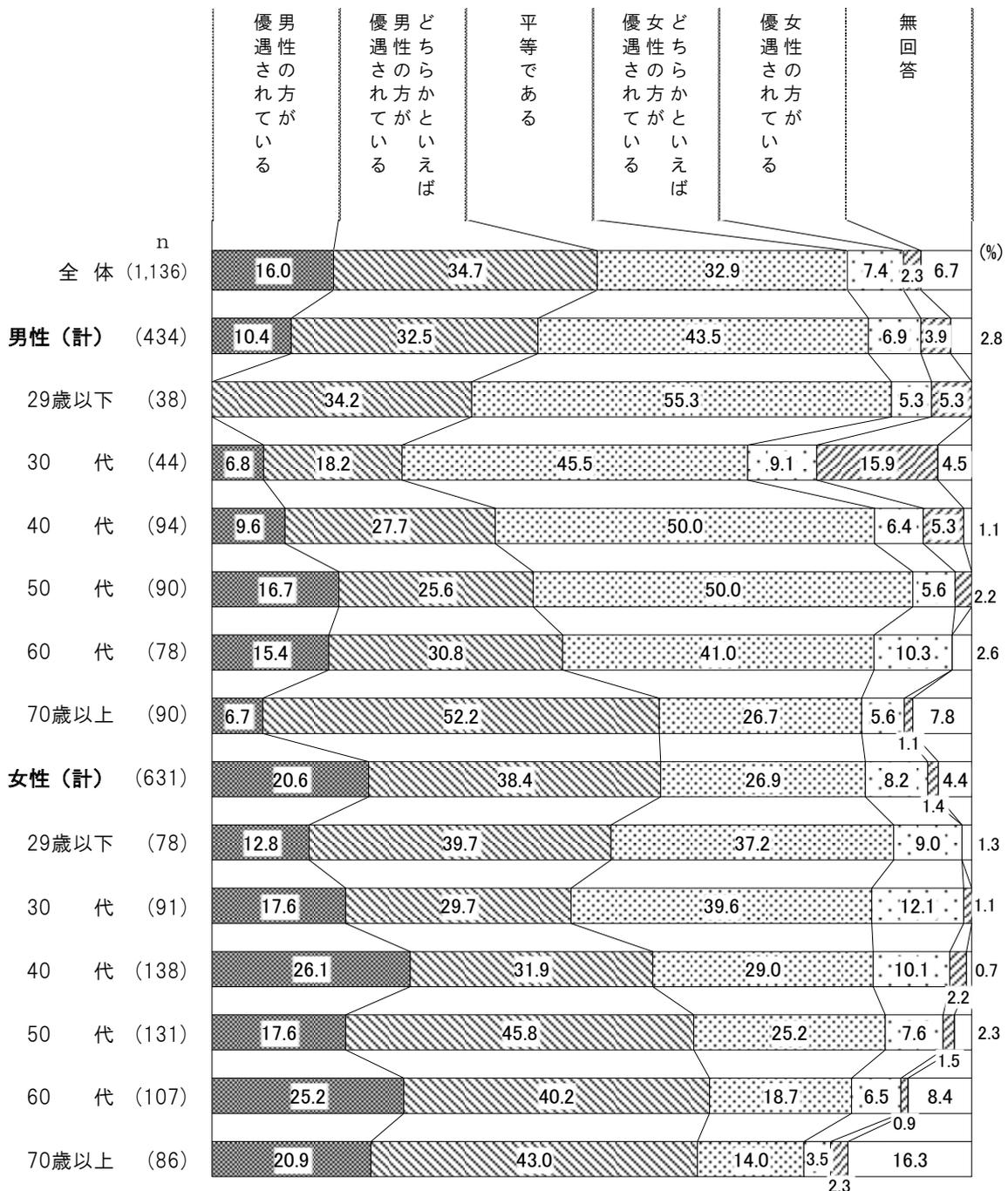
(1) 分野別にみた男女の地位の平等感

■ 「学校教育」「地域活動の場」以外のすべての場面で男性優遇が最多

問15 あなたは、次のア～キのような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。また、「ク. 社会全体」としてはどうか（○はそれぞれ1つずつ）。

ア 家庭生活

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ア 家庭生活（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

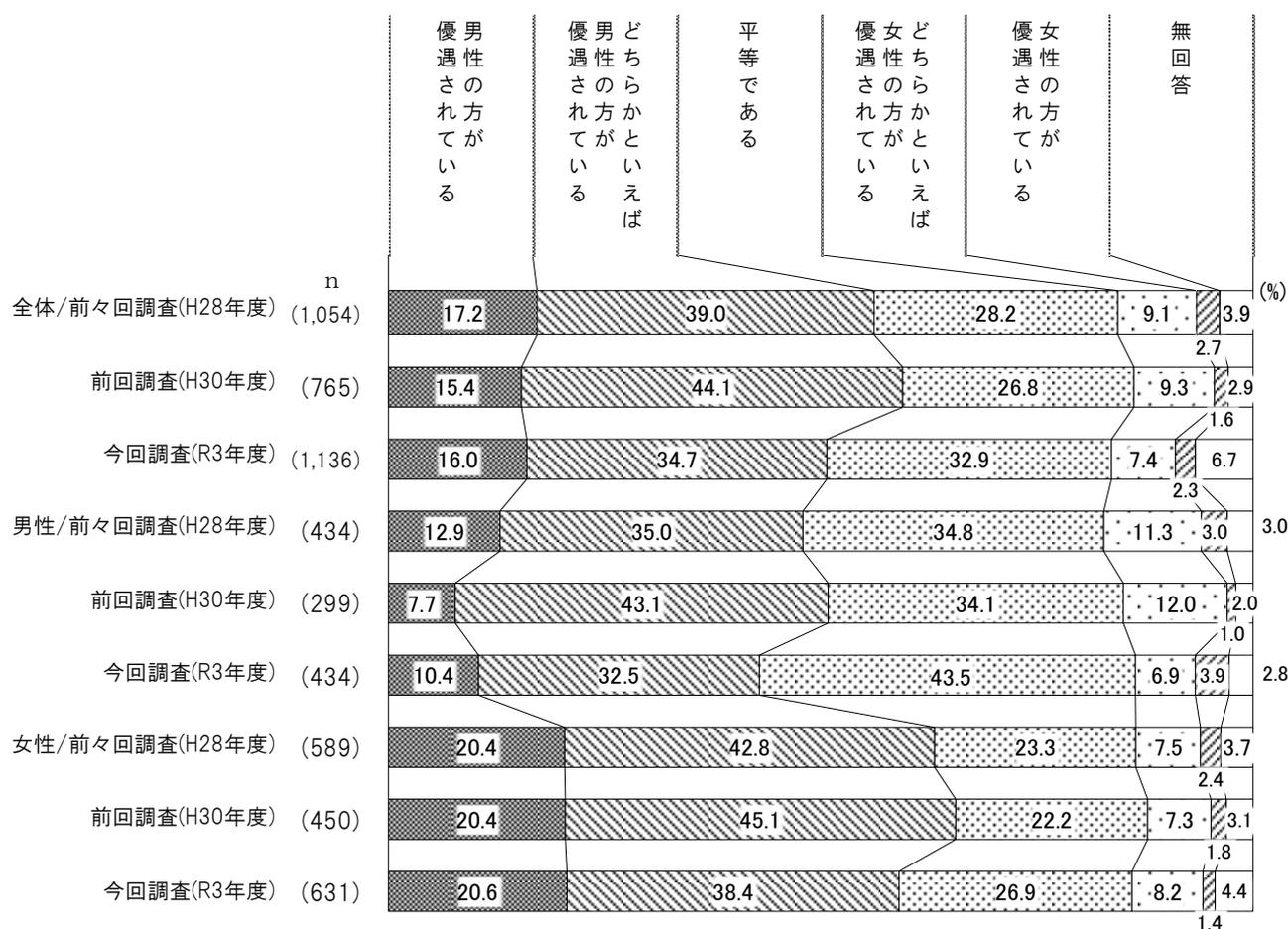
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“家庭生活”の平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】という回答者(50.7%)は全体の半数で、「平等である」が32.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】が9.7%となっている。

性別で見ると、男性では「平等である」(43.5%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(42.9%)がともに4割で多いのに対し、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が59.0%と最も多くなっている。

性別・年代別で見ると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】の割合は、女性の年代が高くなるほど多くなる傾向にある。

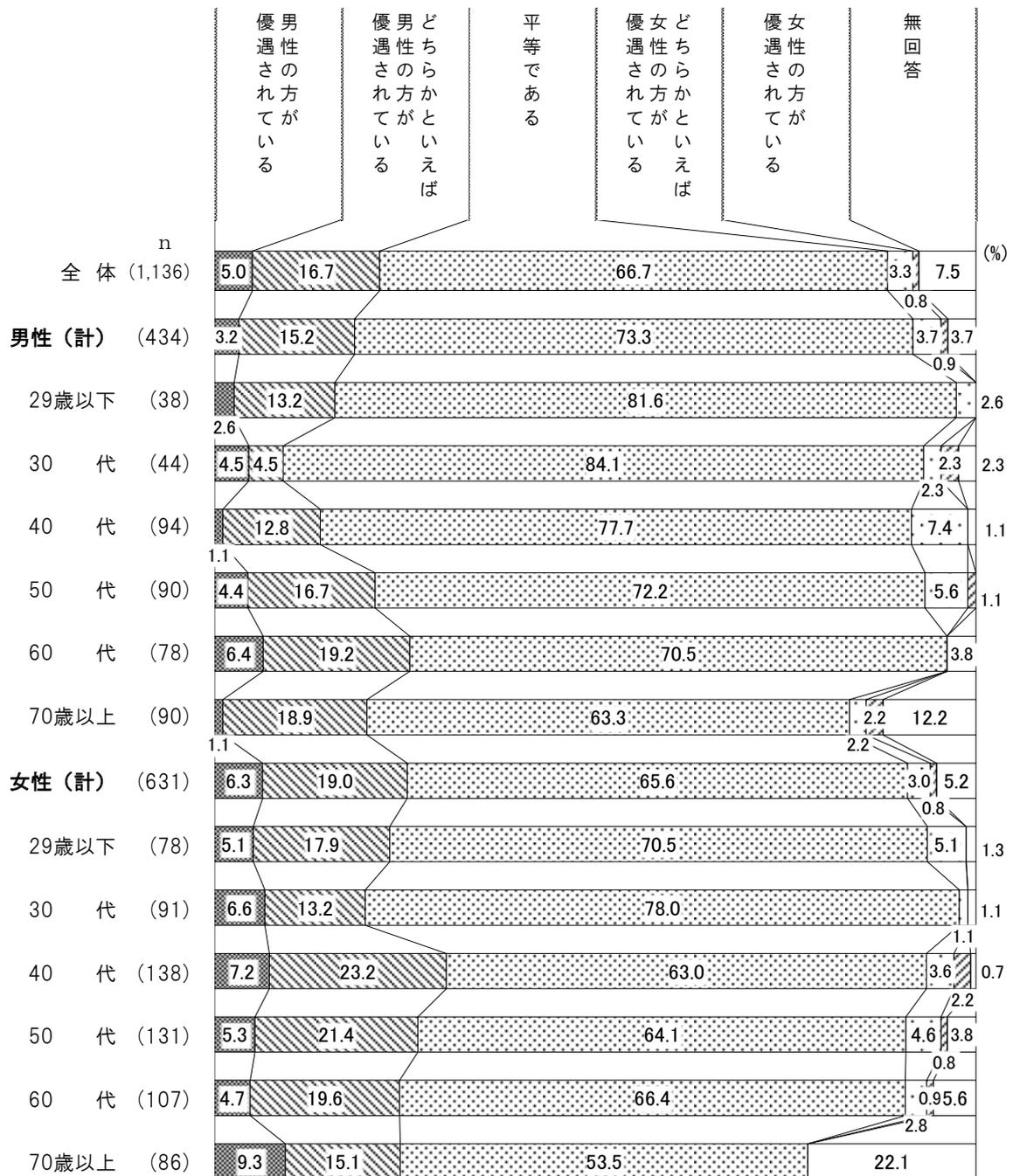
図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ア 家庭生活（経年比較）



過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回50.7%、前回59.5%)は8.8ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回9.7%、前回10.9%)は1.2ポイント減少している。【平等である】(今回32.9%、前回26.8%)は6.1ポイント増加している。

イ 学校教育

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 イ 学校教育（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

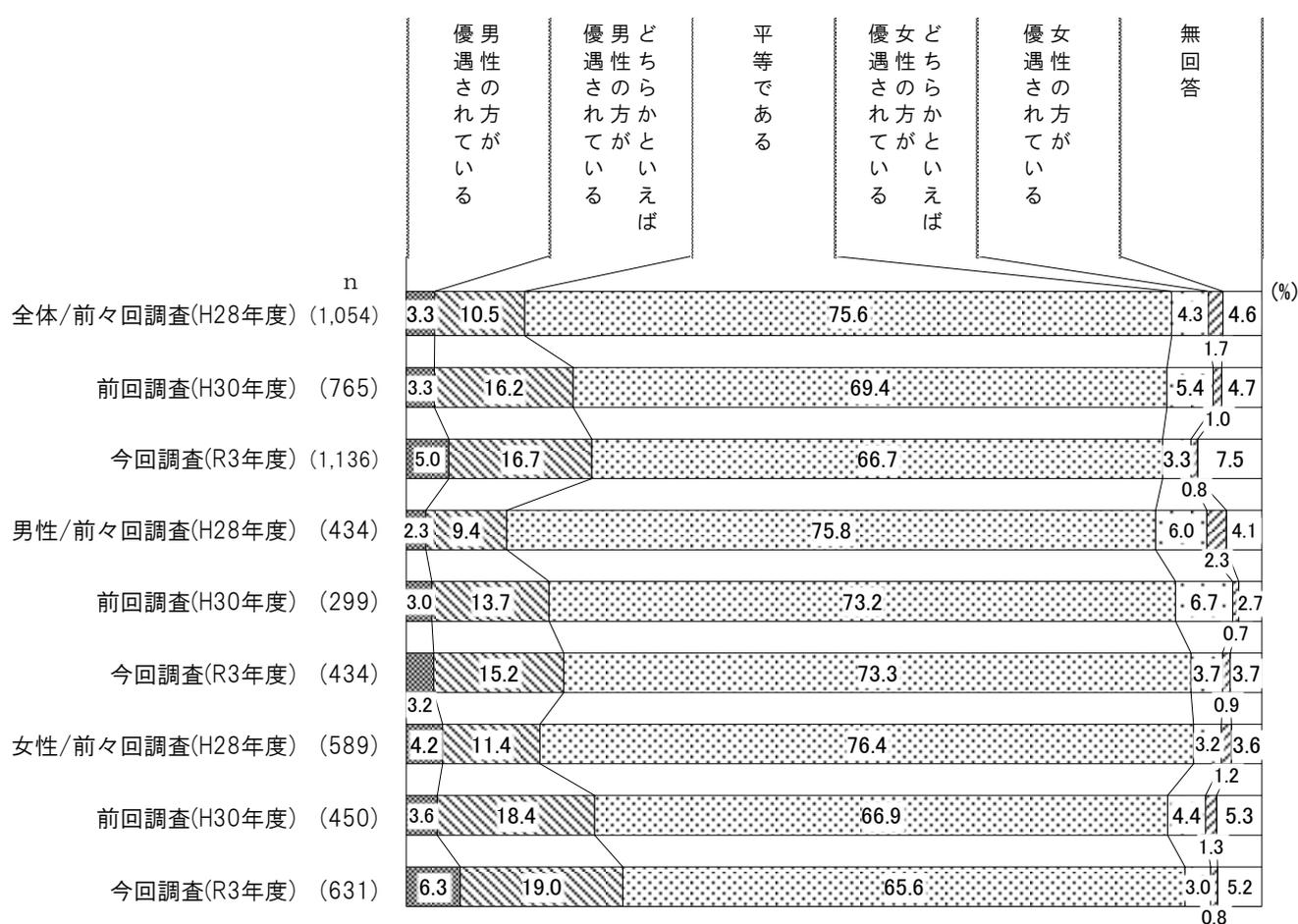
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“学校教育”の平等感については、「平等である」という回答者(66.7%)は6割台半ばを占めており、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が21.7%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】が4.1%となっている。

性別でみると、男女ともに「平等である」(男性73.3%、女性65.6%)が最も多くなっている。

性別・年代別でみると、「平等である」という回答者の割合は、男女ともにおおむね年代が高くなるほど少くなる傾向にある。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 イ 学校教育（経年比較）

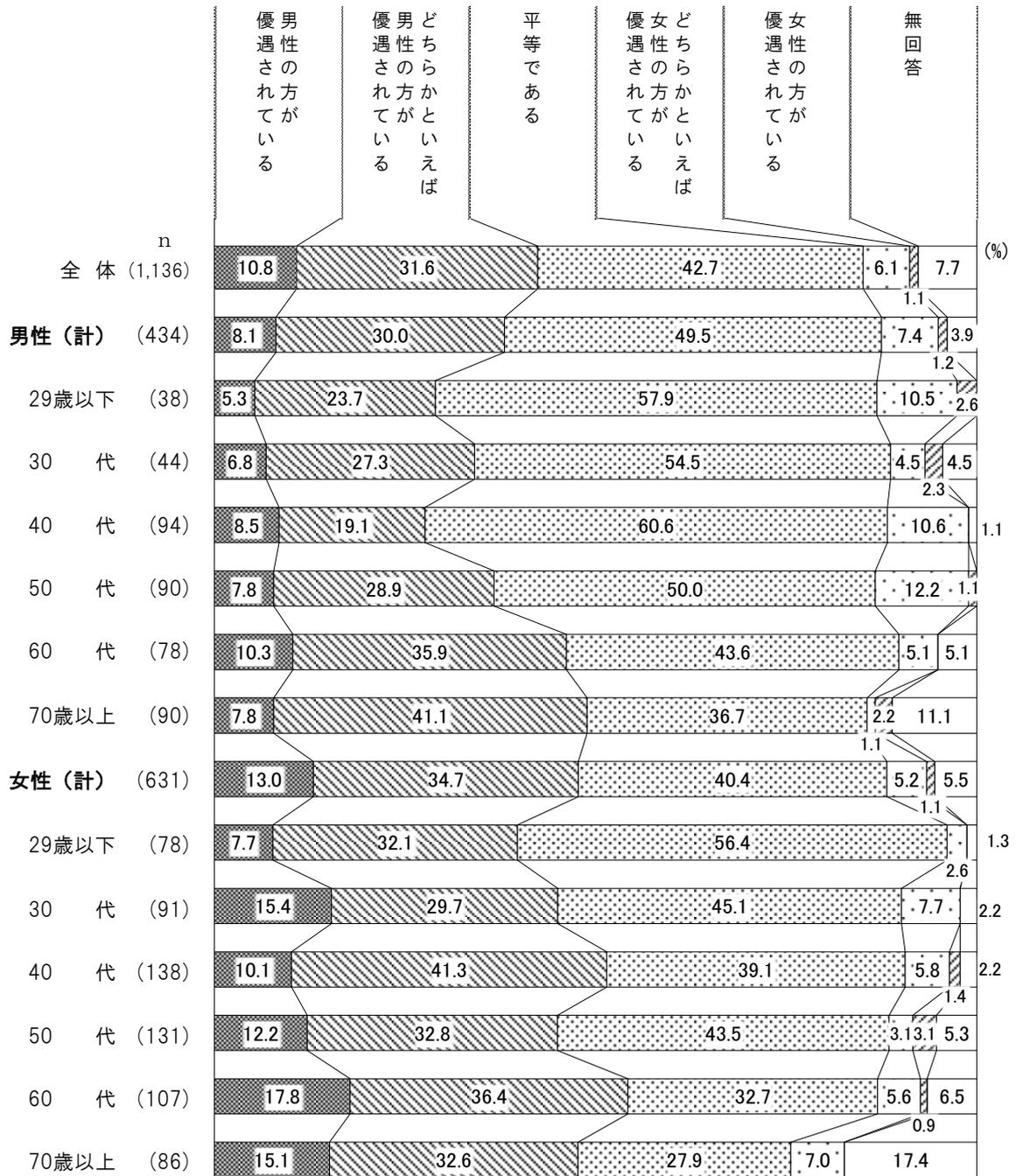


過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回21.7%、前回19.5%)は2.2ポイント増加している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回4.1%、前回6.4%)は2.3ポイント減少している。【平等である】(今回66.7%、前回69.4%)は2.7ポイント減少している。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回18.4%、前回16.7%)は1.7ポイント増加している。女性では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回25.3%、前回22.0%)は3.3ポイント増加している。

ウ 町内会や自治会などの地域活動の場

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ウ 町内会や自治会などの地域活動の場 (性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

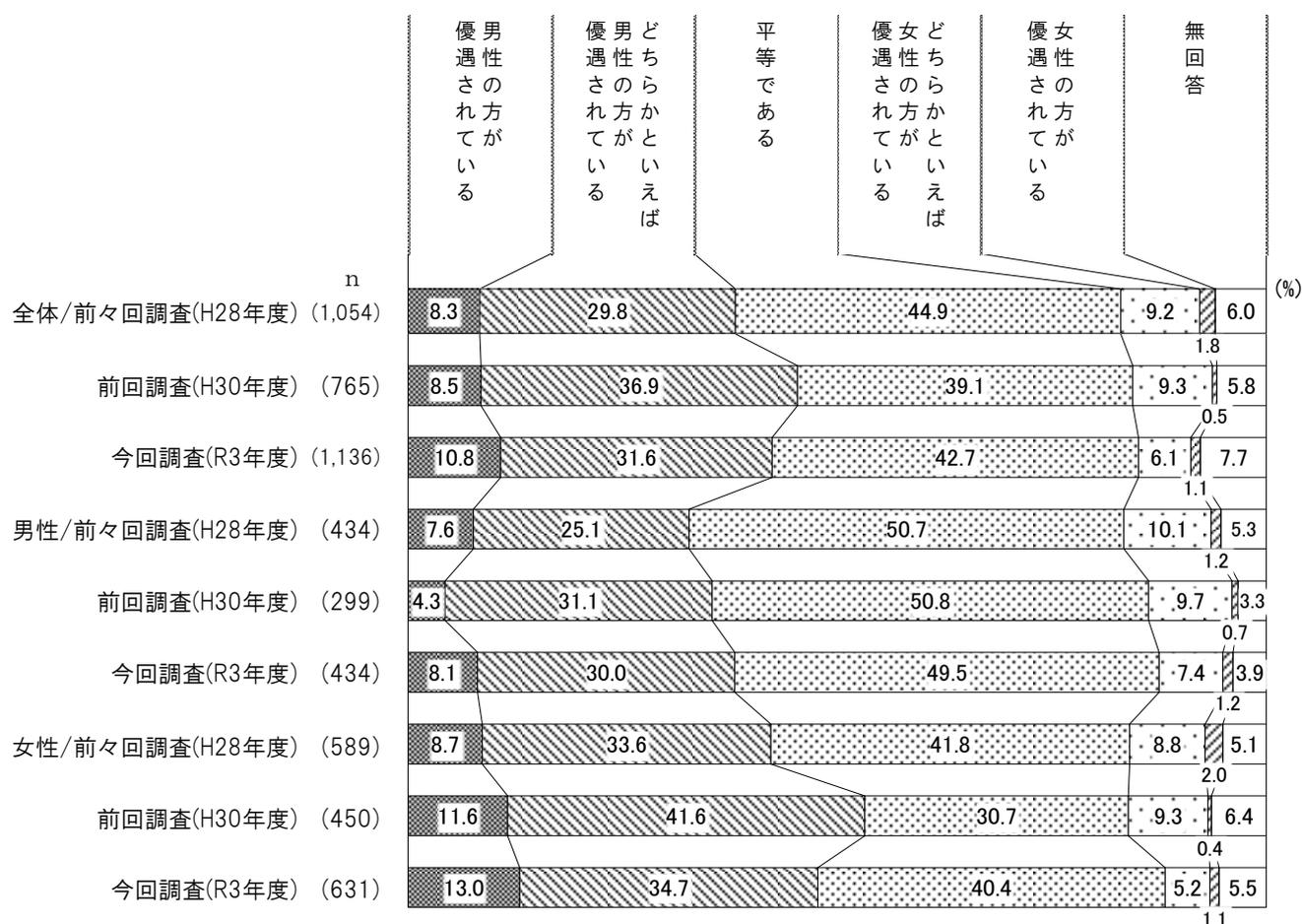
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“町内会や自治会などの地域活動の場”の平等感については、「平等である」(42.7%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(42.4%)がともに4割強となっている。

性別でみると、男性では「平等である」が49.5%と最も多く、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が47.7%と最も多くなっている。

性別・年代別でみると、「平等である」では、男性40代が60.6%と最も多くなっている。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ウ 町内会や自治会などの地域活動の場（経年比較）

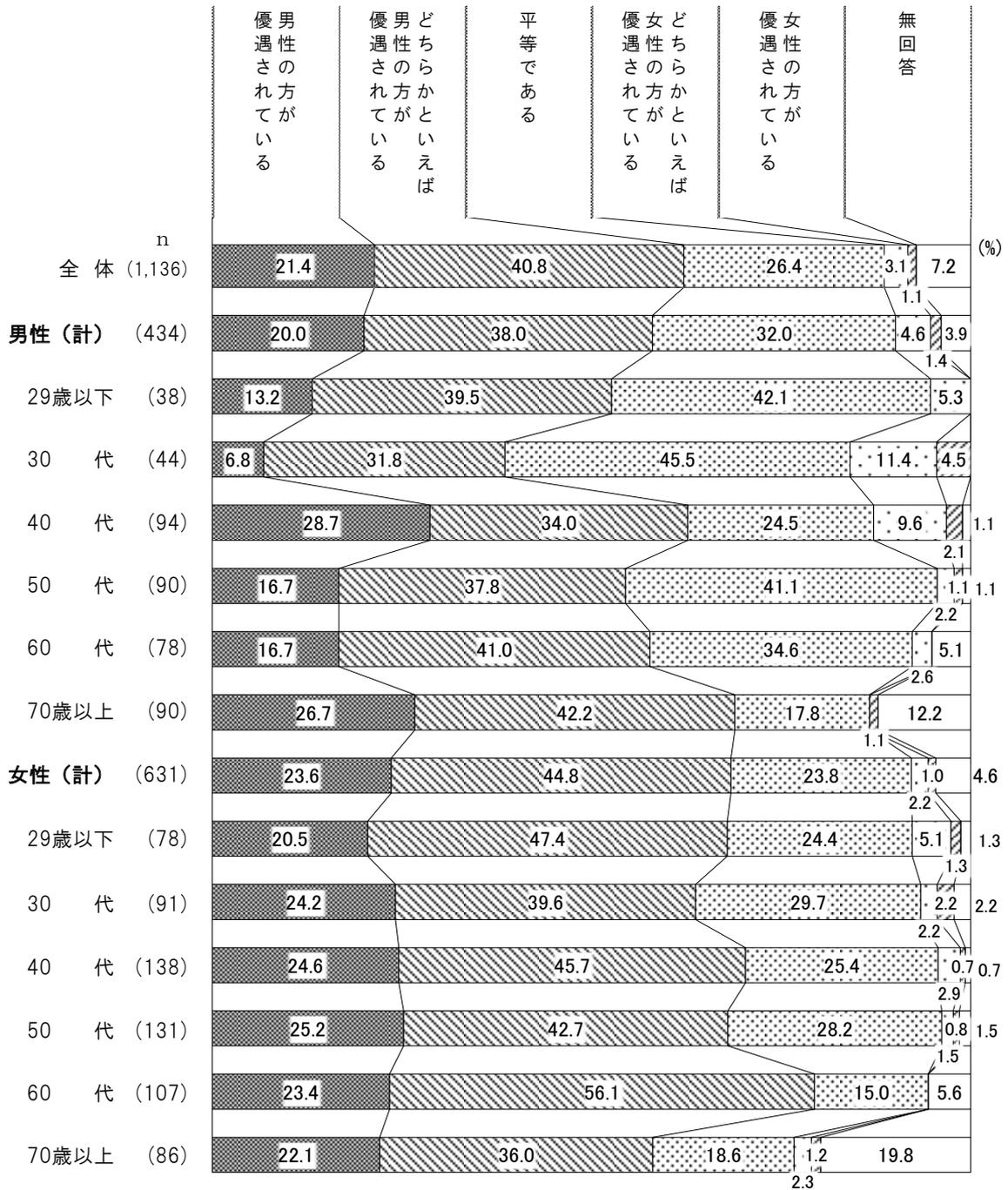


過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回42.4%、前回45.4%)は3.0ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回7.2%、前回9.8%)は2.6ポイント減少している。【平等である】(今回42.7%、前回39.1%)は3.6ポイント増加している。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回38.1%、前回35.4%)は2.7ポイント増加している。女性(今回47.7%、前回53.2%)では5.5ポイント減少している。

工 職 場

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 工 職 場（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

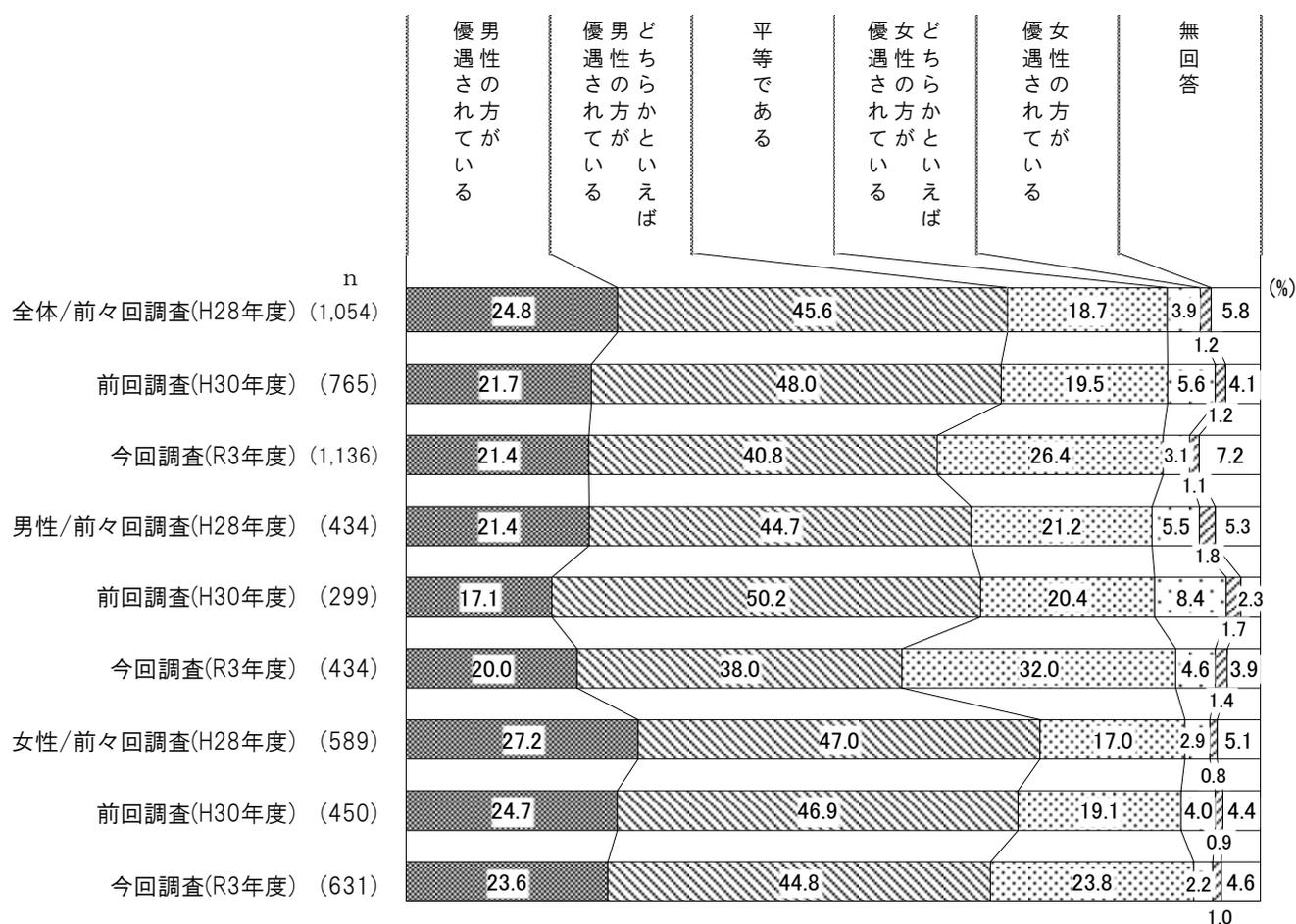
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“職場”の平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】という回答者(62.2%)は6割強を占めており、「平等である」が26.4%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】が4.2%となっている。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が最も多く、男性が58.0%、女性が68.4%と、女性の方が男性よりも10.4ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】では、30代では男性が38.6%、女性が63.8%と、女性の方が男性よりも25.2ポイント上回っている。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 工 職 場 (経年比較)

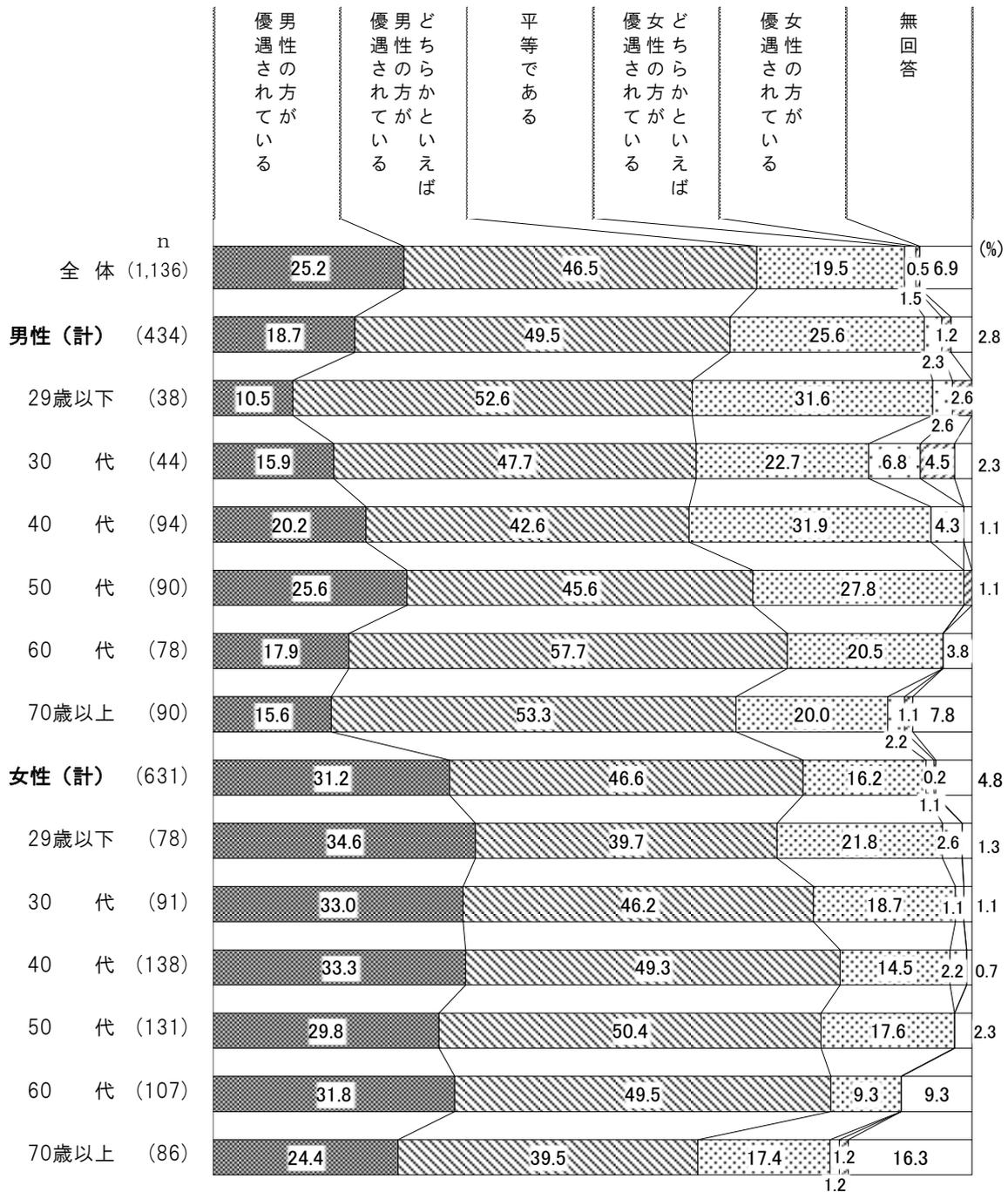


過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回62.2%、前回69.7%)は7.5ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回4.2%、前回6.8%)は2.6ポイント減少している。【平等である】(今回26.4%、前回19.5%)は6.9ポイント増加している。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回58.0%、前回67.3%)は9.3ポイント減少している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回68.4%、前回71.6%)は3.2ポイント減少している。

オ 社会通念・慣習・しきたりなど

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 オ 社会通念・慣習・しきたりなど (性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

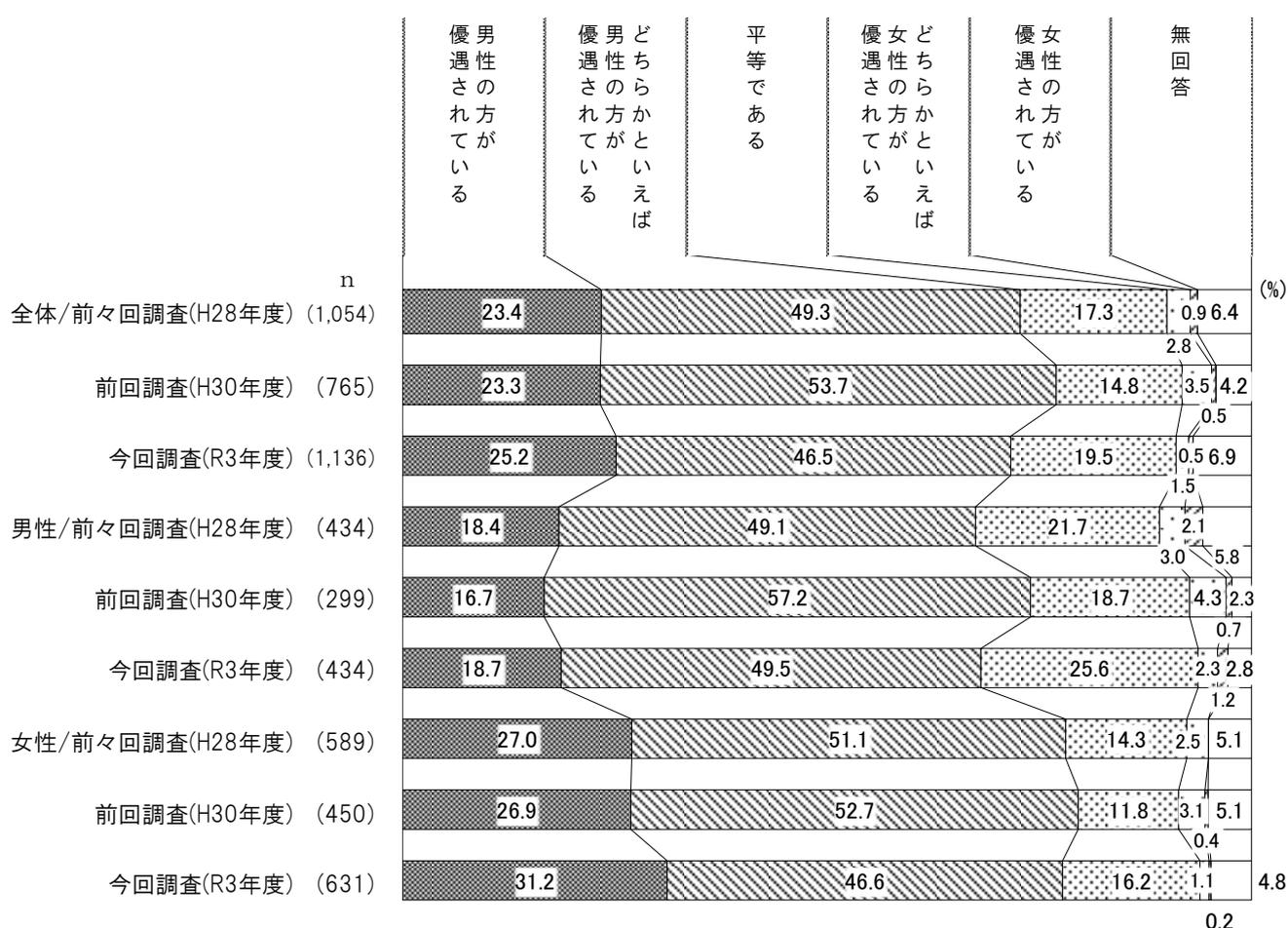
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“社会通念・慣習・しきたりなど”の平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】という回答者(71.7%)は約7割を占めており、「平等である」が19.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】が2.0%となっている。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が最も多く、男性が68.2%、女性が77.8%と、女性が男性を9.6ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】の割合は、おおむね年代が高くなるほど多くなっていく傾向にある。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 オ 社会通念・慣習・しきたりなど（経年比較）

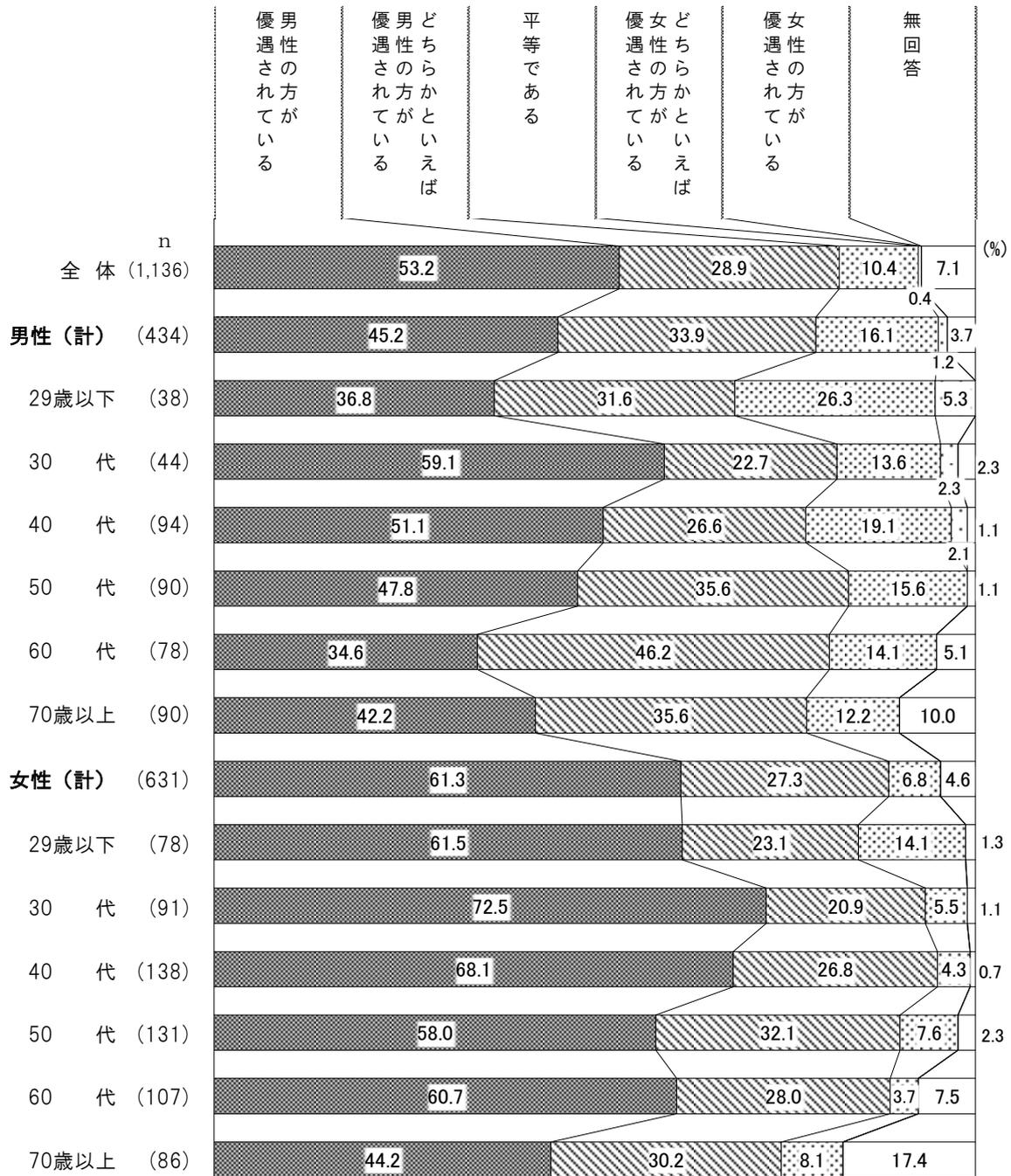


過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回71.7%、前回77.0%)は5.3ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回2.0%、前回4.0%)は2.0ポイント減少している。【平等である】(今回19.5%、前回14.8%)は4.7ポイント増加している。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回68.2%、前回73.9%)は5.7ポイント減少している。女性(今回77.8%、前回79.6%)では1.8ポイント減少している。

力 政治の場（政界）

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 力 政治の場（政界）（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

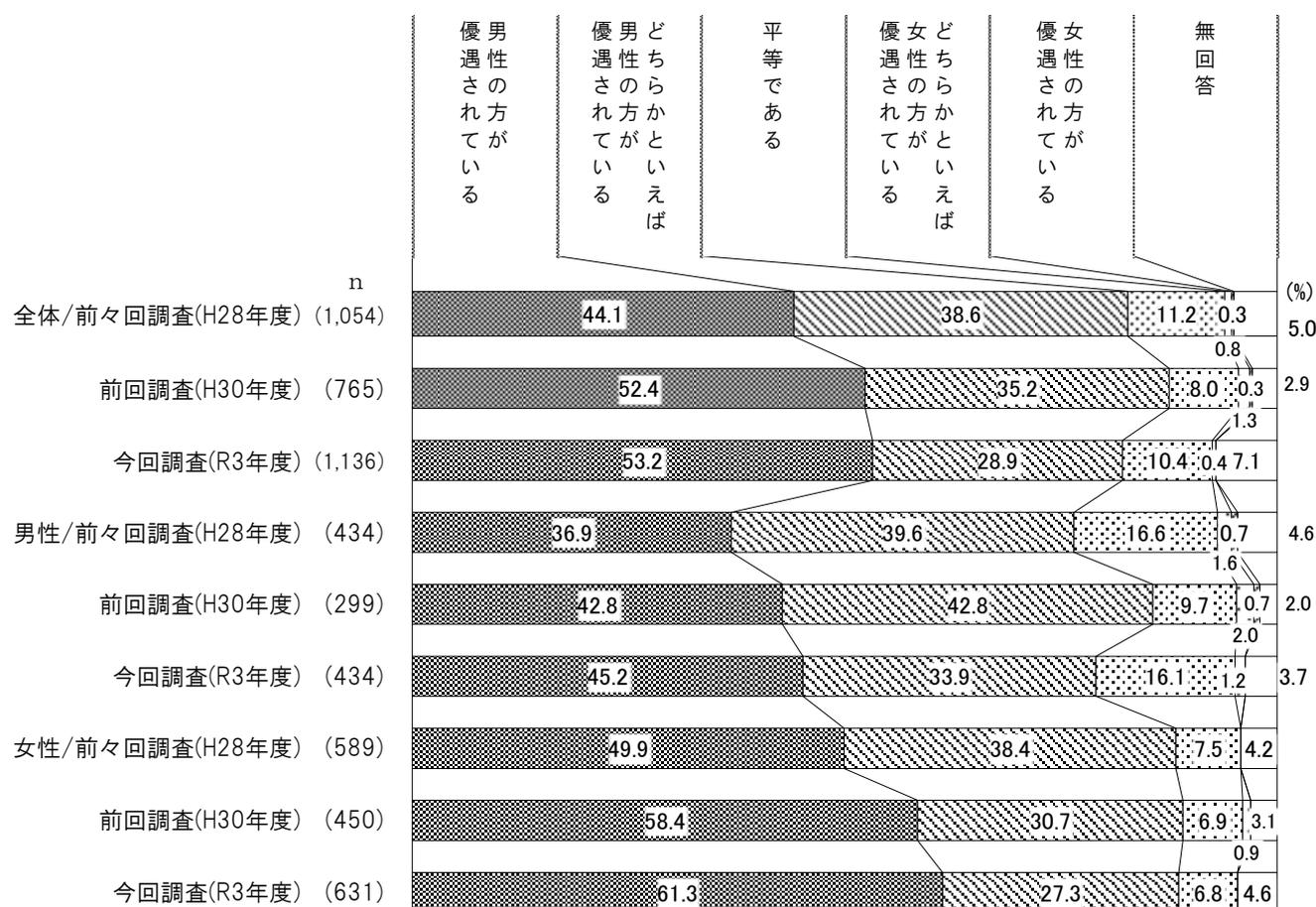
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“政治の場(政界)”の平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】という回答者(82.1%)は8割強を占めており、「平等である」が10.4%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】がわずか0.4%となっている。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が最も多く、男性が79.1%、女性が88.6%と、女性が男性を9.5ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】の割合は、女性40代では94.9%と9割以上を占めている。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 カ 政治の場(政界) (経年比較)

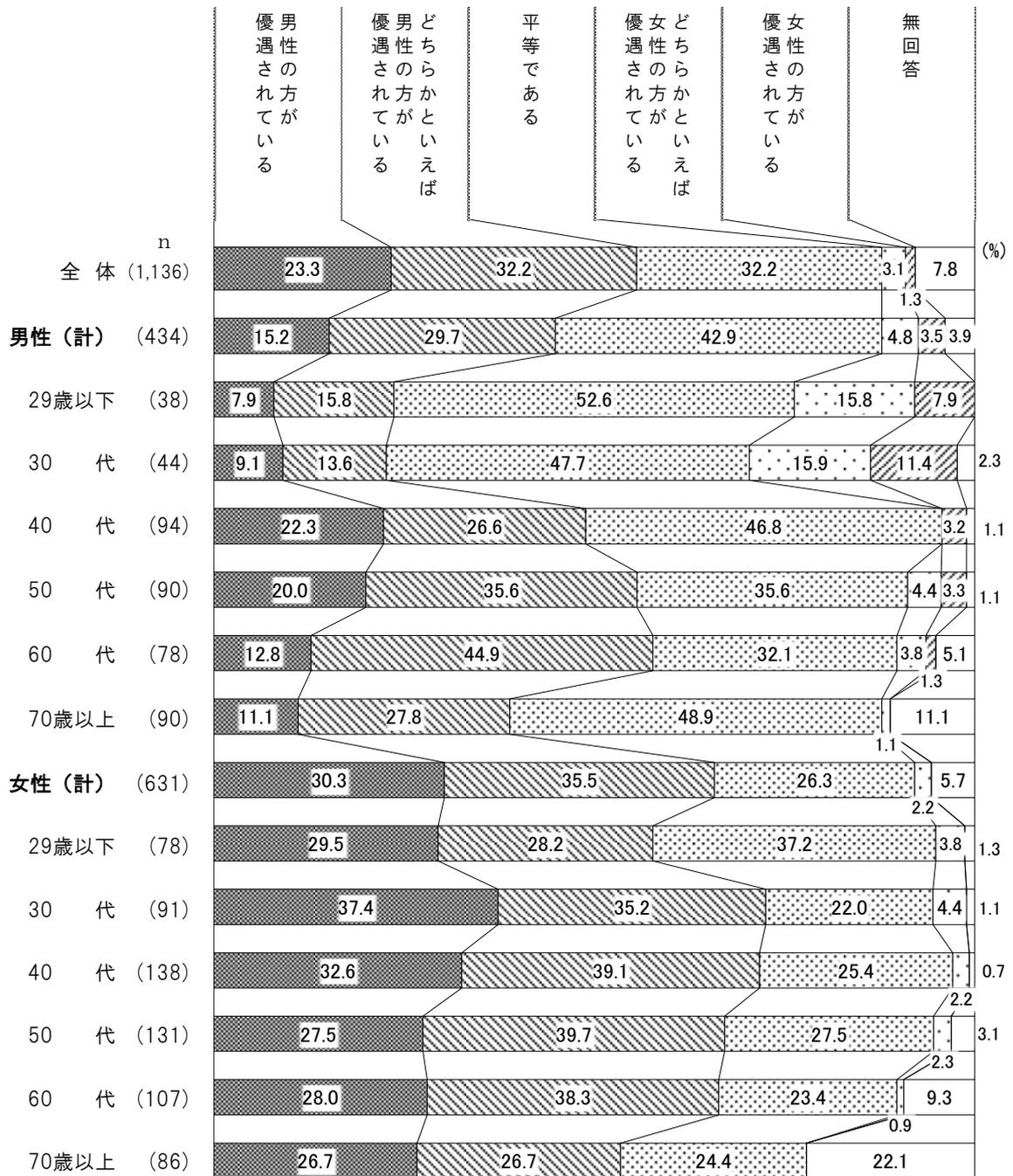


過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回82.1%、前回87.6%)は5.5ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回0.4%、前回1.6%)は1.2ポイント減少している。【平等である】(今回10.4%、前回8.0%)は2.4ポイント増加している。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回79.1%、前回85.6%)は6.5ポイント減少している。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回88.6%、前回89.1%)は0.5ポイント減少している。

キ 法律や制度

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 キ 法律や制度 (性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

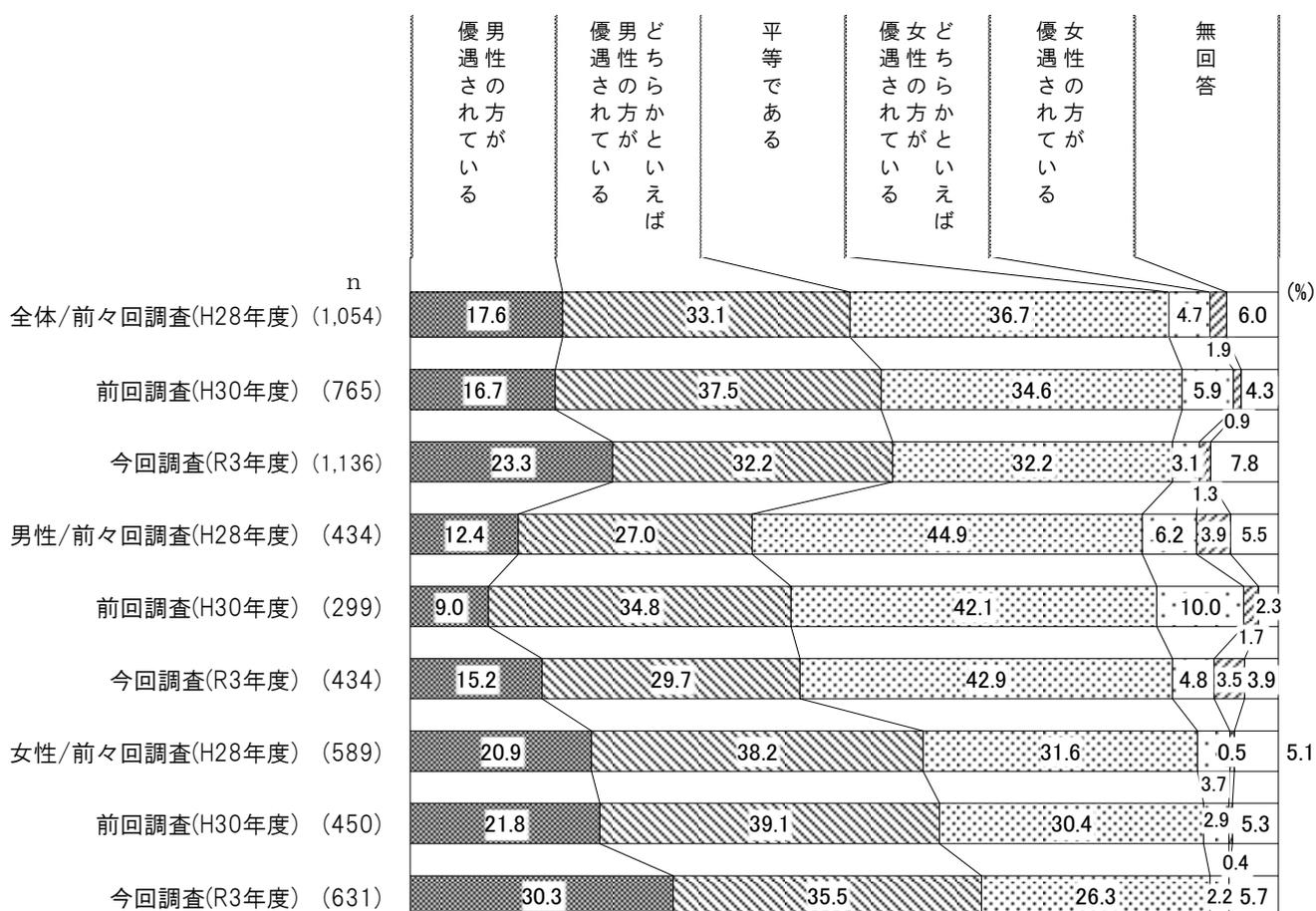
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“法律や制度”の平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(55.5%)が半数を占めており、「平等である」が32.2%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】が4.4%となっている。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(44.9%)と「平等である」(42.9%)がともに4割と多いのに対し、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が65.8%と最も多くなっている。

性別・年代別でみると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】の割合は、女性の30代が72.6%と最も多くなっている。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 キ 法律や制度 (経年比較)

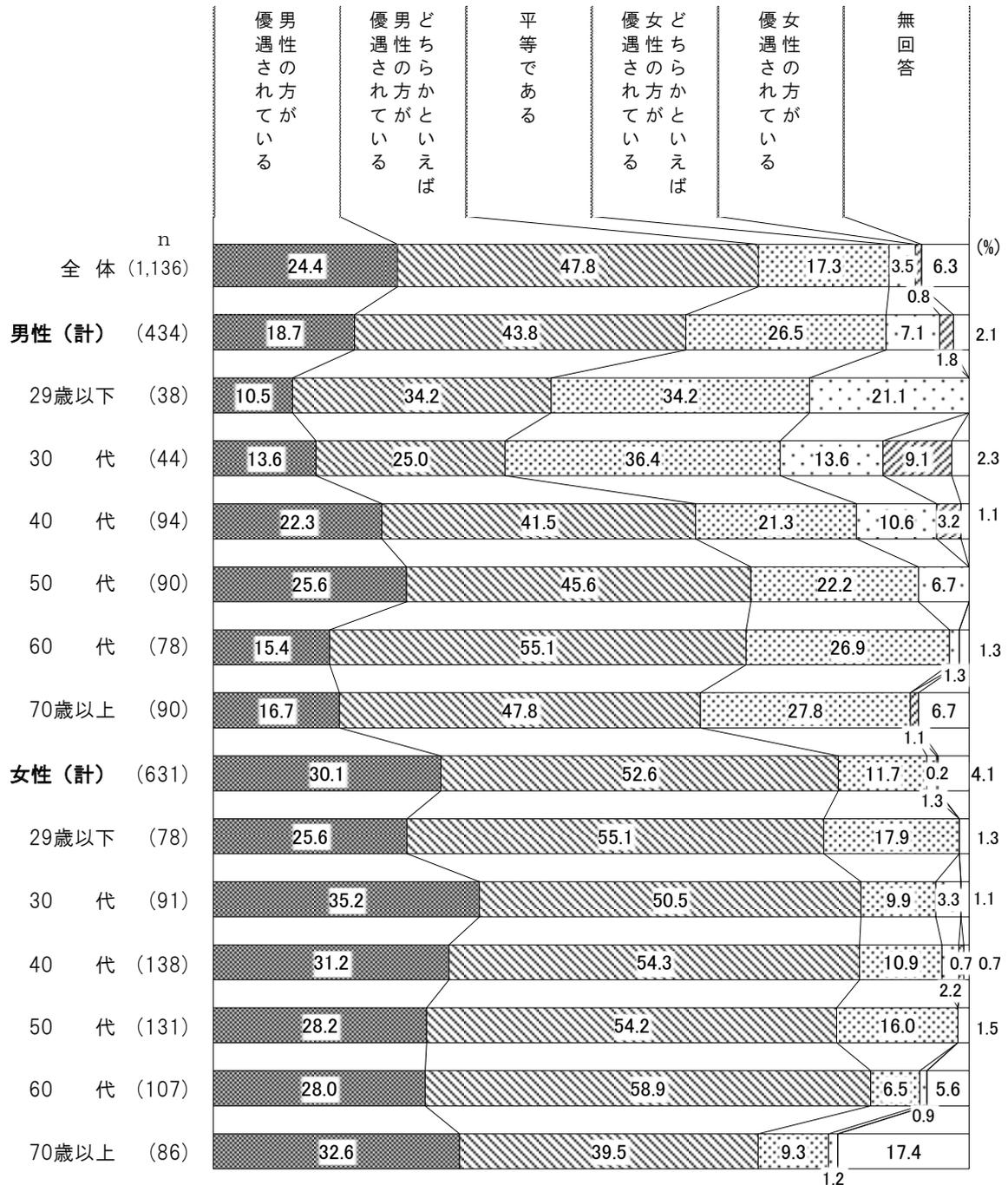


過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回55.5%、前回54.2%)は1.3ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回4.4%、前回6.8%)は2.4ポイント減少している。【平等である】(今回32.2%、前回34.6%)は2.4ポイント減少している。

性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回44.9%、前回43.8%)は1.1ポイント増加している。女性(今回65.8%、前回60.9%)では4.9ポイント増加している。

ク 社会全体として

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ク 社会全体として（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

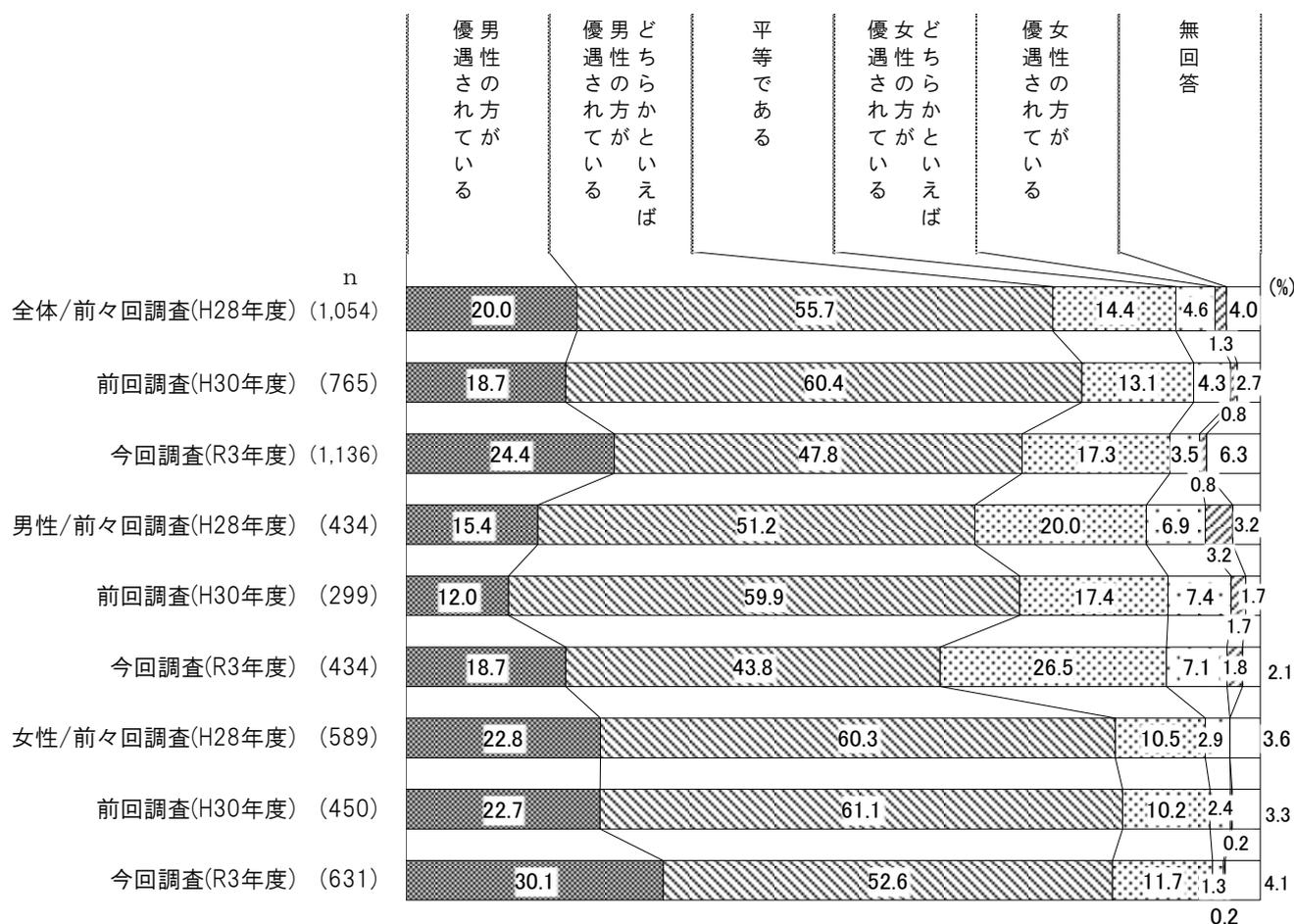
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

“社会全体として”の平等感については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】という回答者(72.2%)は7割強を占めており、「平等である」が17.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】が4.3%となっている。

性別でみると、男女ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】が最も多く、男性が62.5%、女性が82.7%と、女性が男性を20.2ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】の割合は、70歳以上を除いたすべての年代で8割を超えている。

図表 分野別にみた男女の地位の平等感 ク 社会全体として（経年比較）



過去調査と比較すると、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回72.2%、前回79.1%)は6.9ポイント減少している。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回4.3%、前回5.1%)は0.8ポイント減少している。【平等である】(今回17.3%、前回13.1%)は4.2ポイント増加している。

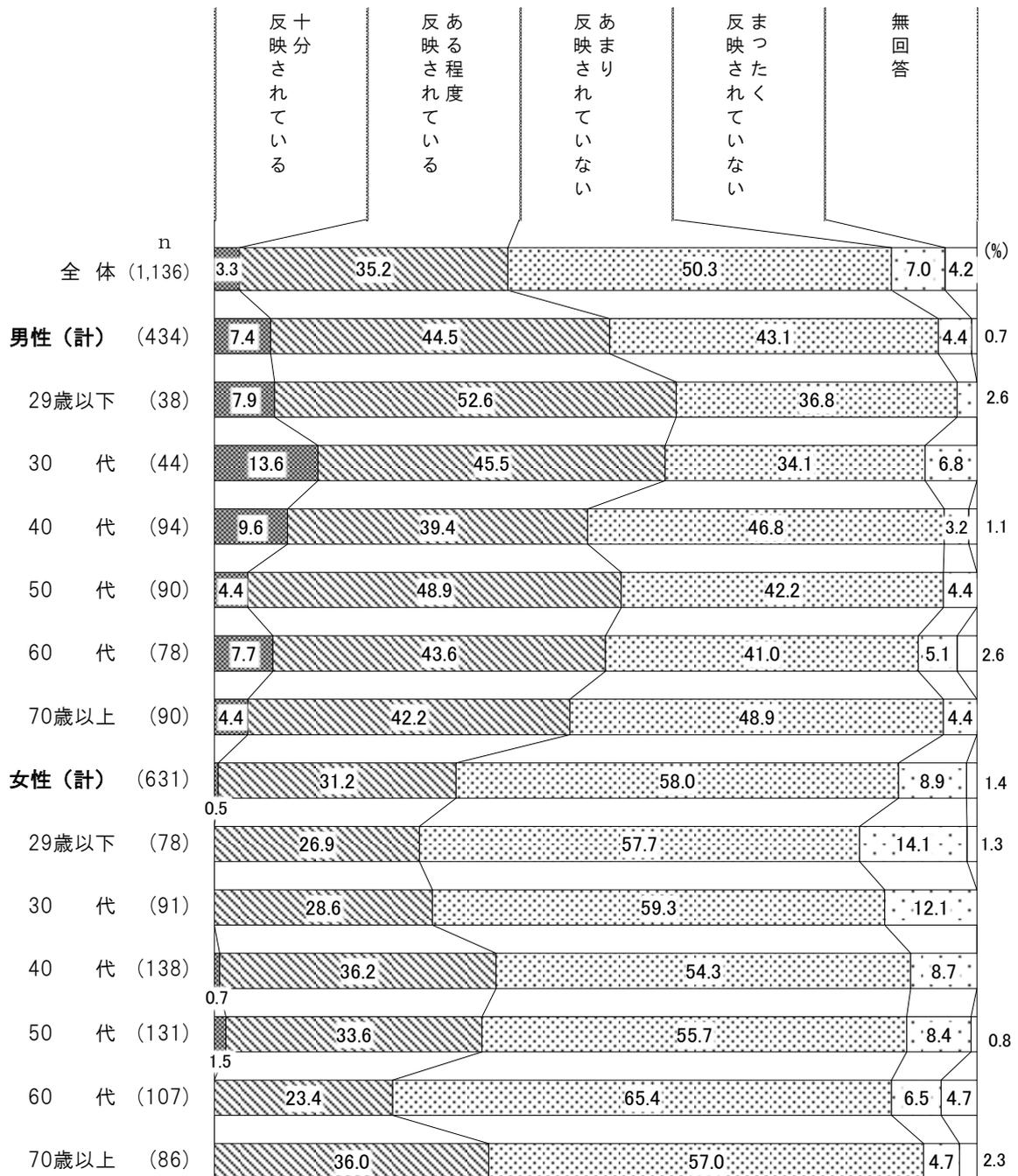
性別でみると、男性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む【男性の方が優遇されている】(今回62.5%、前回71.9%)は9.4ポイント減少している。女性では「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を含む【女性の方が優遇されている】(今回82.7%、前回83.8%)では1.1ポイント減少している。

(2) 行政における女性の意見の反映度合

■ 反映と評価する人が4割弱である一方、反映されていないが6割弱

問16 あなたは、女性の意見が、行政（国や地方自治体）にどの程度反映されていると感じますか（○は1つ）。

図表 行政における女性の意見の反映度合（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

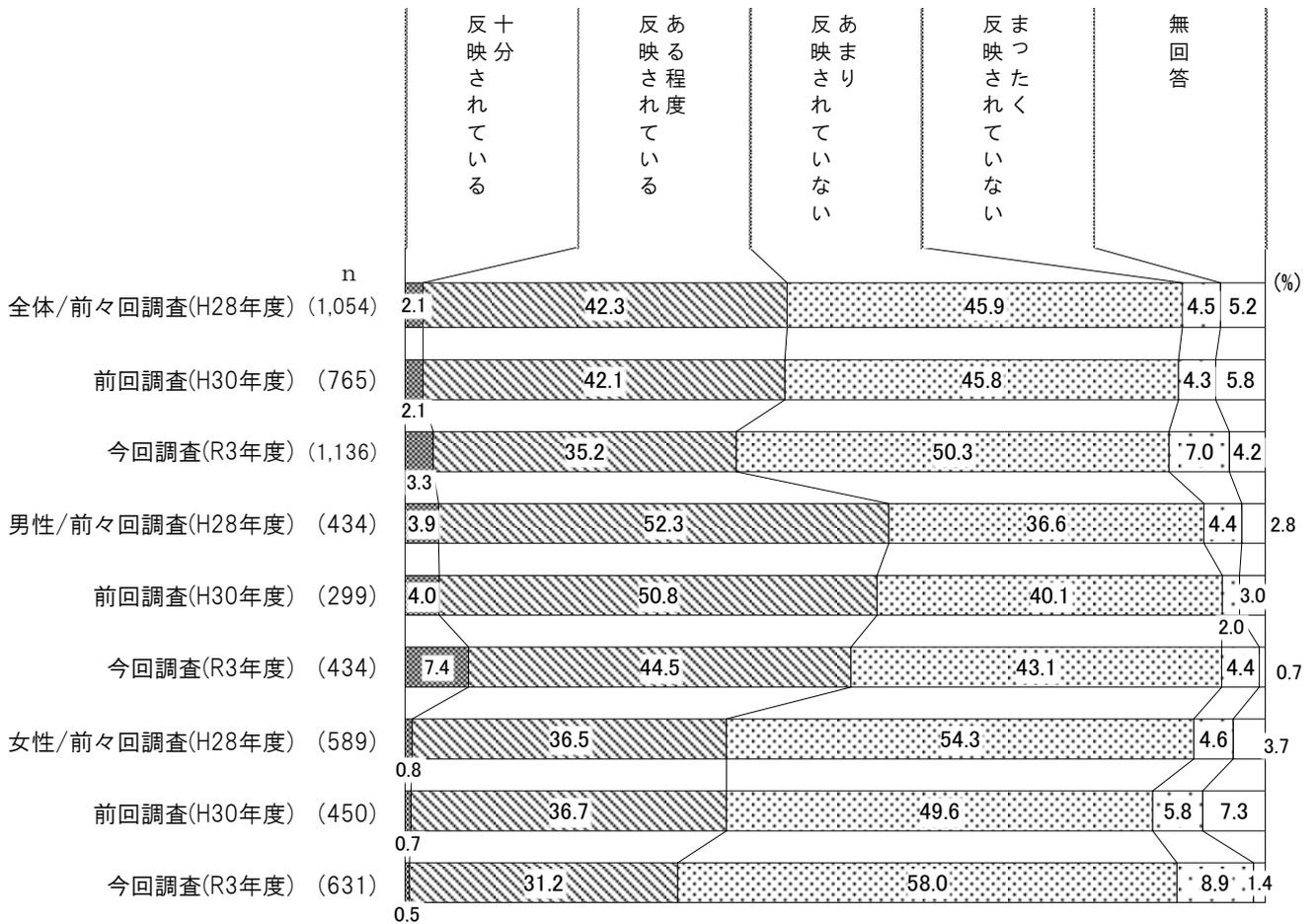
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

女性の意見が、行政に「ある程度反映されている」を含む【女性の意見が反映されている】(38.5%)と感じる回答者は、4割弱となっている。一方、「あまり度反映されていない」を含む【女性の意見が反映されていない】(57.3%)と感じる回答者が、6割弱を占めている。

性別でみると、行政に「ある程度反映されている」を含む【女性の意見が反映されている】と感じる回答者は、男性の過半数(51.9%)を占めている。一方、「あまり程度反映されていない」を含む【女性の意見が反映されていない】と感じる回答者は、女性の6割台半ば(66.9%)と評価が逆転している。

性別・年代別でみると、行政に「ある程度反映されている」を含む【女性の意見が反映されている】と感じる回答者は、29歳以下の男性で60.5%と多くなっているが、「あまり程度反映されていない」を含む【女性の意見が反映されていない】と感じる回答者は、29歳以下の女性で71.8%となっており、評価が逆転している。

図表 行政における女性の意見の反映度合（経年比較）



過去調査と比較すると、全体では「ある程度反映されている」を含む【反映されている】(今回38.5%、前回44.2%)は5.7ポイント減少している。一方、「あまり反映されていない」を含む【反映されていない】(今回57.3%、前回50.1%)は7.2ポイント増加している。

性別で見ると、男性では「ある程度反映されている」を含む【反映されている】(今回51.9%、前回54.8%)は微減している。女性(今回31.7%、前回37.4%)では5.7ポイント減少している。

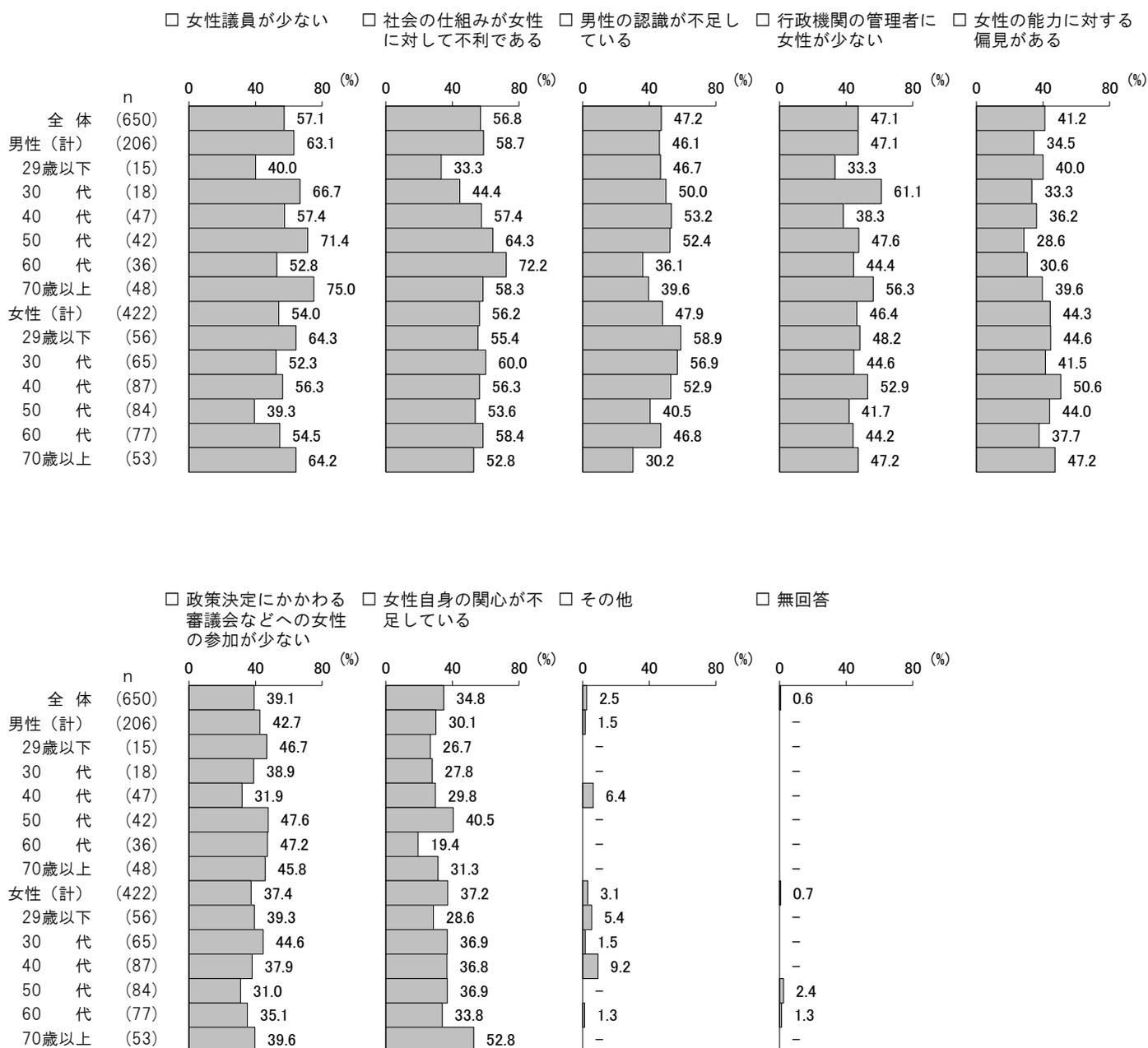
(3) 女性の意見が行政に反映されていないと考える理由

■ 「女性議員が少ない」「社会の仕組みが女性に対して不利である」が5割台

問16で「3 あまり反映されていない」「4 まったく反映されていない」と回答した方にお聞きします。

問16-1 女性の意見が行政（国や地方自治体）に反映されていないと考える理由は何ですか（〇はいくつでも）。

図表 女性の意見が行政に反映されていないと考える理由（性別・年代別）

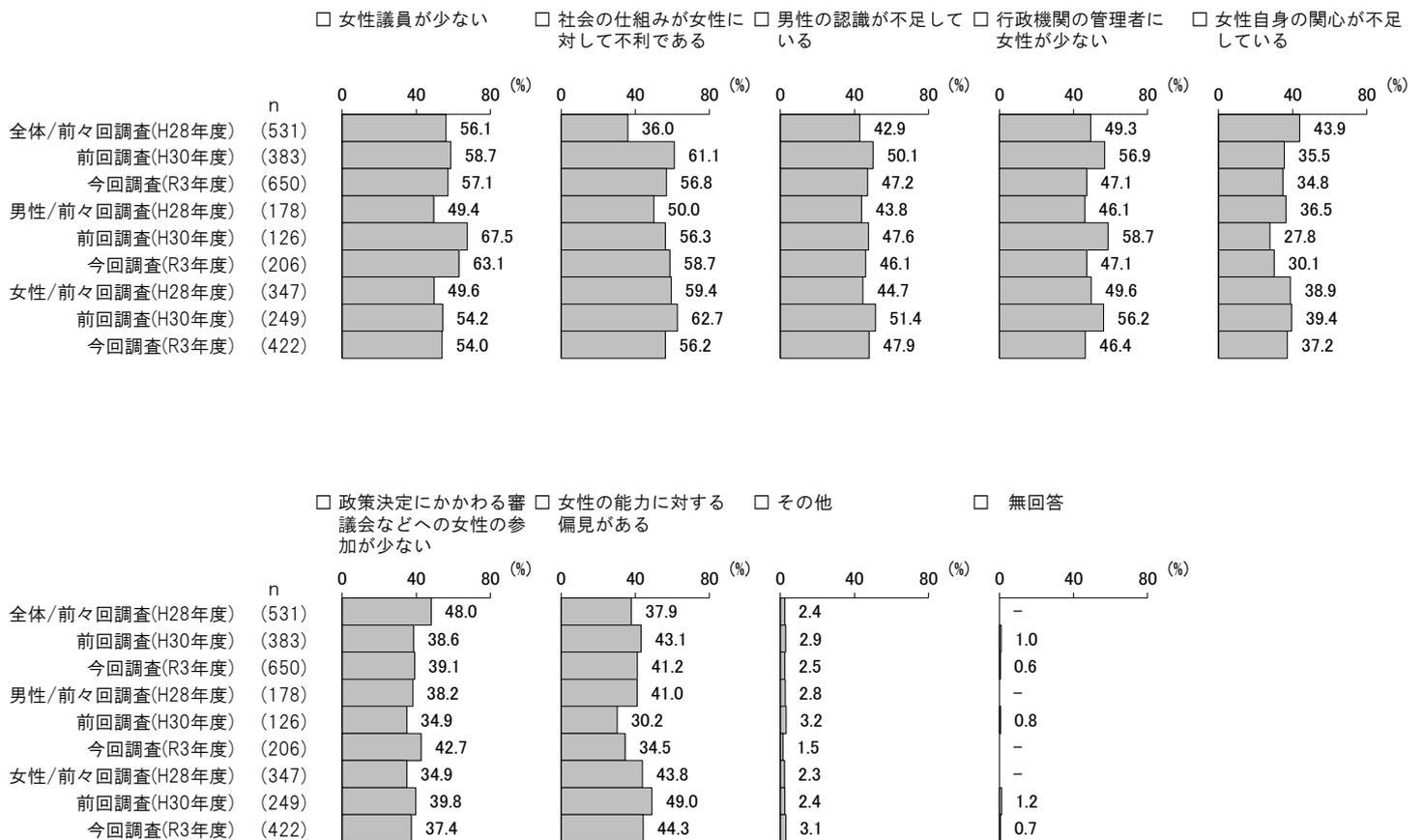


女性の意見が行政に反映されていないと考える回答者(650人)の理由としては、「女性議員が少ない」(57.1%)と「社会の仕組みが女性に対して不利である」(56.8%)が5割台で特に多くなっている。

性別でみると、男性では「女性議員が少ない」が63.1%と最も多くなっている。女性では「社会の仕組みが女性に対して不利である」が56.2%と最も多くなっている。また、「女性の能力に対する偏見がある」(男性34.5%、女性44.3%)では、女性が男性を9.8ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「女性議員が少ない」は、男性の50代(71.4%)と70歳以上(75.0%)で7割を超えて特に多くなっている。

図表 女性の意見が行政に反映されていないと考える理由（経年比較）



過去調査と比較すると、全体では「行政機関の管理者に女性が少ない」(今回47.1%、前回56.9%)は9.8ポイント減少している。

性別でみると、男女ともに「行政機関の管理者に女性が少ない」が男性は11.6ポイント(今回47.1%、前回58.7%)、女性は9.8ポイント(今回46.4%、前回56.2%)減少している。

第2章 調査結果の詳細

第2章-3 社会における男女共同参画の推進

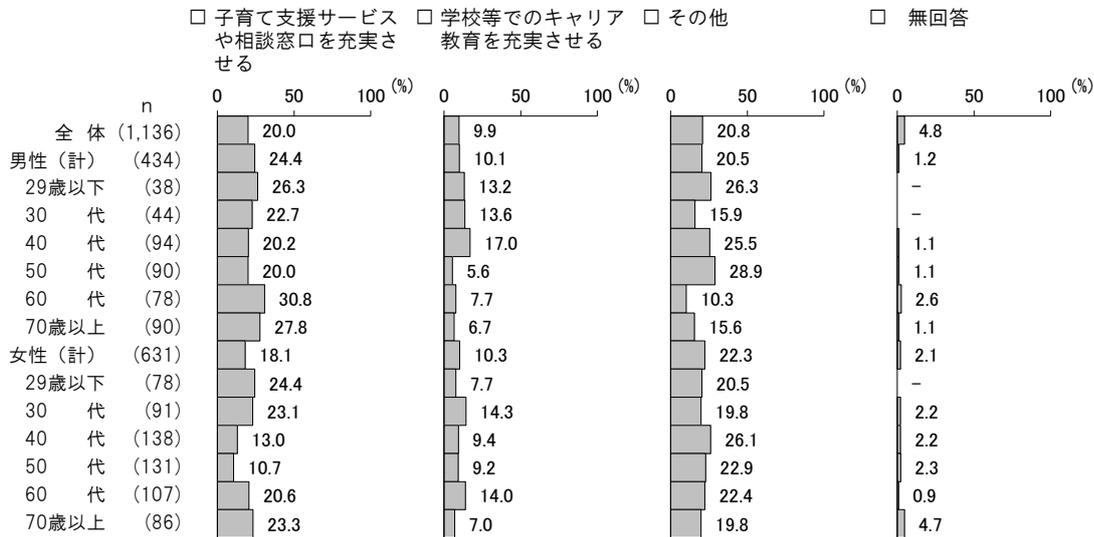
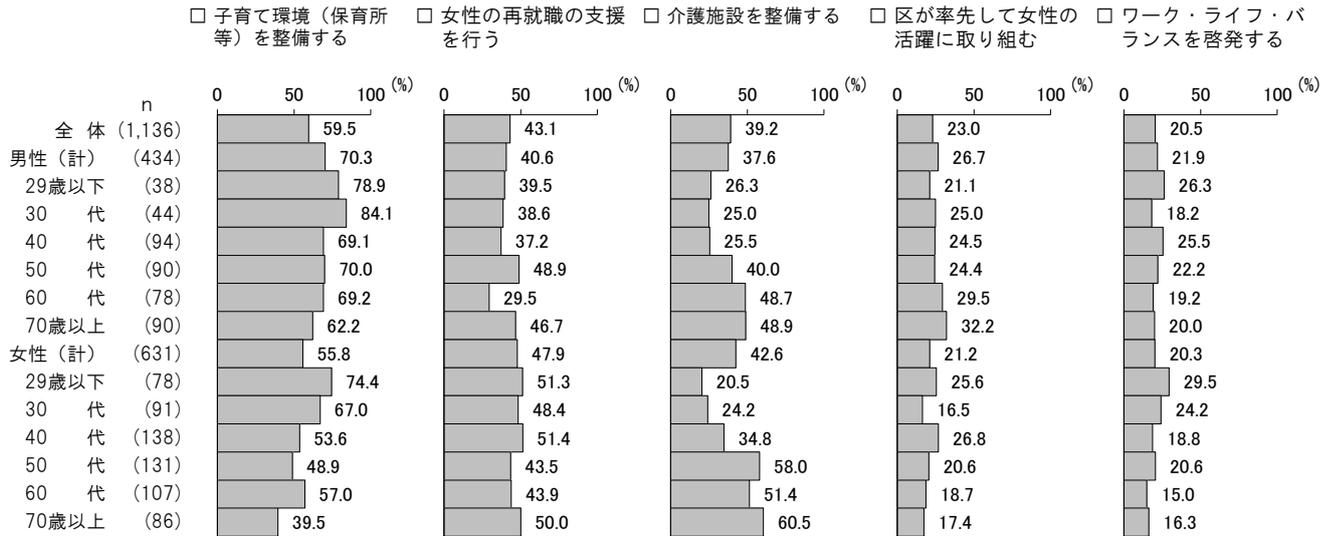
(4) 女性活躍推進のために特に区に期待すること

■ 「子育て環境の整備」が約6割で最多

すべての方にお聞きします。

問17 女性活躍推進のために、あなたが特に区に期待することは何ですか（〇は3つまで）。

図表 女性活躍推進のために特に区に期待すること（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

経営者向けのセミナーなどを開催する／女性従業員に向けた人材育成セミナーや研修会の開催／女性同士の情報交換の場やネットワークづくりの支援

女性活躍推進のために特に区に期待することとしては、「子育て環境(保育所等)を整備する」が59.5%と特に多くあげられており、「女性の再就職の支援を行う」(43.1%)と「介護施設を整備する」(39.2%)が4割前後で続いている。

性別で見ると、男女ともに「子育て環境(保育所等)を整備する」(男性70.3%、女性55.8%)と「女性の再就職支援を行う」(男性40.6%、女性47.9%)が、上位2位項目にあげられている。

性別・年代別で見ると、「子育て環境(保育所等)を整備する」は、男性の30代(84.1%)が8割台半ばと特に多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

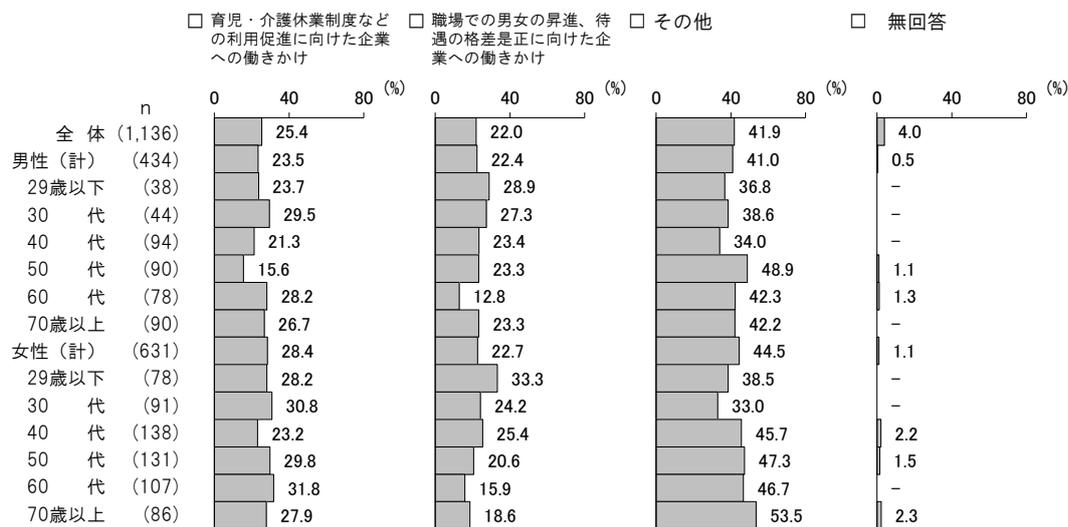
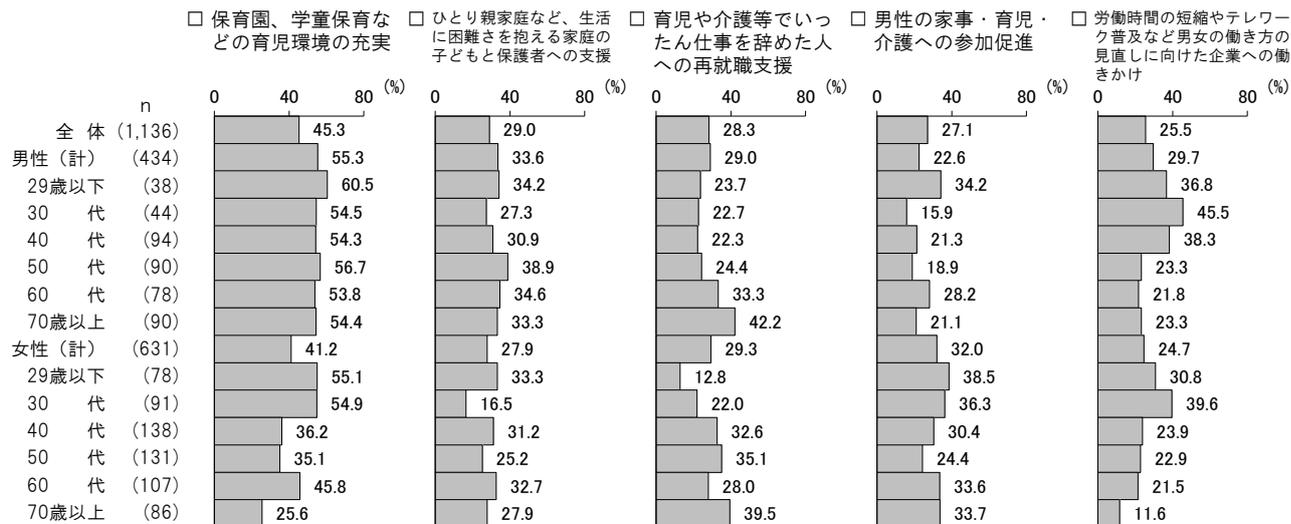
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

(5) 足立区における「男女共同参画社会の実現」のために力を入れるべきこと

■ 「保育園等育児環境の充実」が4割を超え最多

問18 足立区は、性別に関係なく、家庭・地域・仕事の場でお互いを認め合って、責任を分かち合う、「男女共同参画社会の実現」を目指しています。そのために、足立区では、どのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか（〇は3つまで）。

図表 足立区における「男女共同参画社会の実現」のために力を入れるべきこと（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

男女平等や女性活躍推進に関する学習機会の充実／ホームヘルパーや福祉施設の充実／LGBT等多様な性についての理解促進／健(検)診事業やリプロダクティブヘルス&ライツの啓発など、こころとからだの健康づくり／防災女性リーダーの育成など、多様な経験や意見を生かした災害対策の推進

足立区における「男女共同参画社会の実現」のために力を入れるべきこととしては、「保育園、学童保育など育児環境の充実」が45.3%で最も多くあげられ、以下「ひとり親家庭など、生活に困難さを抱える家庭の子どもと保護者への支援」(29.0%)、「育児や介護等でいったん仕事を辞めた人への再就職支援」(28.3%)、「男性の家事・育児・介護への参加促進」(27.1%)などが約3割で続き、就労と子育ての両立支援が上位にあげられている。

性別で見ると、男女ともに「保育園、学童保育など育児環境の充実」(男性55.3%、女性41.2%)が第1位としてあげられているほか、男性では「ひとり親家庭など、生活に困難さを抱える家庭の子どもと保護者への支援」が33.6%、女性では「男性の家事・育児・介護への参加促進」が32.0%で第2位としてあげられている。

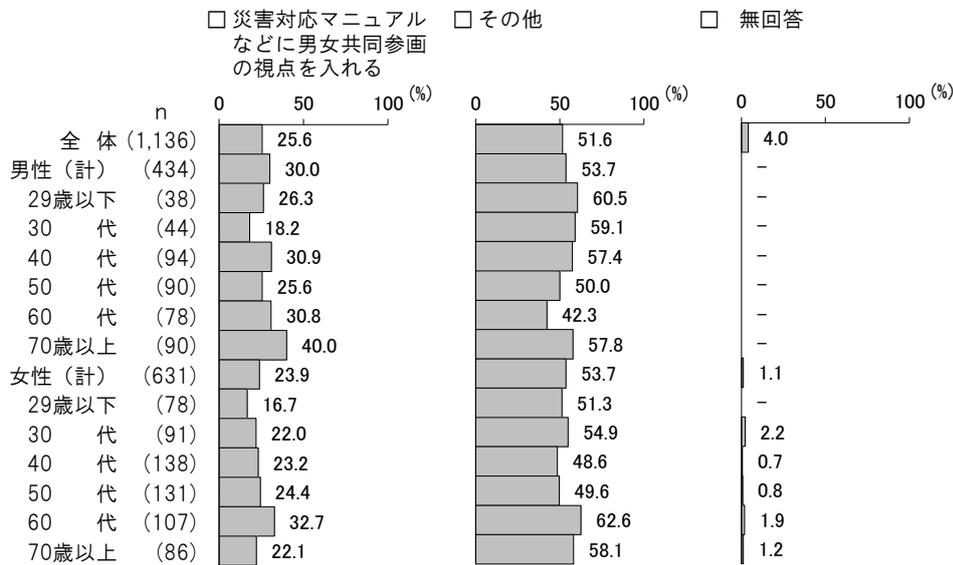
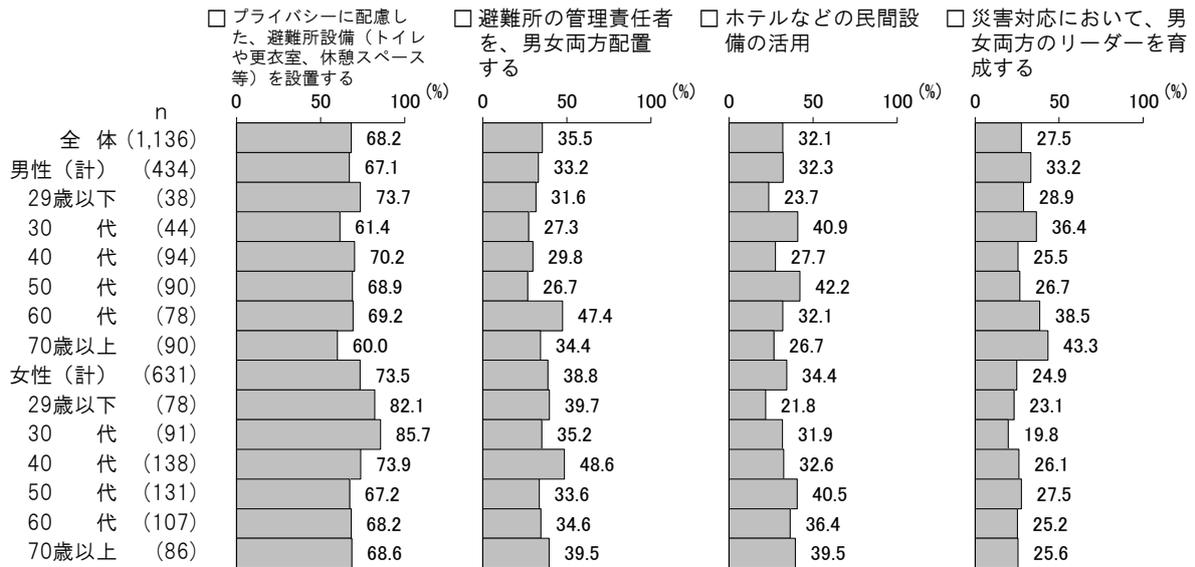
性別・年代別で見ると、「保育園、学童保育など育児環境の充実」では、男性の29歳以下(60.5%)で6割と特に多くなっている。

(6) 性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこと

■ 「プライバシーに配慮した避難所設備の設置」が約7割で最多

問19 あなたは性別にとらわれない防災対策や避難所の運営について、どのようなことが特に重要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこと（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

防災会議等に女性委員を増やす／避難所での悩みに対応する相談窓口やプライバシーに配慮した相談窓口の設置／女性や子供に対する暴力を防ぐ対応策を講じる

性別にとらわれない防災対策や避難所の運営で特に重要だと思うこととしては、「プライバシーに配慮した、避難所設備(トイレや更衣室、休憩スペース等)を設置する」(68.2%)が7割弱と最も多く、「避難所の管理責任者を、男女両方配置する」(35.5%)、「ホテルなどの民間設備の活用」(32.1%)も3割台で多くなっている。

性別で見ると、男女ともに「プライバシーに配慮した、避難所設備(トイレや更衣室、休憩スペース等)を設置する」が最も多くなっている。また、「災害対応において、男女両方のリーダーを育成する」(男性33.2%、女性24.9%)では、男性が女性を8.3ポイント上回っている。

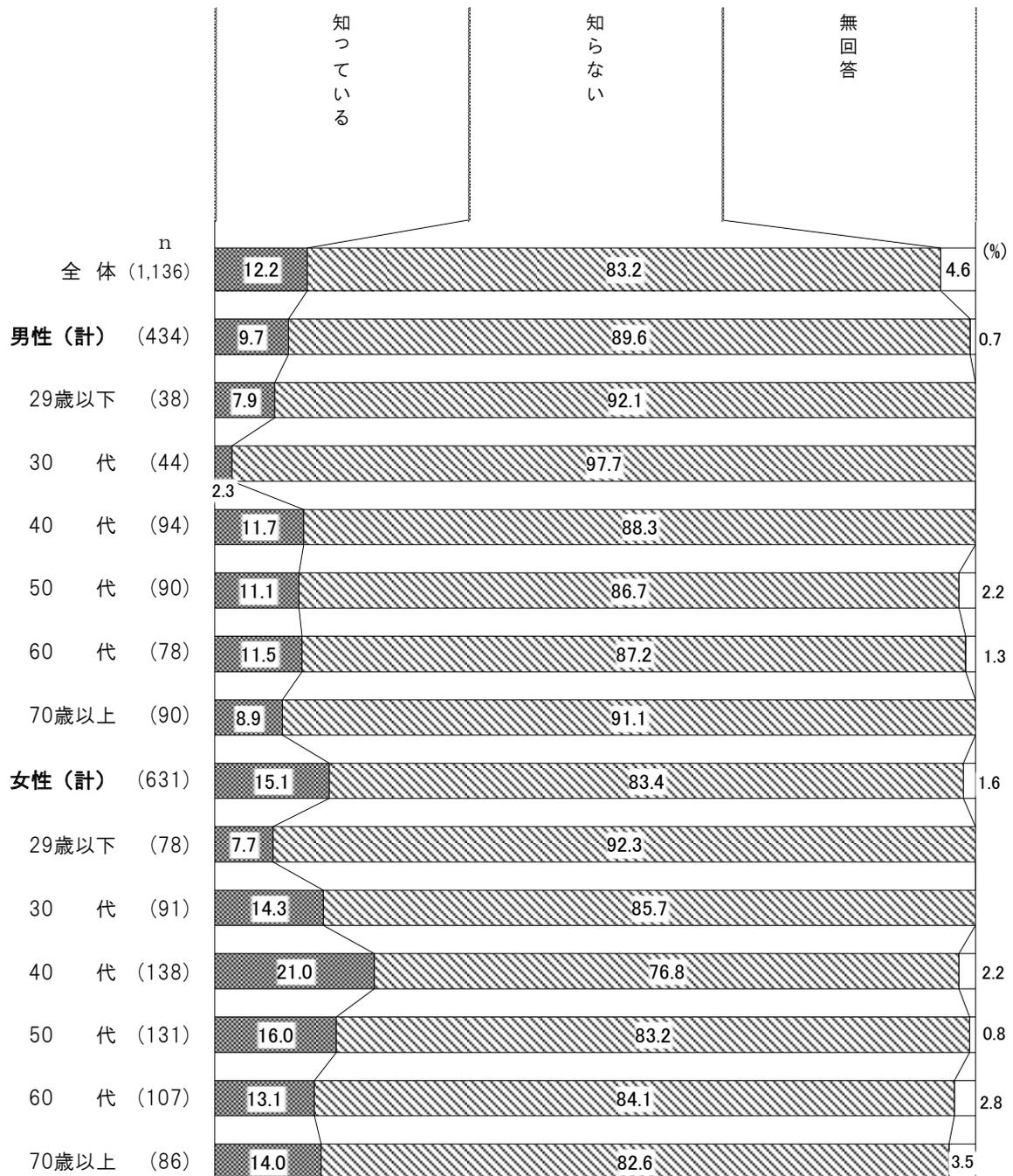
性別・年代別で見ると、「プライバシーに配慮した、避難所設備(トイレや更衣室、休憩スペース等)を設置する」は、女性の29歳以下(82.1%)と30代(85.7%)で8割台と特に多くなっている。

(7) 「男女参画プラザ」の認知度

■ 知っている人は1割にとどまり、知らない人が8割を超える

問20 あなたは、区の男女共同参画事業の拠点である「男女参画プラザ」を知っていますか（○は1つ）。

図表 「男女参画プラザ」の認知度（性別・年代別）



足立区の「男女参画プラザ」を知っている回答者は12.2%、知らない回答者は83.2%となっている。

性別でみると、「知っている」では、女性(15.1%)が男性(9.7%)を5.4ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「知っている」では、女性40代が21.0%で最も多くなっている。一方、「知らない」では、男性30代が97.7%とほぼ全数となっている。

第2章 調査結果の詳細

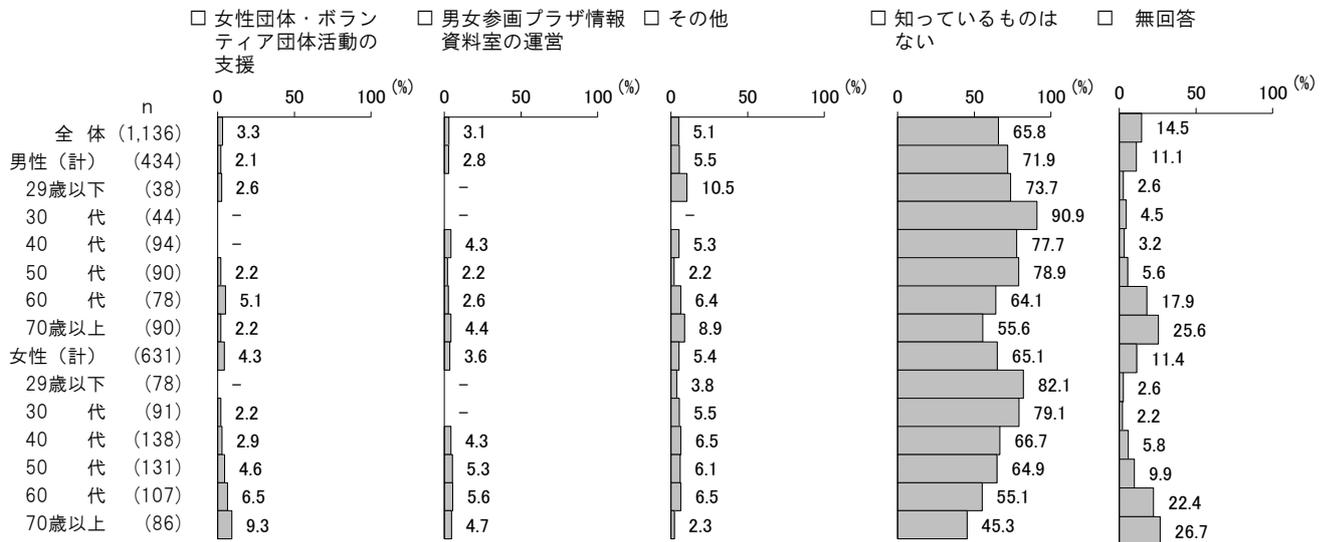
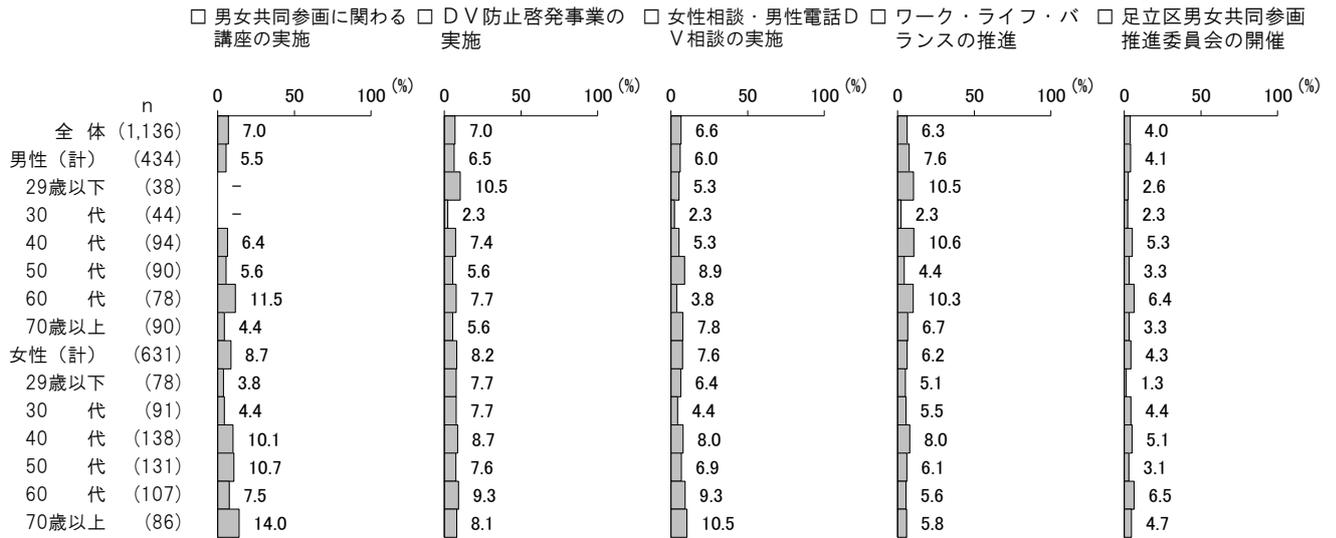
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

(8) 「男女参画プラザ」実施事業の認知状況

■ 「男女共同参画に関わる講座の実施」「DV防止啓発事業の実施」等いずれかの事業を知っている人は約2割にとどまり、事業を知らない人が6割台半ば

問21 あなたは、「男女参画プラザ」が実施している事業で知っているものはありますか(〇はいくつでも)。

図表 「男女参画プラザ」実施事業の認知状況(性別・年代別)



その他に含まれる選択肢

各種審議会における女性委員の比率向上に向けた取組み／あだちLGBT相談窓口の実施／パートナーシップ・ファミリーシップ制度の周知・啓発

「男女参画プラザ」実施事業の認知状況として、「男女共同参画に関わる講座の実施」と「DV防止啓発事業の実施」がともに7.0%、「女性相談・男性電話DV相談の実施」が6.6%、「ワーク・ライフ・バランスの推進」が6.3%と続いている。一方、「知っているものはない」は65.8%と6割台半ばとなっている。

性別で見ると、男性では「ワーク・ライフ・バランスの推進」が7.6%と最も多くなっている。女性では、「男女共同参画に関わる講座の実施」が8.7%で最も多い。

性別・年代別で見ると、「男女共同参画に関わる講座の実施」は、男性の60代(11.5%)と女性40代(10.1%)および50代(10.7%)で1割となっている。

第2章 調査結果の詳細

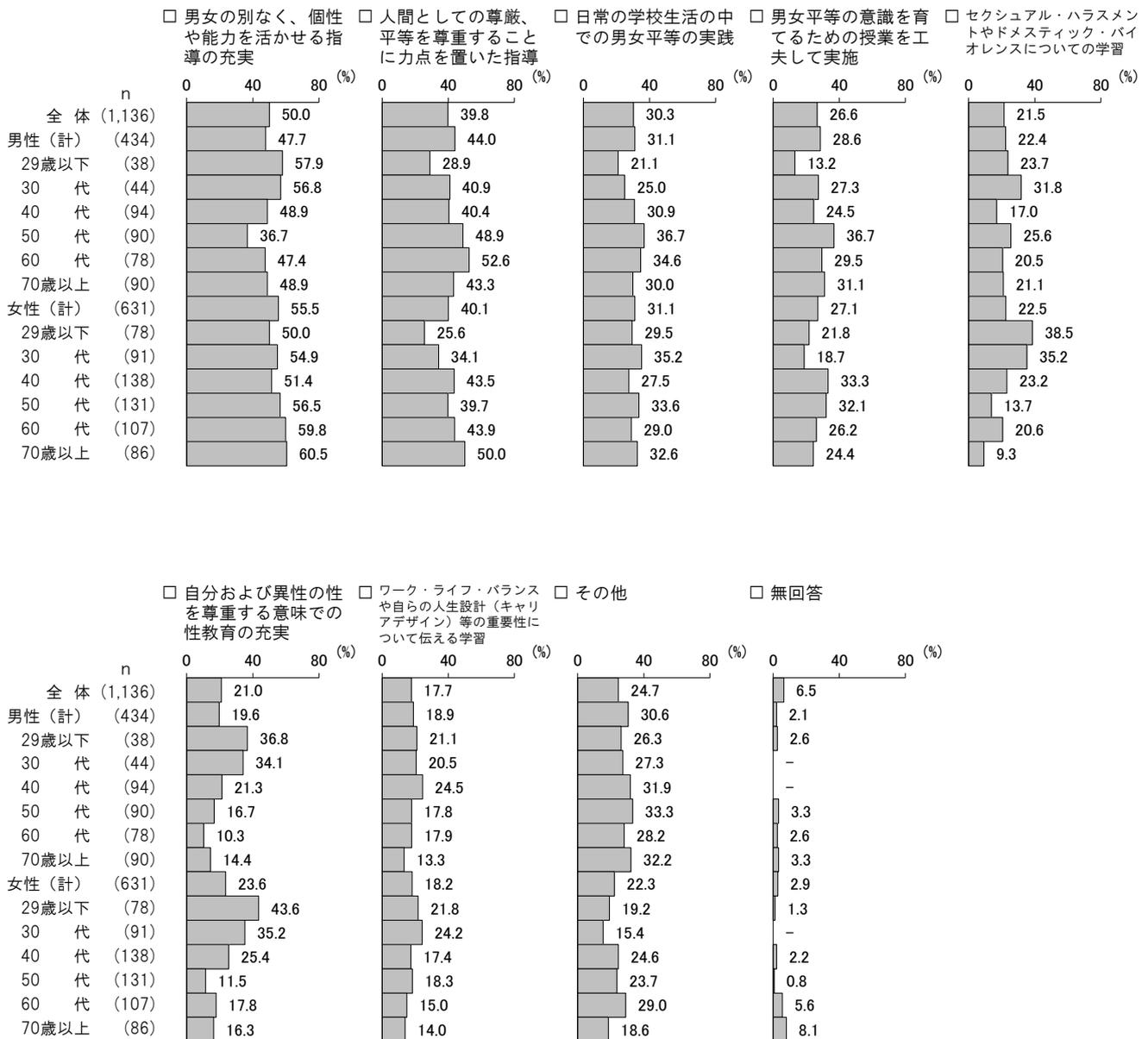
第2章-3 社会における男女共同参画の推進

(9) 男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこと

■ 「男女の別なく個性や能力を活かせる指導の充実」が過半数で最多

問22 あなたは、男女共同参画の推進に向けて学校教育の場では、特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか（〇は3つまで）。

図表 男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこと（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

男女平等に関する副教材を活用した指導／教職員への男女平等研修の充実／学校から家庭や地域に向けた男女平等に関する情報発信

男女共同参画推進のために学校教育の場で力を入れるべきこととしては、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」(50.0%)が過半数と最も多い。以下「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導」(39.8%)が約4割、「日常の学校生活の中での男女平等の実践」(30.3%)が3割で続いている。

性別でみると、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」(男性47.7%、女性55.5%)と「人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導」(同44.0%、40.1%)は、男女ともに上位2項目にあげられている。

性別・年代別でみると、「男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実」では、おおむね女性の年代が高くなるほど割合が多くなり、70歳以上では60.5%と6割となっている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-3 社会における男女共同参画の推進

4 DV・ハラスメントの防止対策

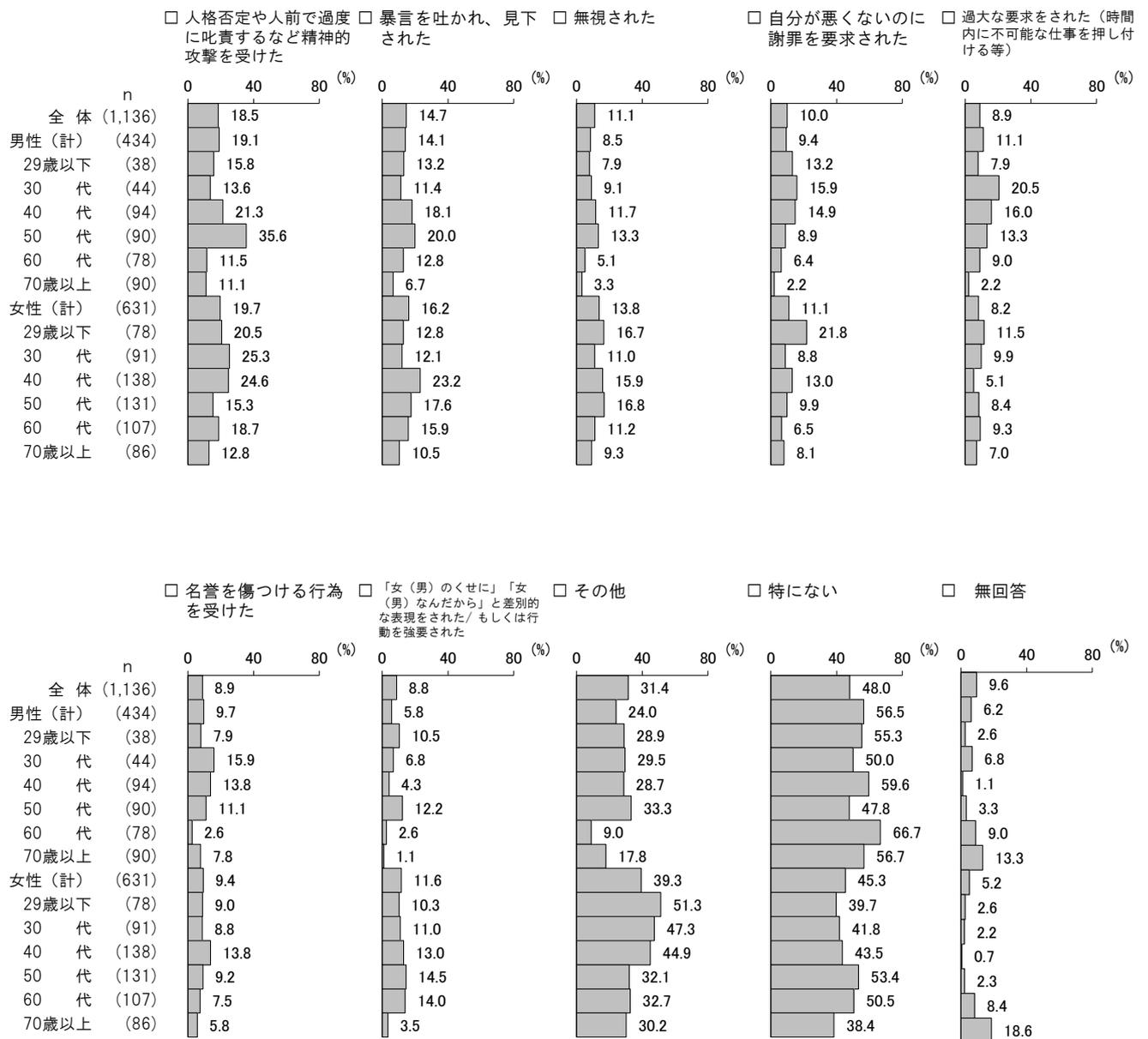
4 DV・ハラスメントの防止対策

(1) DV・ハラスメント行為の被害経験

■ 被害行為では、人格否定等の精神的攻撃（パワハラ）が最多

問23 あなたは、以下のような行為を受けたことがありますか（〇はいくつでも）。

図表 DV・ハラスメント行為の被害経験（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢
<p>殴る・蹴るなどの身体的攻撃を受けた／人間関係を切り離された(1人だけ別室で仕事をさせられる等)／過小な要求をされた(一切仕事をさせない等)／個人を侵害された(プライベートに関して必要以上に尋ねる等)／性的な関係を要求された／避妊に協力しなかった／性行為を強要された／不必要な身体接触があった／性的なからかいを受けた／デートや食事に執拗に誘われた／付きまといや待ち伏せをされた／面会や交際の要求をされた／無言電話や連続電話、メールの送信等を受けた／自分の失敗を責め続けられた／実家や友人など親しい人との付き合いを制限された／行動や携帯を細かくチェックされた／生活費を渡さない、もしくは最小限しか渡されなかった／給与の額や貯金額などを教えてもらえなかった／自分が働いて収入を得ることを許されなかった／借金を繰り返したり、配偶者に借金したりするように強要された／容姿について傷つくようなことを言われた／「ホモ・レズ・オカマ・オナベ」等、自分の性別について差別的な言動を受けたり、嘲笑された／育児休業や時短勤務の取得を拒まれたり、不利な取扱いを受けることを示唆されたり、心ない言葉をかけられた／産休・育休後、降格や不当な異動、配置転換、雇用形態の変更、解雇、自主退職させられた／正当な理由がないのに、単位を与えられなかったりして進級や卒業を妨害された／教職員から研究活動を不当に制限されたり、指導を拒否及び放置された</p>

DV・ハラスメント行為の被害経験は、「人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた」が18.5%と最も多くなっている。以下「暴言を吐かれ、見下された」(14.7%)、「無視された」(11.1%)、「自分が悪くないのに謝罪を要求された」(10.0%)が1割台で続いている。いずれかの項目で被害がある(※)と答えた回答者は42.4%と4割強となり、被害経験のない回答者は48.0%で半数近くとなっている。

※いずれかの項目で被害がある…全体から「特になし」と「無回答」を引いた数

性別でみると、男女ともに「人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた」(男性19.1%、女性19.7%)が最も多く挙げられる。また、男性では、「暴言を吐かれ、見下された」(14.1%)、「過大な要求をされた(時間内に不可能な仕事を押し付ける等)」(11.1%)、「自分の失敗を責め続けられた」(10.1%)が1割台で多く、パワーハラスメントやモラルハラスメントが上位を占めている。一方、女性では「暴言を吐かれ、見下された」(16.2%)、「無視された」(13.8%)が多く、モラルハラスメントやジェンダーハラスメントが上位を占めている。

性別・年代別でみると、「人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた」では、男性50代が35.6%と最も多く、同年代女性と比べて20.3ポイント上回っている。「暴言を吐かれ、見下された」では、女性40代が23.2%で最も多くなっている。

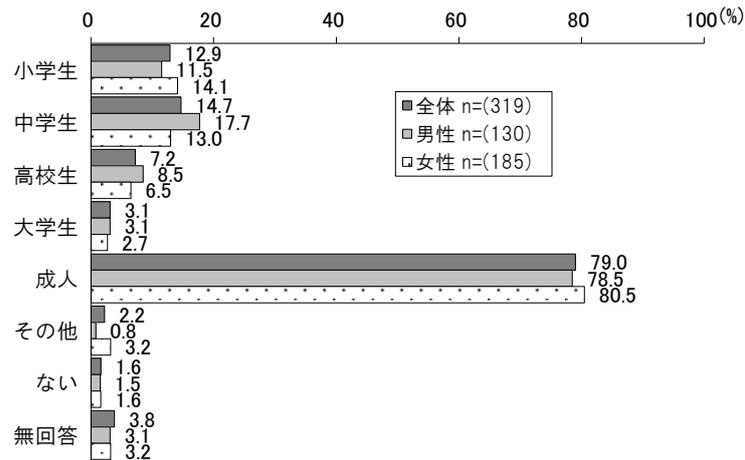
(2) DV・ハラスメント行為を受けた時期

- すべての行為で成人期が最多、ジェンダーハラスメントは男女ともに小・中学生で4割前後

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。
問24 あなたがその行為を受けたのはいつですか（〇はいくつでも）。

パワーハラスメント

図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 パワーハラスメント（性別）

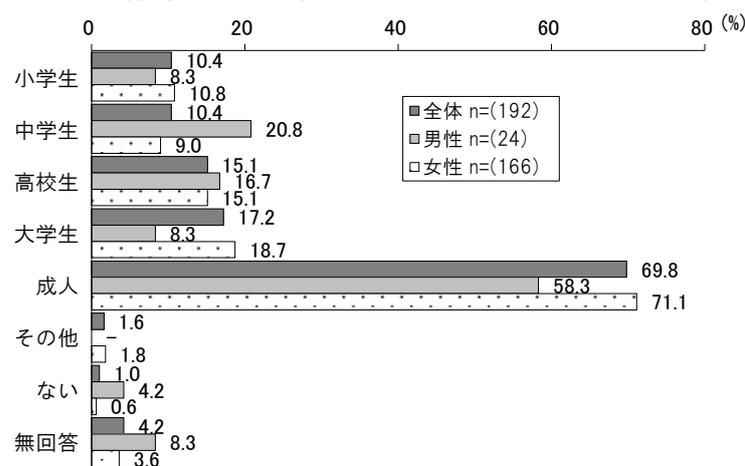


パワーハラスメントを受けた時期は、「成人」が79.0%と約8割を占めている。

性別で見ると、男女ともに「成人」が8割前後で最も多くなっている。「中学生」では、男性17.7%、女性13.0%と、男性が女性を4.7ポイント上回っている。

セクシュアルハラスメント/性的暴力

図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 セクシュアルハラスメント/性的暴力（性別）

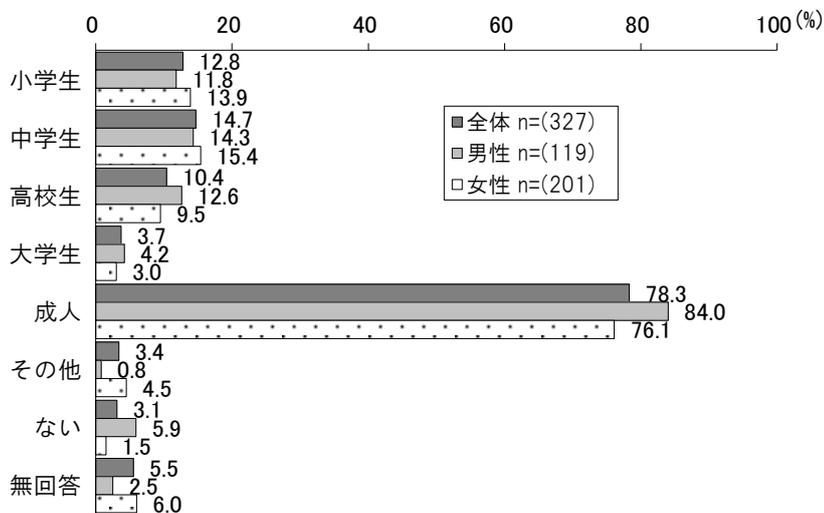


セクシュアルハラスメント/性的暴力を受けた時期は、「成人」が69.8%で約7割を占めている。

性別で見ると、女性では「成人」が71.1%と最も多く、以下「大学生」(18.7%)、「高校生」(15.1%)、「小学生」(10.8%)、中学生(9.0%)の順となっている。

モラルハラスメント/精神的暴力

図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 モラルハラスメント/精神的暴力（性別）

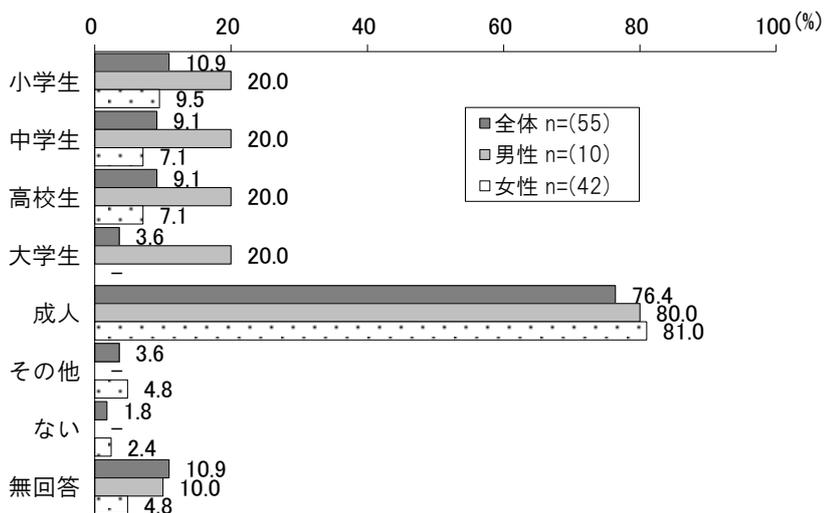


モラルハラスメント/精神的暴力を受けた時期は、「成人」が78.3%と8割弱を占めている。

性別でみると、「成人」では男性84.0%、女性76.1%と、男性が女性を7.9ポイント上回っている。

経済的暴力

図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 経済的暴力（性別）

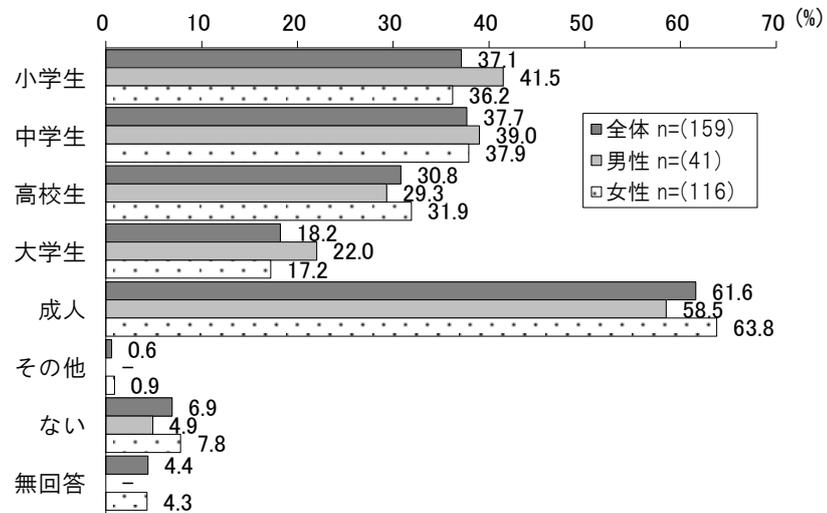


経済的暴力を受けた時期は、「成人」が76.4%となっている。

性別でみると、女性では「成人」が81.0%と最も多く、以下「小学生」(9.5%)、「中学生」、「高校生」(ともに7.1%)の順となっている。

ジェンダーハラスメント

図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 ジェンダーハラスメント（性別）

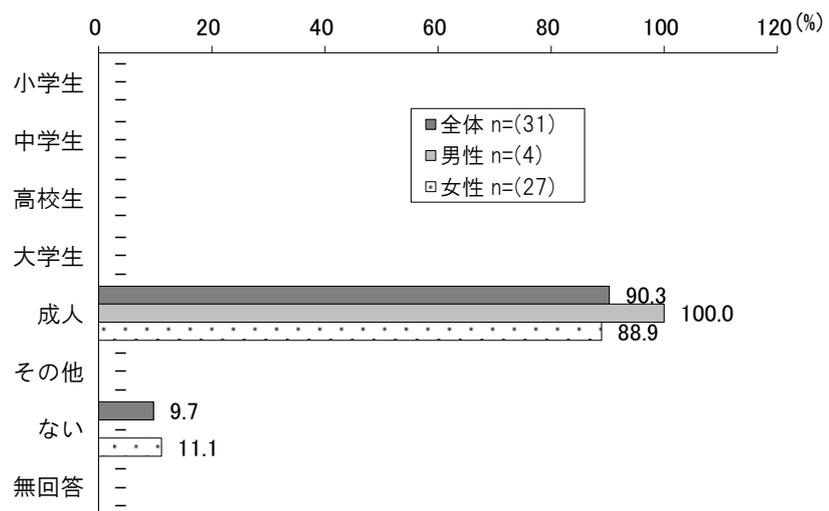


ジェンダーハラスメントを受けた時期は、「成人」が61.6%で約6割、「中学生」(37.7%)、「小学生」(37.1%)で4割弱、「高校生」(30.8%)で3割となっている。

性別で見ると、「成人」では男性58.5%、女性63.8%と、女性が男性を5.3ポイント上回っている。

マタニティ・パタニティハラスメント

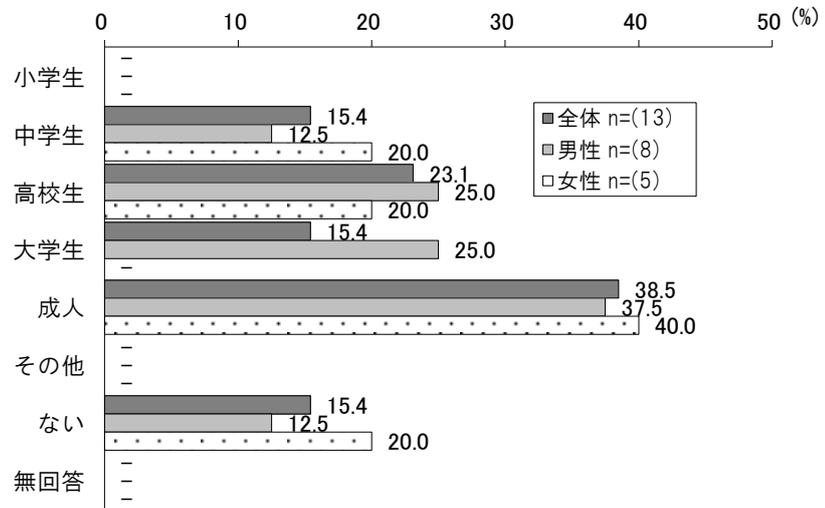
図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 マタニティ・パタニティハラスメント（性別）



マタニティ・パタニティハラスメントを受けた時期は、「成人」が90.3%で9割を占めている。

アカデミックハラスメント

図表 DV・ハラスメント行為を受けた時期 アカデミックハラスメント（性別）



アカデミックハラスメントを受けた時期は、全体、性別ともにサンプル数が30未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外している。

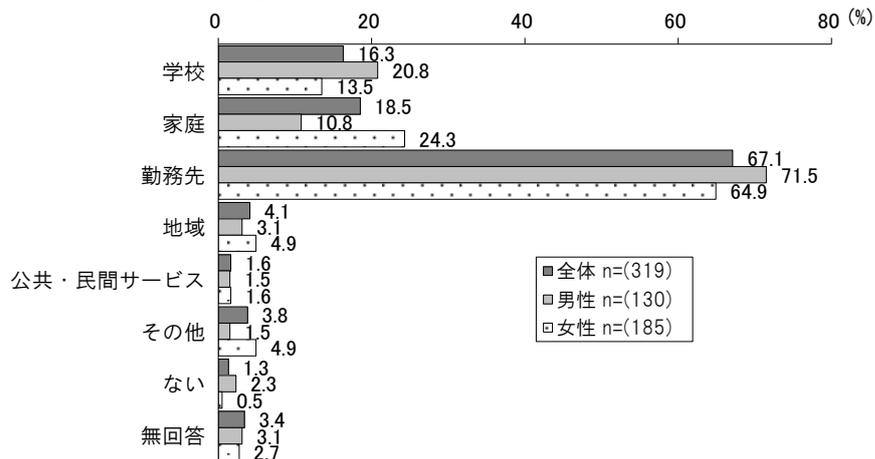
(3) DV・ハラスメント行為を受けた場面

■ パワハラ・セクハラ・モラハラ・マタハラは勤務先が最多

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。
問25 あなたがその行為を受けた場面はどこですか（〇はいくつでも）。

パワーハラスメント

図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 パワーハラスメント（性別）

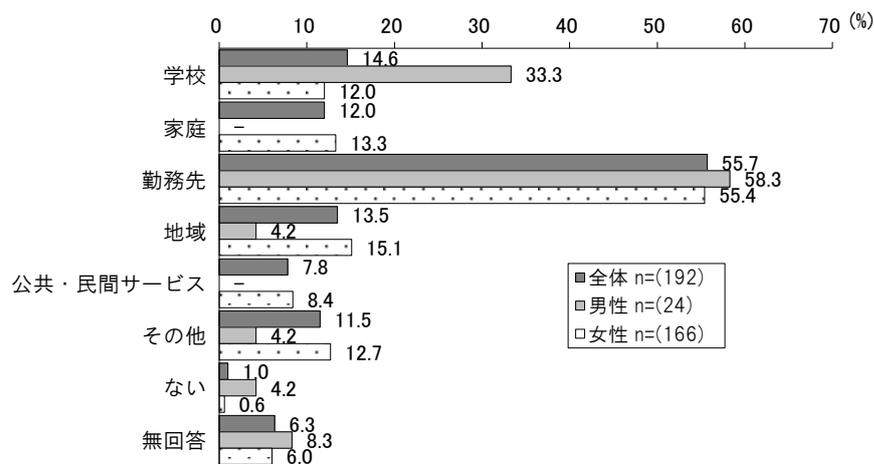


パワーハラスメントを受けた場面は、「勤務先」が67.1%と最も多く、「家庭」(18.5%)、「学校」(16.3%)が1割台で続いている。

性別で見ると、「勤務先」では男性71.5%、女性64.9%と、男性が女性を6.6ポイント上回っている。また、男性では「学校」が20.8%、女性では「家庭」が24.3%と2割を超えている。

セクシュアルハラスメント/性的暴力

図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 セクシュアルハラスメント/性的暴力（性別）

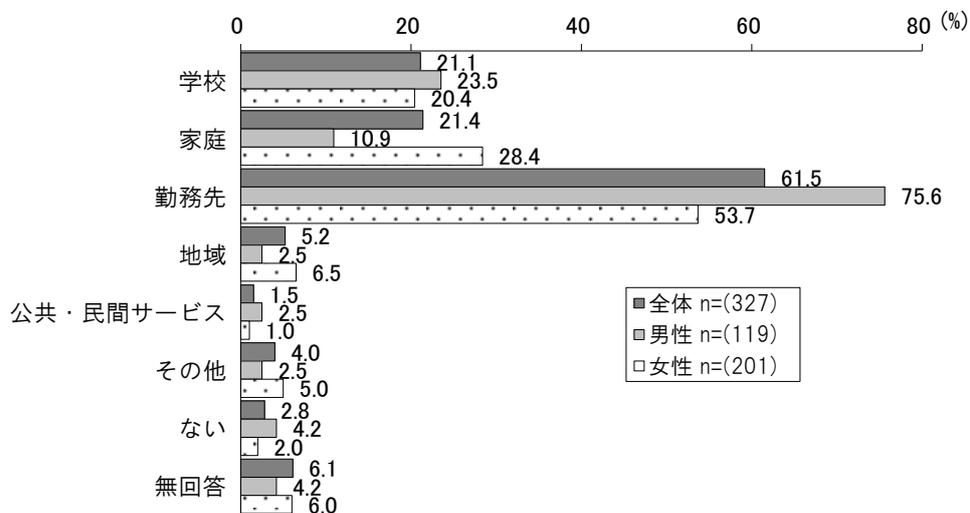


セクシュアルハラスメント/性的暴力を受けた場面は、「勤務先」が55.7%で半数以上となっている。

性別で見ると、女性では「勤務先」が55.4%と最も多く、以下「地域」(15.1%)、「家庭」(13.3%)、「学校」(12.0%)の順となっている。

モラルハラスメント/精神的暴力

図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 モラルハラスメント/精神的暴力（性別）

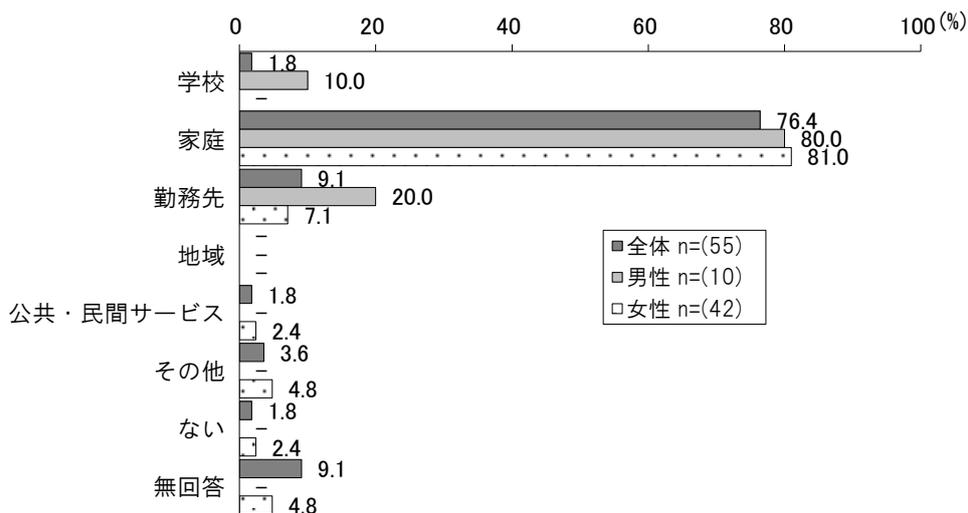


モラルハラスメント/精神的暴力を受けた場面は、「勤務先」が61.5%と最も多く、「家庭」(21.4%)、「学校」(21.1%)が2割台で続いている。

性別でみると、「勤務先」では男性75.6%、女性53.7%と、男性が女性を21.9ポイント上回っている。

経済的暴力

図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 経済的暴力（性別）

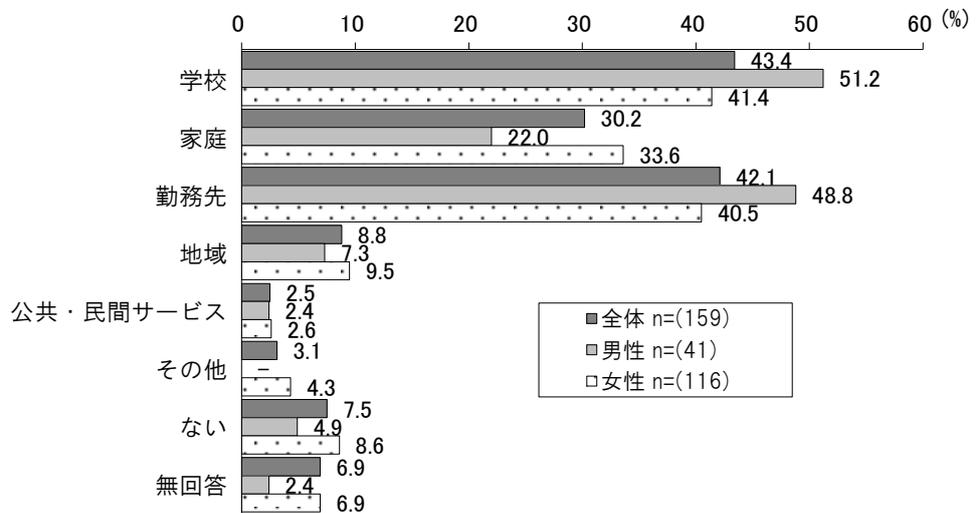


経済的暴力を受けた場面は、「家庭」が76.4%と7割台半ばを占めている。

性別でみると、女性では「家庭」が81.0%と最も多くなっている。

ジェンダーハラスメント

図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 ジェンダーハラスメント（性別）

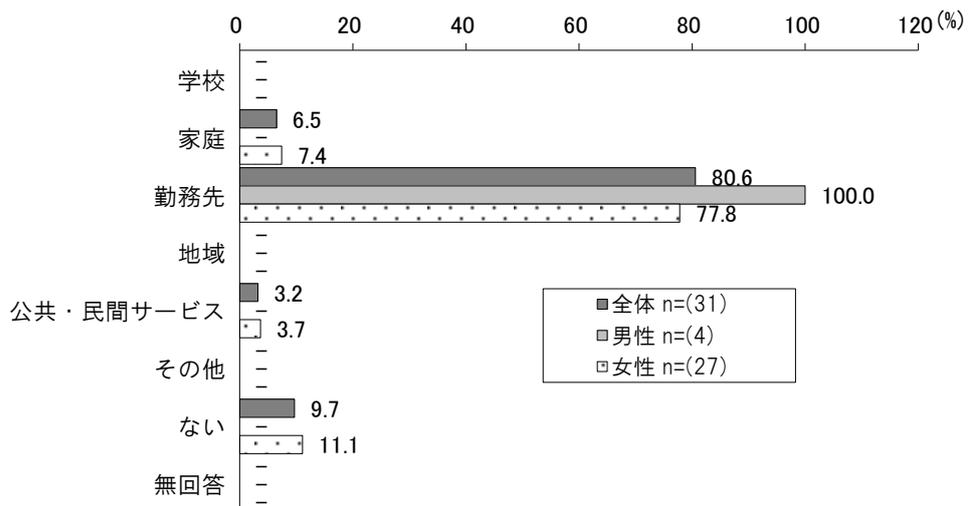


ジェンダーハラスメントを受けた場面は、「学校」が43.4%、「勤務先」が42.1%と4割台で多く、「家庭」(30.2%)が3割強で続いている。

性別でみると、「家庭」では男性22.0%、女性33.6%と、女性が男性を11.6ポイント上回っている。

マタニティ・パタニティハラスメント

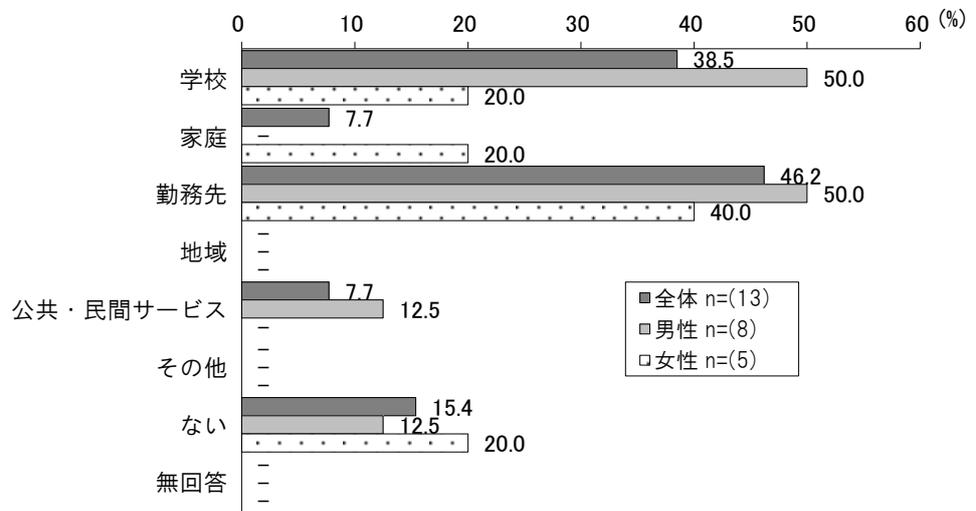
図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 マタニティ・パタニティハラスメント（性別）



マタニティ・パタニティハラスメントを受けた場面は、「勤務先」が80.6%となっている

アカデミックハラスメント

図表 DV・ハラスメント行為を受けた場面 アカデミックハラスメント（性別）



アカデミックハラスメントを受けた場面は、全体、性別ともにサンプル数が30未満のため、傾向を見出すのは困難となり、分析の対象から除外している。

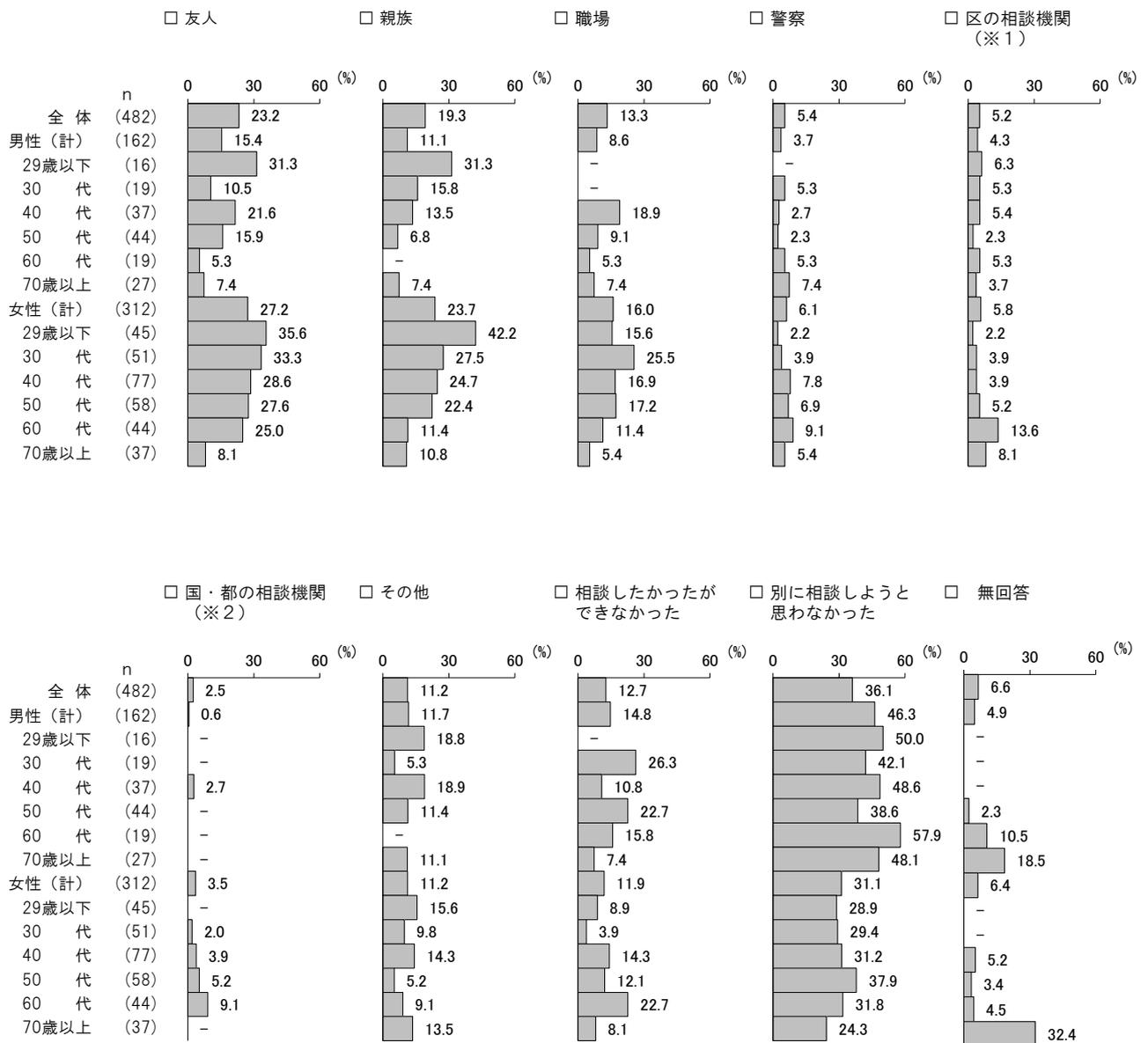
(4) DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先

■ 友人・親族等身近な人物への相談先が4割を超え、相談しなかった（できなかった）人が約半数を占める

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。
問26 あなたが受けた暴力・ハラスメントについて、相談したことはありますか。また、配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについての公的相談機関として、知っているものはありますか（それぞれ〇はいくつでも）。

(1) 相談したことがある相談先

図表 DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先（性別・年代別）



※1 区の相談機関：男女参画プラザ女性相談、男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、子ども支援センターげんき
※2 国・都の相談機関：女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ

第2章 調査結果の詳細

第2章-4 DV・ハラスメントの防止対策

その他に含まれる選択肢	
区内にある関係公的機関／労働基準監督署・労働局／医療機関／弁護士／学校関係者	

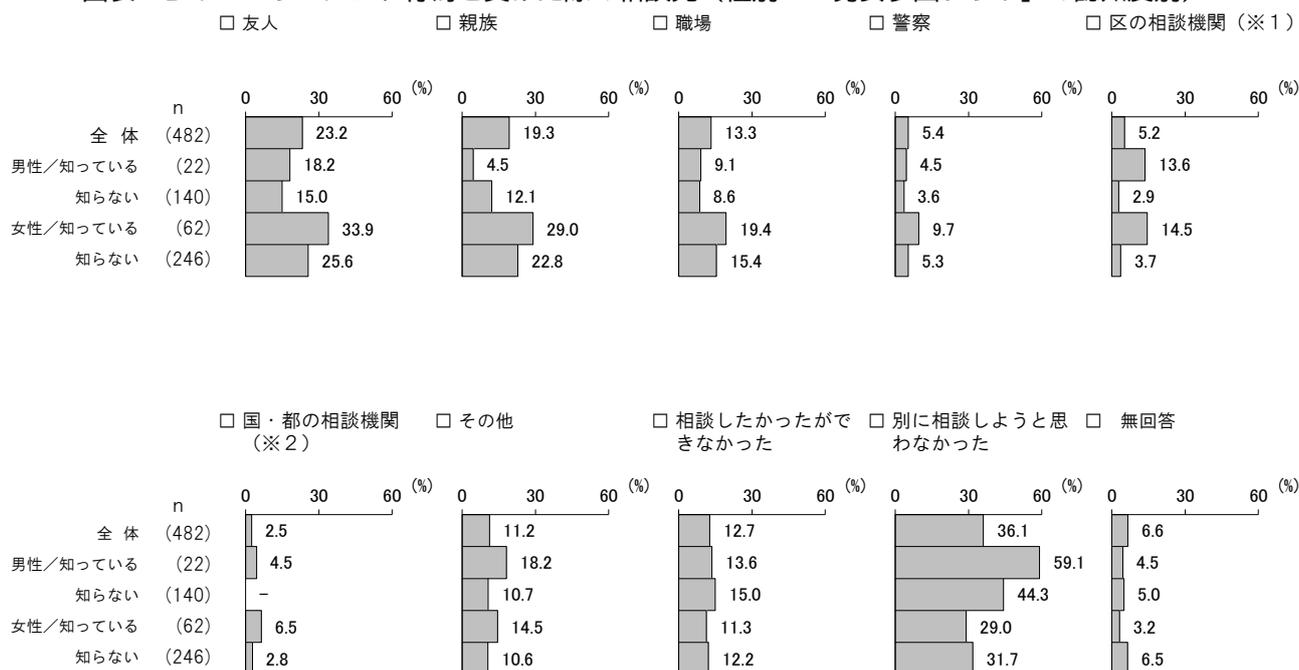
DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先としては、「友人」(23.2%)が最も多く、以下「親族」(19.3%)が約2割、「職場」(13.3%)が1割台で続いている。DV・ハラスメント行為を受けた際にいずれかの相談先に相談した(※)回答者は44.6%、「相談したかったができなかった」(12.7%)、「別に相談しようと思わなかった」(36.1%)回答者は約半数となっている。

※いずれかの相談先に相談した…全体から「相談したかったができなかった」と「別に相談しようと思わなかった」と「無回答」を引いた数

性別でみると、男女ともに「友人」が最も多くなっており、男性15.4%、女性27.2%と、女性が男性を11.8ポイント上回っている。一方、「別に相談しようと思わなかった」では、男性46.3%、女性31.1%と男性が女性を15.2ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「親族」では、女性29歳以下が42.2%と最も多くなっている。

図表 DV・ハラスメント行為を受けた際の相談先（性別・「男女参画プラザ」の認知度別）



※1 区の相談機関：男女参画プラザ女性相談、男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターがんき

※2 国・都の相談機関：女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ

その他に含まれる選択肢	
区内にある関係公的機関／労働基準監督署・労働局／医療機関／弁護士／学校関係者	

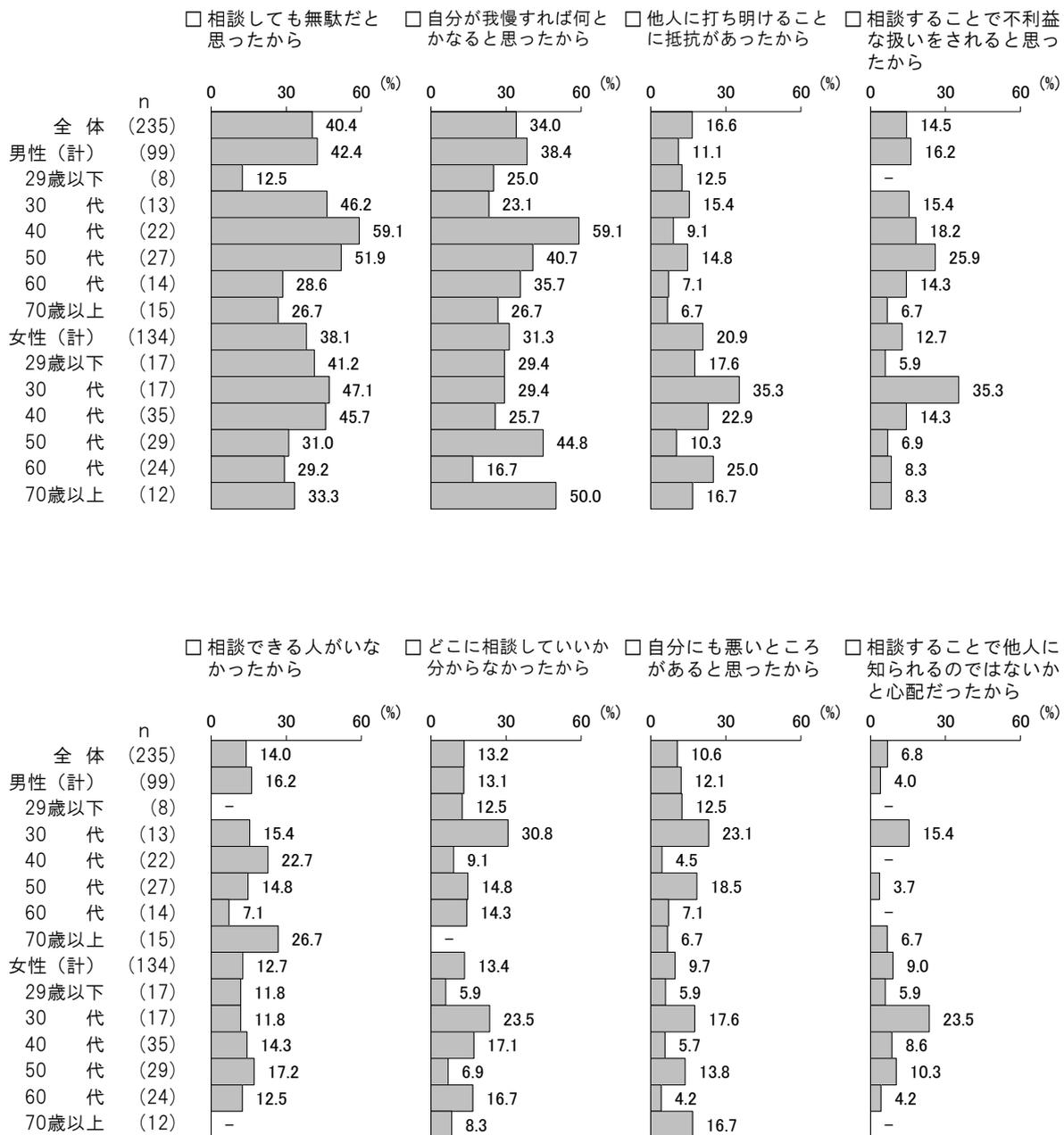
性別・「男女参画プラザ」の認知度別でみると、女性では、全ての相談先で〈知っている〉回答者が〈知らない〉回答者の割合を上回っている。特に、「区の相談機関」では、〈知っている〉(14.5%)回答者が、〈知らない〉(3.7%)回答者より10.8ポイント上回っている。

■ 「相談しても無駄だと思ったから」が4割強で最多

問26(1)で「13 相談したかったができなかった」「14 別に相談しようと思わなかった」と回答した方のみにお聞きします。

(2) 相談できなかった理由

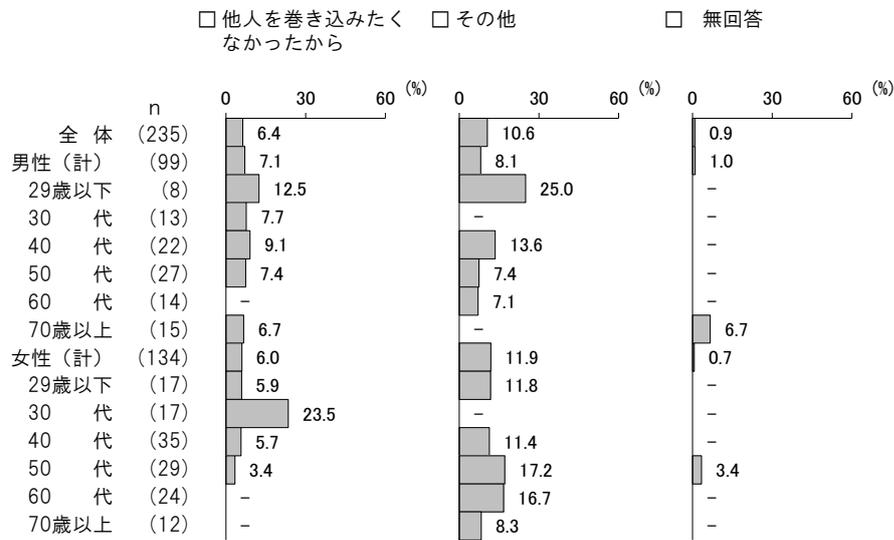
図表 相談できなかった理由(性別・年代別①)



第2章 調査結果の詳細

第2章-4 DV・ハラスメントの防止対策

図表 相談できなかった理由（性別・年代別②）



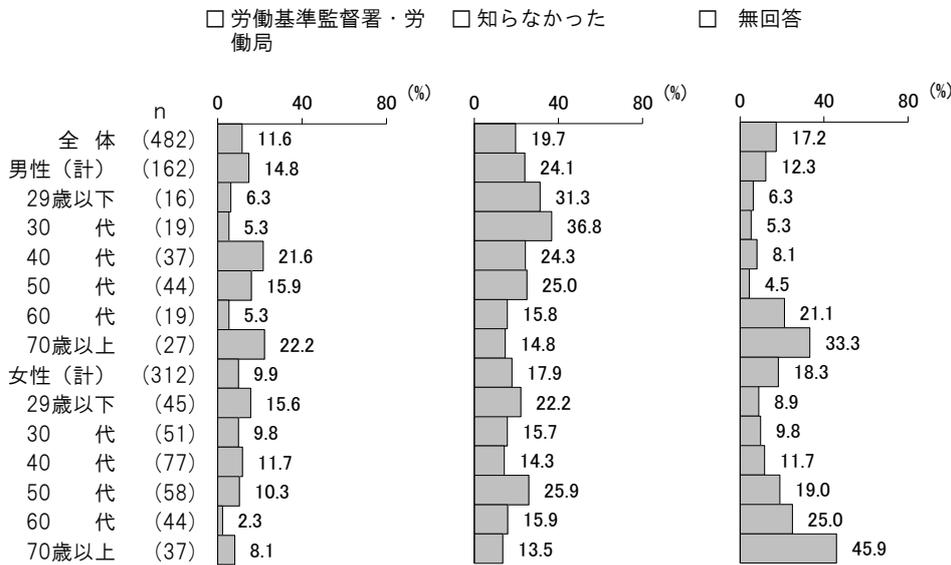
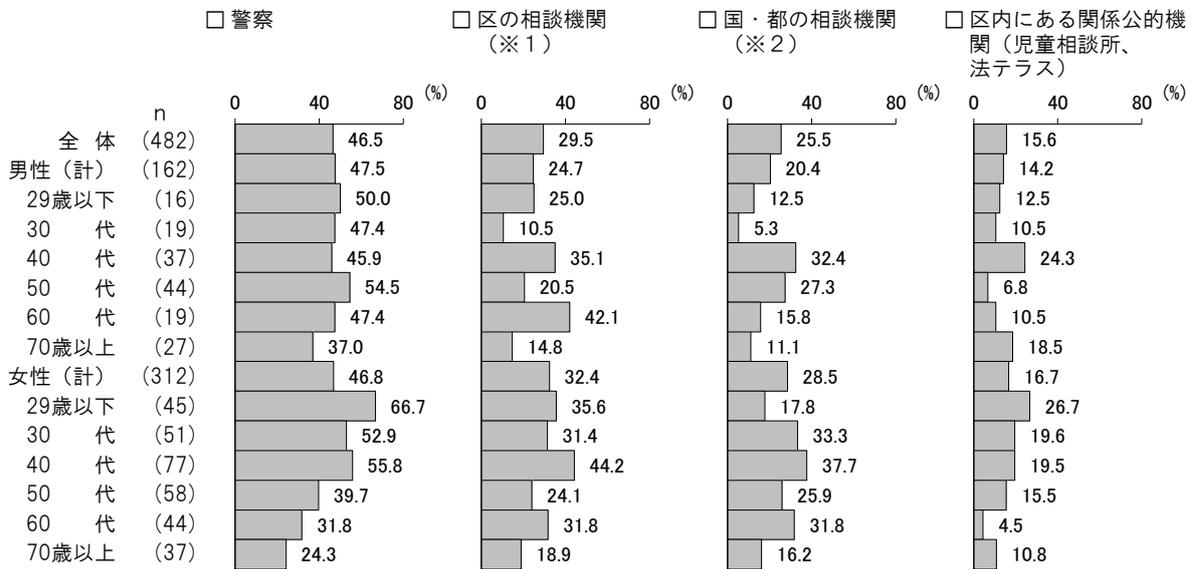
DV・ハラスメント行為を受けた際に相談できなかった理由としては、「相談しても無駄だと思ったから」(40.4%)が第1位としてあげられ、「自分が我慢すれば何とかなると思ったから」も34.0%と多くなっている。

性別でみると、「他人に打ち明けることに抵抗があったから」は、男性11.1%、女性20.9%と、女性が男性を9.8ポイント上回っている。

■ 知っている相談先は「警察」が4割台半ばで最多

(3) 配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて、知っている公的相談機関

図表 配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて、知っている公的相談機関（性別・年代別）



※1 区の相談機関：男女参画プラザ女性相談、男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき

※2 国・都の相談機関：女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ

第2章 調査結果の詳細

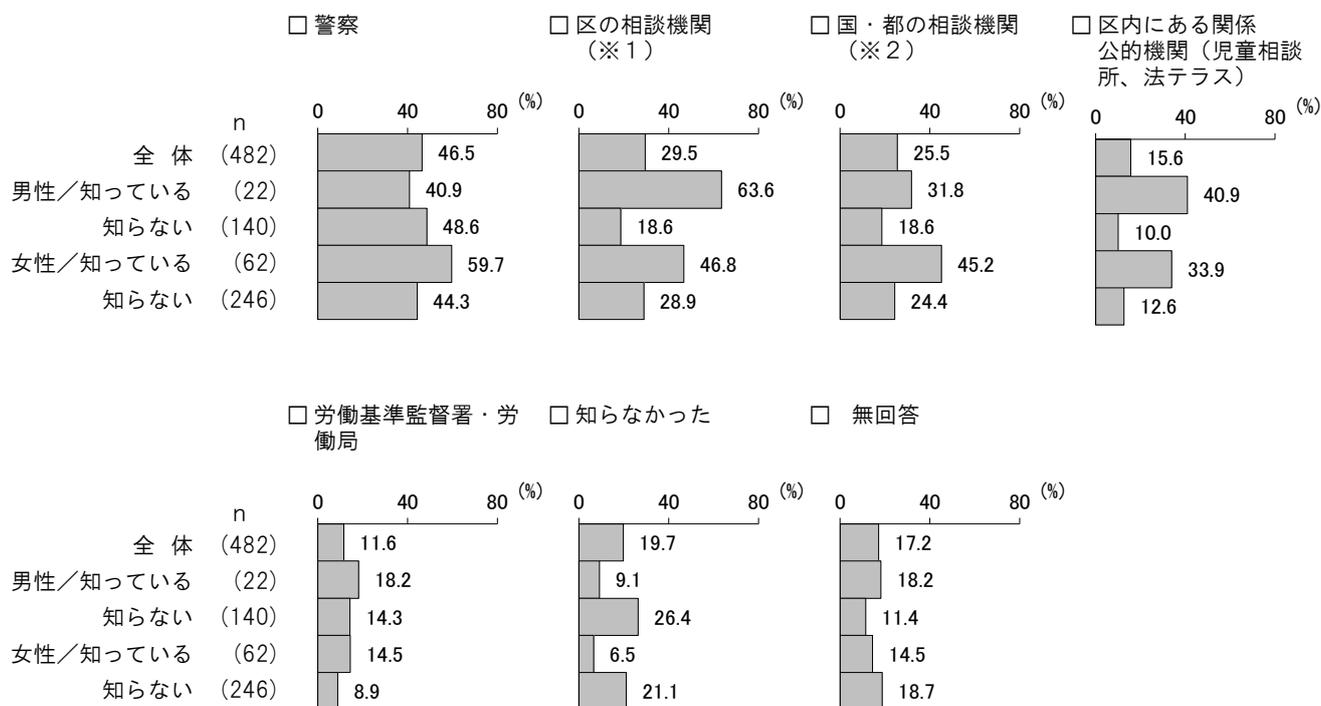
第2章-4 DV・ハラスメントの防止対策

配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて知っている公的相談機関は、「警察」が46.5%と最も多く半数近くになっており、「区の相談機関(男女参画プラザ女性相談・男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき)」が29.5%と約3割、「国・都の相談機関(女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ)」が25.5%と2割台半ばで多くなっている。

性別でみると、「区の相談機関」では、男性24.7%、女性32.4%と、女性が男性を7.7ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「区の相談機関」では、女性40代が44.2%と最も多くなっている。

図表 配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて、知っている公的相談機関
(性別・「男女参画プラザ」の認知度別)



※1 区の相談機関：男女参画プラザ女性相談、男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき
 ※2 国・都の相談機関：女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ

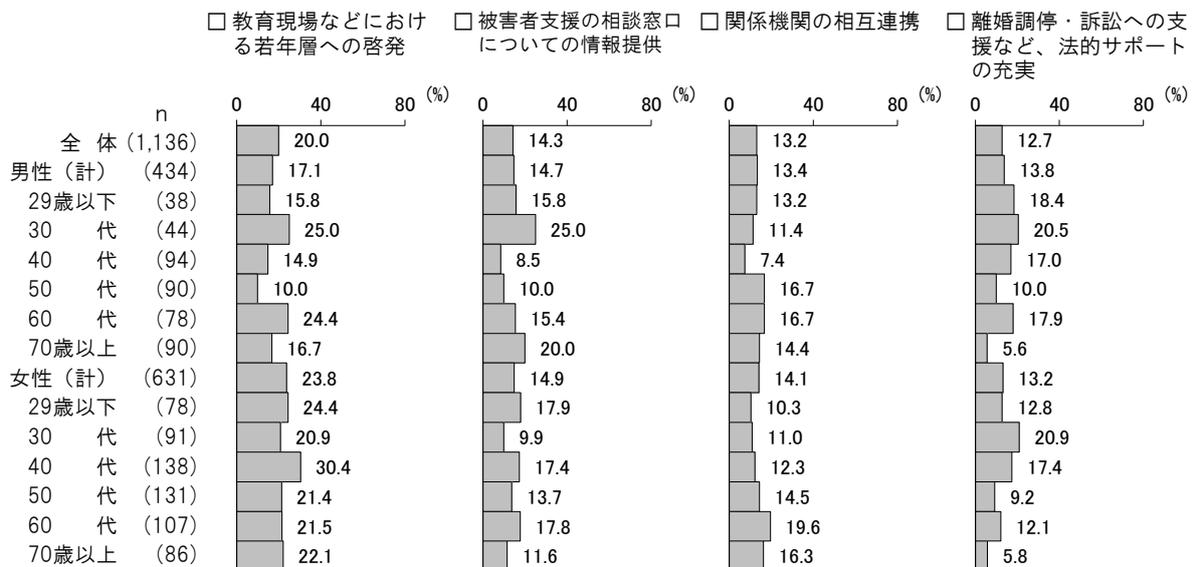
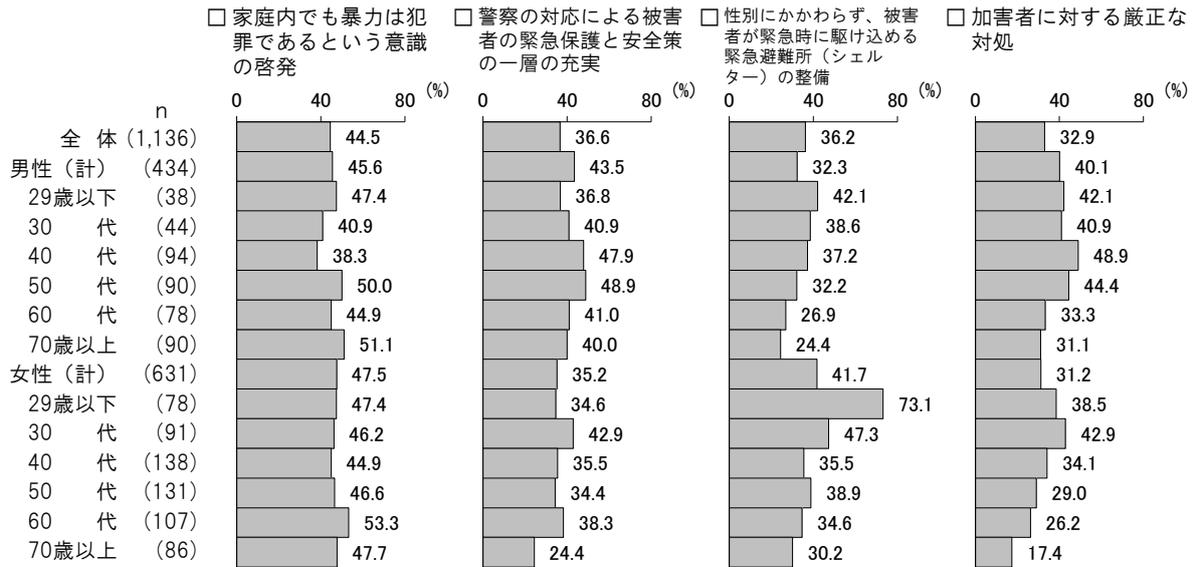
性別・「男女参画プラザ」の認知度別でみると、女性では、全ての公的相談機関で〈知っている〉回答者が〈知らない〉回答者の割合を上回っている。

(5) DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと

■ 「家庭内におけるDV防止の意識啓発」が4割台半ばで最多

問27 あなたは、配偶者、パートナー、家族又は交際相手などからの暴力を防止するために、今後どのようなことを特に充実すべきだと思いますか（〇は3つまで）。

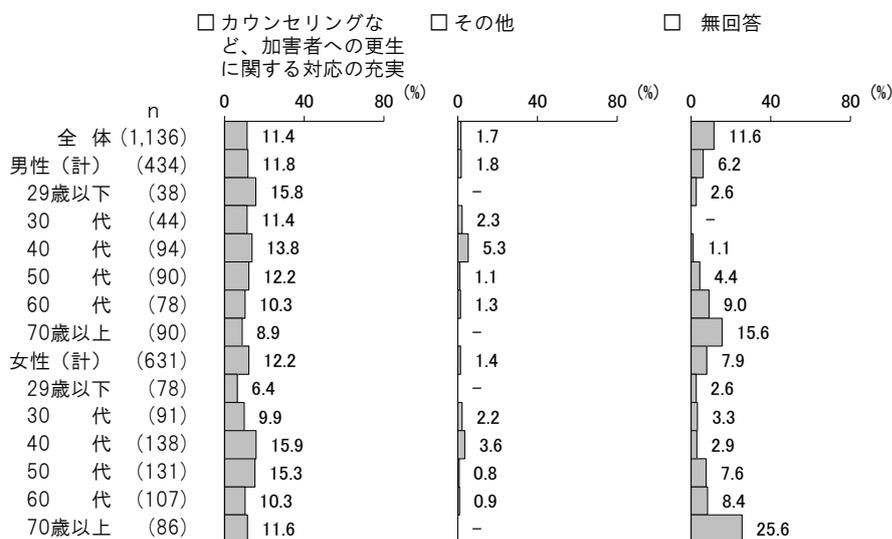
図表 DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと（性別・年代別①）



第2章 調査結果の詳細

第2章-4 DV・ハラスメントの防止対策

図表 DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこと（性別・年代別②）



DV・ハラスメント防止のために特に充実すべきこととしては、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が44.5%で最も多くなっている。以下「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実」(36.6%)、「性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」(36.2%)、「加害者に対する厳正な対処」(32.9%)が3割台で続いている。

性別でみると、男女ともに「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」が第1位にあげられているほか、男性では「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実」が43.5%で第2位、女性では「性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」が41.7%で第2位となっている。

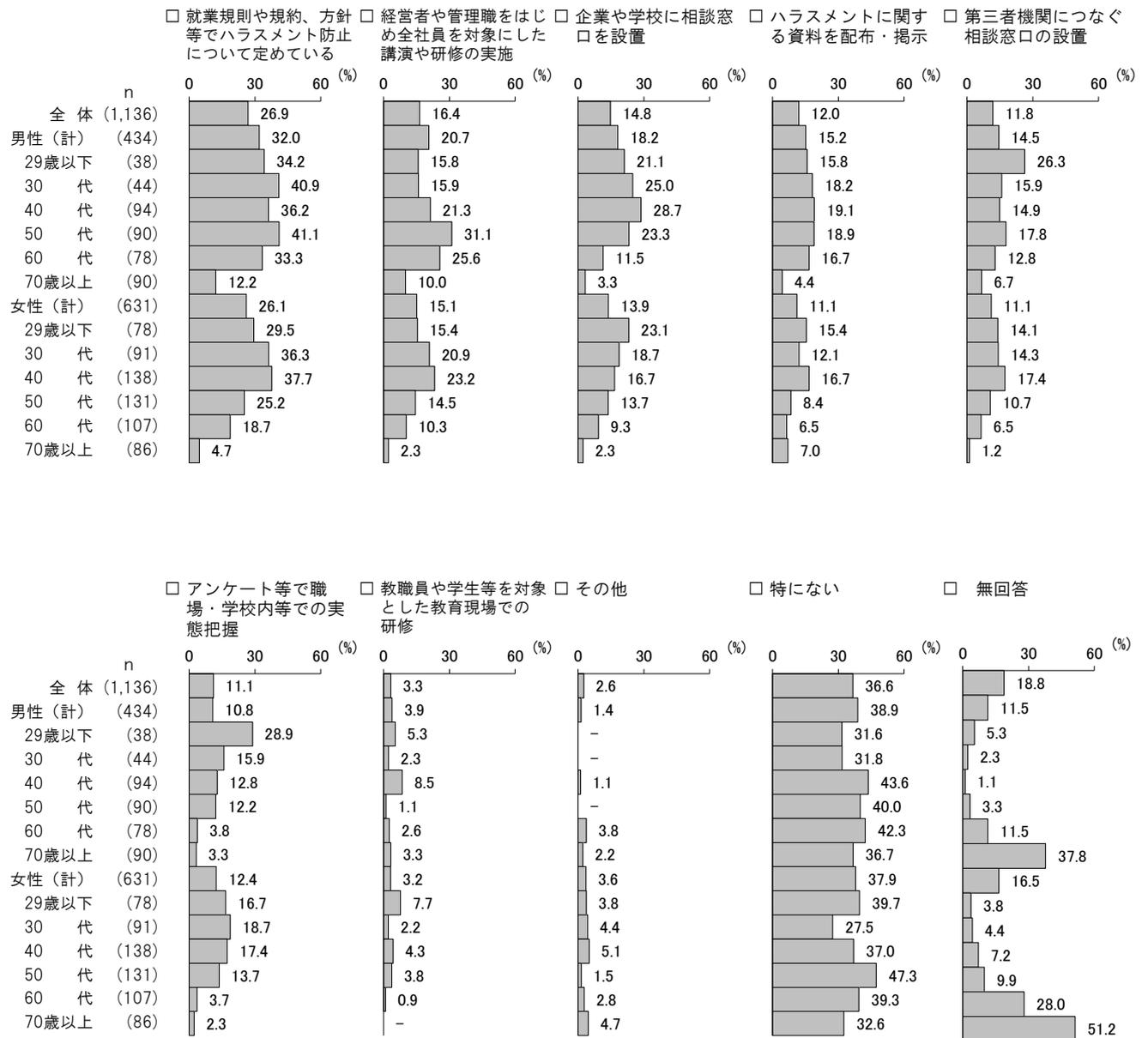
性別・年代別でみると、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」では、女性60代が53.3%と最も多くなっている。

(6) 職場や学校におけるハラスメントの対策の取組み

■ 「就業規則等でハラスメント防止を規定」が2割台半ばの一方、「特にない」も3割台半ば

問28 あなたの職場や学校等では、ハラスメントについてどのような対策に取り組んでいますか（〇はいくつでも）。

図表 職場や学校におけるハラスメントの対策の取組み（性別・年代別）



職場や学校におけるハラスメントの対策の取組みとしては、「就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定めている」が26.9%で最も多くなっており、以下「経営者や管理職をはじめ全社員を対象にした講演や研修の実施」(16.4%)、「企業や学校に相談窓口を設置」(14.8%)が1割台で続いている。一方、対策を講じられていない「特にない」回答者は36.6%となっている。

第2章 調査結果の詳細

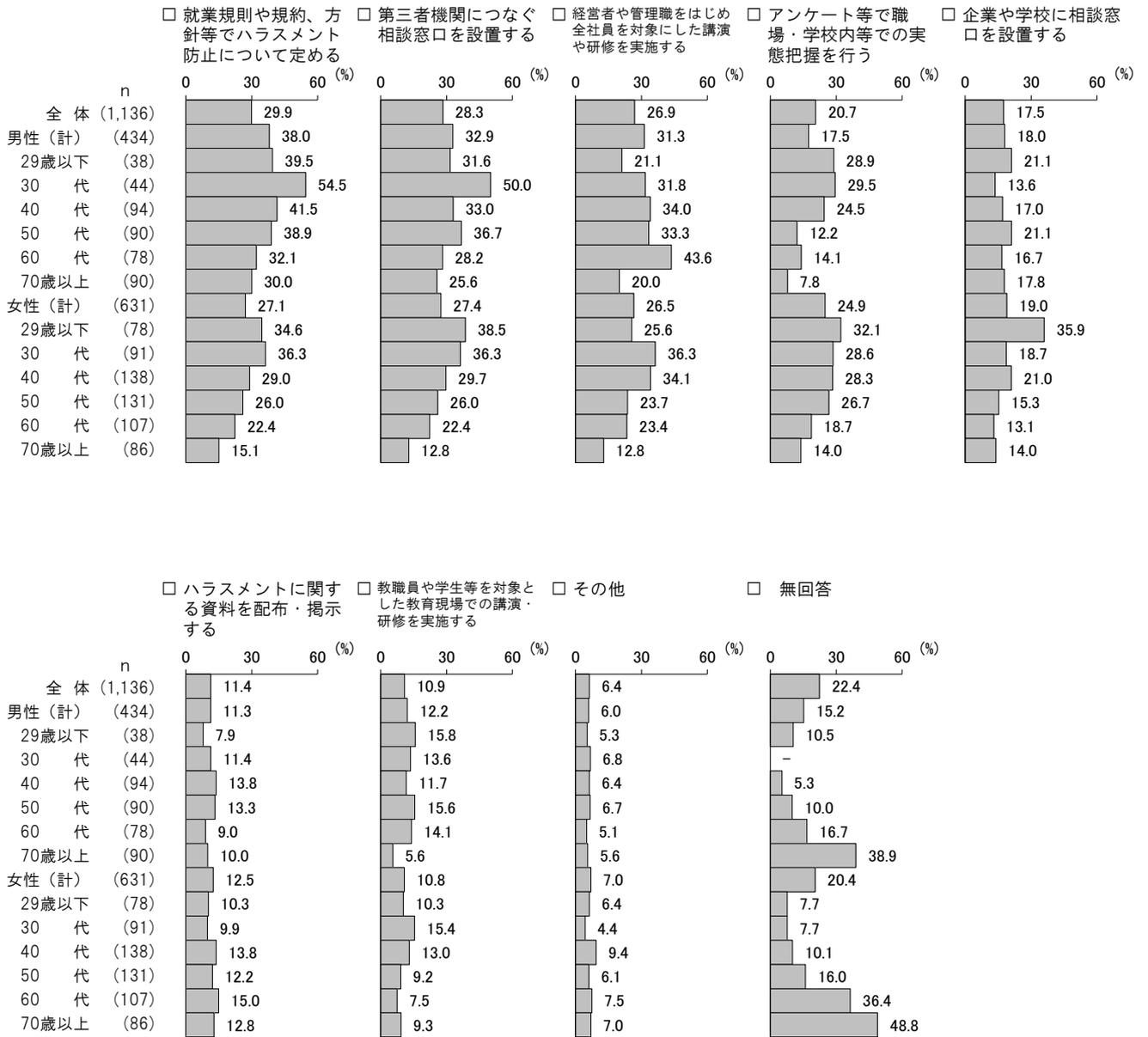
第2章-4 DV・ハラスメントの防止対策

(7) 職場や学校におけるハラスメントの対策で特に必要だと思うこと

■ 「就業規則等でハラスメント防止を規定」「第三者機関につなぐ相談窓口の設置」が約3割

問29 あなたの職場や学校等で、今後ハラスメントについてどのような対策が特に必要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 職場や学校におけるハラスメントの対策で特に必要だと思うこと（性別・年代別）



職場や学校におけるハラスメントの対策で特に必要だと思うこととしては、「就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定めている」が29.9%で最も多くなっており、以下「第三者機関につなぐ相談窓口を設置する」(28.3%)、「経営者や管理職をはじめ全社員を対象にした講演や研修を実施する」(26.9%)、「アンケート等で職場・学校内等での実態把握を行う」(20.7%)が2割台で続いている。

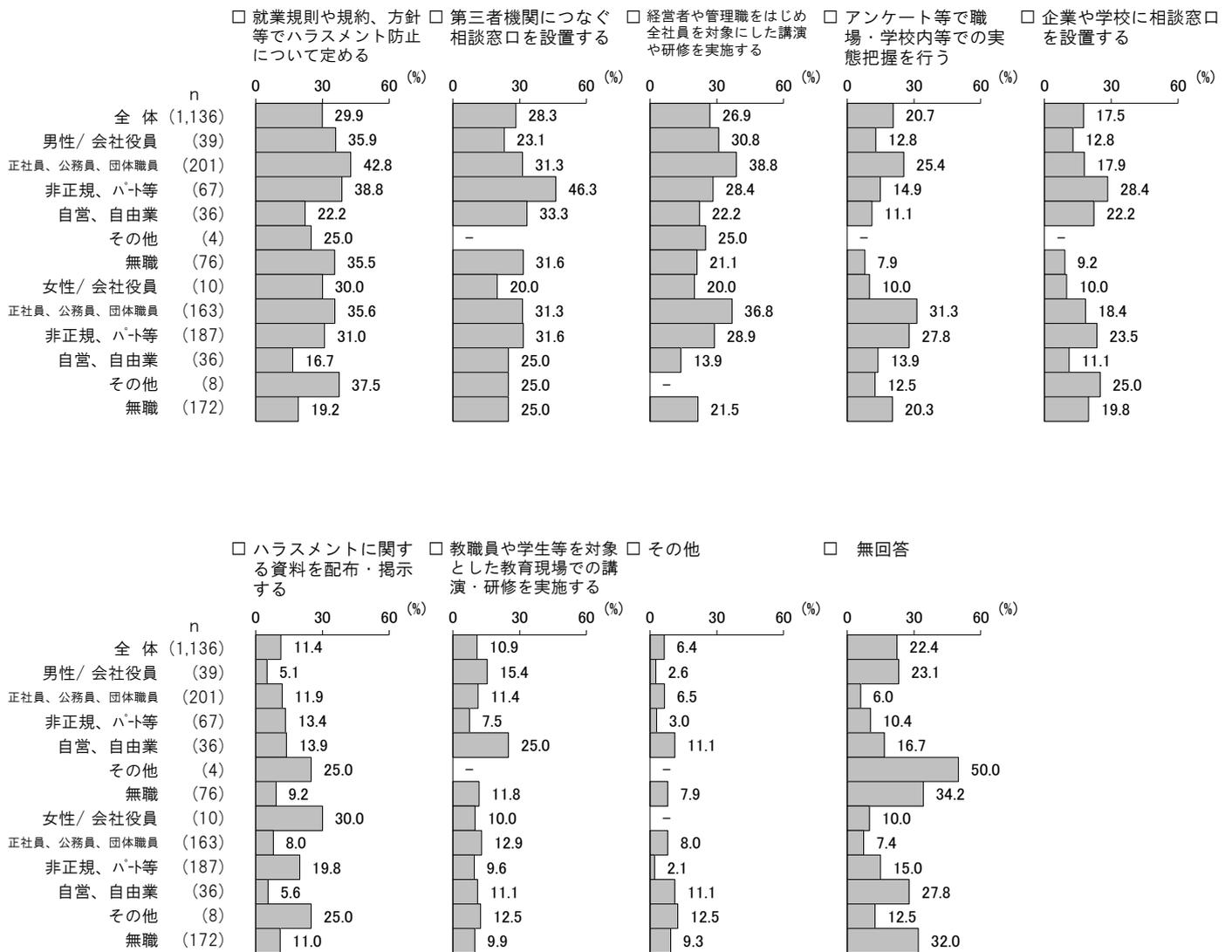
性別でみると、男性では「就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定める」が38.0%で最も多く、女性では「第三者機関につなぐ相談窓口を設置する」が27.4%で最も多くなっている。

性別・年代別でみると、「就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定める」では、男性30代が54.5%で5割台半ばと最も多くなっている。

第2章 調査結果の詳細

第2章-4 DV・ハラスメントの防止対策

図表 職場や学校におけるハラスメントの対策で特に必要だと思うこと（性別・職業別）



性別・職業別でみると、「就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定める」では〈男性/正社員、公務員、団体職員〉(42.8%)が、「第三者機関につなぐ相談窓口を設置する」では〈男性/非正規、パート等〉(46.3%)がそれぞれ多くなっている。また、「アンケート等で職場・学校内等での実態把握を行う」では〈男性/正社員、公務員、団体職員〉(25.4%)が〈男性/会社役員〉(12.8%)を12.6ポイント上回っている。

5 多様性の尊重と人権

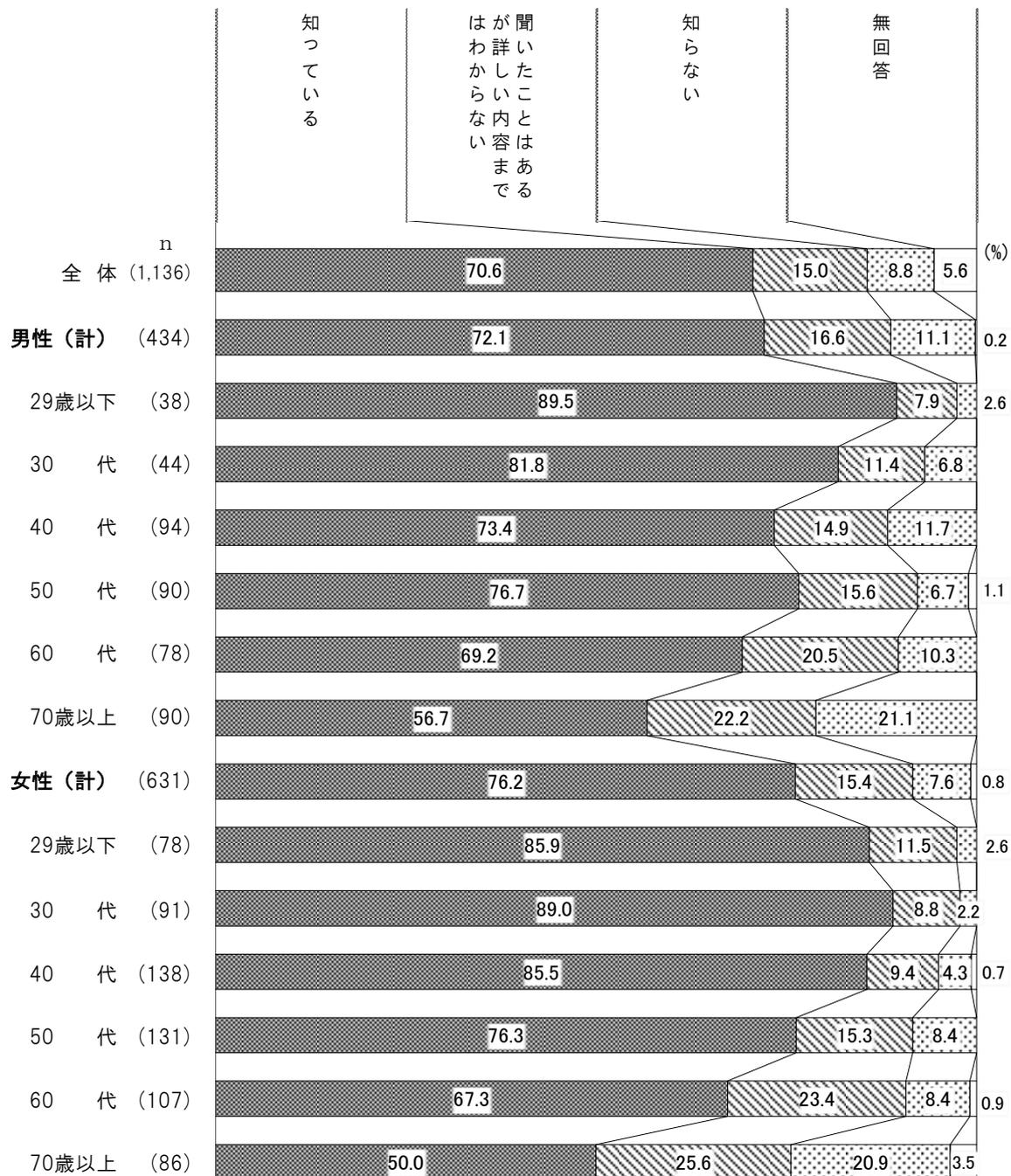
5 多様性の尊重と人権

(1) LGBTの認知度

■ 知っている人が7割を占め、知らない人は1割未満

問30 あなたは、LGBT(※)の言葉の意味を知っていますか (〇は1つ)。

図表 LGBTの認知度 (性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

第2章-5 多様性の尊重と人権

「LGBT」という言葉について、「知っている」回答者は70.6%と7割を占め、「聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない」(15.0%)は1割台半ば、「知らない」(8.8%)という回答者は1割弱である。

性別でみると、男女ともに「知っている」(男性72.1%、女性76.2%)という回答が7割を超えている。「知らない」では、男性11.1%、女性7.6%と、男性が女性を3.5ポイント上回っている。

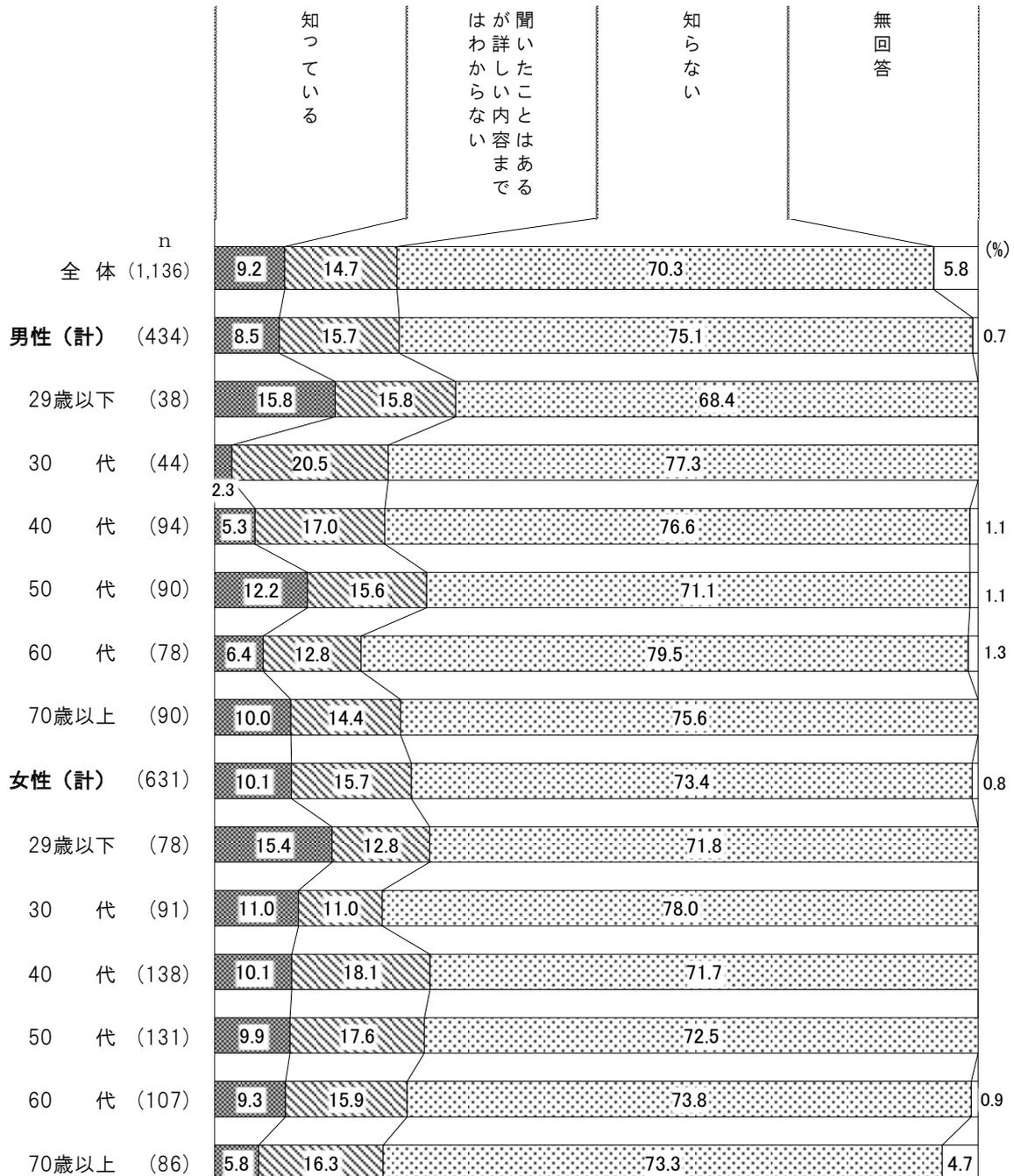
性別・年代別でみると、男女ともに「知っている」は、いずれも年代の高い層で割合が低い傾向がある。反対に、「知らない」は、男女通じて年代が上がるほど割合が高くなっている。

(2) SOGIの認知度

■ 知っている人は1割未満にとどまり、知らない人が7割を占める

問31 あなたは、SOGI(※)の言葉の意味を知っていますか(○は1つ)。

図表 SOGIの認知度(性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

第2章-5 多様性の尊重と人権

「SOGI」という言葉について、「知っている」回答者は9.2%と約1割となっている。「聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない」(14.7%)は1割台半ば、「知らない」(70.3%)という回答者は全体の7割を占める。

性別でみると、認知状況に性別による差はみられない。

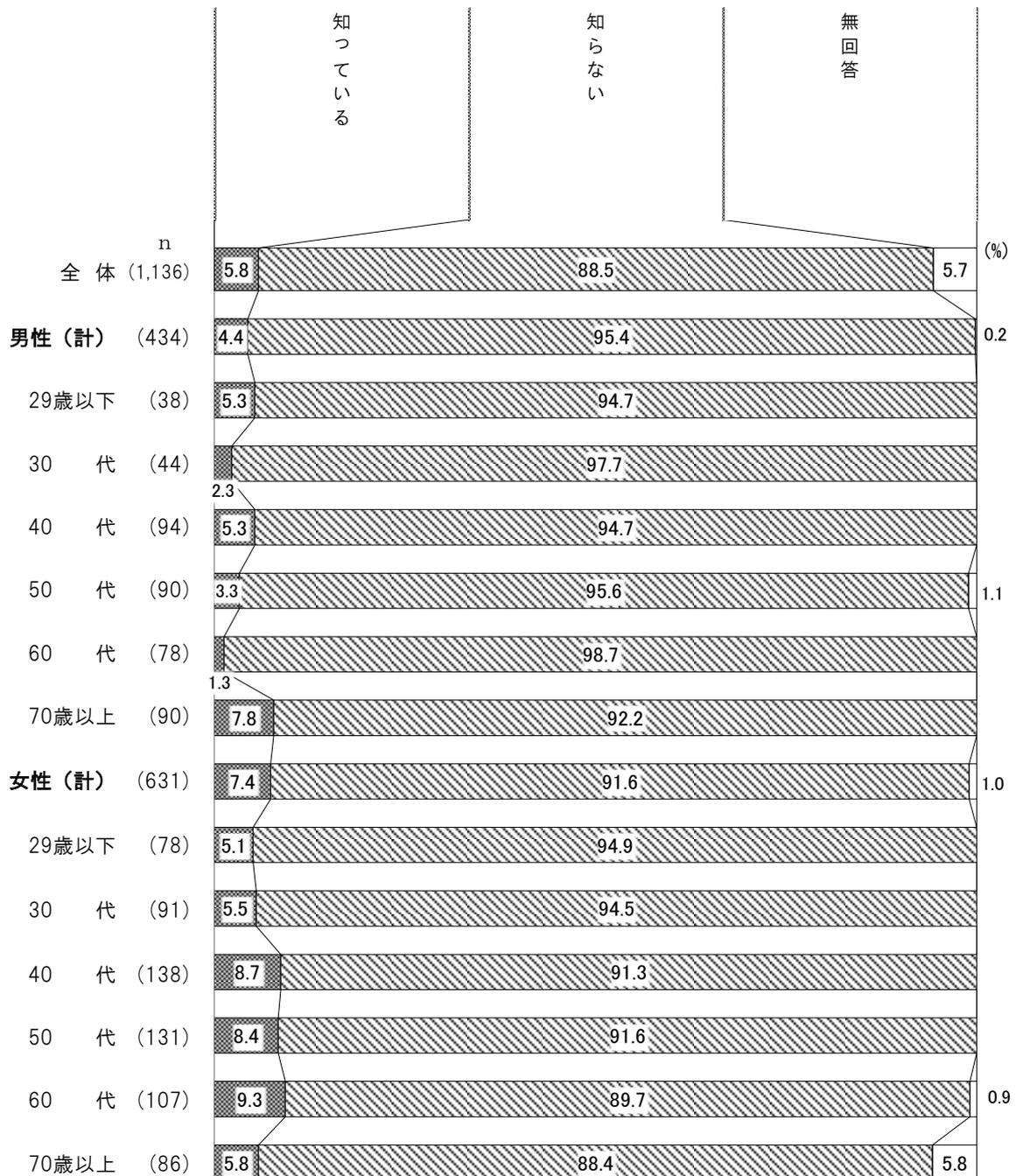
性別・年代別でみると、男女ともに「知っている」は、29歳以下(男性15.8%、女性15.4%)が最も多くなっている。

(3) 足立区のLGBT相談事業の認知状況

■ 知っている人は1割未満にとどまり、知らない人が9割弱を占める

問32 あなたは、令和2年12月に開始した足立区が行っているLGBT等当事者や関係者の悩みを専門の相談員が何うLGBT相談事業を知っていますか（○は1つ）。

図表 足立区のLGBT相談事業の認知状況（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-5 多様性の尊重と人権

足立区のLGBT相談事業の認知状況については、「知っている」回答者は5.8%にとどまり、「知らない」(88.5%)という回答者は全体の9割弱を占めている。

性別でみると、認知状況に性別による差はみられない。

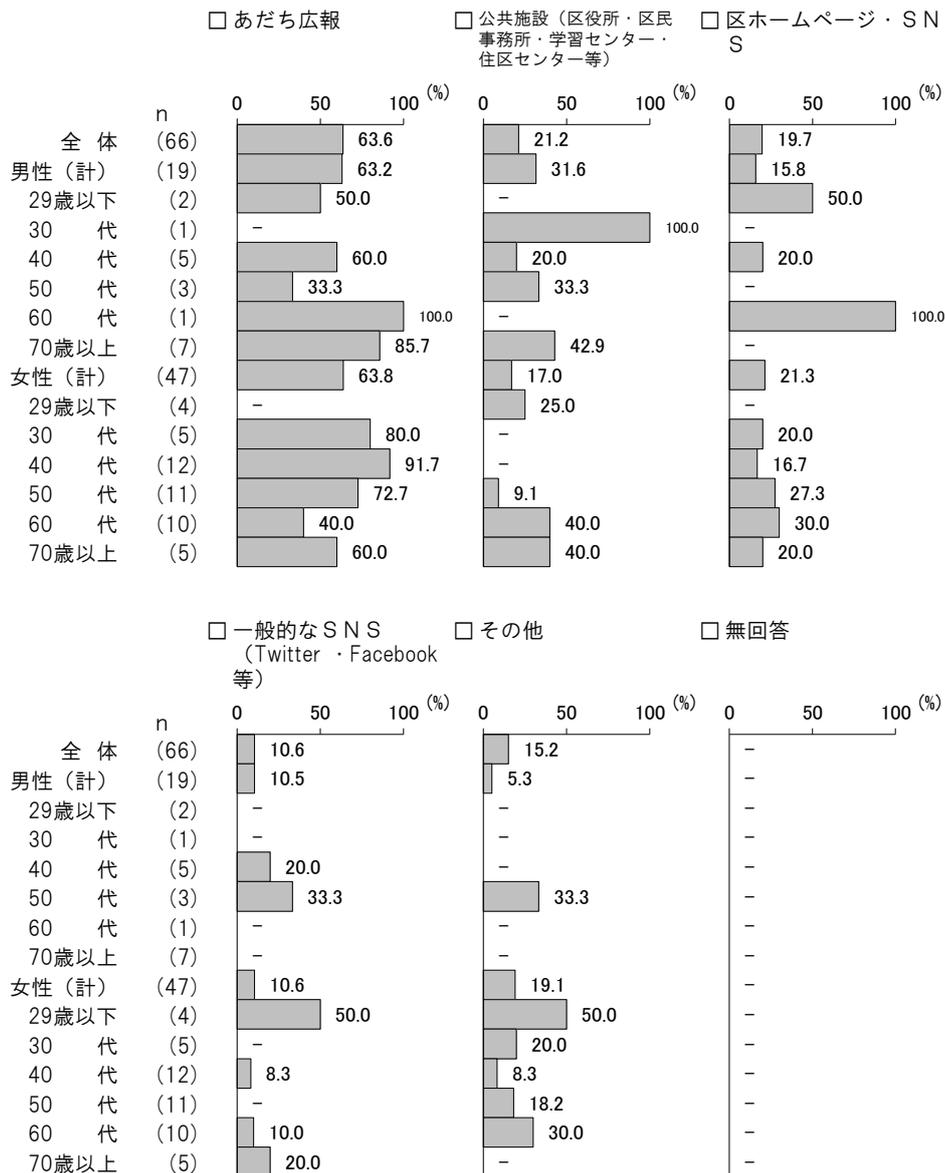
性別・年代別でみると、「知らない」では、女性60代以上を除いた男女すべての年代で9割を超えており、特に男性60代では98.7%とほぼ全数となっている。

(4) 足立区のLGBT相談事業を知ったきっかけ

■ 「あだち広報」が6割を超え最多

問32で「1 知っている」と回答した方のみにお聞きします。
問33 それはどこで知りましたか(〇はいくつでも)。

図表 足立区のLGBT相談事業を知ったきっかけ(性別・年代別)



その他に含まれる選択肢

医療機関・薬局／不動産・金融機関／学校・保育園・幼稚園／勤め先／友人・知人

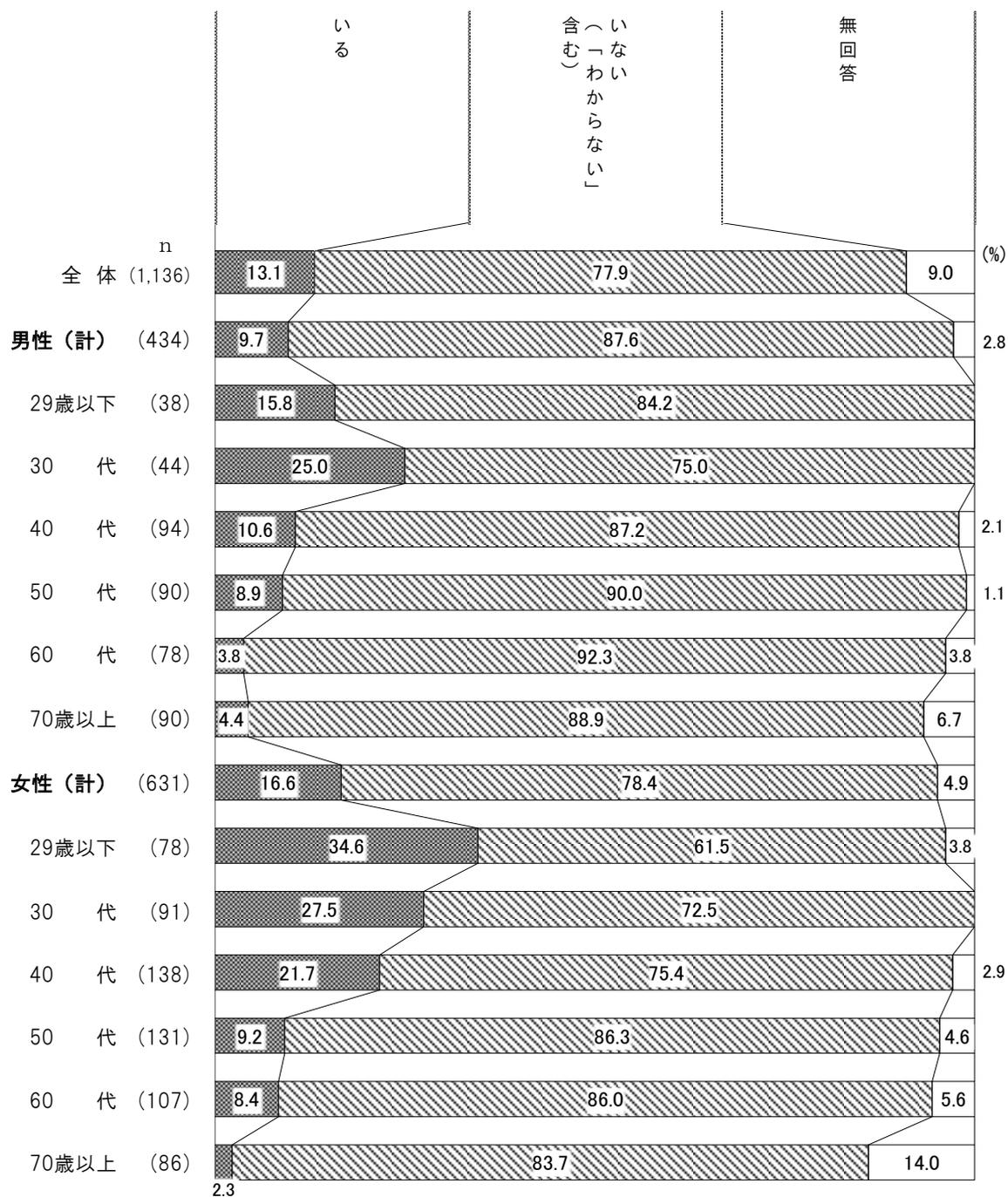
足立区のLGBT相談事業を知ったきっかけとしては、「あだち広報」が63.6%で6割強と最も多くなっており、以下「公共施設(区役所・区民事務所・学習センター・住区センター等)」(21.2%)、「区ホームページ・SNS」(19.7%)が2割前後で続いている。

(5) 周囲のLGBT等当事者

■ いない（わからない）人が8割弱を占めるも、周囲にいる人は1割を超える

問34 あなたの身近な人にLGBT等の人はいますか（○は1つ）。

図表 周囲のLGBT等当事者（性別・年代別）



周囲のLGBT等当事者の有無については、「いる」という回答者は13.1%で1割強となっており、「いない(「わからない」含む)」(77.9%)という回答者は全体の8割弱を占めている。

性別でみると、「いる」という回答者は、男性9.7%、女性16.6%と、女性が男性を6.9ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、「いる」という回答者は、女性の29歳以下から40代にかけて2割以上と多くなっており、特に29歳以下では34.6%と3割台半ばとなっている。

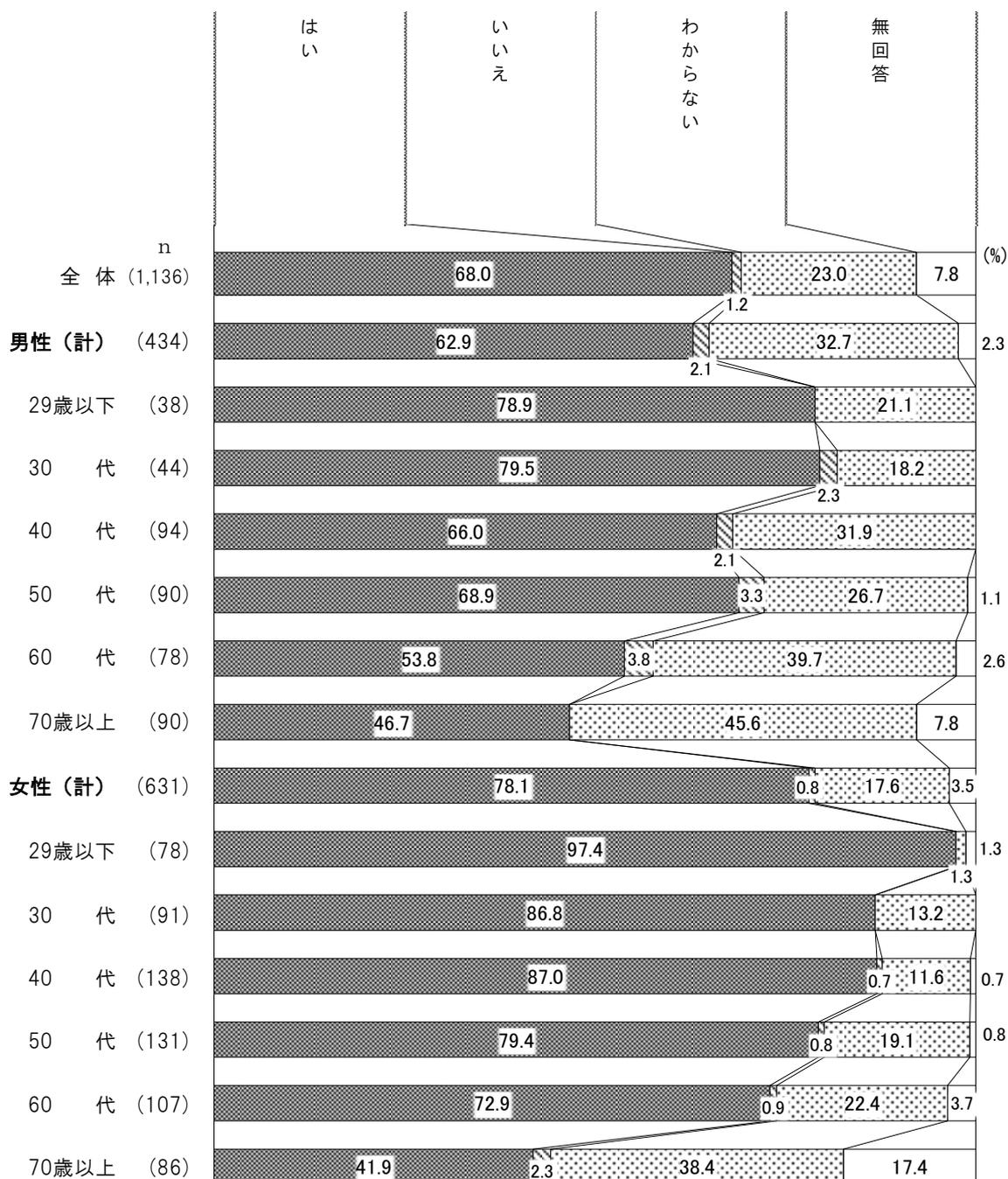
(6) L G B T等であることを打ち明けられた時の対応

■ 「理解する」「悩みを聞く」「今までどおりの距離感」と回答した人が6割台半ばから7割強を占める

問35 身近な人から、L G B T等であることを打ち明けられたとき、どうしますか (○はそれぞれ1つ)。

ア 理解をする

図表 L G B T等であることを打ち明けられた時の対応 ア 理解をする (性別・年代別)



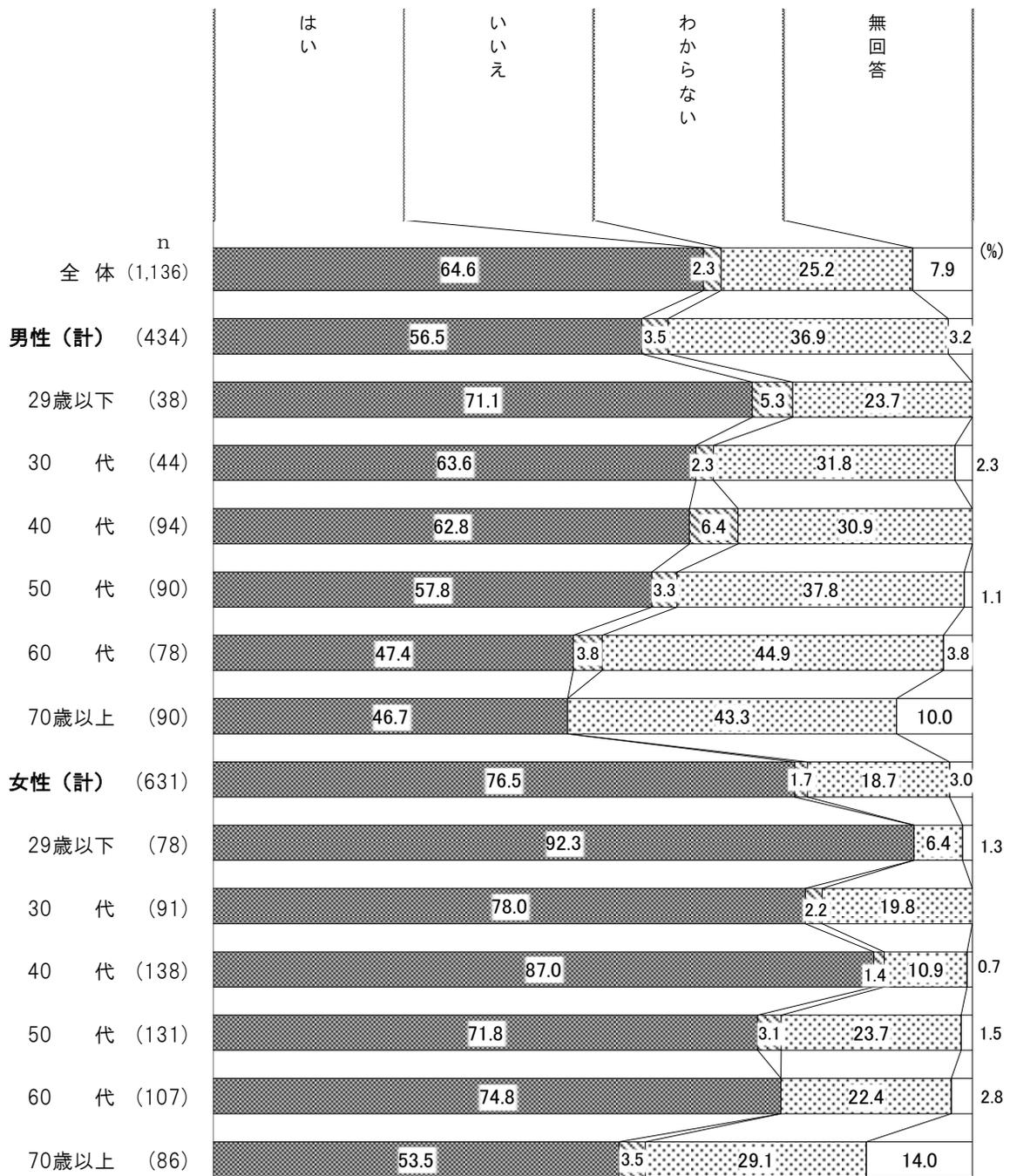
LGBT等であることを打ち明けられた時の対応として“理解をする”かをたずねたところ、「はい」という回答者は68.0%で7割弱を占め、「いいえ」という回答者はわずか1.2%、「わからない」という回答者は23.0%となっている。

性別でみると、「はい」という回答者は、男性62.9%、女性78.1%と、女性が男性を15.2ポイント上回っている。また、「わからない」という回答者は、男性(32.7%)が女性(17.6%)を15.1ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、男女ともに「はい」という回答者は、おおむね年代が高くなるほど割合が低くなる傾向にある。

イ 悩みを聞く

図表 LGBT等であることを打ち明けられた時の対応 イ 悩みを聞く（性別・年代別）



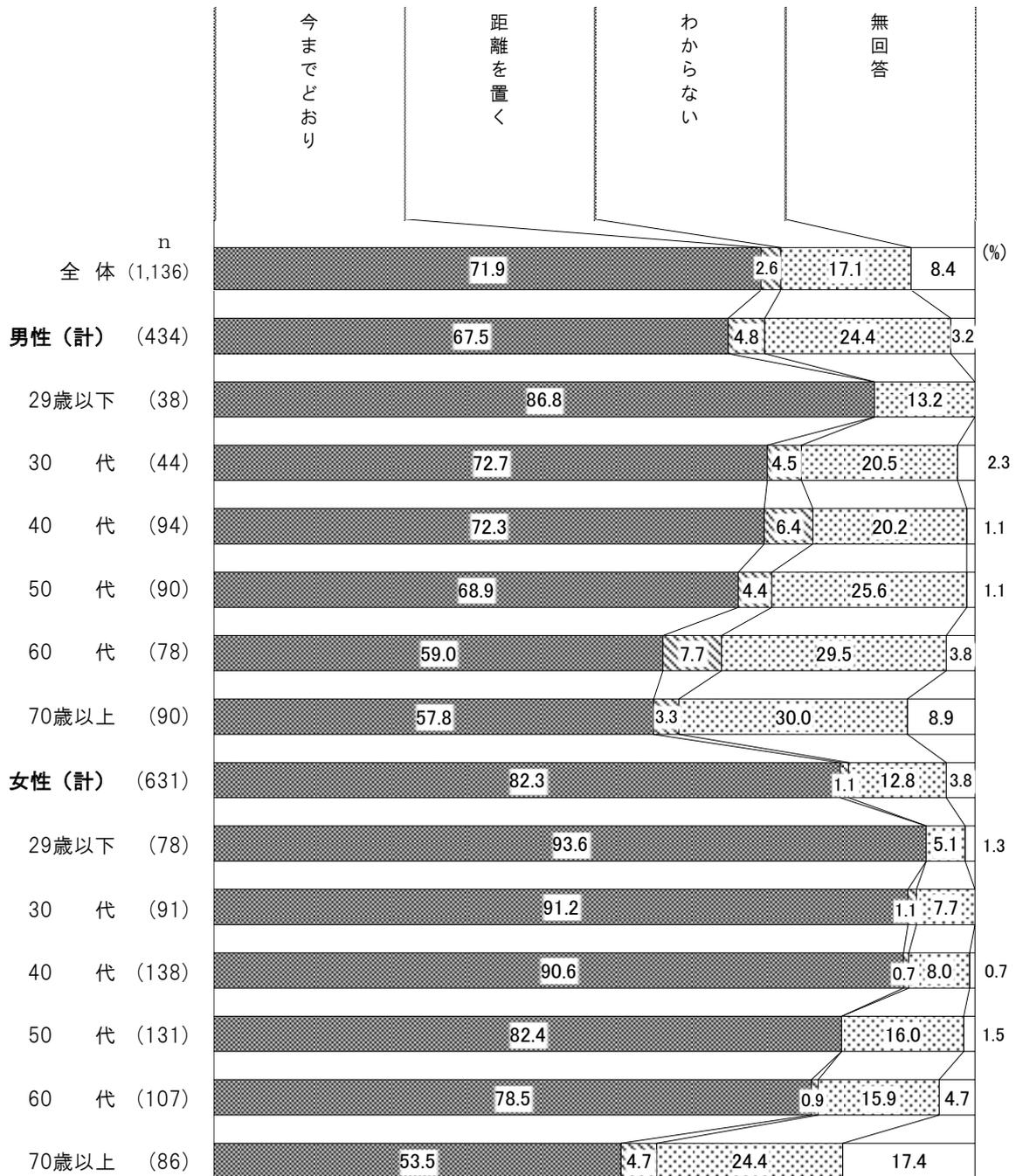
LGBT等であることを打ち明けられた時の対応として“悩みを聞く”かをたずねたところ、「はい」という回答者は64.6%で6割台半ばと多く、「いいえ」という回答者はわずか2.3%、「わからない」という回答者は25.2%となっている。

性別でみると、「はい」という回答者は、男性56.5%、女性76.5%と、女性が男性を20.0ポイント上回っている。また、「わからない」という回答者は、男性(36.9%)が女性(18.7%)を18.2ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、男女ともに「はい」という回答者は、おおむね年代が高くなるほど割合が低くなる傾向にある。

ウ 相手との距離

図表 LGBT等であることを打ち明けられた時の対応 ウ 相手との距離（性別・年代別）



LGBT等であることを打ち明けられた時の対応として“相手との距離感”については、「今までどおり」という回答者は71.9%で約7割を占め最も多く、「距離を置く」という回答者はわずか2.6%、「わからない」という回答者は17.1%となっている。

性別で見ると、「今までどおり」という回答者は、男性67.5%、女性82.3%と、女性が男性を14.8ポイント上回っている。また、「わからない」という回答者は、男性(24.4%)が女性(12.8%)を11.6ポイント上回っている。

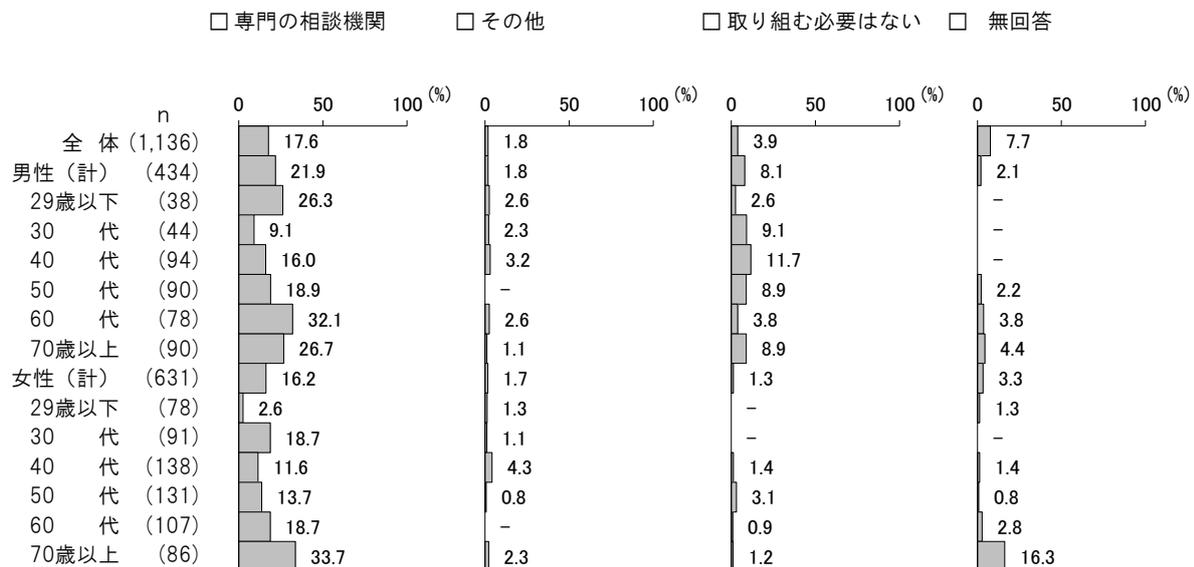
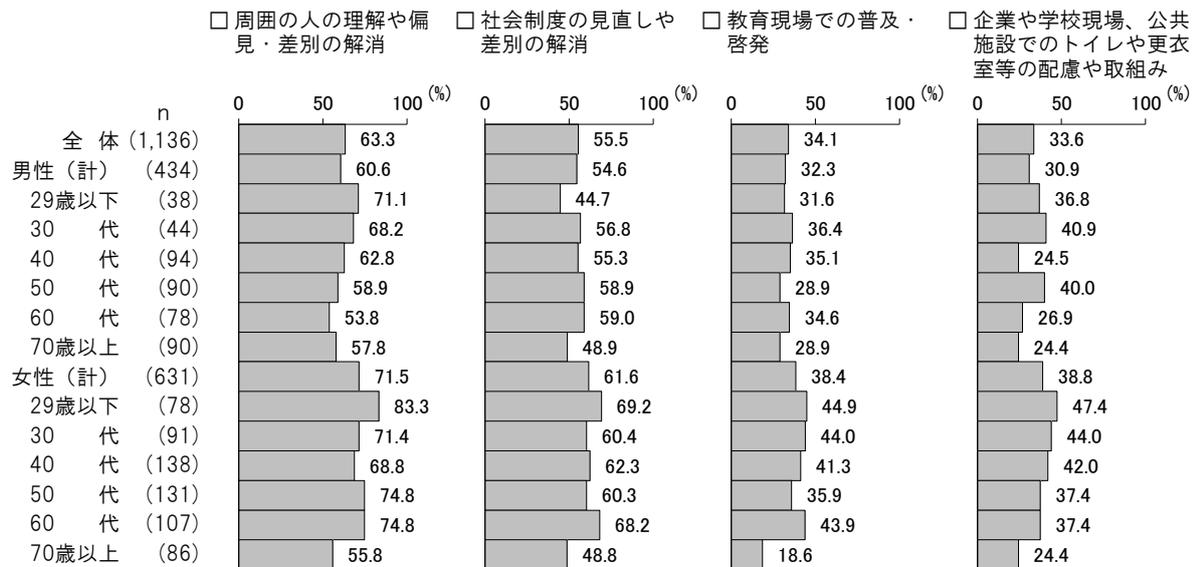
性別・年代別で見ると、男女ともに「今までどおり」という回答者は、おおむね年代が高くなるほど割合が低くなる傾向にある。

(7) LGBT等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこと

■ 「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」が6割強で最多

問36 LGBT等の人たちが暮らしやすい社会になるためには特に何が必要だと思いますか（〇は3つまで）。

図表 LGBT等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこと（性別・年代別）



LGBT等当事者が暮らしやすい社会づくりのために特に必要だと思うこととしては、「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」(63.3%)が6割強と最も多く、「社会制度の見直しや差別の解消」(55.5%)も5割台半ばと多くなっている。

性別で見ると、男女ともに「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」を第1位にあげており、男性60.6%、女性71.5%と、女性が男性を10.9ポイント上回っている。

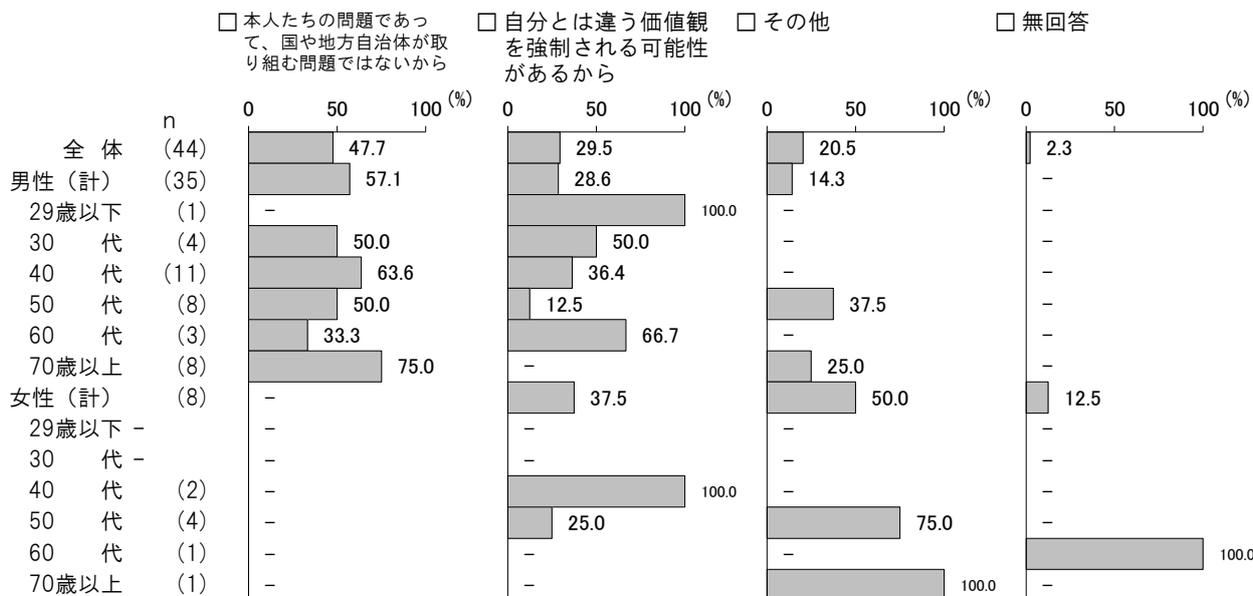
性別・年代別で見ると、「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」では、女性29歳以下が83.3%と最も多くなっている。女性では、「周囲の人の理解や偏見・差別の解消」、「社会制度の見直しや差別の解消」の割合は、70歳以上を除いたすべての年代で6割を超えている。

(8) 取り組む必要はないと思う理由

■ 「本人たちの問題であり国や地方自治体に取り組む問題ではない」が4割半ばで最多

問36で「7 取り組む必要はない」と回答した方のみにお聞きします。
 問37 必要でないと思う最も近い理由は何ですか（○は1つ）。

図表 取り組む必要はないと思う理由（性別・年代別）



その他に含まれる選択肢

社会の理解がまだ醸成されていないから

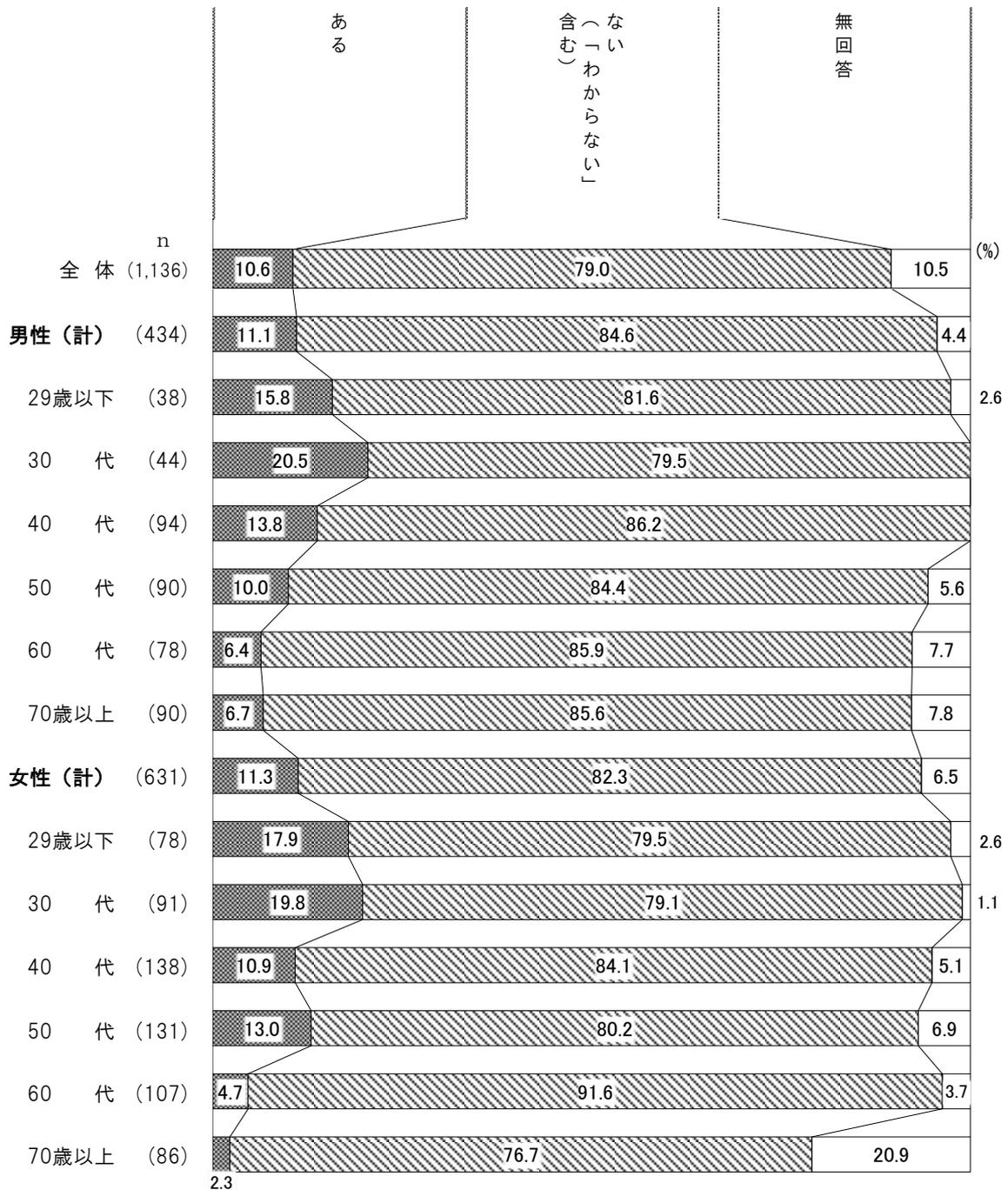
取り組む必要はないと思う理由としては、「本人たちの問題であって、国や地方自治体に取り組む問題ではないから」が47.7%と最も多くなっており、「自分とは違う価値観を強制される可能性があるから」は29.5%となっている。

(9) 性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無

■ ない(わからない)が8割弱を占めるも、ある人が1割を超える

問38 自身もしくは身近な人が「同性に好意を抱く」あるいは「性別と外見・仕草が異なること」等を理由に、いじめや差別を受けたり、または、見聞きしたことはありますか(○は1つ)。

図表 性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無(性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

第2章-5 多様性の尊重と人権

性的マイノリティ等を理由にいじめを受けたり、見聞きした経験の有無については、「ある」という回答者は10.6%と1割、「ない(「分からない」含む)」という回答者は79.0%と全体の約8割を占めている。

性別でみると、いずれの項目も性別による差はみられない。

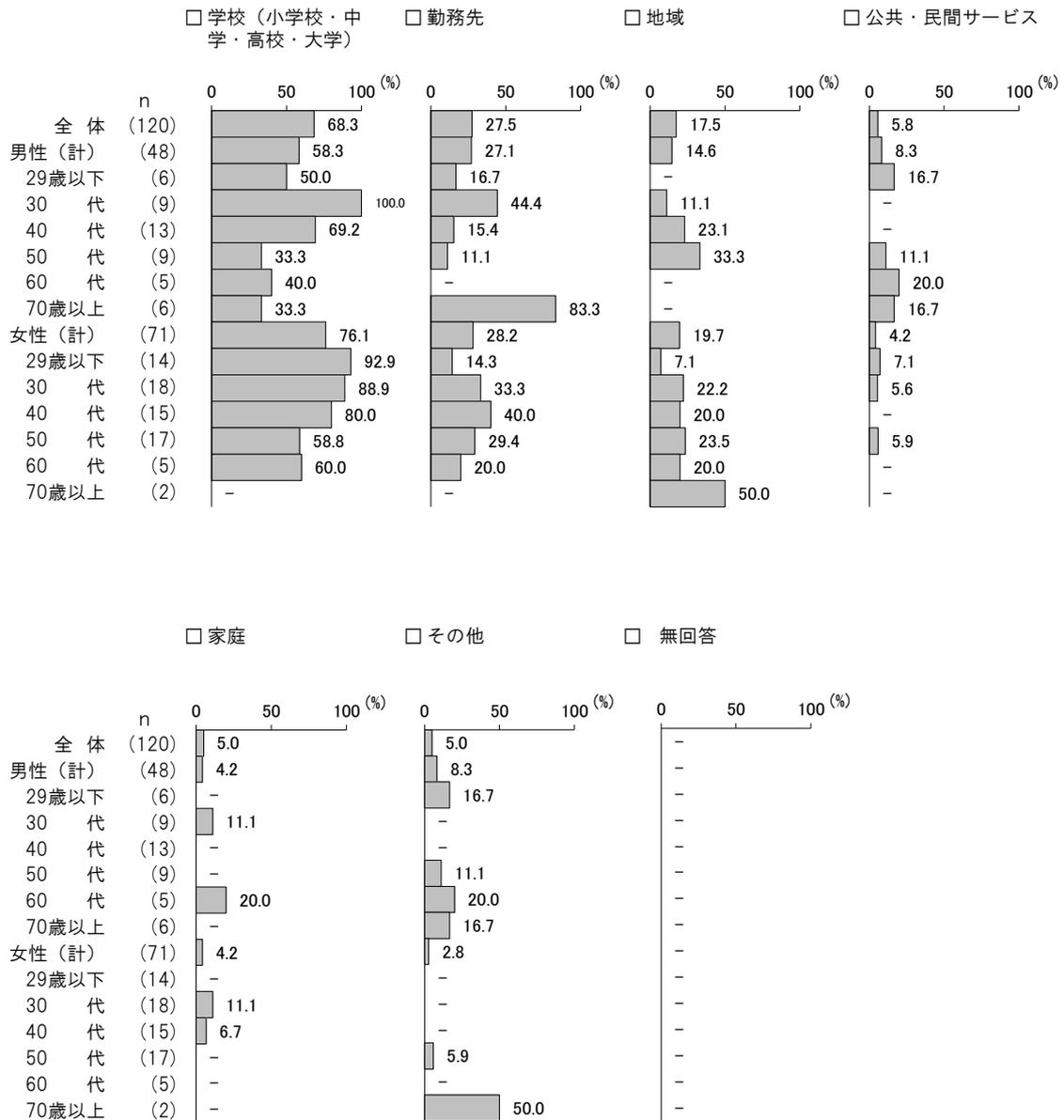
性別・年代別でみると、男女ともに「ある」という回答者は、30代(男性20.5%、女性19.8%)が特に多くなっている。

(10) いじめを受けたり、見聞きした場面

■ 「学校(小学校・中学・高校・大学)」が約7割で最多

問38で「1 ある」と回答した方のみにお聞きします。
問38-1 それはどこでしたか(〇はいくつでも)。

図表 いじめを受けたり、見聞きした場面(性別・年代別)



いじめを受けたり、見聞きした場面としては、「学校(小学校・中学・高校・大学)」が68.3%と最も多くなっており、「勤務先」が27.5%、「地域」が17.5%と続いている。

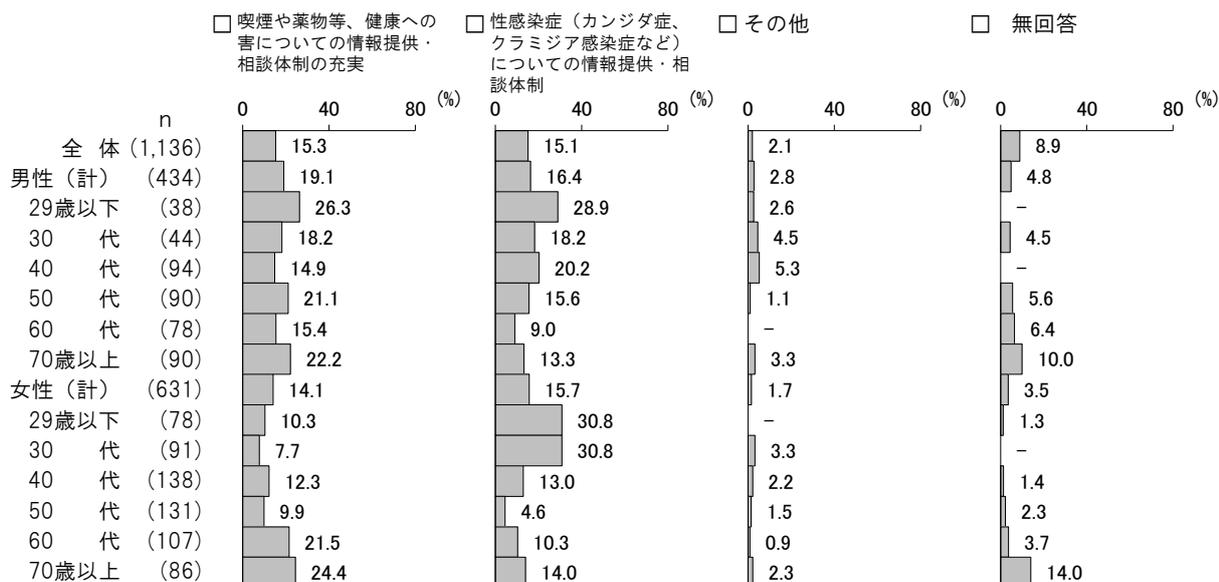
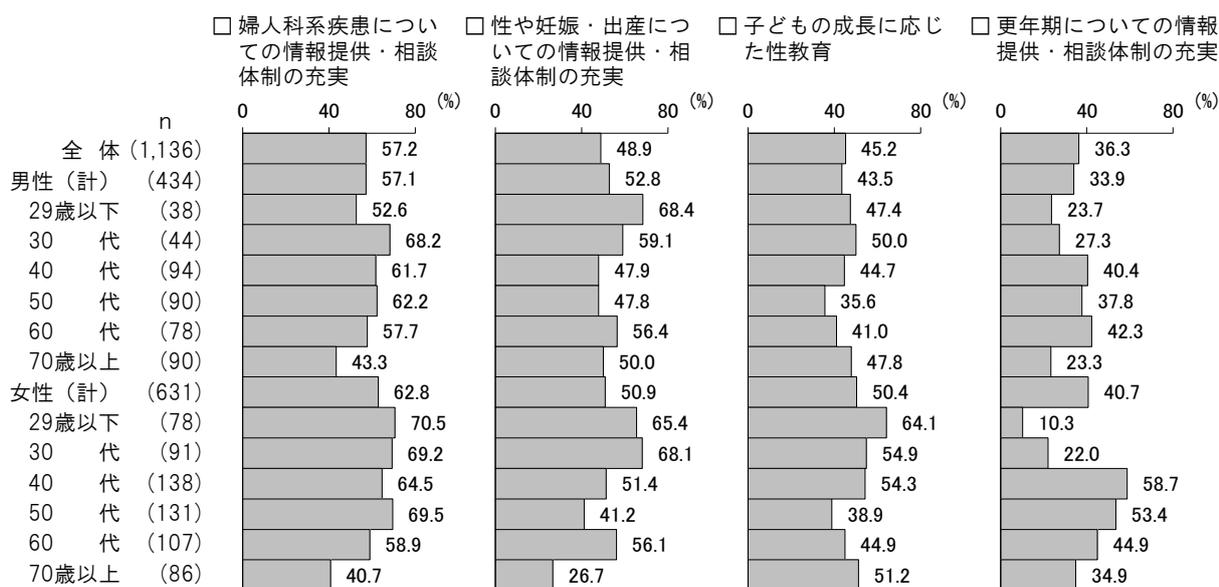
性別でみると、男女ともに「学校(小学校・中学・高校・大学)」が最も多く、男性58.3%、女性76.1%と、女性が男性を17.8ポイント上回っている。

(11) 女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、大切だと思うこと

■ 「婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実」が6割弱で最多

問39 女性は、男性と異なる健康上の問題に直面することがあります。こうした問題の重要性について社会全体で認識し、理解を深める必要があります。あなたが、女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、特に大切だと思うことをお答えください（〇は3つまで）。

図表 女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、大切だと思うこと（性別・年代別）



女性の生涯を通じた健康を考える上で、大切だと思うこととしては、「婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実」が57.2%で最も多くあげられ、以下「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(48.9%)、「子どもの成長に応じた性教育」(45.2%)が4割台で続いている。

性別で見ると、男女ともに「婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実」(男性57.1%、女性62.8%)が第1位にあげられ、女性が男性を5.7ポイント上回っている。また、「子どもの成長に応じた性教育」(男性43.5%、女性50.4%)も、女性が男性を6.9ポイント上回っている。

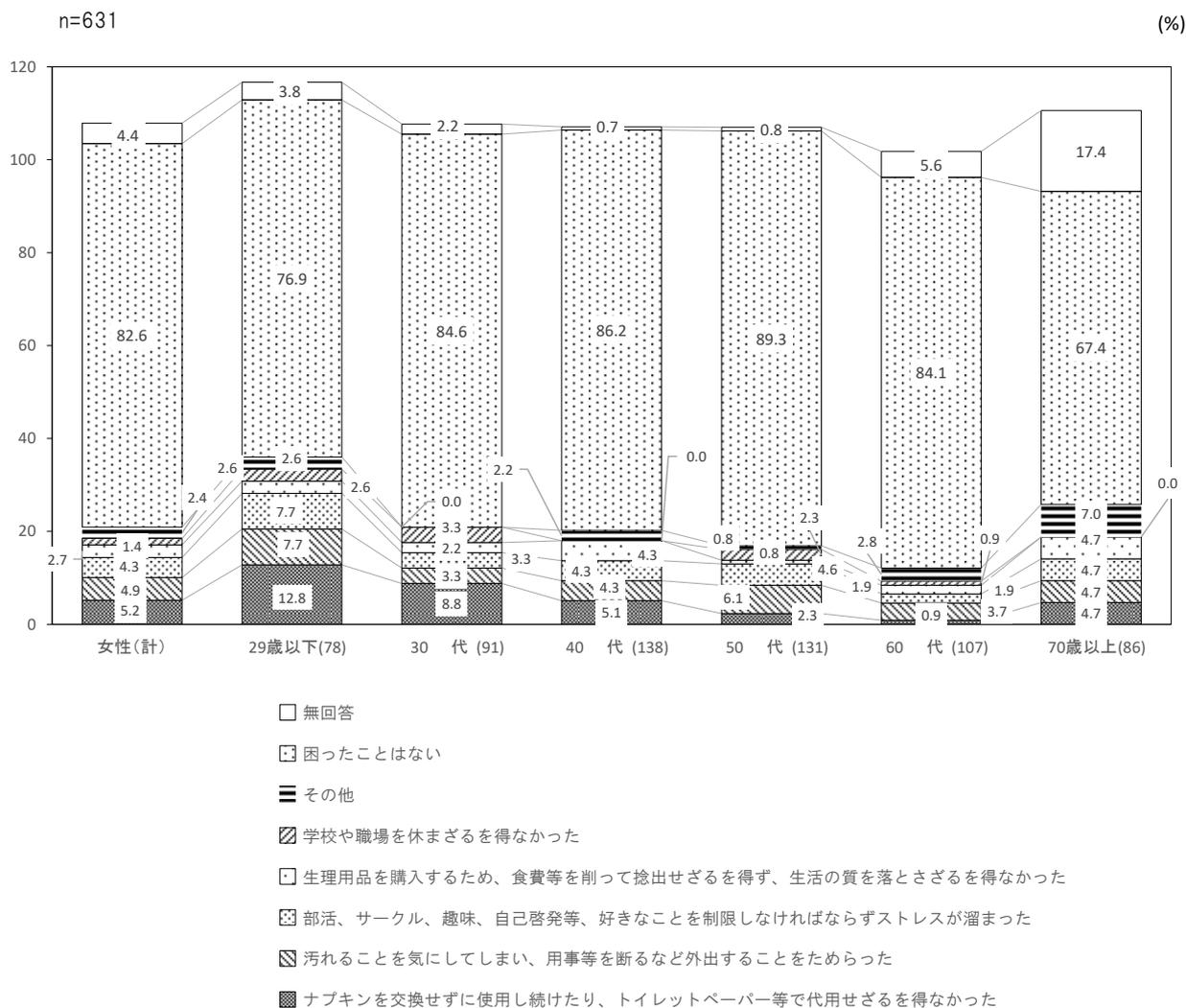
性別・年代別で見ると、「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」では、女性の29歳以下(65.4%)から30代(68.1%)にかけて6割台で多くなっている。一方、「更年期についての情報提供・相談体制の充実」では、女性の40代(58.7%)から50代(53.4%)にかけて5割台で多くなっている。「性感染症(カンジダ症、クラミジア感染症など)についての情報提供・相談体制」では、女性の29歳以下と30代がともに30.8%で多くなっている。

(12) 生理用品の購入ができず困った経験の有無

■ 困ったことはない人が8割を超えるも、いずれかの経験をしている人が1割強

女性のみにお聞きします。
問40 昨今、経済的な理由等で生理用品を十分に手に入れることができない、いわゆる「生理の貧困」が問題となっています。実際に生理用品の購入ができず困ったことはありますか（〇はいくつでも）。

図表 生理用品の購入ができず困った経験の有無（性別・年代別）



生理用品の購入ができず困った経験の有無について女性にたずねたところ、いずれかの経験をしている(※)回答者は13.0%、「困ったことはない」という回答者は82.6%となっている。

経験としては、「ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレトペーパー等で代用せざるを得なかった」が5.2%と最も多くなっている。

※いずれかの経験をしている…全体から「困ったことはない」と「無回答」を引いた数

性別・年代別でみると、「ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレトペーパー等で代用せざるを得なかった」では、女性29歳以下が12.8%と最も多くなっている。

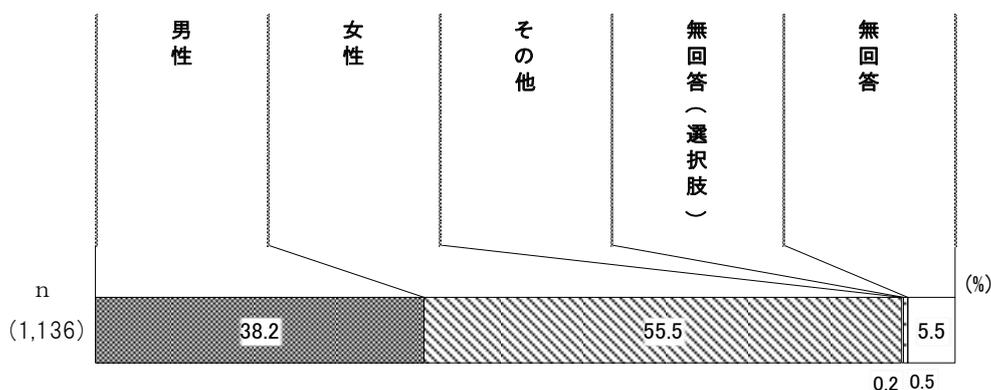
6 基本属性

6 基本属性

(1) 性別

F1 あなたが自認している性別をお答えください（○は1つ）。

図表 性別（全体）

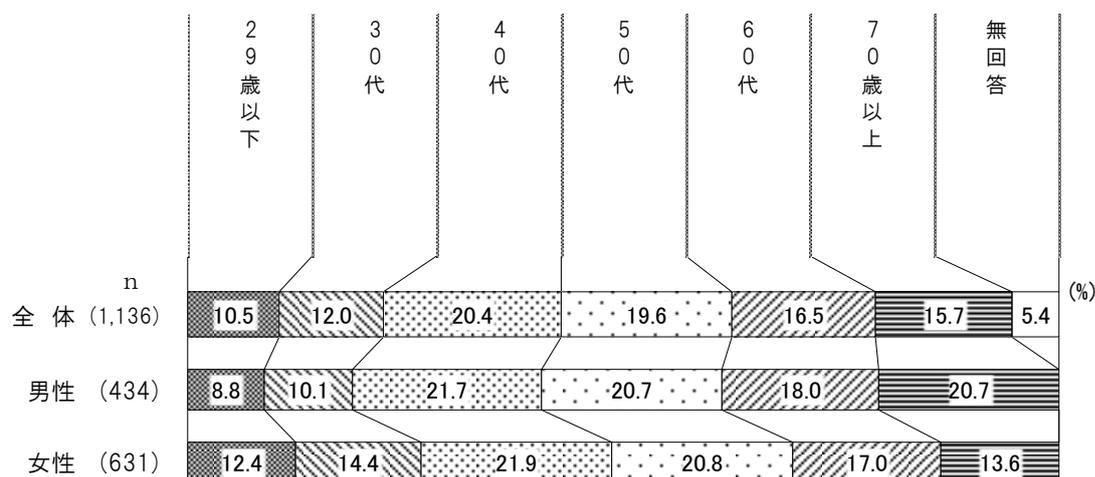


回答者が自認している性別の男女比は、「男性」38.2%、「女性」55.5%、「その他」0.2%となっている。

(2) 年齢

F2 あなたの現在の年齢は、おいくつですか（令和3年10月1日現在の年齢）。

図表 年齢（性別）

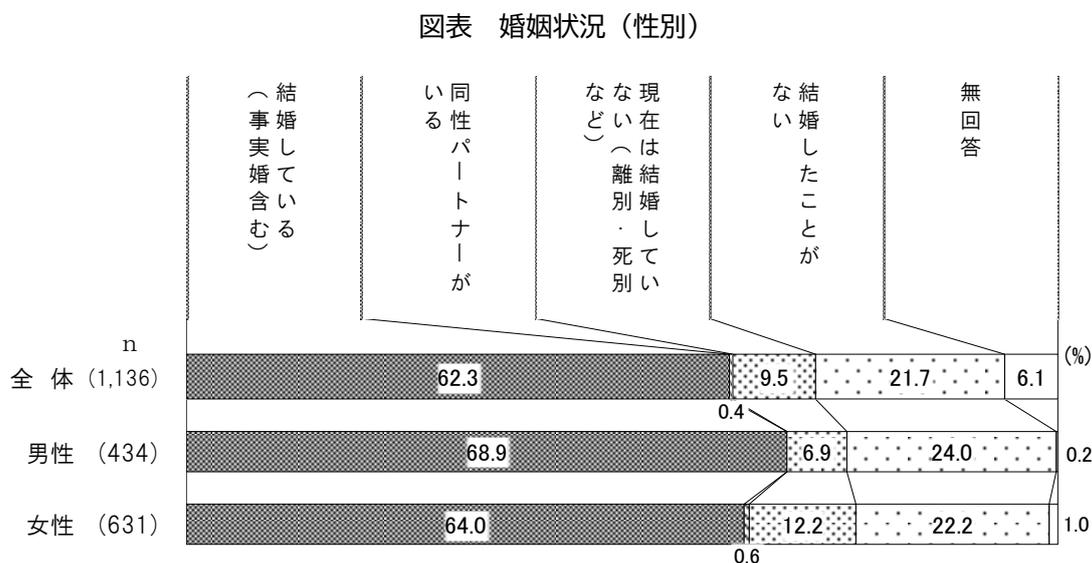


回答者の年代分布は、「40代」20.4%、「50代」19.6%、「60代」16.5%の順となっており、30代以下の年代の比率がやや少なくなっている。

性別で見ると、男性は「40代」(21.7%)の回答者が最も多く、次いで「50代」と「70歳以上」(ともに20.7%)が多くなっている。女性についても「40代」(21.9%)の回答者が最も多く、次いで、「50代」(20.8%)、「60代」(17.0%)の回答者が多い。

(3) 婚姻状況

F3 あなたの現在の婚姻状況（事実婚含む）をお答えください（○は1つ）。

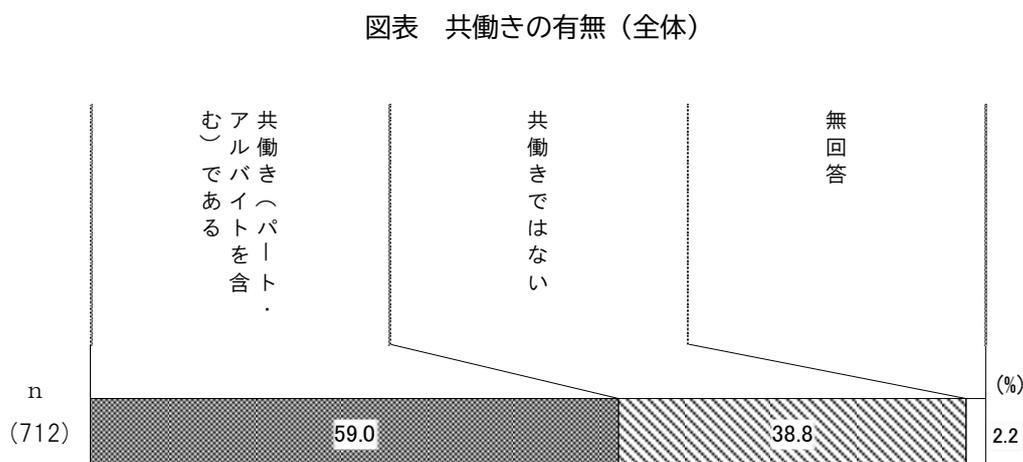


回答者の中で「結婚している（事実婚含む）」人は62.3%である。「結婚したことがない」人は21.7%、「現在は結婚していない（離別・死別など）」人は9.5%となっている。

性別で見ると、「現在は結婚していない（離別・死別など）」人は女性12.2%で、男性（6.9%）を5.3ポイント上回っている。

(4) 共働きの有無

F3で「1 結婚している」「2 同性パートナーがいる」と回答した方のみにお聞きます。
F3-1 あなたの現在の就労状況をお答えください（○は1つ）。

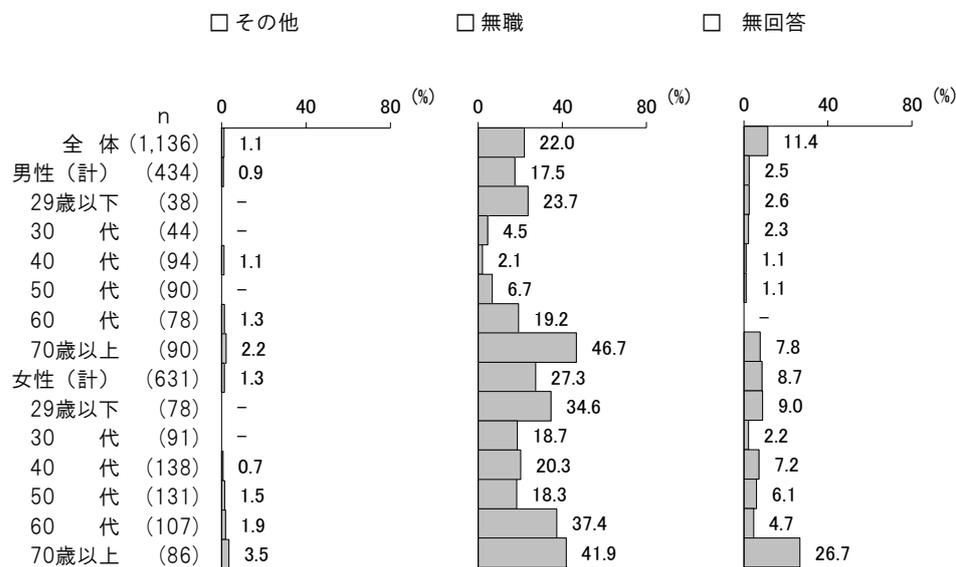
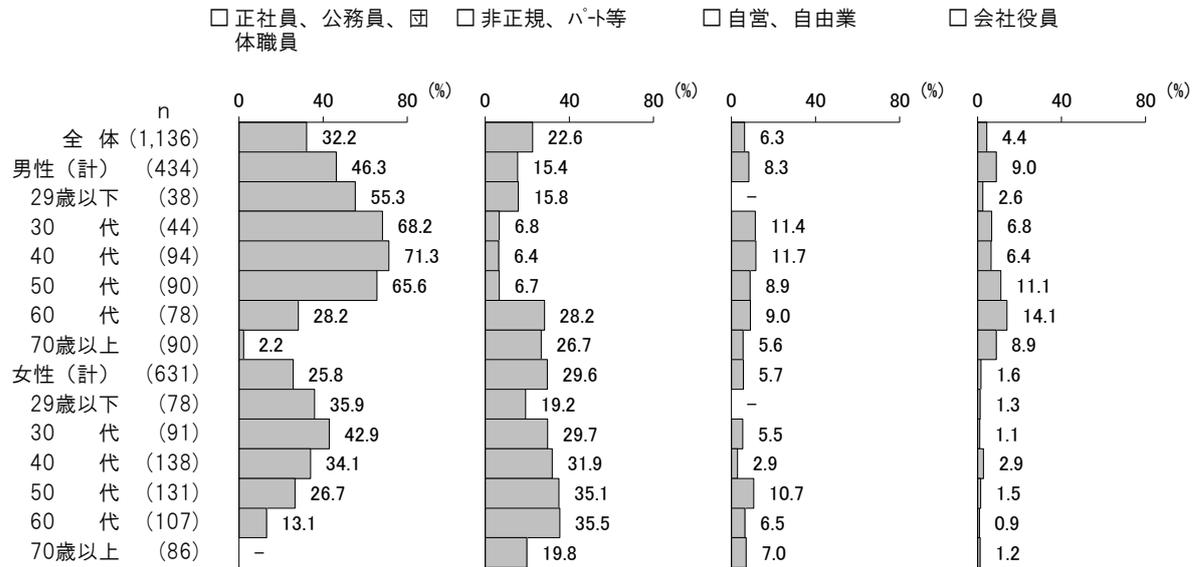


回答者の中で「共働き（パート・アルバイトを含む）である」人は59.0%、「共働きではない」人は38.8%となっている。

(5) 職業

F4 あなたの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。複数のお仕事をお持ちの方は、主なものを1つお答えください（○は1つ）。

図表 職業（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

回答者の職業は、「正社員、公務員、団体職員」が32.2%で、ほぼ3人に1人が正規雇用である。一方、「非正規・パート等」(22.6%)はほぼ4人に1人となっている。回答者の6割以上が、何らかの職業を持っている。

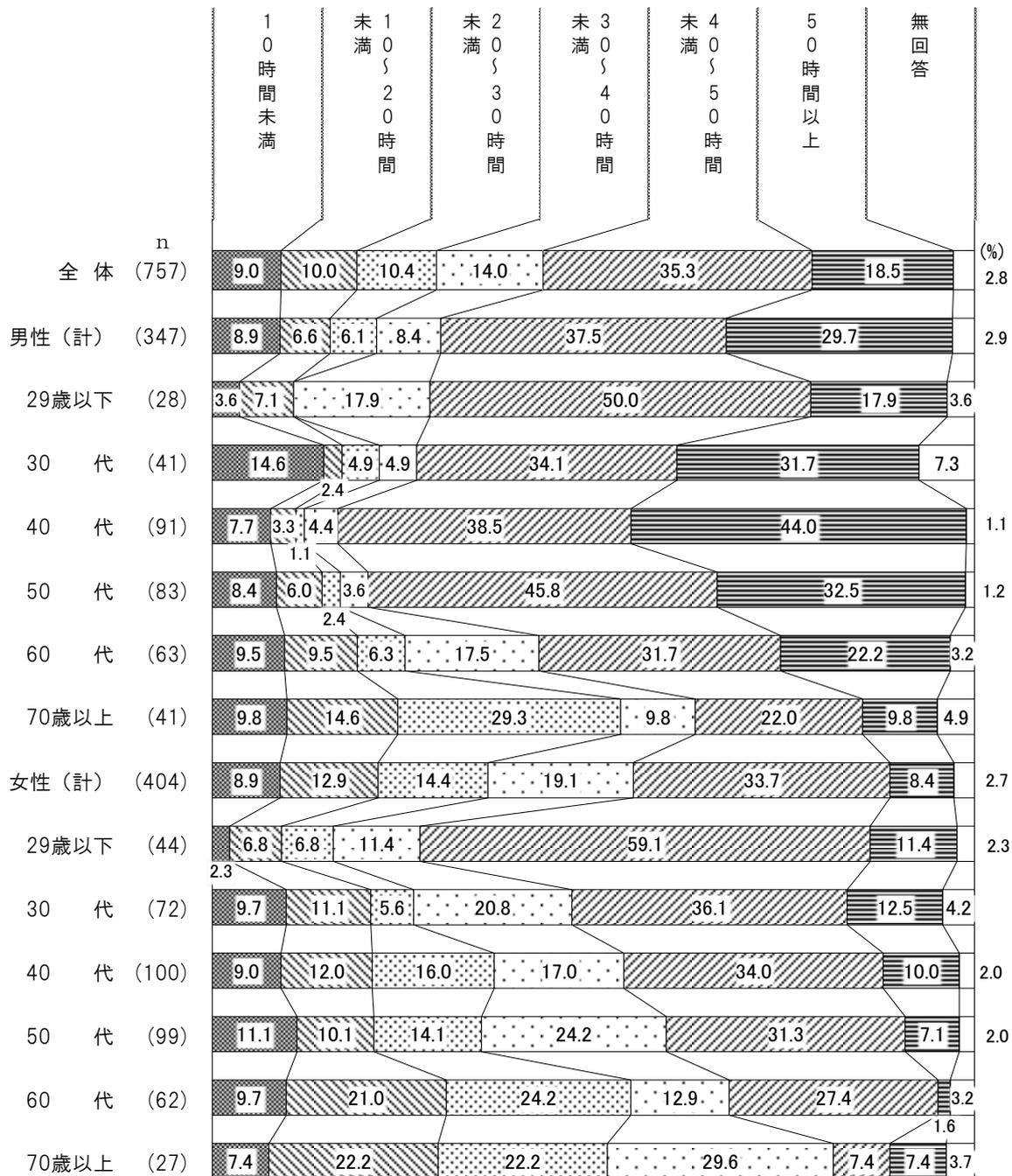
性別でみると、男性では4割台半ばが「正社員、公務員、団体職員」(46.3%)である。これに対して、女性の「正社員、公務員、団体職員」(25.8%)は2割台半ばにとどまっており、約3割が「非正規・パート等」(29.6%)となっており、男女差がみられる。有職率は、男性80.0%、女性64.0%で16.0ポイントの開きがある。

性別・年代別でみると、男性では、29歳以下から50代にかけて「正社員、公務員、団体職員」である回答者が最も多く、特に40代では約7割となっている。対して、女性では「正社員、公務員、団体職員」は30代(42.9%)をピークに減少傾向にあり、40代以降は「非正規・パート等」が各年代3割を超えるなど、男性に比べ回答傾向が分散している。また、「会社役員」では、男性は50代から60代にかけて1割台となっているが、女性は全ての年代で1割を下回っており、最も多い層でも40代で2.9%にとどまる。

(6) 1週間の平均就労時間

F 4で1～9のお仕事をしていると回答した方のみにお聞きします。
F 5 あなたは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか（枠内に数字で回答してください）※複数のお仕事をもっている場合は合算してください。

図表 1週間の平均就労時間（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

有職者(757人)の1週間の平均就労時間は、「40～50時間未満」が35.3%で最も多く、次いで「50時間以上」が18.5%となっており、平均すると39.3時間(※)である。

性別で見ると、男性では「40～50時間未満」(37.5%)が多く、平均48.1時間(※)である。一方、非正規雇用の多い女性では「40～50時間未満」(33.7%)に次いで「30～40時間未満」(19.1%)という回答者が多く、1週間の平均就労時間は31.9時間(※)と、男性より7.4時間短くなっている。

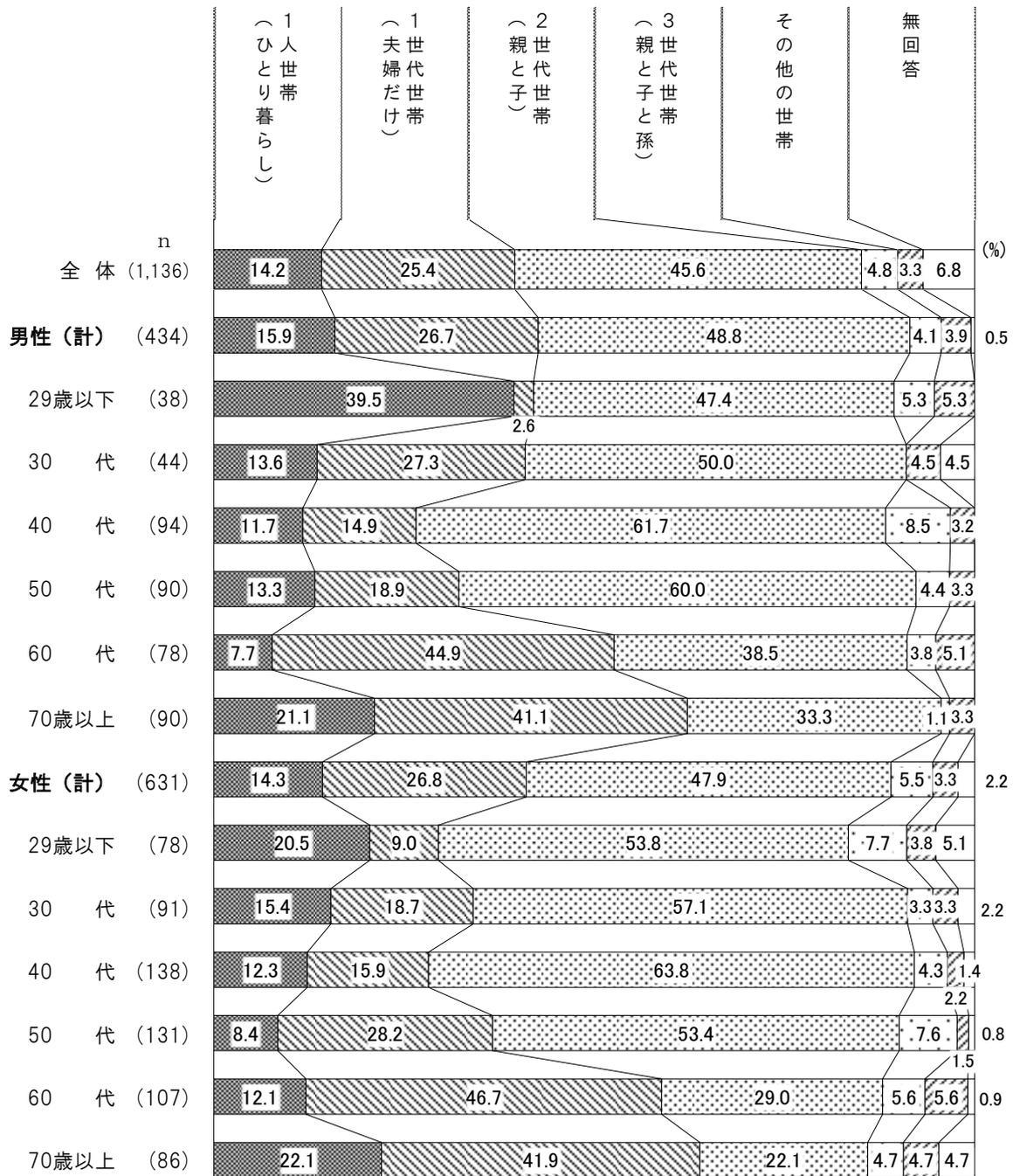
性別・年代別で見ると、男性の40代では、1週間あたり「50時間以上」(44.0%)という回答者が4割台半ばとなっており、平均就労時間は54.0時間(※)と最も多くなっている。60代以上となると40時間未満の回答が多くなり、年代が高くなるほど平均就労時間は減少する。一方、女性の中では、正規雇用の割合が多い29歳以下では「40～50時間」(59.1%)が多く、家事や育児、介護の負担が偏る30代から50代では「30～40時間未満」が多くなっている。非正規雇用の割合が多くなる60代以降は、「10～20時間未満」や「20～30時間未満」の割合が多くなっている。

※回答者全体、年代及び性別ごとに算出した回答時間の平均値

(7) 世帯構成

F6 あなたの世帯は、以下のように分類した場合どれにあたりますか (○は1つ)。

図表 世帯構成 (性別・年代別)



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

回答者の家族構成は、「2世代世帯(親と子)」が45.6%で最も多く、次いで「1世代世帯(夫婦だけ)」が25.4%、「1人世帯(ひとり暮らし)」が14.2%と続いている。

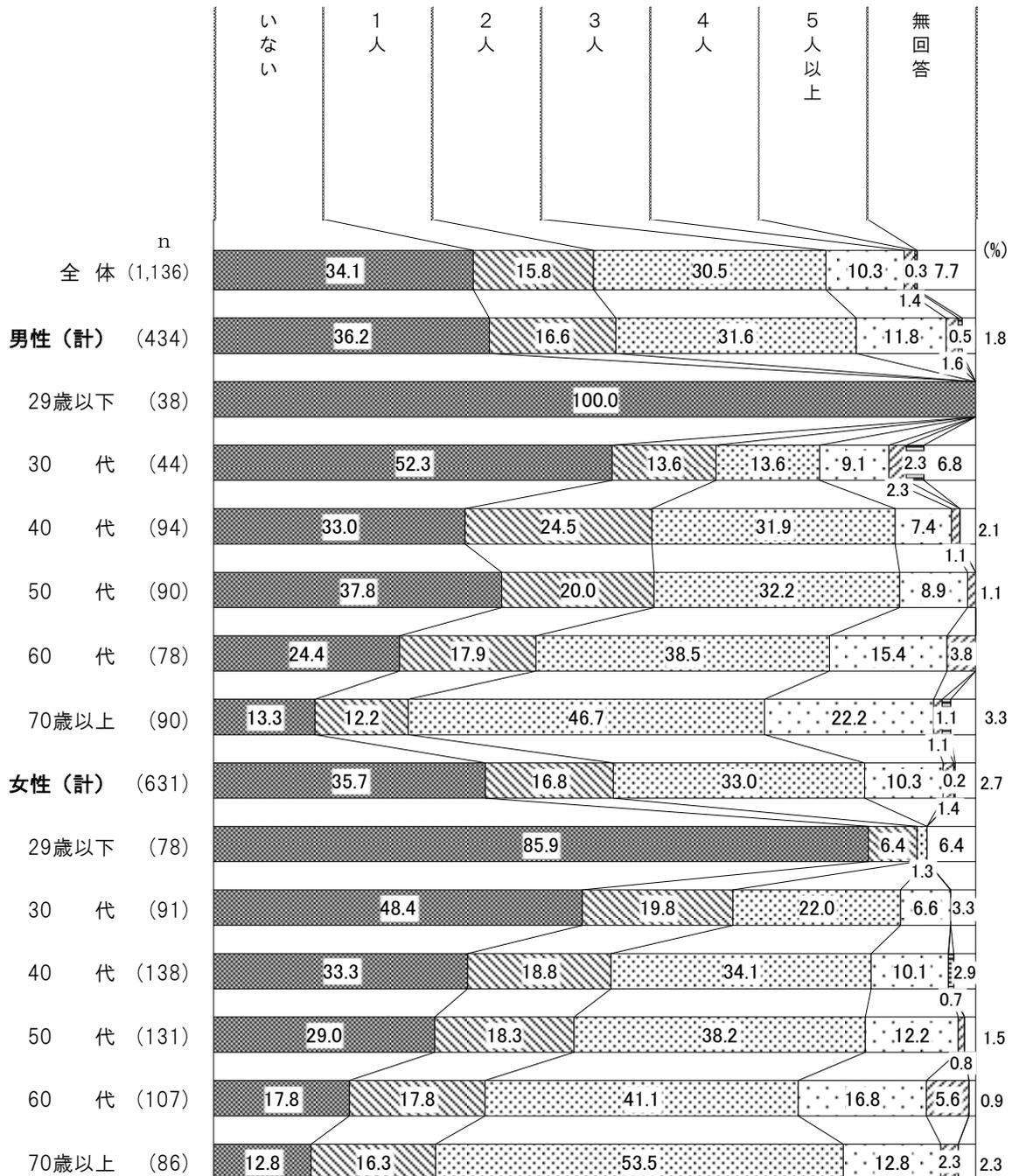
性別で見ると、「2世代世帯」(男性48.8%、女性47.9%)は男女ともに最も多く、約半数となっている。

性別・年代別で見ると、「2世代世帯」は、男女ともに50代までは多く、特に男女ともに40代(男性61.7%、女性63.8%)では6割を占めている。一方、「1人世帯」は、男性の29歳以下(39.5%)で約4割となり、男性が女性(20.5%)を19.0ポイント上回る。

(8) 子どもの人数

F7 あなたのお子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。亡くなった方は除いてお答えください（〇は1つ）。

図表 子どもの人数（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

子どもの人数を聞いたところ、「子どもはいない」(※)という回答者は34.1%で、6割弱の回答者に子どもがあり、人数は「2人」(30.5%)が最も多い。

性別でみると、男女ともに「2人」(男性31.6%、女性33.0%)が最も多くなっている。

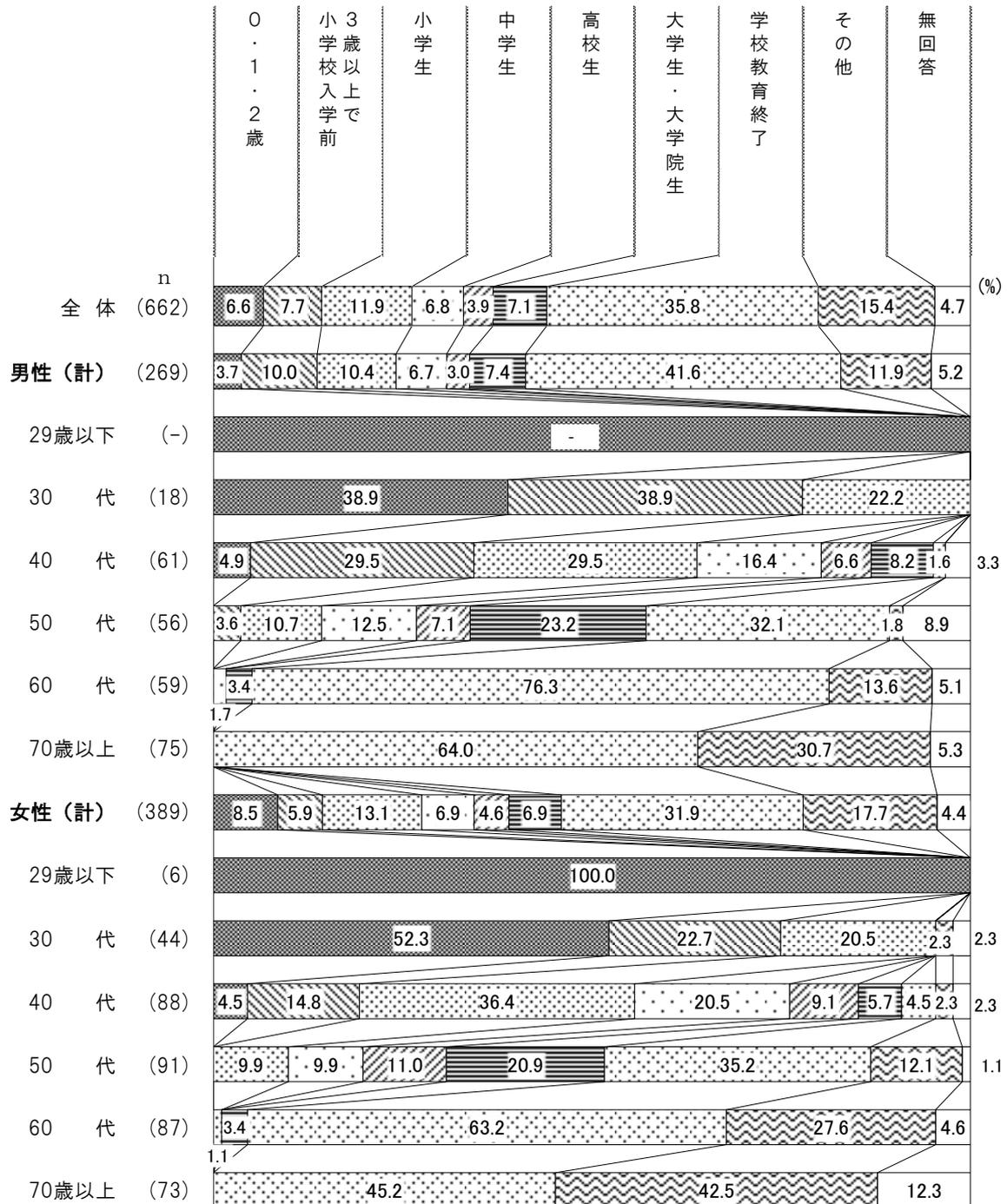
性別・年代別でみると、男女ともに29歳以下は、「子どもはいない」回答者(男性100.0%、女性85.9%)が8割以上を占めるが、30代になると「子どもがいる」(※)回答者(男性40.9%、女性48.3%)が多くなっている。

※子どもがいる…全体から「いない」と「無回答」を引いた数

(9) 一番下の子どもの学齢

F 7で2～6のお子さんがあると回答した方のみにお聞きします。
F 8 あなたの一番下のお子さんは、以下のどちらにあてはまりますか（○は1つ）。

図表 一番下の子どもの学齢（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

子どものいる回答者(662人)に一番下の子どもの学齢を聞いたところ、「学校教育終了」という回答が35.8%で最も多い。「0・1・2歳」(6.6%)、「3歳以上で小学校入学前」(7.7%)といった未就学児を持つ回答者は、全体の14.3%である。

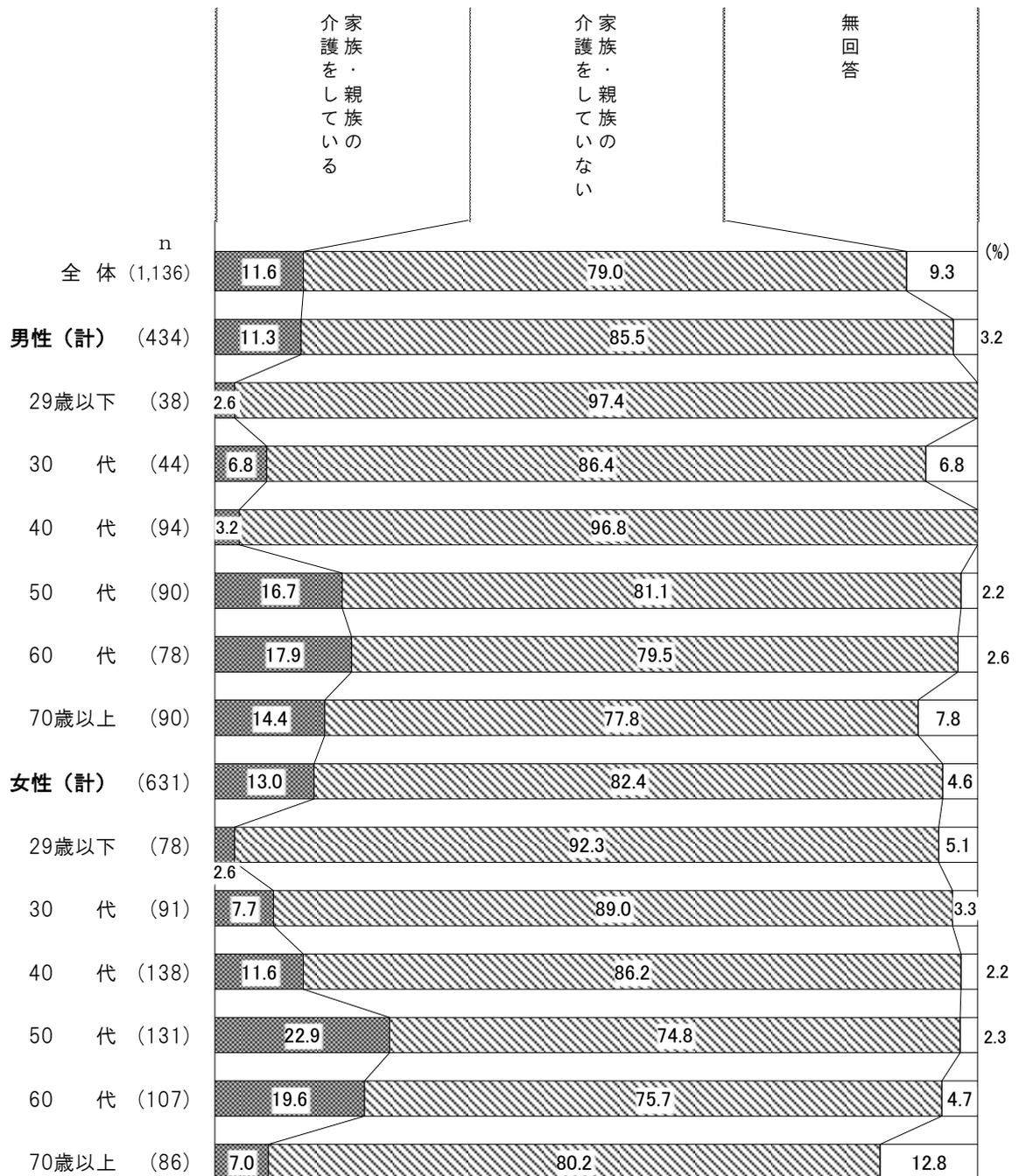
性別でみると、男女ともに「学校教育終了」(男性41.6%、女性31.9%)が最も多くなっている。

性別・年代別でみると、男女ともに30代は、「0・1・2歳」(男性38.9%、女性52.3%)、「3歳以上で小学校入学前」(男性38.9%、女性22.7%)、40代は「小学生」(男性29.5%、女性36.4%)の子どもがいる回答者の割合が多くなっている。

(10) 介護の有無

F9 あなたは日ごろ介護をしていますか。同居・別居（介護施設等の利用等）は問いません（○は1つ）。

図表 介護の有無（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

回答者の中で「家族・親族の介護をしている」人は11.6%、「家族・親族の介護をしていない」人は79.0%となっている。

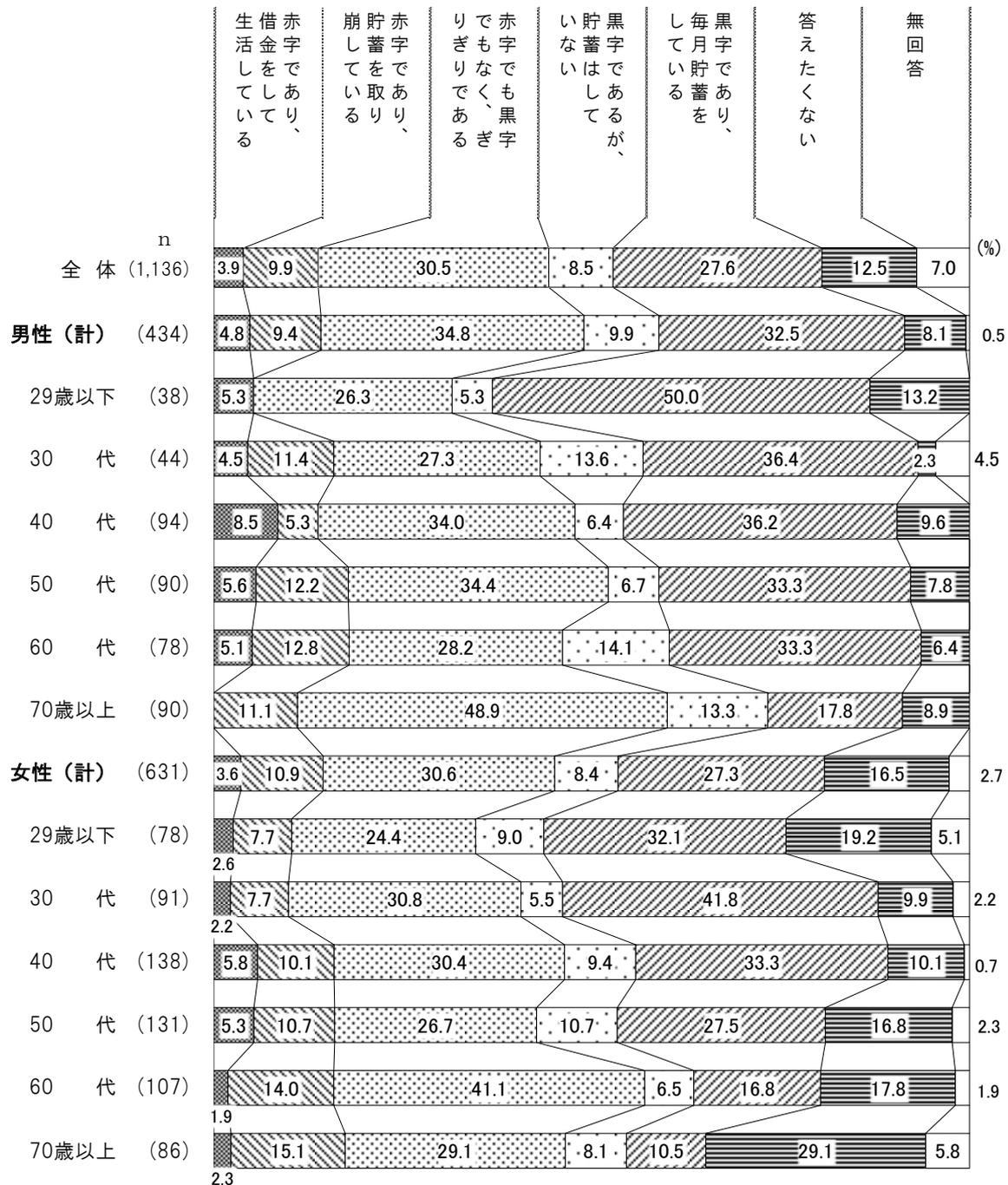
性別でみると、「家族・親族の介護をしている」女性は13.0%で、男性(11.3%)を1.7ポイント上回っている。

性別・年代別でみると、女性は50代から60代にかけて「介護をしている」人が2割前後と目立って増加する一方、男性は50代から70歳以上にかけて1割台と多くなる。

(11) 家計の状況

F10 あなたの世帯の家計について、最も近いものをお答えください(○は1つ)。

図表 家計の状況(性別・年代別)



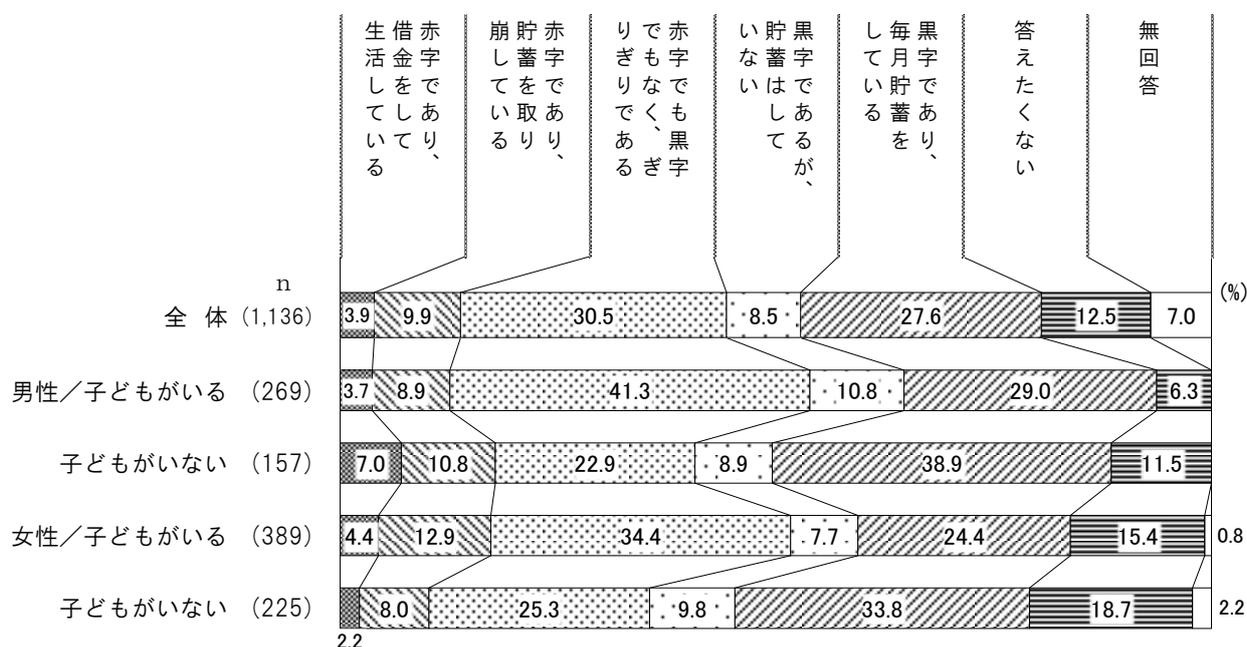
第2章 調査結果の詳細
第2章-6 基本属性

家計の状況は、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」世帯が30.5%で最も多い。「黒字であり、毎月貯蓄をしている」(27.6%)と回答した余裕のある世帯は、全体の4分の1を超えている。一方、「赤字であり、借金をして生活している」世帯は3.9%、「赤字であり、貯蓄を取り崩している」世帯は9.9%で、【赤字】世帯は13.8%である。

性別で見ると、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」(男性34.8%、女性30.6%)は男女ともに最も多い。「黒字であり、毎月貯蓄をしている」(男性32.5%、女性27.3%)は、男性が女性を5.2ポイント上回っている。

性別・年代別で見ると、男性は29歳以下で「黒字であり、毎月貯蓄をしている」(50.0%)と回答した余裕のある世帯が半数を占め、30代から60代にかけても3割を超えている。女性は30代をピークに年代が上がるほど余裕のある世帯が減少している。「赤字であり、借金をして生活している」世帯は、男性の40代(8.5%)で1割弱である。

図表 家計の状況（性別・子どもの有無別）

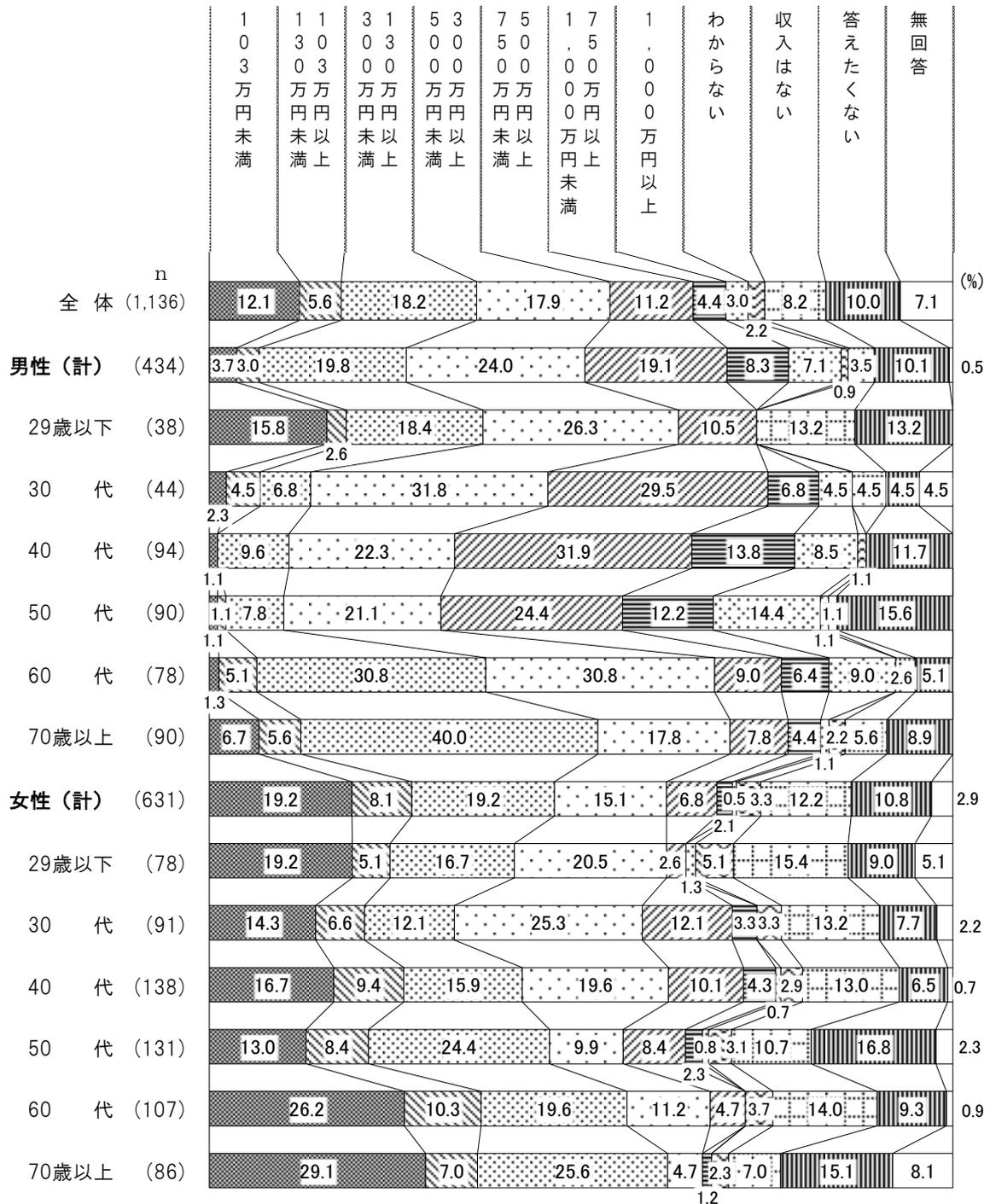


さらに、性別・子どもの有無別で見ると、家計が【赤字】の世帯は、男性では、〈子どもがいない〉(17.8%)が、〈子どもがいる〉(12.6%)より多くなっている。一方、女性では、〈子どもがいる〉(17.3%)が、〈子どもがいない〉(10.2%)より多くなっている。

(12) 昨年1年の本人年収

F11 あなたの昨年1年の収入はおよそどのくらいでしたか。ボーナス・アルバイトなどを含めて税込みでお知らせください（〇は1つ）。

図表 昨年1年の本人年収（性別・年代別）



第2章 調査結果の詳細

第2章-6 基本属性

昨年1年の本人年収は、「130万円以上300万円未満」が18.2%で最も多く、次いで「300万円以上500万円未満」が17.9%である。

性別で見ると、男性は「300万円以上500万円未満」(24.0%)、「130万円以上300万円未満」(19.8%)、「500万円以上750万円未満」(19.1%)の順となっている。女性では、配偶者控除の対象である「103万円未満」と「130万円以上300万円未満」(ともに19.2%)という回答者が最も多く、次いで「300万円以上500万円未満」が15.1%、「収入はない」という回答者も12.2%とやや多くなっている。

性別・年代別で見ると、29歳以下は男女ともに「300万円以上500万円未満」(男性26.3%、女性20.5%)という回答者が多く、30代以上になると、男性は50代までは年代が高くなるほど本人年収が上がっている。一方、女性は30代をピークに本人年収が下がっている。

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

足立区男女共同参画に関する区民意識調査

アンケート調査へのご協力をお願い

日頃から、足立区政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

足立区では、すべての区民が、性別等にとらわれず、家庭・学校・職場・地域等、あらゆる場面でそれぞれの個性と能力が十分に発揮される社会を目指し、男女共同参画に取り組んでいます。

このアンケート調査は、足立区が男女共同参画を推進するための大切な基礎資料として、施策に反映させていただきます。

調査対象として、住民基本台帳から無作為抽出法という方法で足立区にお住まいの満18歳以上の方3,000人を選ばせていただきました。お答えいただいた内容は、すべて統計的な「数値」として処理しますので、個人が特定されたり、他の目的に使用されたりすることは一切ありません。

お忙しいところ、恐縮ではございますが、この調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、今回の調査にご協力いただいたお礼として、ボールペンを同封いたしましたので、お使いいただければ幸いです。

令和3年10月

足立区 地域のちから推進部 多様性社会推進課

ご記入にあたってのお願い

- 回答は、原則として、封筒のあて名の方ご本人がお答えください。あて名の方ご本人が回答できない場合は、ご家族の方、介助者の方などが、ご本人の立場で（ご本人の意見に沿って）お答えください。
- 調査の回答にあたっては、インターネットで回答するか、紙の調査票で回答するかを選択できます。どちらか一方の回答形式でお答えいただくようお願いいたします。
- この調査は、令和3年10月現在の状況でお答えください。
- 「その他」と回答された場合は、（ ）内に具体的にその内容をご記入ください。
- この調査票には、名前や住所、電話番号などは書かないでください。
- ご記入いただいた調査票は、11月19日（金）までに、同封の返信用封筒にてご返送願います（切手は不要です）。

<調査主体：区政や男女共同参画に関すること>

足立区 地域のちから推進部 多様性社会推進課

電 話：03-3880-5222

<委 託 先：調査に関すること（回答方法等）>

株式会社サーベイリサーチセンター

電 話：03-6826-4666

紙の調査票にお進みいただいた方は、インターネットで回答いただく必要はございません

1. あらゆる分野における女性活躍の推進

問1 女性の働き方について伺います。女性の働き方であなたが理想（好ましい）と考えるものをお答えください（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 結婚せず、仕事を出来る限り続ける	(1.7)
2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を出来る限り続ける	(1.1)
3. 結婚し子どもを持つが、仕事も出来る限り続ける	(52.5)
4. 結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない	(3.8)
5. 結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ	(34.5)
6. その他（)	(5.4)
無回答	(1.1)

問2 あなたが、女性の働き方について問1の回答のようにお考えになるのは、なぜですか（○はいくつでも）。 〈n=1,136〉

1. 仕事を通じて、社会やさまざまな人とのつながりを持てるから	(58.9)
2. 女性も経済力を持った方がいいと思うから	(50.6)
3. 夫婦で働く方が、経済的に安定するから	(51.8)
4. 女性の能力を活用できるから	(35.7)
5. 少子高齢化による労働力不足を補えるから	(14.3)
6. 子どもは、母親が家で面倒を見た方がいいから	(14.7)
7. 仕事と家庭の両立支援の制度が十分でないから	(15.1)
8. 働き続けるのは、体力面で大変そうだから	(6.3)
9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方のおりだと思ふから	(1.8)
10. その他（)	(5.4)
11. 特にない	(1.8)
無回答	(0.9)

問3 女性が職場において活躍するために、特にどのような取組みが必要だと思いますか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 企業における女性の採用・登用の促進	(30.5)
2. 女性リーダー・管理職への登用について具体的な目標の設定	(13.7)
3. 女性のロールモデルの発掘・活用事例の提供	(5.6)
4. 女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実	(33.3)
5. 男女共同参画に積極的に取り組む企業への支援	(18.6)
6. 研修や家庭との両立支援など、女性が管理職として活躍できるような制度・支援	(33.0)
7. 保育施設の充実	(52.4)
8. フレックスタイム制や在宅勤務など柔軟な働き方の整備	(53.6)
9. その他（)	(4.8)
無回答	(2.4)

問4 結婚、出産などにより退職後、就業への一歩を踏み出せなかったりするなど再就職が難しい場合があります。結婚、出産などの理由により仕事を辞めた女性が再就職する場合、どのようなことが特に必要だと思いますか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 保育園、学童保育などの保育施設の充実	(60.6)	8. 就職相談の充実	(8.2)
2. 保育園入園基準の見直し	(16.6)	9. 女性が起業する場合の支援	(3.8)
3. 家族の理解と協力	(38.0)	10. 男性の積極的な家事・育児の参加	(34.7)
4. 求人の年齢制限の緩和	(17.8)	11. 企業における再就職制度の整備や充実	(33.0)
5. 労働条件の改善	(39.9)	12. 自治体での再就職を支援する講座やセミナーの開催	(3.0)
6. 技術や技能習得の機会の拡大	(6.7)	13. その他（ ）	(1.7)
7. 求人情報の入手機会の拡大	(3.9)	無回答	(2.5)

2. ワーク・ライフ・バランスの推進

問5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、「仕事」と「仕事以外の生活（子育てや介護、地域活動等）」の両方のバランスがとれている状態のことを言います。あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉とその意味を知っていますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1 言葉を知っているし、内容も理解している	(42.4)	3 言葉を知らない	(34.2)
2 言葉は知っているが、内容はわからない	(22.2)	無回答	(1.2)

問6 足立区では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため、啓発リーフレットの配布や区内企業に対するセミナー開催のお知らせ、また、ホームページでも取組み内容を紹介しています。あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて、区から情報の周知（発信）がされていると思いますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 十分周知（発信）されている	(1.9)	3. あまり周知（発信）されていない	(50.0)
2. 周知（発信）されているが十分ではない	(14.6)	4. 周知（発信）されていない	(31.1)
		無回答	(2.4)

問7 「仕事」と「仕事以外の生活」を両立させる場合に、あなたが特に重要だと思うことは何ですか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 給与の男女間格差をなくすこと	(21.9)
2. 残業や長時間労働を短縮すること	(36.1)
3. 育児休暇や介護休暇が取得しやすい職場環境をつくること	(44.2)
4. 育児・介護休暇制度を利用しても不利にならない人事評価	(23.7)
5. 保育施設や介護施設のサービスの充実	(22.4)
6. 短時間勤務や在宅勤務、フレックスタイム制度など、柔軟な働き方の整備	(45.2)
7. 「男は仕事、女は家庭」という考え方を改めること	(13.3)
8. 家族や周囲の理解や協力があること	(20.7)
9. 職場や上司の理解や協力があること	(37.8)
10. 個人の意識改革や努力	(7.1)
11. その他（ ）	(1.8)
無回答	(2.2)

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

問8 あなたが働くうえで、特に重要視することは何ですか（〇は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 給料がよい	(50.7)
2. 休暇がとりやすい	(48.1)
3. 残業がない、少ない	(26.7)
4. 企業の知名度が高い	(1.8)
5. 福利厚生制度が充実している	(33.2)
6. 仕事のやりがいがある	(49.1)
7. 知識や技術が身につけられる	(13.3)
8. 能力を発揮できる	(21.9)
9. テレワークやフレックスタイム制度など柔軟な勤務制度が導入されている	(17.3)
10. 仕事を行う上で男女差別がない	(11.2)
11. その他（ ）	(2.4)
無回答	(2.2)

お仕事をされている方のみにお聞きします。

問9 あなたの職場では、年次有給休暇が取得しやすいと感じていますか（〇は1つ）。 〈n=757〉

1. 取得しやすい	(53.9)	3. 制度が整っていない	(10.6)
2. 制度は整っているが、 取得しにくい・取得できない	(23.8)	4. わからない	(5.9)
		無回答	(5.8)

問9で「2 制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」と回答した方にお聞きします。

問9-1 取得していない理由は何ですか（〇は1つ）。 〈n=180〉

1. 職場に迷惑がかかる	(17.2)	6. 仕事が忙しい	(36.1)
2. 職場が取得できる雰囲気ではない	(21.1)	7. 自分自身を取りたいと感じていない	(1.7)
3. 職場で取得する人が少ない	(7.8)	8. その他（ ）	(6.1)
4. 会社や上司が取得するのを嫌がる	(7.2)	9. 特に理由はない	(-)
5. 昇進・昇給への影響が不安	(1.1)	無回答	(1.7)

再び、お仕事をされている方のみにお聞きします。

問10 あなたの職場では、育児休業や介護休業が取得しやすいと感じていますか（〇は1つ）。 〈n=757〉

1. 取得しやすい	(40.0)	3. 制度が整っていない	(20.2)
2. 制度は整っているが、 取得しにくい・取得できない	(14.5)	4. わからない	(16.5)
		無回答	(8.7)

問10で「2 制度は整っているが、取得しにくい・取得できない」と回答した方にお聞きします。

問10-1 取得していない理由は何ですか（〇は1つ）。 〈n=110〉

1. 職場に迷惑がかかる	(33.6)
2. 職場が育児休業や介護休業を取得できる雰囲気ではない	(34.5)
3. 過去に利用した人がいない	(7.3)
4. 元の仕事（職場）に復帰できるかわからない	(5.5)
5. 収入の減少	(4.5)
6. 昇進・昇格への影響が不安	(3.6)
7. その他（ ）	(6.4)
8. 特に理由はない	(2.7)
無回答	(1.8)

問11 新型コロナウイルス感染拡大により、あなたの働き方にどのような変化がありましたか（〇はいくつでも）。 〈n=1,136〉

1. 働いていなかったが就職した	(2.1)	6. 会社の都合で離職した	(2.2)
2. フレックスタイム制	(3.9)	7. 自己都合で離職した	(3.2)
3. 在宅勤務（テレワーク）	(19.9)	8. その他（ ）	(7.4)
4. 時差通勤	(11.9)	9. 変化はない	(44.6)
5. 出勤日数の制限	(14.3)	無回答	(11.4)

問12 あなたのご家庭では、日ごろ、以下のア～シのことがらを、どのように分担していますか。また、以下のア～シのことがらを、どのように分担するのが望ましいと思いますか（〇はそれぞれ1つずつ）。 〈n=1,136／コ、サ:n=662／シ:n=132〉

(1) 現実での役割分担	あなた自身	パートナー／配偶者	あなたとパートナー／配偶者で分担	父・息子などの男性親族	母・娘などの女性親族	その他	家庭内で該当することがない	無回答
ア. 収入を得る	(33.5)	(17.4)	(29.9)	(3.8)	(1.5)	(2.9)	(2.6)	(8.5)
イ. 日々の家計の管理	(44.7)	(19.6)	(17.7)	(1.1)	(6.3)	(1.4)	(1.8)	(7.4)
ウ. 食事の用意（調理）	(46.0)	(19.8)	(14.8)	(0.8)	(8.6)	(2.2)	(0.6)	(7.1)
エ. 食器の後片付け（食器洗い）	(44.4)	(13.9)	(22.6)	(1.1)	(7.7)	(2.6)	(0.7)	(6.9)
オ. 洗濯	(46.0)	(19.4)	(15.5)	(1.1)	(9.1)	(1.6)	(0.5)	(7.0)
カ. 掃除	(45.4)	(14.8)	(21.9)	(0.8)	(7.0)	(2.2)	(0.4)	(7.4)
キ. ごみ出し	(41.2)	(17.8)	(21.7)	(4.0)	(6.2)	(1.8)	(0.8)	(6.5)
ク. 日用品や食料品の買い物	(39.8)	(12.2)	(29.6)	(0.8)	(6.8)	(3.0)	(0.5)	(7.3)
ケ. 町内会などの地域活動への参加	(23.9)	(11.2)	(13.7)	(2.5)	(3.3)	(3.2)	(34.0)	(8.3)
コ. 家庭での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）	(23.0)	(10.6)	(30.1)	(0.2)	(1.1)	(1.8)	(25.2)	(8.2)
サ. 保護者会やPTAへの参加	(31.3)	(16.3)	(9.7)	(-)	(0.9)	(2.6)	(31.3)	(8.0)
シ. 家族の日常的な介護や看護	(41.7)	(8.3)	(27.3)	(-)	(3.8)	(0.8)	(9.8)	(8.3)

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

(2) 理想の役割分担	あなた自身	パートナー／配偶者	あなたとパートナー／配偶者で分担	父・息子などの男性親族	母・娘などの女性親族	その他	家庭内で該当することがない	無回答
ア. 収入を得る	(20.1)	(15.8)	(48.7)	(1.9)	(0.6)	(2.6)	(1.8)	(8.5)
イ. 日々の家計の管理	(31.7)	(16.0)	(37.3)	(0.7)	(2.9)	(1.8)	(1.4)	(8.2)
ウ. 食事の用意（調理）	(23.0)	(14.2)	(45.0)	(0.6)	(4.0)	(3.6)	(1.5)	(8.1)
エ. 食器の後片付け（食器洗い）	(17.7)	(12.9)	(50.0)	(1.6)	(3.1)	(4.8)	(1.4)	(8.5)
オ. 洗濯	(24.0)	(12.7)	(43.8)	(0.5)	(4.8)	(4.2)	(1.3)	(8.5)
カ. 掃除	(18.6)	(11.3)	(51.1)	(1.2)	(2.7)	(4.7)	(1.5)	(8.9)
キ. ごみ出し	(17.8)	(15.1)	(47.5)	(3.1)	(2.4)	(4.1)	(1.5)	(8.5)
ク. 日用品や食料品の買い物	(19.8)	(10.2)	(51.5)	(0.8)	(2.7)	(4.4)	(1.6)	(9.0)
ケ. 町内会などの地域活動への参加	(9.8)	(10.7)	(40.6)	(1.9)	(1.3)	(4.4)	(22.4)	(8.9)
コ. 家庭内での子どもの世話（風呂・食事・送迎等）	(6.8)	(7.4)	(52.7)	(0.5)	(0.5)	(2.9)	(20.5)	(8.8)
サ. 保護者会やPTAへの参加	(12.4)	(10.0)	(41.4)	(-)	(0.8)	(2.4)	(24.2)	(8.9)
シ. 家族の日常的な介護や看護	(14.4)	(6.1)	(53.8)	(0.8)	(1.5)	(3.0)	(10.6)	(9.8)

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問13 配偶者やパートナーの家事・育児で特に不満な点は何ですか（○は3つまで）。 〈n=712〉

1. 言わないと、家事・育児をしてくれない	(15.9)
2. 自分の体調が悪くても手伝ってくれない	(5.3)
3. 家事・育児が雑である	(9.7)
4. 家事・育児に細かく駄目だしをしてくる	(4.8)
5. 思いどおりでないときすぐ怒る	(9.8)
6. 日頃、感謝してくれない	(9.8)
7. 気分次第で家事・育児をしたりしなかったりする	(4.8)
8. 手は動かさず文句ばかり言うてくる	(2.5)
9. ずっとスマホを見ている	(8.6)
10. 少し家事・育児を手伝っただけで、威張ってくる	(3.9)
11. 相手がやってくれるのが当たり前だと思っている	(18.8)
12. 家事・育児を全くやらない	(3.2)
13. その他（)	(3.2)
14. 不満はない	(44.9)
無回答	(5.1)

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問13-1 配偶者やパートナーとの現状の家事・育児の分担について、満足していますか（○は1つ）。
 〈n=712〉

1. 満足している	(33.0)	4. 満足していない	(11.2)
2. どちらかといえば満足している	(34.3)	5. どちらともいえない	(10.7)
3. どちらかといえば満足していない	(8.0)	無回答	(2.8)

配偶者やパートナーがいる方のみにお聞きします。

問14 今後、家事・育児の分担を公平にするために特に何が必要だと思いますか（○は3つまで）。
 〈n=712〉

1. 家事・育児代行などの外部サービスを利用する	(11.5)
2. 最新家電や便利グッズ等を活用する	(19.5)
3. 夫婦でよく話し合い、協力する	(68.4)
4. お互いが感謝の気持ちを伝える	(64.5)
5. 本、講座等で家事・育児の知識を深める	(2.5)
6. 在宅勤務等の推進など仕事と子育ての両立が可能な社会の構築	(22.9)
7. 家庭科の授業以外による教育現場での普及・啓発	(10.8)
8. その他（ 無回答	(4.4) (3.7)

3. 社会における男女共同参画の推進

問15 あなたは、次のア～キのような分野で、男女の地位が平等になっていると思いますか。また、「ク. 社会全体」としてはどうか（○はそれぞれ1つずつ）。
 〈n=1,136〉

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇 されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇 されている	女性の方が 優遇されている	無回答
ア. 家庭生活	(16.0)	(34.7)	(32.9)	(7.4)	(2.3)	(6.7)
イ. 学校教室	(5.0)	(16.7)	(66.7)	(3.3)	(0.8)	(7.5)
ウ. 町内会や自治会などの地域活動の場	(10.8)	(31.6)	(42.7)	(6.1)	(1.1)	(7.7)
エ. 職場	(21.4)	(40.8)	(26.4)	(3.1)	(1.1)	(7.2)
オ. 社会通念・慣習・しきたりなど	(25.2)	(46.5)	(19.5)	(1.5)	(0.5)	(6.9)
カ. 政治の場（政界）	(53.2)	(28.9)	(10.4)	(0.4)	(-)	(7.1)
キ. 法律や制度	(23.3)	(32.2)	(32.2)	(3.1)	(1.3)	(7.8)
ク. 社会全体として	(24.4)	(47.8)	(17.3)	(3.5)	(0.8)	(6.3)

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

問16 あなたは、女性の意見が、行政（国や地方自治体）にどの程度反映されていると感じますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 十分反映されている	(3.3)	3. あまり反映されていない	(50.3)
2. ある程度反映されている	(35.2)	4. まったく反映されていない	(7.0)
		無回答	(4.2)

問16で「3 あまり反映されていない」「4 まったく反映されていない」と回答した方にお聞きします。

問16-1 女性の意見が行政（国や地方自治体）に反映されていないと考える理由は何ですか（○はいくつでも）。 〈n=650〉

1. 女性議員が少ない	(57.1)
2. 行政機関の管理者に女性が少ない	(47.1)
3. 政策決定にかかわる審議会などへの女性の参加が少ない	(39.1)
4. 女性自身の関心が不足している	(34.8)
5. 男性の認識が不足している	(47.2)
6. 社会の仕組みが女性に対して不利である	(56.8)
7. 女性の能力に対する偏見がある	(41.2)
8. その他（	(2.5)
無回答	(0.6)

すべての方にお聞きします。

問17 女性活躍推進のために、あなたが特に区に期待することは何ですか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 子育て環境（保育所等）を整備する	(59.5)
2. 介護施設を整備する	(39.2)
3. 子育て支援サービスや相談窓口を充実させる	(20.0)
4. ワーク・ライフ・バランスを啓発する	(20.5)
5. 経営者向けのセミナーなどを開催する	(3.6)
6. 女性従業員に向けた人材育成セミナーや研修会の開催	(7.4)
7. 女性同士の情報交換の場やネットワークづくりの支援	(8.7)
8. 女性の再就職の支援を行う	(43.1)
9. 学校等でのキャリア教育を充実させる	(9.9)
10. 区が率先して女性の活躍に取り組む	(23.0)
11. その他（	(3.4)
無回答	(4.8)

問18 足立区は、性別に関係なく、家庭・地域・仕事の場でお互いを認め合って、責任を分かち合う、「男女共同参画社会の実現」を目指しています。そのために、足立区では、どのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか（〇は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 保育園、学童保育などの育児環境の充実	(45.3)
2. 男性の家事・育児・介護への参加促進	(27.1)
3. 育児・介護休業制度などの利用促進に向けた企業への働きかけ	(25.4)
4. 職場での男女の昇進、待遇の格差是正に向けた企業への働きかけ	(22.0)
5. 男女平等や女性活躍推進に関する学習機会の充実	(8.8)
6. 労働時間の短縮やテレワーク（在宅勤務）普及など男女の働き方の見直しに向けた企業への働きかけ	(25.5)
7. ホームヘルパーや福祉施設の充実	(20.2)
8. 育児や介護等でいったん仕事を辞めた人への再就職支援	(28.3)
9. L G B T(※1)等多様な性についての理解促進	(8.1)
10. 健（検）診事業やリプロダクティブヘルス&ライツ(※2)の啓発など、こころとからだの健康づくり	(5.5)
11. 防災女性リーダーの育成など、多様な経験や意見を生かした災害対策の推進	(3.9)
12. ひとり親家庭など、生活に困難さを抱える家庭の子どもと保護者への支援	(29.0)
13. その他（ ）	(1.9)
無回答	(4.0)

※1 L G B Tとは、自分と同じ性別の人を好きになる人（レズビアン（Lesbian）・ゲイ（Gay））、同性・異性双方を好きになる人（バイセクシュアル（Bisexual））、体の性と心の性が一致しない人（トランスジェンダー（Transgender））の頭文字をつないだ言葉の意味しています。

※2 リプロダクティブヘルス&ライツ（性と生殖に関する健康を守る権利）とは、女性が身体的・精神的・社会的な健康を維持し、女性の健康支援を推進するために必要な考え方です。例えば、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかなどについて選択し、すべてのカップルと個人が自ら決定する権利の事です。

問19 あなたは性別にとらわれない防災対策や避難所の運営について、どのようなことが特に重要だと思いますか（〇は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 災害対応マニュアルなどに男女共同参画の視点を入れる	(25.6)
2. 災害対応において、男女両方のリーダーを育成する	(27.5)
3. 避難所の管理責任者を、男女両方配置する	(35.5)
4. 防災会議等に女性委員を増やす	(12.9)
5. プライバシーに配慮した、避難所設備（トイレや更衣室、休憩スペース等）を設置する	(68.2)
6. 避難所での悩みに対応する相談窓口やプライバシーに配慮した相談窓口の設置	(21.0)
7. 女性や子供に対する暴力を防ぐ対応策を講じる	(25.4)
8. ホテルなどの民間設備の活用	(32.1)
9. その他（ ）	(1.8)
無回答	(4.0)

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

問20 あなたは、区の男女共同参画事業の拠点である「男女参画プラザ」を知っていますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 知っている	(12.2)	2. 知らない	(83.2)	無回答	(4.6)
----------	--------	---------	--------	-----	-------

問21 あなたは、「男女参画プラザ」が実施している事業で知っているものはありますか（○はいくつでも）。 〈n=1,136〉

1. 男女共同参画に関わる講座の実施	(7.0)
2. 足立区男女共同参画推進委員会の開催	(4.0)
3. 各種審議会における女性委員の比率向上に向けた取組み	(1.5)
4. ワーク・ライフ・バランスの推進	(6.3)
5. DV防止啓発事業の実施	(7.0)
6. 女性相談・男性電話DV相談の実施	(6.6)
7. あだちLGBT相談窓口の実施	(2.9)
8. パートナーシップ・ファミリーシップ制度の周知・啓発	(1.6)
9. 女性団体・ボランティア団体活動の支援	(3.3)
10. 男女参画プラザ情報資料室の運営	(3.1)
11. 知っているものはない	(65.8)
無回答	(14.5)

問22 あなたは、男女共同参画の推進に向けて学校教育の場では、特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 男女平等の意識を育てるための授業を工夫して実施	(26.6)
2. 日常の学校生活の中での男女平等の実践	(30.3)
3. 男女平等に関する副教材を活用した指導	(3.6)
4. 男女の別なく、個性や能力を活かせる指導の充実	(50.0)
5. セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについての学習	(21.5)
6. 自分および異性の性を尊重する意味での性教育の充実	(21.0)
7. 人間としての尊厳、平等を尊重することに力点を置いた指導	(39.8)
8. 教職員への男女平等研修の充実	(15.0)
9. 学校から家庭や地域に向けた男女平等に関する情報発信	(4.8)
10. ワーク・ライフ・バランスや自らの人生設計（キャリアデザイン）等の重要性について伝える学習	(17.7)
11. その他（)	(2.6)
無回答	(6.5)

4. DV・ハラスメントの防止対策

問23 あなたは、以下のような行為を受けたことがありますか（〇はいくつでも）。 <n=1,136>

【パワーハラスメント】

- | | |
|----------------------------------|--------|
| 1. 殴る・蹴るなどの身体的攻撃を受けた | (7.6) |
| 2. 人格否定や人前で過度に叱責するなど精神的攻撃を受けた | (18.5) |
| 3. 人間関係を切り離された（1人だけ別室で仕事をさせられる等） | (2.9) |
| 4. 過大な要求をされた（時間内に不可能な仕事を押し付ける等） | (8.9) |
| 5. 過小な要求をされた（一切仕事をさせない等） | (2.9) |
| 6. 個人を侵害された（プライベートに関して必要以上に尋ねる等） | (6.3) |

【セクシュアルハラスメント/性的暴力】

- | | |
|---------------------------|-------|
| 7. 性的な関係を要求された | (2.6) |
| 8. 避妊に協力しなかった | (1.4) |
| 9. 性行為を強要された | (1.8) |
| 10. 不必要な身体接触があった | (6.9) |
| 11. 性的なからかいを受けた | (5.6) |
| 12. デートや食事に執拗に誘われた | (3.7) |
| 13. 付きまといや待ち伏せをされた | (4.0) |
| 14. 面会や交際の要求をされた | (1.1) |
| 15. 無言電話や連続電話、メールの送信等を受けた | (3.7) |

【モラルハラスメント/精神的暴力】

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 16. 名誉を傷つける行為を受けた | (8.9) |
| 17. 無視された | (11.1) |
| 18. 暴言を吐かれ、見下された | (14.7) |
| 19. 自分が悪くないのに謝罪を要求された | (10.0) |
| 20. 自分の失敗を責め続けられた | (8.4) |
| 21. 実家や友人など親しい人との付き合いを制限された | (3.1) |
| 22. 行動や携帯を細かくチェックされた | (3.0) |

【経済的暴力】

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 23. 生活費を渡さない、もしくは最小限しか渡されなかった | (3.1) |
| 24. 給与の額や貯金額などを教えてもらえなかった | (2.2) |
| 25. 自分が働いて収入を得ることを許されなかった | (0.6) |
| 26. 借金を繰り返したり、配偶者に借金したりするように強要された | (1.4) |

【ジェンダーハラスメント】

- | | |
|---|-------|
| 27. 「女（男）のくせに」「女（男）なんだから」と差別的な表現をされた/もしくは行動を強要された | (8.8) |
| 28. 容姿について傷つくようなことを言われた | (8.7) |
| 29. 「ホモ・レズ・オカマ・オナベ」等、自分の性別について差別的な言動を受けたり、嘲笑された | (0.8) |

【マタニティ・パタニティハラスメント】

- | | |
|--|-------|
| 30. 育児休業や時短勤務の取得を拒まれたり、不利な取扱いを受けることを示唆されたり、心ない言葉をかけられた | (1.9) |
| 31. 産休・育休後、降格や不当な異動、配置転換、雇用形態の変更、解雇、自主退職させられた | (1.2) |

【アカデミックハラスメント】

- | | |
|--|--------|
| 32. 正当な理由がないのに、単位を与えられなかったりして進級や卒業を妨害された | (0.6) |
| 33. 教職員から研究活動を不当に制限されたり、指導を拒否及び放置された | (0.7) |
| 34. 特になし | (48.0) |
| 無回答 | (9.6) |

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。

問24 あなたがその行為を受けたのはいつですか（○はいくつでも）。

時期	1.小学生	2.中学生	3.高校生	4.大学生	5.成人	6.その他	7.ない	無回答
パワーハラスメント (問23 1~6の行為) <n=319>	(12.9)	(14.7)	(7.2)	(3.1)	(79.0)	(2.2)	(1.6)	(3.8)
セクシュアルハラスメント/性的暴力 (問23 7~15の行為) <n=192>	(10.4)	(10.4)	(15.1)	(17.2)	(69.8)	(1.6)	(1.0)	(4.2)
モラルハラスメント/精神的暴力 (問23 16~22の行為) <n=327>	(12.8)	(14.7)	(10.4)	(3.7)	(78.3)	(3.4)	(3.1)	(5.5)
経済的暴力 (問23 23~26の行為) <n=55>	(10.9)	(9.1)	(9.1)	(3.6)	(76.4)	(3.6)	(1.8)	(10.9)
ジェンダーハラスメント (問23 27~29の行為) <n=159>	(37.1)	(37.7)	(30.8)	(18.2)	(61.6)	(0.6)	(6.9)	(4.4)
マタニティ・パタニティハラスメント (問23 30~31の行為) <n=31>	(-)	(-)	(-)	(-)	(90.3)	(-)	(9.7)	(-)
アカデミックハラスメント (問23 32~33の行為) <n=13>	(-)	(15.4)	(23.1)	(15.4)	(38.5)	(-)	(15.4)	(-)

※該当する行為については221ページを参照してください。（実際に使用した調査票では11ページを参照）

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。

問25 あなたがその行為を受けた場面はどこですか（○はいくつでも）。

場面	1.学校	2.家庭	3.勤務先	4.地域	5.公共・民間サービス	6.その他	7.ない	無回答
パワーハラスメント (問23 1~6の行為) <n=319>	(16.3)	(18.5)	(67.1)	(4.1)	(1.6)	(3.8)	(1.3)	(3.4)
セクシュアルハラスメント/性的暴力 (問23 7~15の行為) <n=192>	(14.6)	(12.0)	(55.7)	(13.5)	(7.8)	(11.5)	(1.0)	(6.3)
モラルハラスメント/精神的暴力 (問23 16~22の行為) <n=327>	(21.1)	(21.4)	(61.5)	(5.2)	(1.5)	(4.0)	(2.8)	(6.1)
経済的暴力 (問23 23~26の行為) <n=55>	(1.8)	(76.4)	(9.1)	(-)	(1.8)	(3.6)	(1.8)	(9.1)
ジェンダーハラスメント (問23 27~29の行為) <n=159>	(43.4)	(30.2)	(42.1)	(8.8)	(2.5)	(3.1)	(7.5)	(6.9)
マタニティ・パタニティハラスメント (問23 30~31の行為) <n=31>	(-)	(6.5)	(80.6)	(-)	(3.2)	(-)	(9.7)	(-)
アカデミックハラスメント (問23 32~33の行為) <n=13>	(38.5)	(7.7)	(46.2)	(-)	(7.7)	(-)	(15.4)	(-)

※該当する行為については221ページを参照してください。（実際に使用した調査票では11ページを参照）

問23で「該当する行為を受けた」と回答した方のみにお聞きします。

問26 あなたが受けた暴力・ハラスメントについて、相談したことはありますか。また、配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについての公的相談機関として、知っているものはありますか（それぞれ〇はいくつでも）。

(1) 相談したことがある相談先

〈n=482〉

1. 区の相談機関 (男女参画プラザ女性相談・男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき)	(5.2)	6. 親族	(19.3)
2. 区内にある関係公的機関 (児童相談所、法テラス)	(2.1)	7. 友人	(23.2)
3. 警察	(5.4)	8. 医療機関	(2.1)
4. 国・都の相談機関 (女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ)	(2.5)	9. 弁護士	(2.5)
5. 労働基準監督署・労働局	(3.3)	10. 学校関係者	(2.3)
		11. 職場	(13.3)
		12. その他 ()	(2.1)
		13. 相談したかったができなかった	(12.7)
		14. 別に相談しようと思わなかった	(36.1)
		無回答	(6.6)

問26 (1) で「13 相談したかったができなかった」「14 別に相談しようと思わなかった」と回答した方のみにお聞きします。

(2) 相談できなかった理由

〈n=235〉

1. 相談できる人がいなかったから	(14.0)
2. どこに相談していいか分からなかったから	(13.2)
3. 相談することで不利益な扱いをされると思ったから	(14.5)
4. 相談することで他人に知られるのではないかと心配だったから	(6.8)
5. 相談しても無駄だと思ったから	(40.4)
6. 自分が我慢すれば何とかかなと思ったから	(34.0)
7. 自分にも悪いところがあると思ったから	(10.6)
8. 他人を巻き込みたくなかったから	(6.4)
9. 他人に打ち明けることに抵抗があったから	(16.6)
10. その他 ()	(10.6)
無回答	(0.9)

(3) 配偶者やパートナーからの暴力・ハラスメントについて、知っている公的相談機関

〈n=482〉

1. 区の相談機関 (男女参画プラザ女性相談・男性DV電話相談、福祉事務所、保健センター、区民相談室、こども支援センターげんき)	(29.5)
2. 区内にある関係公的機関 (児童相談所、法テラス)	(15.6)
3. 警察	(46.5)
4. 国・都の相談機関 (女性の人権ホットライン、DV相談+、東京都女性相談センター、東京ウィメンズプラザ)	(25.5)
5. 労働基準監督署・労働局	(11.6)
6. 知らなかった	(19.7)
無回答	(17.2)

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

問27 あなたは、配偶者、パートナー、家族又は交際相手などからの暴力を防止するために、今後どのようなことを特に充実すべきだと思いますか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発	(44.5)
2. 教育現場などにおける若年層への啓発	(20.0)
3. 被害者支援の相談窓口についての情報提供	(14.3)
4. 性別にかかわらず、被害者が緊急時に駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備	(36.2)
5. 警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の一層の充実	(36.6)
6. 離婚調停・訴訟への支援など、法的サポートの充実	(12.7)
7. 加害者に対する厳正な対処	(32.9)
8. カウンセリングなど、加害者への更生に関する対応の充実	(11.4)
9. 関係機関の相互連携	(13.2)
10. その他（)	(1.7)
無回答	(11.6)

問28 あなたの職場や学校等では、ハラスメントについてどのような対策に取り組んでいますか（○はいくつでも）。 〈n=1,136〉

1. 就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定めている	(26.9)
2. 経営者や管理職をはじめ全社員を対象にした講演や研修の実施	(16.4)
3. 教職員や学生等を対象とした教育現場での研修	(3.3)
4. 企業や学校に相談窓口を設置	(14.8)
5. 第三者機関につなぐ相談窓口の設置	(11.8)
6. アンケート等で職場・学校内等での実態把握	(11.1)
7. ハラスメントに関する資料を配布・掲示	(12.0)
8. その他（)	(2.6)
9. 特にない	(36.6)
無回答	(18.8)

問29 あなたの職場や学校等で、今後ハラスメントについてどのような対策が特に必要だと思いますか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 就業規則や規約、方針等でハラスメント防止について定める	(29.9)
2. 経営者や管理職をはじめ全社員を対象にした講演や研修を実施する	(26.9)
3. 教職員や学生等を対象とした教育現場での講演・研修を実施する	(10.9)
4. 企業や学校に相談窓口を設置する	(17.5)
5. 第三者機関につなぐ相談窓口を設置する	(28.3)
6. アンケート等で職場・学校内等での実態把握を行う	(20.7)
7. ハラスメントに関する資料を配布・掲示する	(11.4)
8. その他（)	(6.4)
無回答	(22.4)

5. 多様性の尊重と人権

問30 あなたは、LGBT(※)の言葉の意味を知っていますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 知っている	(70.6)
2. 聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない	(15.0)
3. 知らない	(8.8)
無回答	(5.6)

※LGBTとは、自分と同じ性別の人を好きになる人（レズビアン（Lesbian）・ゲイ（Gay））、同性・異性双方を好きになる人（バイセクシュアル（Bisexual））、体の性と心の性が一致しない人（トランスジェンダー（Transgender））の頭文字をつないだ言葉の意味しています。

問31 あなたは、SOGI(※)の言葉の意味を知っていますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 知っている	(9.2)
2. 聞いたことはあるが詳しい内容まではわからない	(14.7)
3. 知らない	(70.3)
無回答	(5.8)

※SOGIとは、自分自身がどの性に恋愛感情を抱くのかということの意味する「性的指向」（Sexual Orientation）と自分自身がどのような性だと思っているのかということの意味する「性自認」（Gender Identity）の頭文字をつないだ言葉の意味しています。

問32 あなたは、令和2年12月に開始した足立区が行っているLGBT等当事者や関係者の悩みを専門の相談員が伺うLGBT相談事業を知っていますか（○は1つ）。

〈n=1,136〉

1. 知っている	(5.8)	2. 知らない	(88.5)	無回答	(5.7)
----------	-------	---------	--------	-----	-------

問32で「1 知っている」と回答した方のみにお聞きします。

問33 それはどこで知りましたか（○はいくつでも）。

〈n=66〉

1. 公共施設（区役所・区民事務所・(21.2) 学習センター・住区センター等)	6. あだち広報	(63.6)
2. 医療機関・薬局 (4.5)	7. 学校・保育園・幼稚園	(-)
3. 不動産・金融機関 (1.5)	8. 勤め先	(3.0)
4. 区ホームページ・SNS (19.7)	9. 友人・知人	(1.5)
5. 一般的なSNS (10.6)	10. その他（)	(4.5)
(Twitter・Facebook等)	無回答	(-)

問34 あなたの身近な人にLGBT等の人はいますか（○は1つ）。

〈n=1,136〉

1. いる	(13.1)	2. いない（「わからない」含む）	(77.9)	無回答	(9.0)
-------	--------	-------------------	--------	-----	-------

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

問35 身近な人から、LGBT等であることを打ち明けられたとき、どうしますか（○はそれぞれ1つ）。 〈n=1,136〉

ア. 理解をする	1. はい (68.0)	2. いいえ (1.2)	3. わからない(23.0)	無回答(7.8)
イ. 悩みを聞く	1. はい (64.6)	2. いいえ (2.3)	3. わからない(25.2)	無回答(7.9)
ウ. 相手との距離	1. 今までどおり(71.9)	2. 距離を置く (2.6)	3. わからない(17.1)	無回答(8.4)

問36 LGBT等の人たちが暮らしやすい社会になるためには特に何が必要だと思いますか（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 教育現場での普及・啓発	(34.1)
2. 社会制度の見直しや差別の解消 (同性婚の法的整備、進学・就職・医療・住居・社会保障等の平等)	(55.5)
3. 専門の相談機関	(17.6)
4. 周囲の人の理解や偏見・差別の解消	(63.3)
5. 企業や学校現場、公共施設でのトイレや更衣室等の配慮や取組み	(33.6)
6. その他 ()	(1.8)
7. 取り組む必要はない	(3.9)
無回答	(7.7)

問36で「7 取り組む必要はない」と回答した方のみにお聞きします。

問37 必要でないと思う最も近い理由は何ですか（○は1つ）。 〈n=44〉

1. 社会の理解がまだ醸成されていないから	(11.4)
2. 本人たちの問題であって、国や地方自治体に取り組む問題ではないから	(47.7)
3. 自分とは違う価値観を強制される可能性があるから	(29.5)
4. その他 ()	(9.1)
無回答	(2.3)

問38 自身もしくは身近な人が「同性に好意を抱く」あるいは「性別と外見・仕草が異なること」等を理由に、いじめや差別を受けたり、または、見聞きしたことはありますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

(例：【自分/周り】が「ホモ・レズ」・「オカマ・オネエ」など侮蔑的な言葉を【浴びせられた/浴びていることを目撃した】)

1. ある (10.6)	2. ない(「分からない」含む) (79.0)	無回答 (10.5)
--------------	-------------------------	------------

問38で「1 ある」と回答した方のみにお聞きします。

問38-1 それはどこでしたか（○はいくつでも）。 〈n=120〉

1. 学校 (小学校・中学・高校・大学) (68.3)	4. 地域 (17.5)
2. 家庭 (5.0)	5. 公共・民間サービス (5.8)
3. 勤務先 (27.5)	6. その他 () (5.0)
	無回答 (-)

<リプロダクティブヘルス&ライツについて>

リプロダクティブヘルス&ライツ（性と生殖に関する健康を守る権利）とは、女性が身体的・精神的・社会的な健康を維持し、女性の健康支援を推進するために必要な考え方です。例えば、子どもを産むかどうか、いつ産むか、どれくらいの間隔で産むかなどについて選択し、すべてのカップルと個人が自ら決定する権利のことで、

問39 女性は、男性と異なる健康上の問題に直面することがあります。こうした問題の重要性について社会全体で認識し、理解を深める必要があります。あなたが、女性の生涯を通じた健康を考えるうえで、特に大切だと思うことをお答えください（○は3つまで）。 〈n=1,136〉

1. 婦人科系疾患についての情報提供・相談体制の充実	(57.2)
2. 性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	(48.9)
3. 子どもの成長に応じた性教育	(45.2)
4. 更年期についての情報提供・相談体制の充実	(36.3)
5. 喫煙や薬物等、健康への害についての情報提供・相談体制の充実	(15.3)
6. 性感染症（カンジダ症、クラミジア感染症など）についての情報提供・相談体制	(15.1)
7. その他（	） (2.1)
無回答	(8.9)

女性のみにお聞きします。

問40 昨今、経済的な理由等で生理用品を十分に手に入れることができない、いわゆる「生理の貧困」が問題となっています。実際に生理用品の購入ができず困ったことはありますか（○はいくつでも）。 〈n=631〉

1. 汚れることを気にしてしまい、用事等を断るなど外出することをためらった	(4.9)
2. 学校や職場を休まざるを得なかった	(1.4)
3. 部活、サークル、趣味、自己啓発等、好きなことを制限しなければならずストレスが溜まった	(4.3)
4. ナプキンを交換せずに使用し続けたり、トイレットペーパー等で代用せざるを得なかった	(5.2)
5. 生理用品を購入するため、食費等を削って捻出せざるを得ず、生活の質を落とさざるを得なかった	(2.7)
6. その他（	） (2.4)
7. 困ったことはない	(82.6)
無回答	(4.4)

第3章 使用した調査票（単純集計結果付）

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です。

F 1 あなたが自認している性別をお答えください（○は1つ）。 <n=1,136>

1. 男性 (38.2)	3. その他 (0.2)	無回答 (5.5)
2. 女性 (55.5)	4. 無回答（選択肢） (0.5)	

F 2 あなたの現在の年齢は、おいくつですか（令和3年10月1日現在の年齢）。

<n=1,136>

1. 18～19歳 (1.1)	4. 30～34歳 (6.0)	7. 45～49歳 (10.2)	10. 60～64歳 (8.5)	13. 75歳以上 (4.4)
2. 20～24歳 (4.0)	5. 35～39歳 (6.0)	8. 50～54歳 (12.9)	11. 65～69歳 (7.9)	無回答 (5.4)
3. 25～29歳 (5.3)	6. 40～44歳 (10.2)	9. 55～59歳 (6.7)	12. 70～74歳 (11.3)	

F 3 あなたの現在の婚姻状況（事実婚含む）をお答えください（○は1つ）。 <n=1,136>

1. 結婚している（事実婚含む） (62.3)	3. 現在は結婚していない（離別・死別など） (9.5)
2. 同性パートナーがいる (0.4)	4. 結婚したことがない (21.7)
	無回答 (6.1)

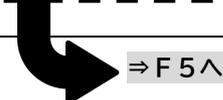
F 3で「1 結婚している」「2 同性パートナーがいる」と回答した方のみにお聞きします。

F 3-1 あなたの現在の就労状況をお答えください（○は1つ）。 <n=712>

1. 共働き（パート・アルバイトを含む）である (59.0)	2. 共働きではない (38.8)	無回答 (2.2)
--------------------------------	-------------------	-----------

F 4 あなたの現在のご職業は、次のどれに最も近いですか。複数のお仕事をお持ちの方は、主なものを1つお答えください（○は1つ）。 <n=1,136>

1. 会社役員 (4.4)	8. 団体職員 (1.2)	⇒ F 6へ
2. 民間企業の正社員 (27.6)	9. その他の働き方をしている (1.1)	
3. 公務員などの正職員 (3.4)		
4. 契約社員・派遣社員・嘱託社員 (6.5)	10. 専業主婦（夫） (9.5)	
5. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員 (16.1)	11. 学生 (2.3)	
6. 自営業（家族従業者を含む） (5.3)	12. 引退（退職） (5.8)	
7. 自由業 (1.1)	13. その他の無職 (4.4)	
	無回答 (11.4)	



F 4で1～9のお仕事をしていると回答した方のみにお聞きします。

F 5 あなたは、1週間に平均何時間、お仕事をされていますか（枠内に数字で回答してください）。

※複数のお仕事をもっていらっしゃる場合は合算してください。 <n=757>

週に平均 時間程度

10時間未満 (9.0)	10～20時間未満 (10.0)	20～30時間未満 (10.4)	30～40時間未満 (14.0)	40～50時間未満 (35.3)	50時間以上 (18.5)	無回答 (2.8)
--------------	------------------	------------------	------------------	------------------	---------------	-----------

F 6 あなたの世帯は、以下のように分類した場合どれにあたりますか（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 1人世帯（ひとり暮らし）	(14.2)	4. 3世代世帯（親と子と孫）	(4.8)
2. 1世代世帯（夫婦だけ）	(25.4)	5. その他の世帯	(3.3)
3. 2世代世帯（親と子）	(45.6)	無回答	(6.8)

F 7 あなたのお子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。亡くなった方は除いてお答えください（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. いない	(34.1)	⇒ F 9 へ	4. 3人	(10.3)	} ⇒ F 8 へ
2. 1人	(15.8)	} ⇒ F 8 へ	5. 4人	(1.4)	
3. 2人	(30.5)		6. 5人以上	(0.3)	
			無回答	(7.7)	

F 7で2～6のお子さんがいると回答した方

F 8 あなたの一番下のお子さんは、以下のどちらにあてはまりますか（○は1つ）。 〈n=662〉

1. 0・1・2歳	(6.6)	5. 高校生	(3.9)
2. 3歳以上で小学校入学前	(7.7)	6. 大学生・大学院生	(7.1)
3. 小学生	(11.9)	7. 学校教育終了	(35.8)
4. 中学生	(6.8)	8. その他（	(15.4)
		無回答	(4.7)

F 9 あなたは日ごろ介護をしていますか。同居・別居（介護施設等の利用等）は問いません（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 家族・親族の介護を している	(11.6)	2. 家族・親族の介護を していない	(79.0)	無回答 (9.3)
----------------------	--------	-----------------------	--------	-----------

F 10 あなたの世帯の家計について、最も近いものをお答えください（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 赤字であり、借金をして生活している	(3.9)	4. 黒字であるが、貯蓄はしていない	(8.5)
2. 赤字であり、貯蓄を取り崩している	(9.9)	5. 黒字であり、毎月貯蓄をしている	(27.6)
3. 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	(30.5)	6. 答えたくない	(12.5)
		無回答	(7.0)

F 11 あなたの昨年1年の収入はおよそどのくらいでしたか。ボーナス・アルバイトなどを含めて税込みでお知らせください（○は1つ）。 〈n=1,136〉

1. 103万円未満	(12.1)	6. 750万円以上1,000万円未満	(4.4)
2. 103万円以上130万円未満	(5.6)	7. 1,000万円以上	(3.0)
3. 130万円以上300万円未満	(18.2)	8. わからない	(2.2)
4. 300万円以上500万円未満	(17.9)	9. 収入はない	(8.2)
5. 500万円以上750万円未満	(11.2)	10. 答えたくない	(10.0)
		無回答	(7.1)

ご回答ありがとうございました。

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
切手を貼らずに、11月19日（金）までに、ポストに投函してください。

足立区男女共同参画に関する区民意識調査

報告書

令和4年3月発行

発行：足立区 地域のちから推進部 多様性社会推進課
東京都足立区梅田7-33-1 (L・ソフィア内)
電話 03-3880-5222

調査・分析：株式会社 サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
電話 03-3802-6711 (代表)
